



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



NISSAY

日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「にっせーのせ！地域振興寄付金」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、アンケート1件につき10円を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「交通安全啓発活動」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、1,125,342件のご回答につき、総額11,253,420円を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

茨城県との 連携協定締結状況	
締結日	2021/04/14
①	健康増進・疾病予防 に関すること
②	高齢者支援・障がい者支援 に関すること
③	教育・文化・スポーツの振興 に関すること
④	地域振興・産業振興 に関すること
⑤	働き方改革・女性活躍推進 に関すること

他2項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

茨城県

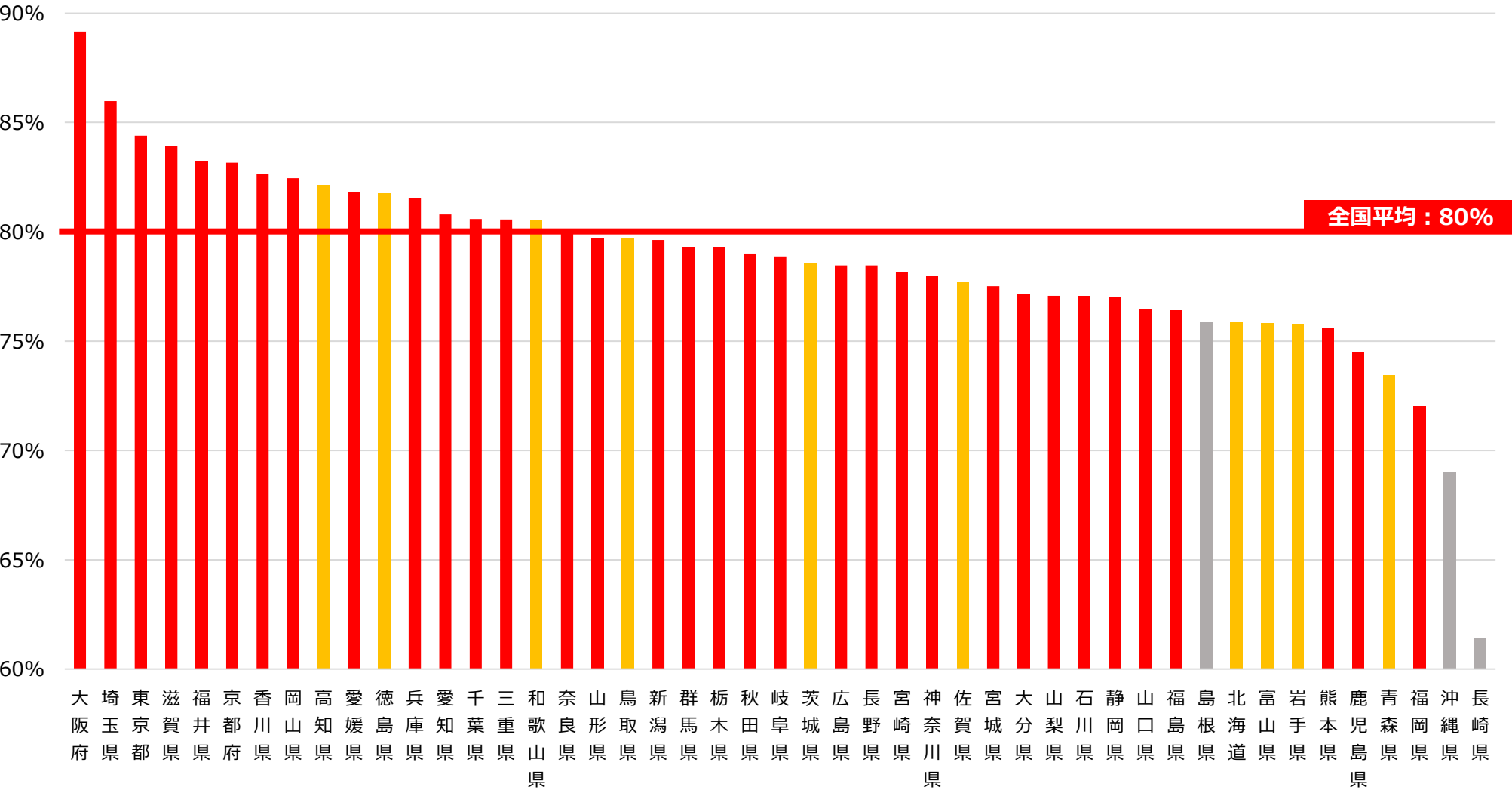
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	545	2.4%	259	2.5%	286	2.4%
20代	2,431	10.9%	1,243	12.1%	1,188	9.9%
30代	3,674	16.5%	1,682	16.3%	1,992	16.6%
40代	4,079	18.3%	1,828	17.7%	2,251	18.8%
50代	5,152	23.1%	2,367	23.0%	2,785	23.2%
60代	3,996	17.9%	1,799	17.4%	2,197	18.3%
70代	1,973	8.8%	908	8.8%	1,065	8.9%
80代～	452	2.0%	225	2.2%	227	1.9%
合計	22,302	100.0%	10,311	100.0%	11,991	100.0%
2024年度	6,356	100.0%	3,049	100.0%	3,307	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	509	93.4%	241	93.1%	268	93.7%
20代	1,845	75.9%	954	76.7%	891	75.0%
30代	2,938	80.0%	1,351	80.3%	1,587	79.7%
40代	3,395	83.2%	1,529	83.6%	1,866	82.9%
50代	4,059	78.8%	1,924	81.3%	2,135	76.7%
60代	3,043	76.2%	1,380	76.7%	1,663	75.7%
70代	1,436	72.8%	658	72.5%	778	73.1%
80代～	300	66.4%	143	63.6%	157	69.2%
合計	17,525	78.6%	8,180	79.3%	9,345	77.9%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

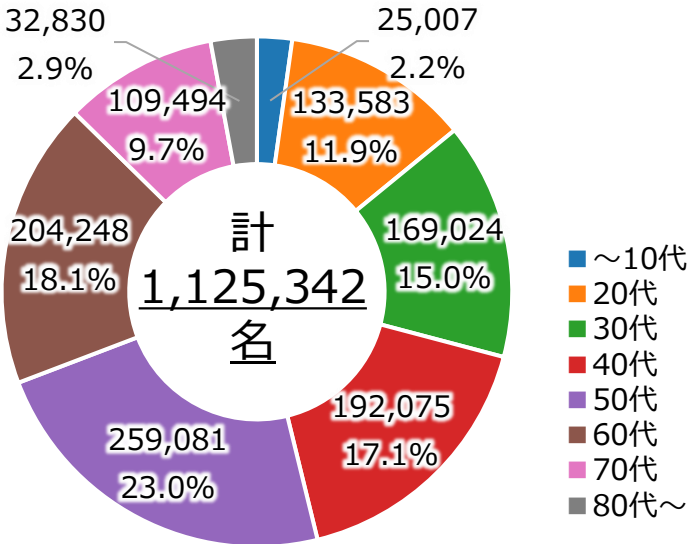
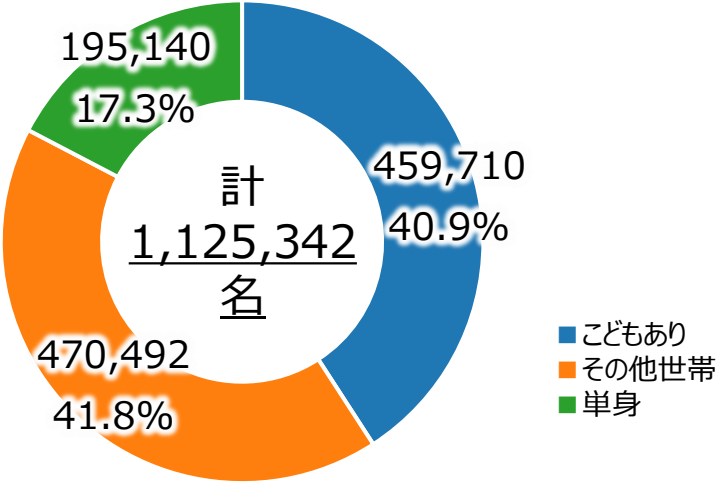
回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

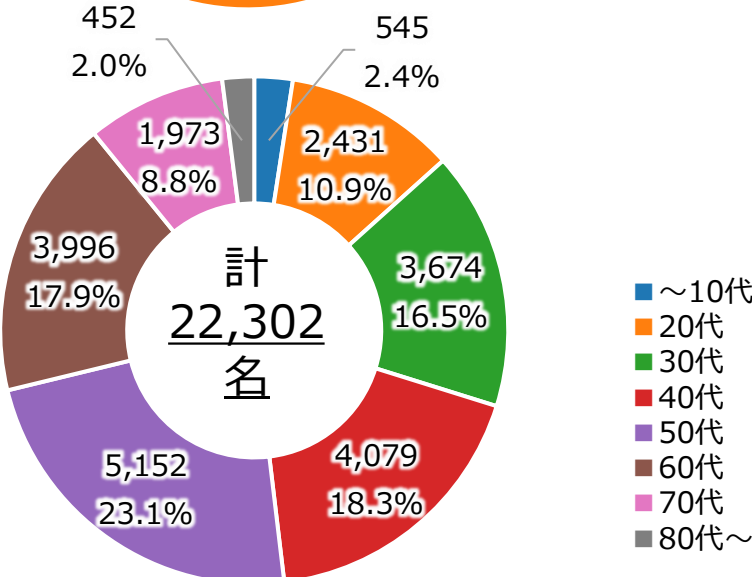
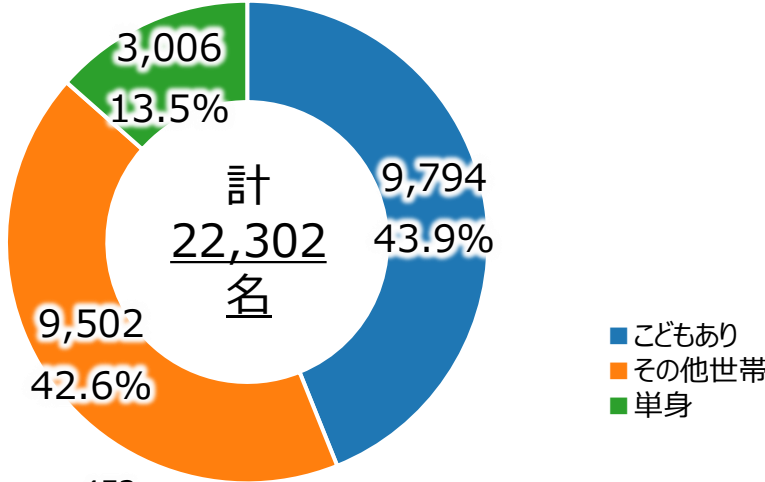
世帯構成別

年代別

全国



茨城県



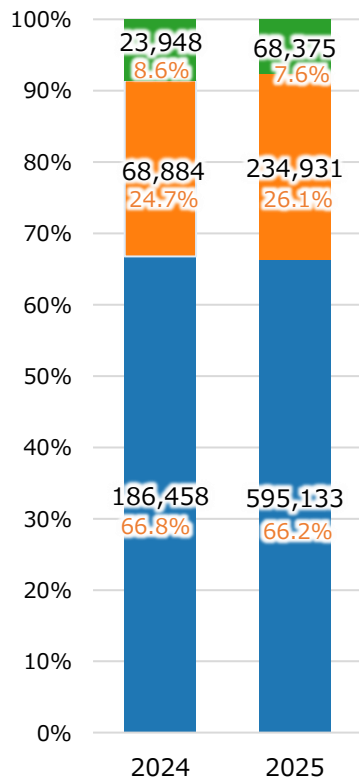
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

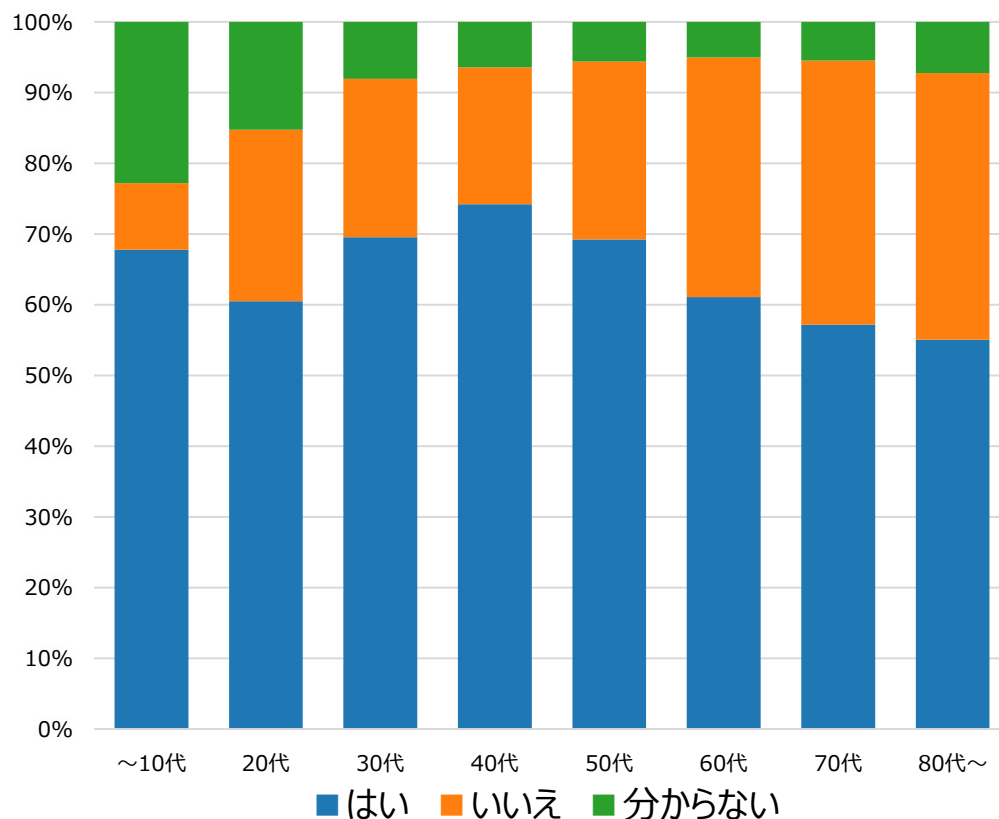
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

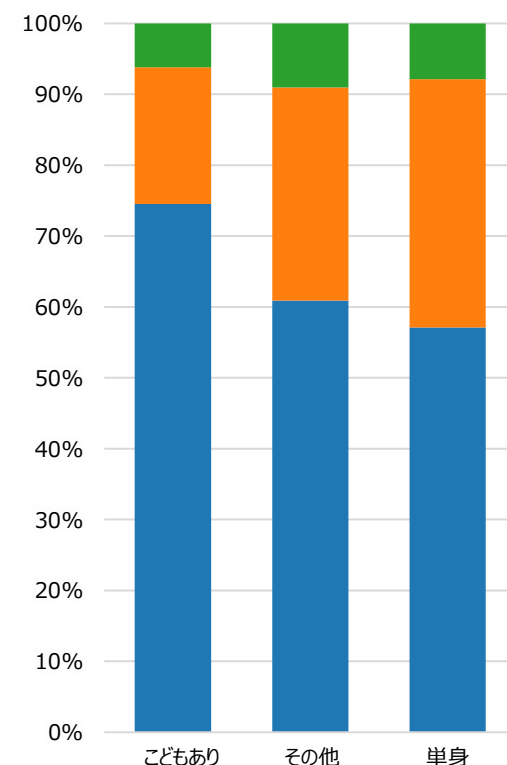
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

茨城県

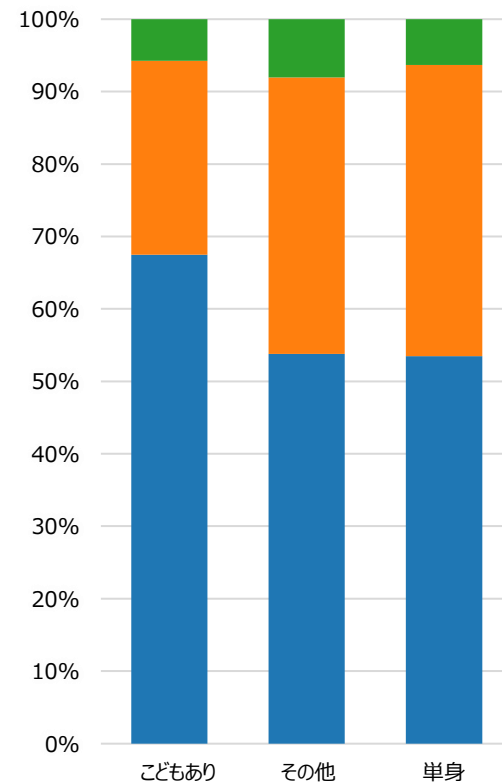
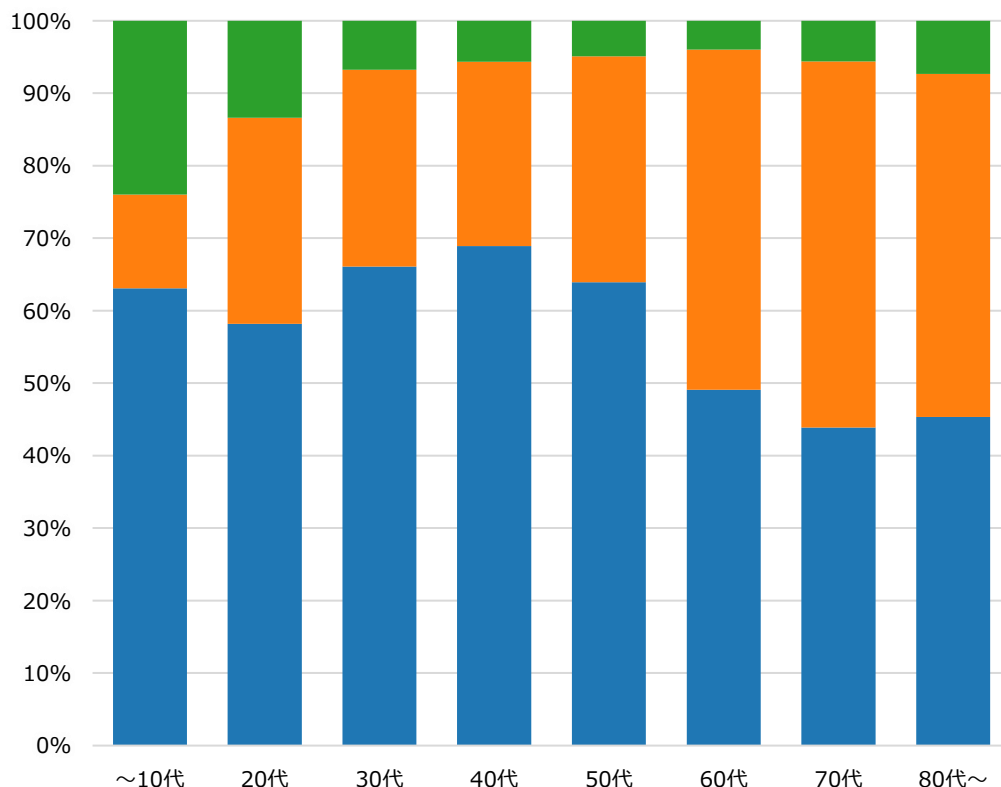
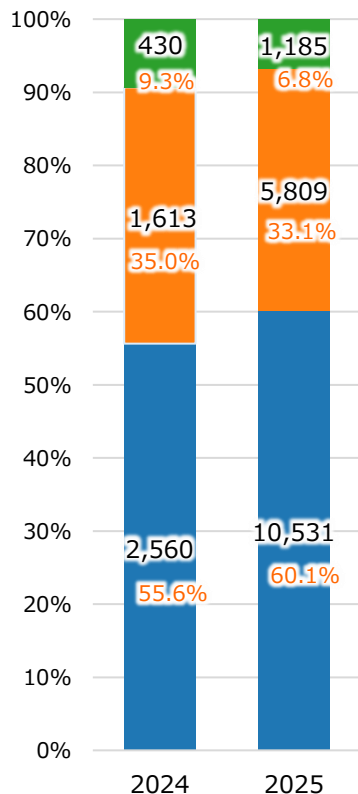
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



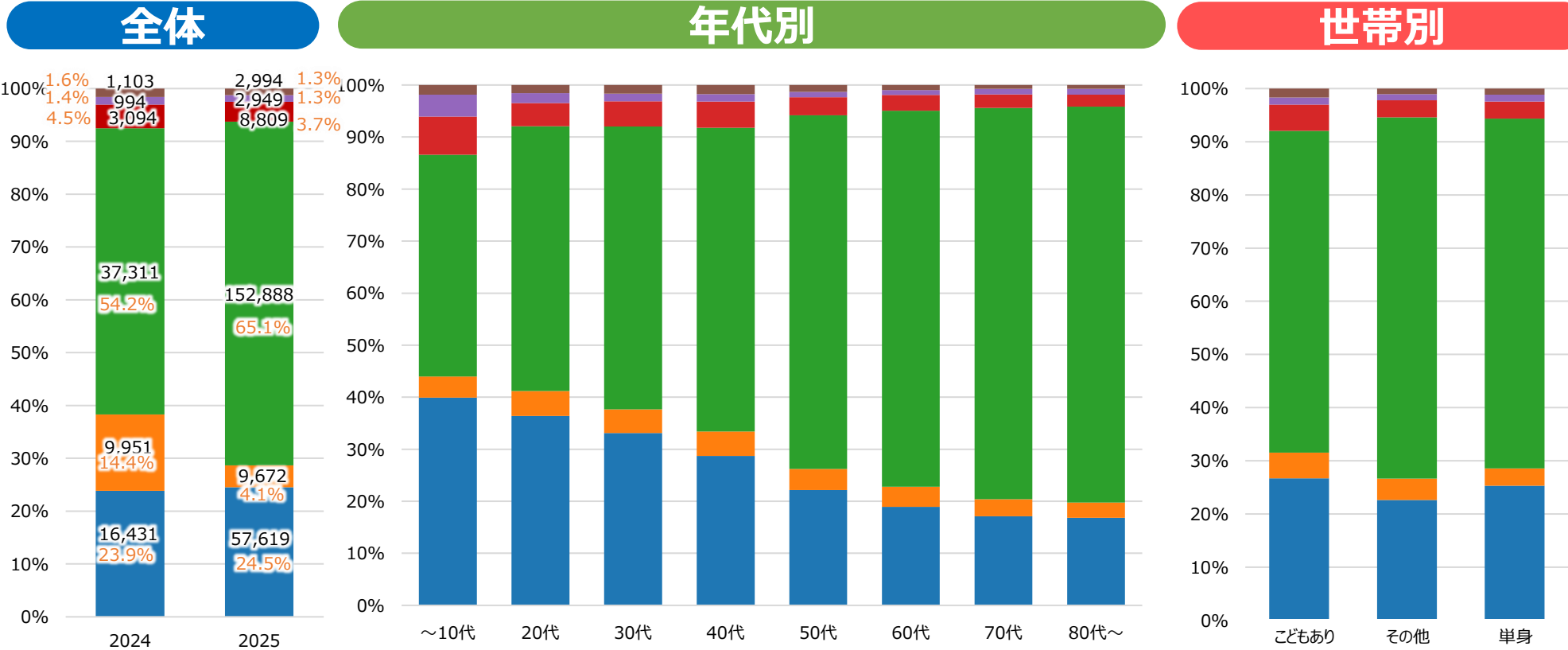
■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年増加（+5Pt）、全国と比較すると低位（▲6Pt）
- 年代別でみると、特に60代以降が全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

全国

単位：名



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

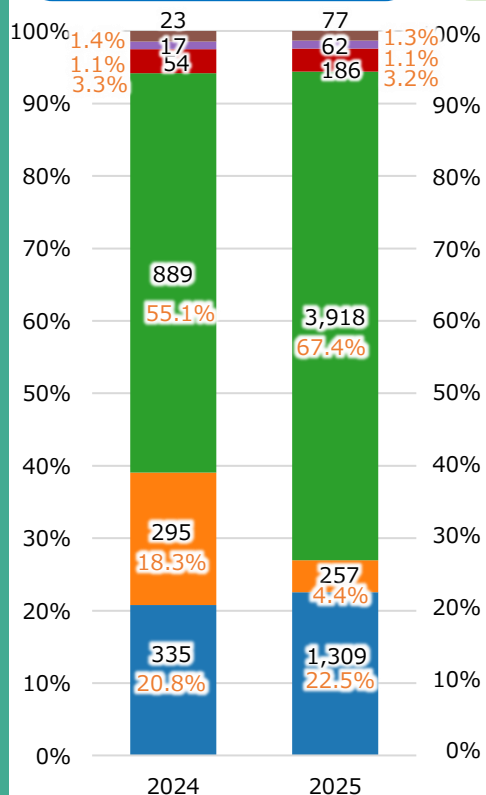
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

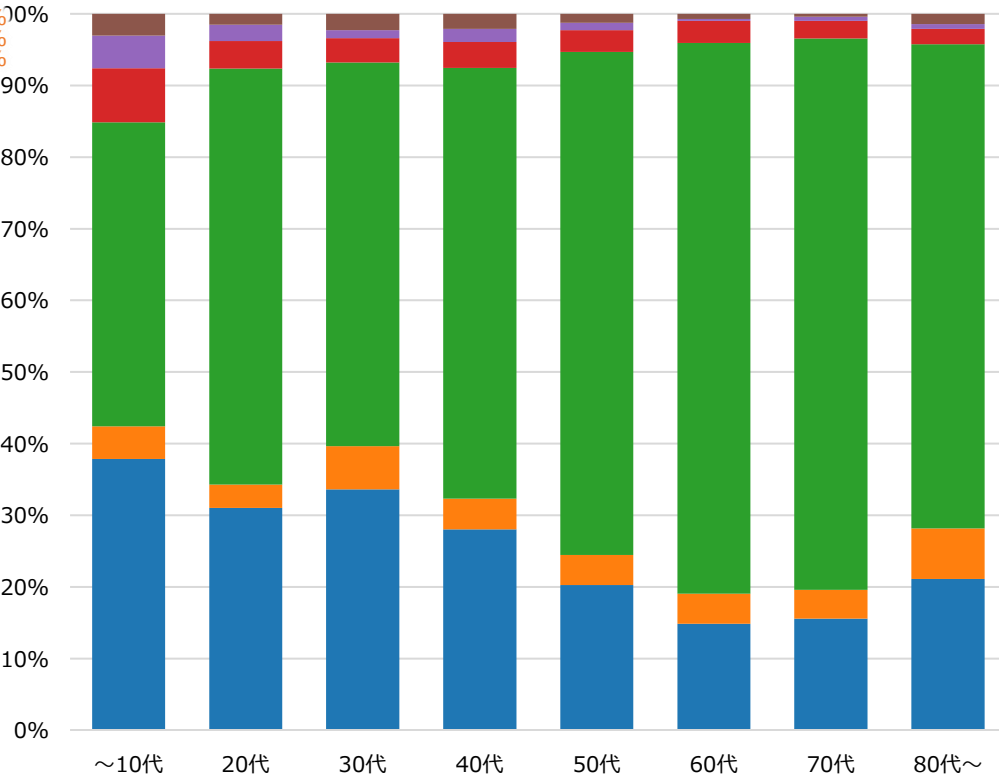
茨城県

単位：名

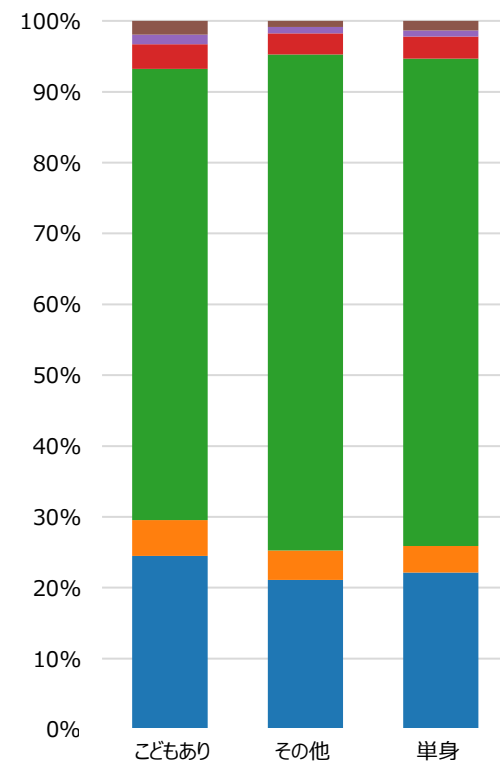
全体



年代別



世帯別



■ きっかけがなかった
 ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから
 ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから
 ■ 入り方がわからなかったから
 ■ 保険料が高いから

● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲14Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況

(2年連続回答者：全回答者：17,525名のうち、1,460名)

※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 364 名	② 239 名
	加入	137 名	720 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	14.6%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.0%
加入方法がわからなかったから	1.3%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	21.9%
保険料が高いから	0.0%
必要性を感じないから	56.3%

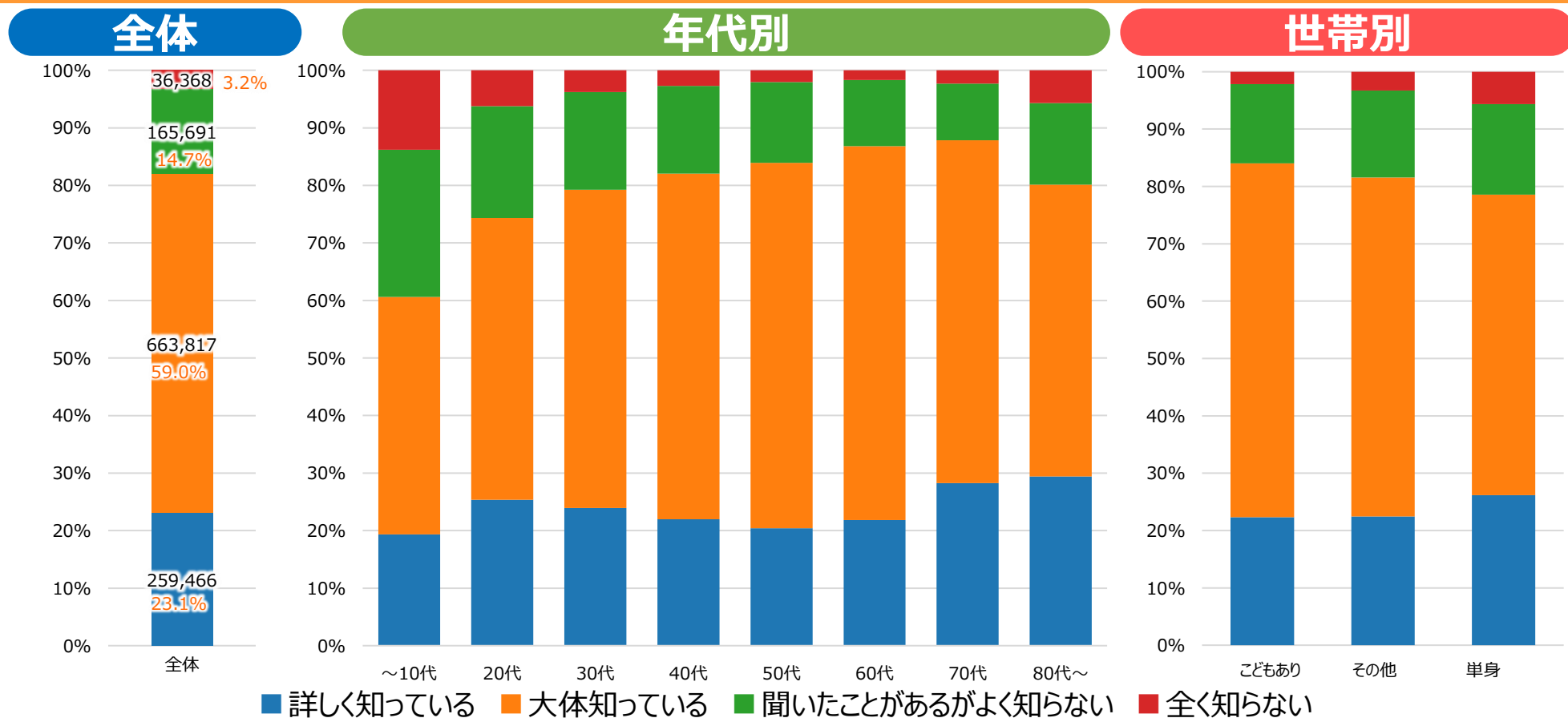
2024年度「自転車保険加入なし」の603名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

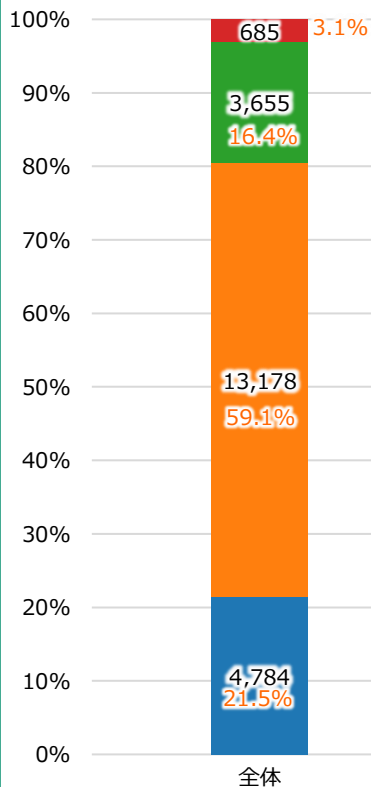
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

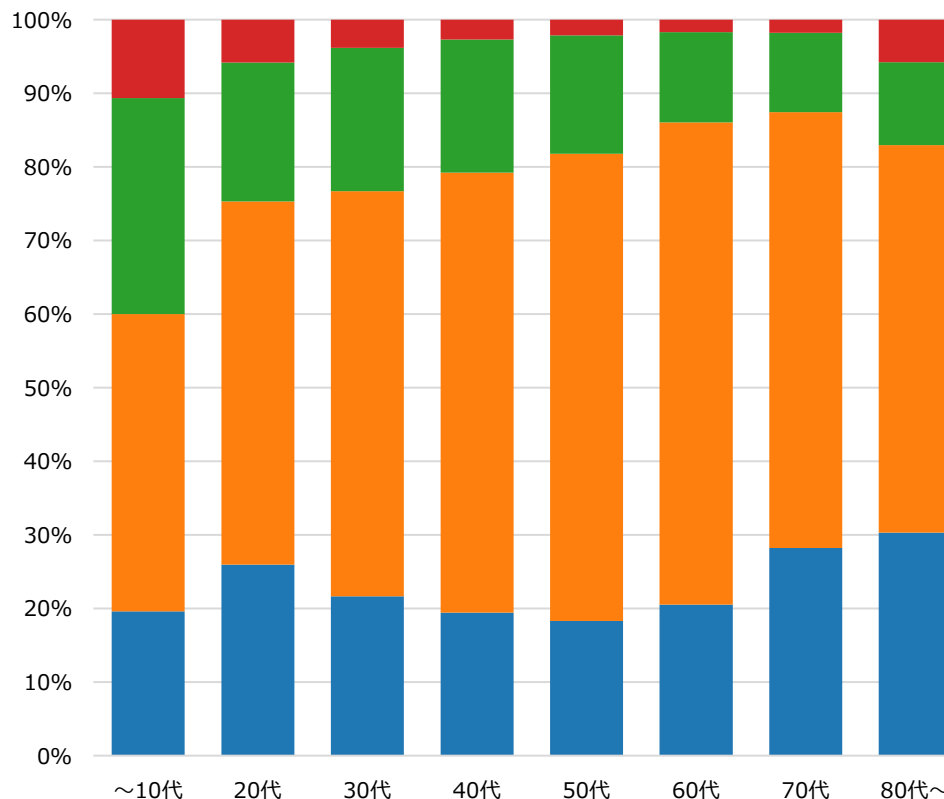
茨城県

単位：名

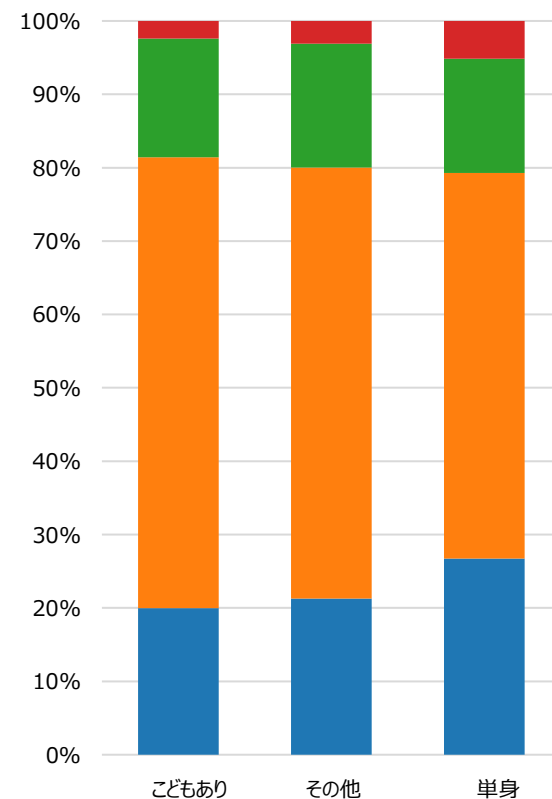
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

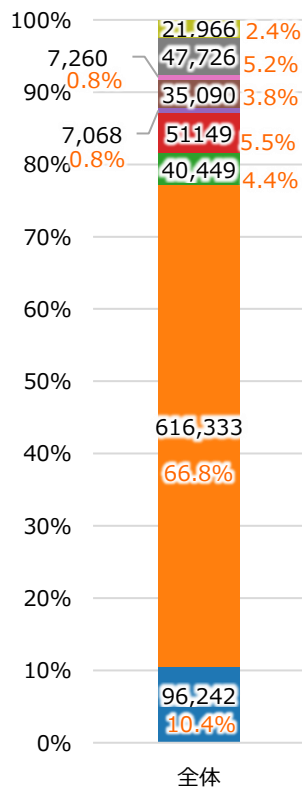
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

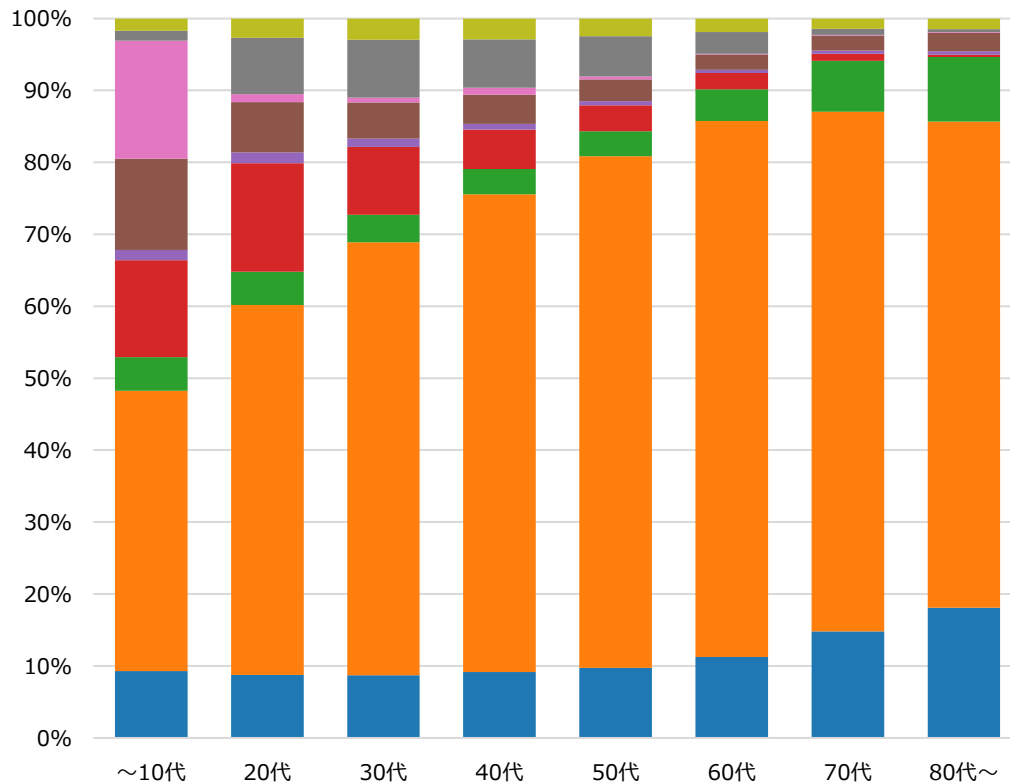
全国

単位：名

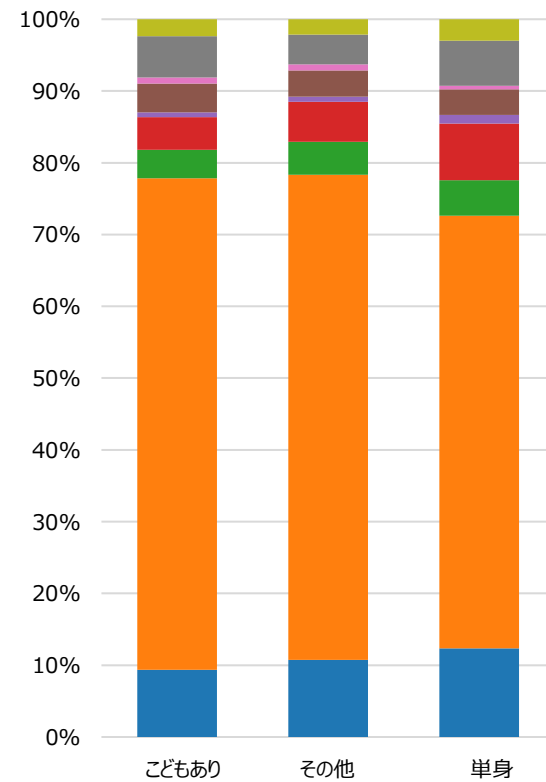
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

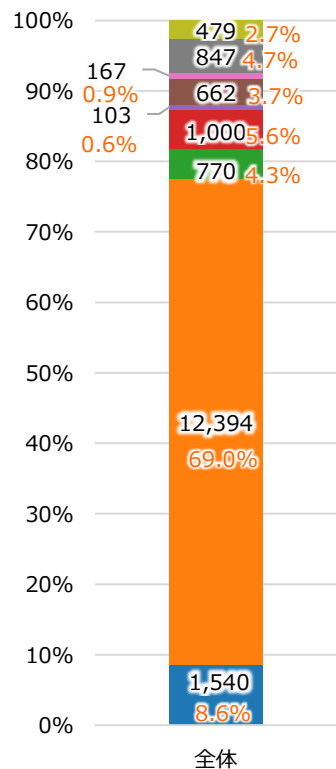
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

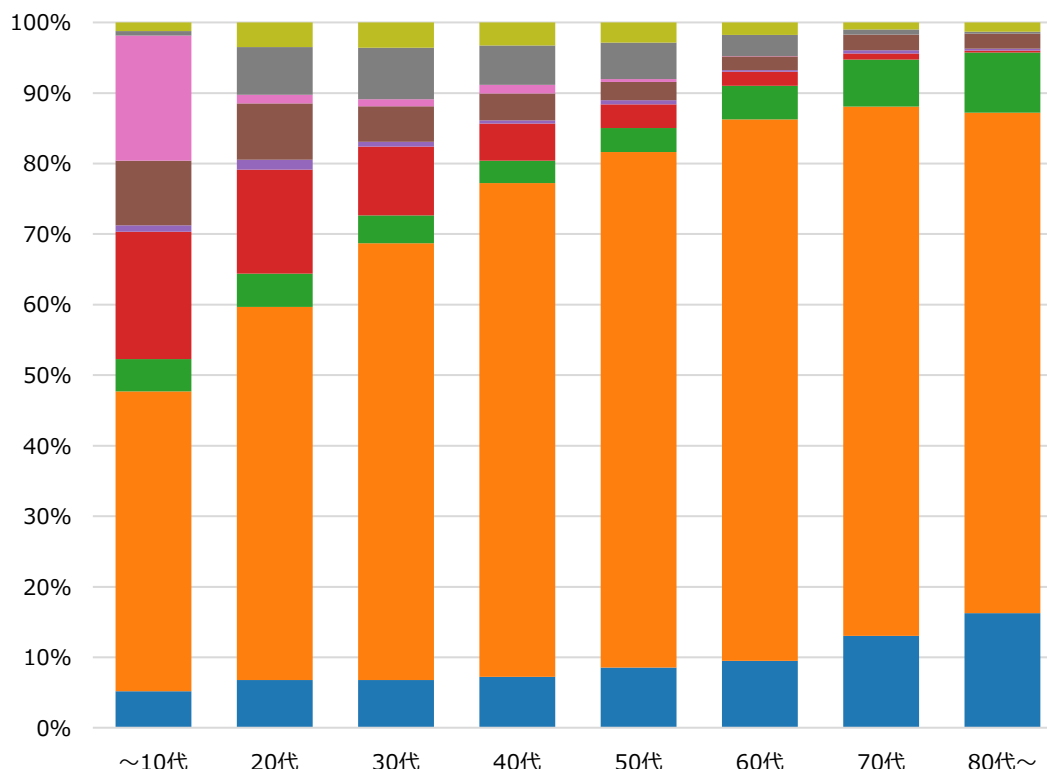
茨城県

単位：名

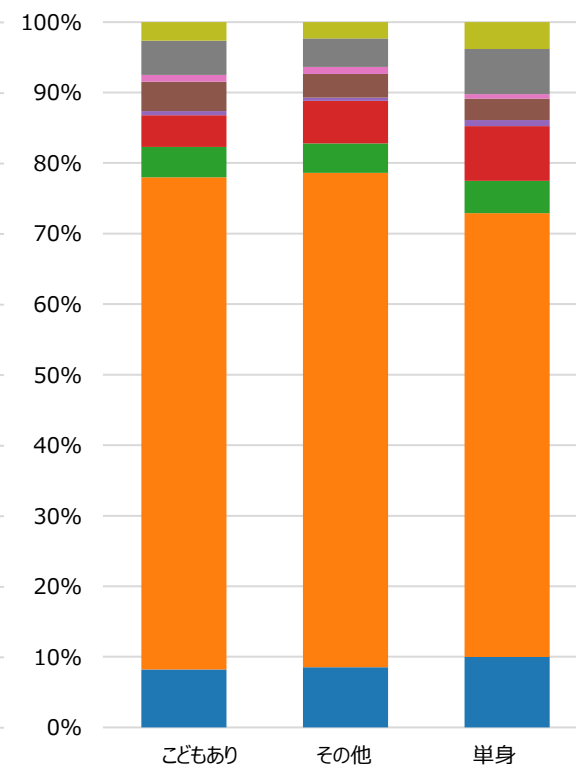
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

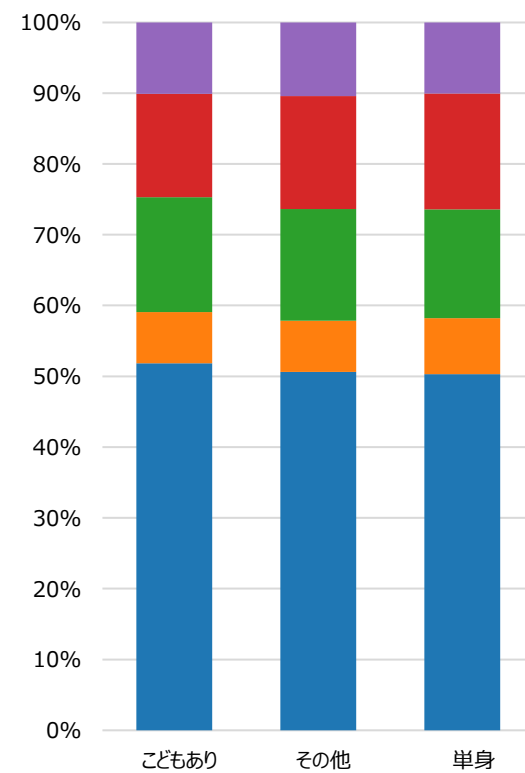
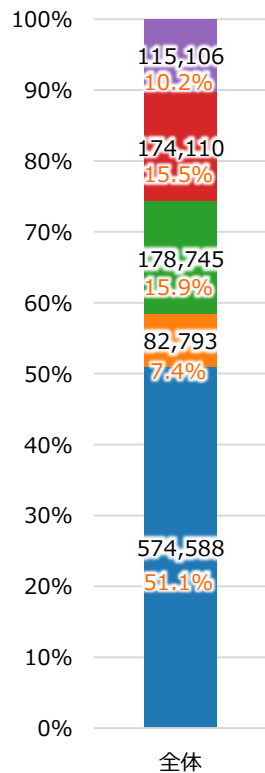
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

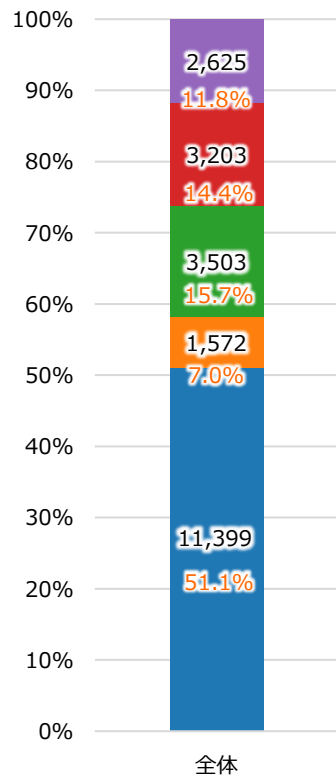
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

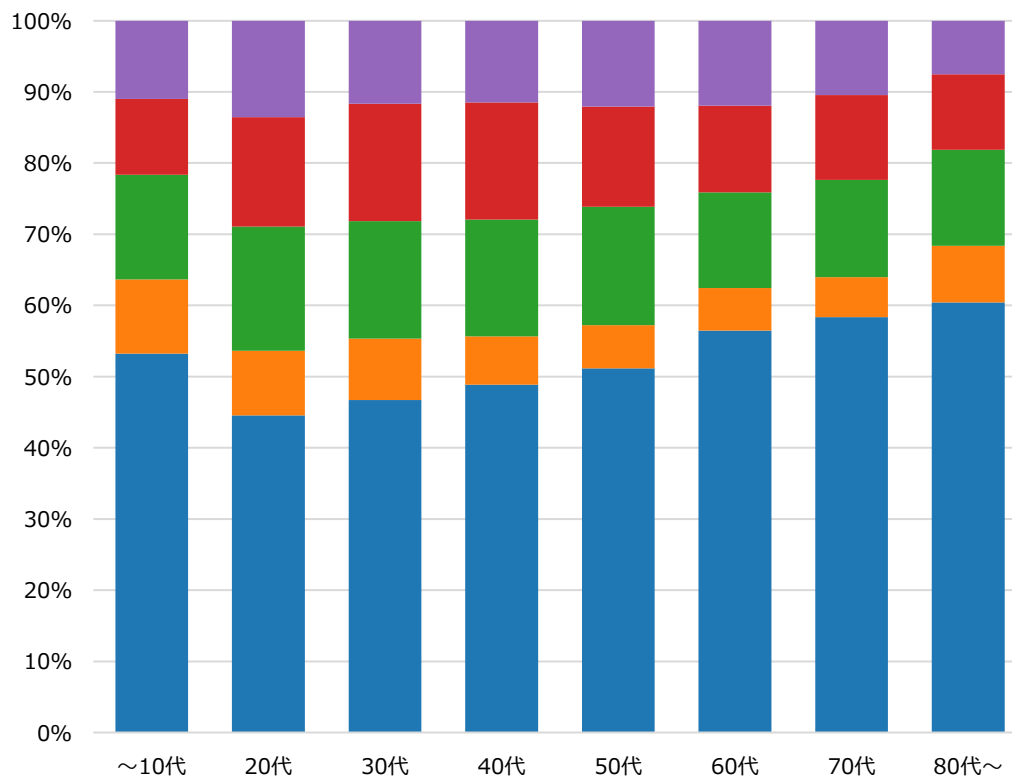
茨城県

単位：名

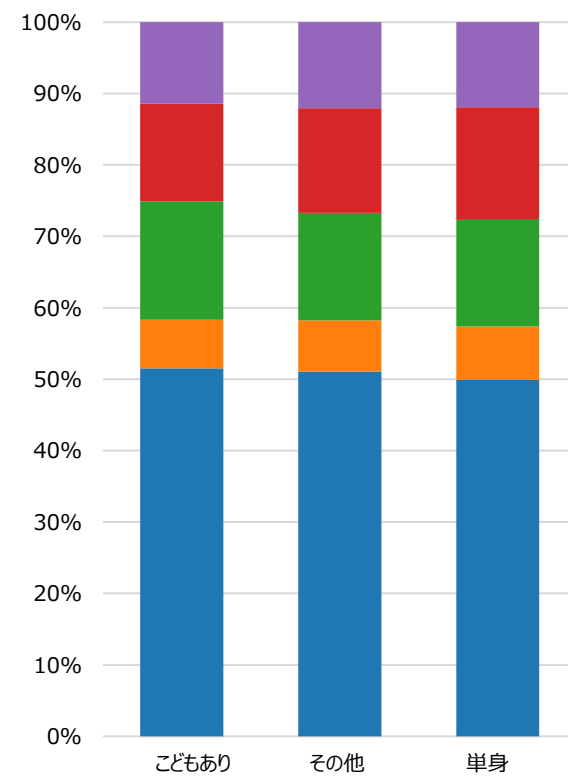
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

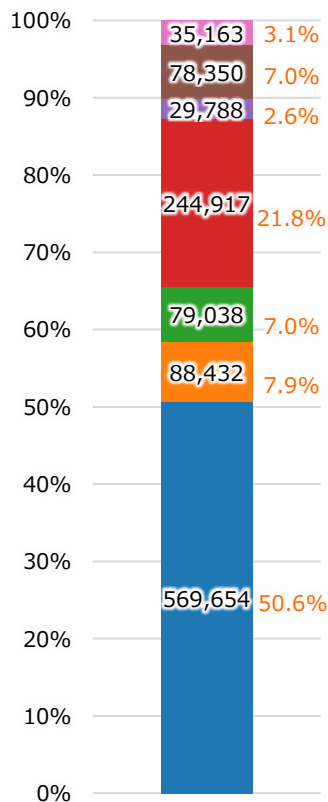
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

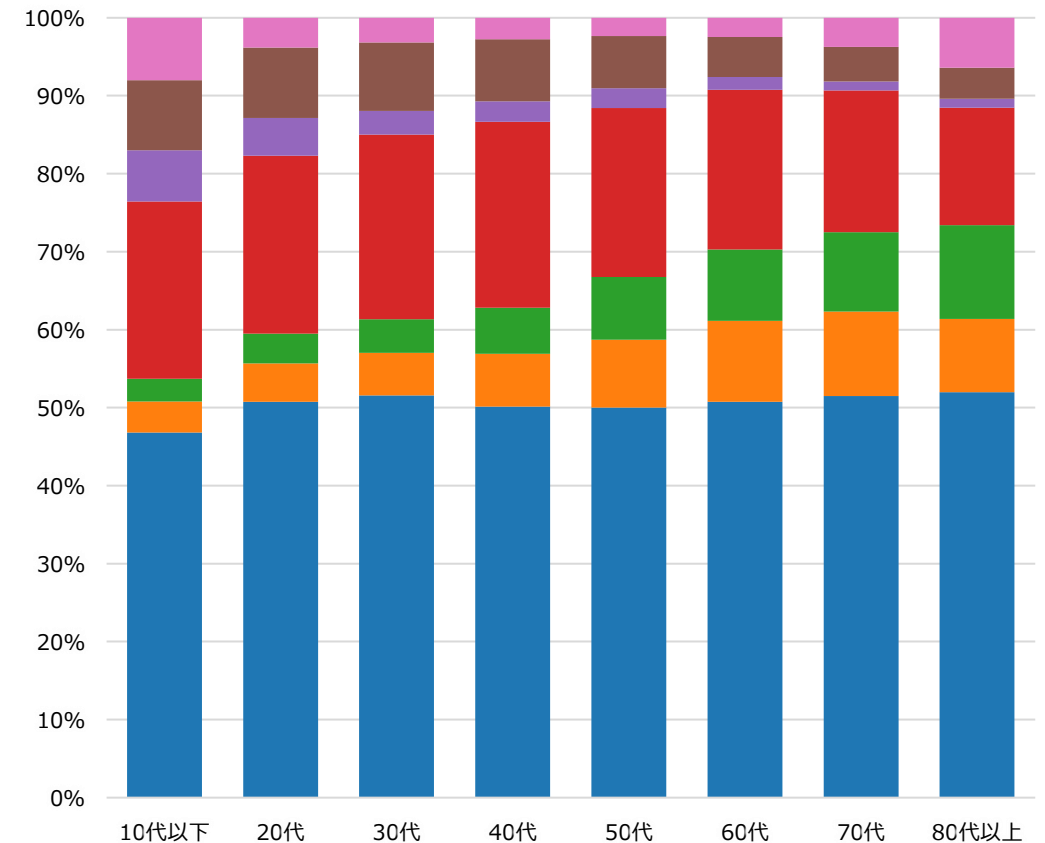
全国

単位：名

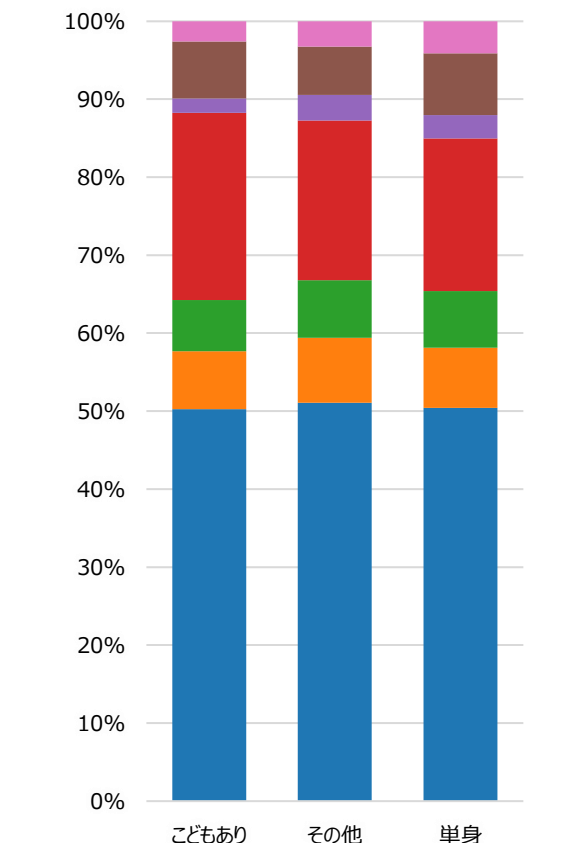
全体



年代別



世帯別



■ 地震・津波 ■ 風水災 (台風・洪水) ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

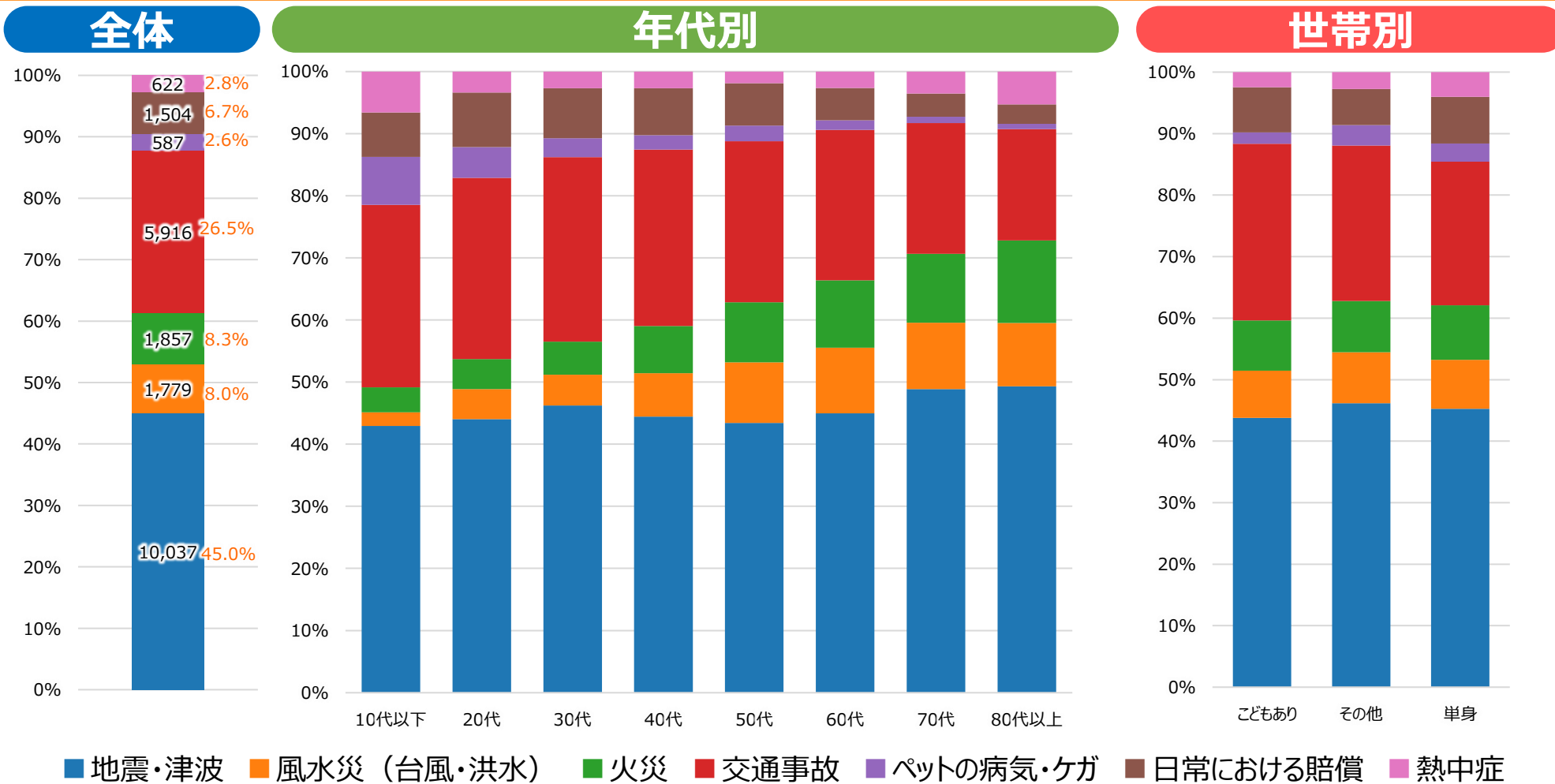
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

茨城県

単位：名

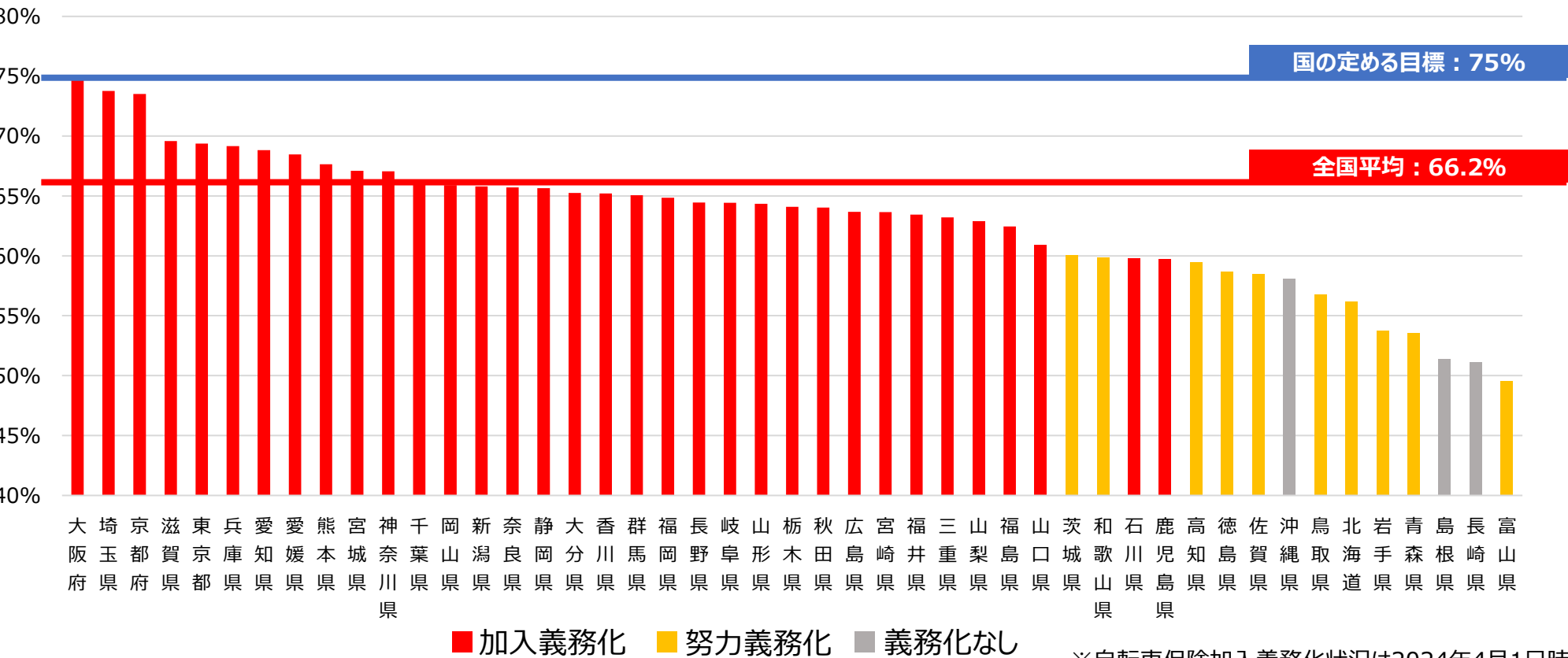
茨城県



- 茨城県では、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

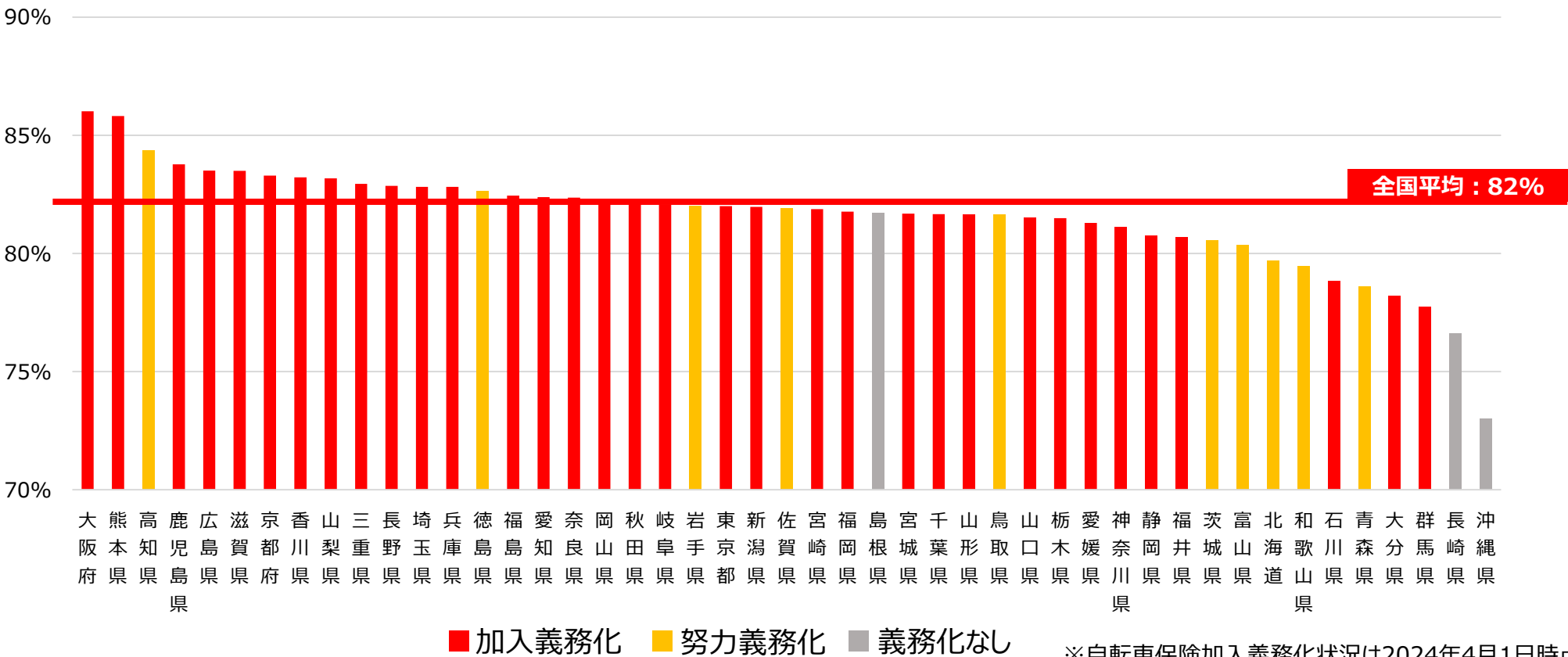
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



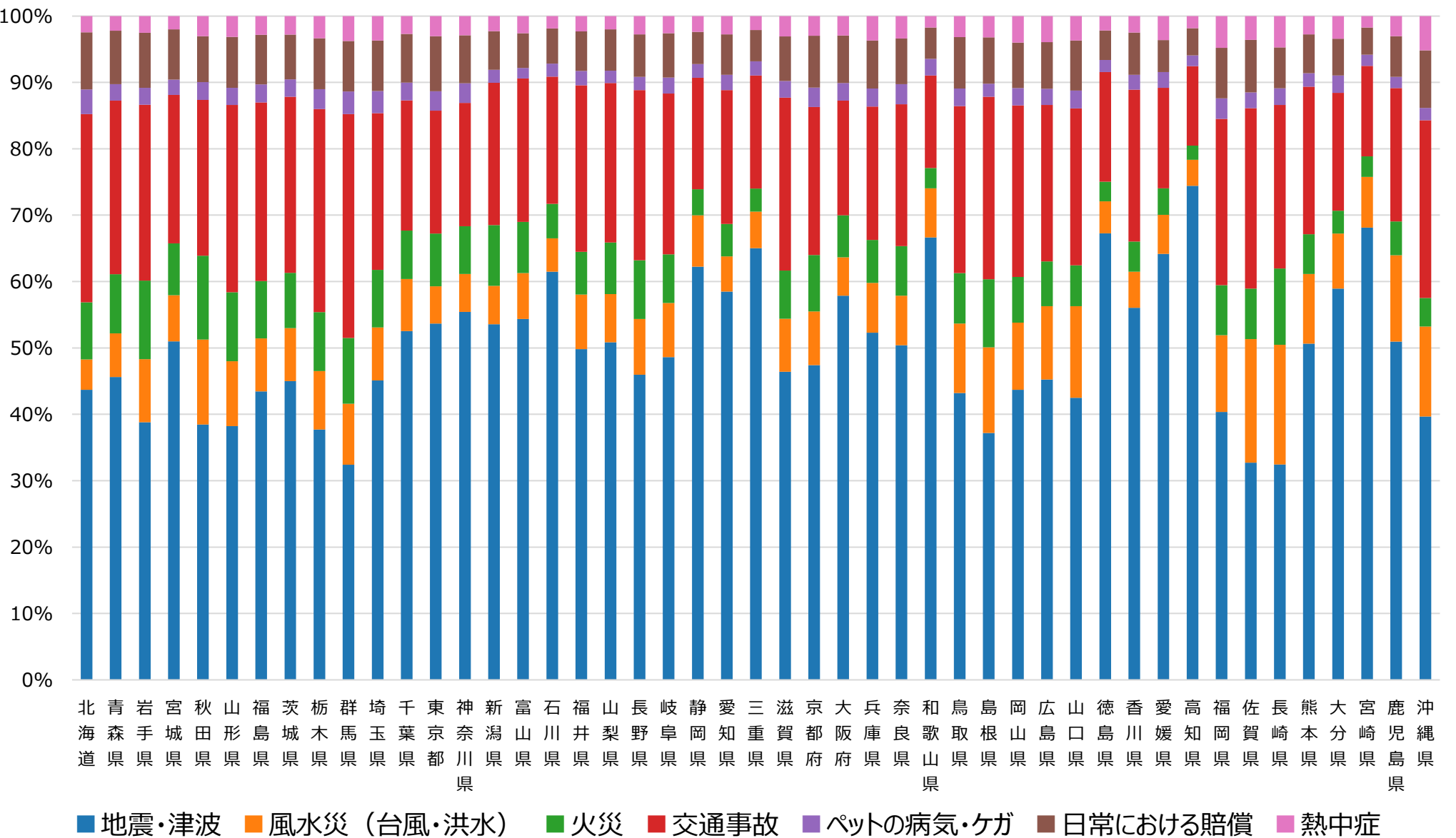
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



NISSAY

日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

栃木県との 連携協定締結状況

締結日	2021/07/01
①	児童・青少年の健全育成に関すること
②	健康増進・疾病予防に関すること
③	多様性の推進に関すること
④	高齢者のくらしの安心に関すること
⑤	中小企業支援に関すること

他1項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

栃木県

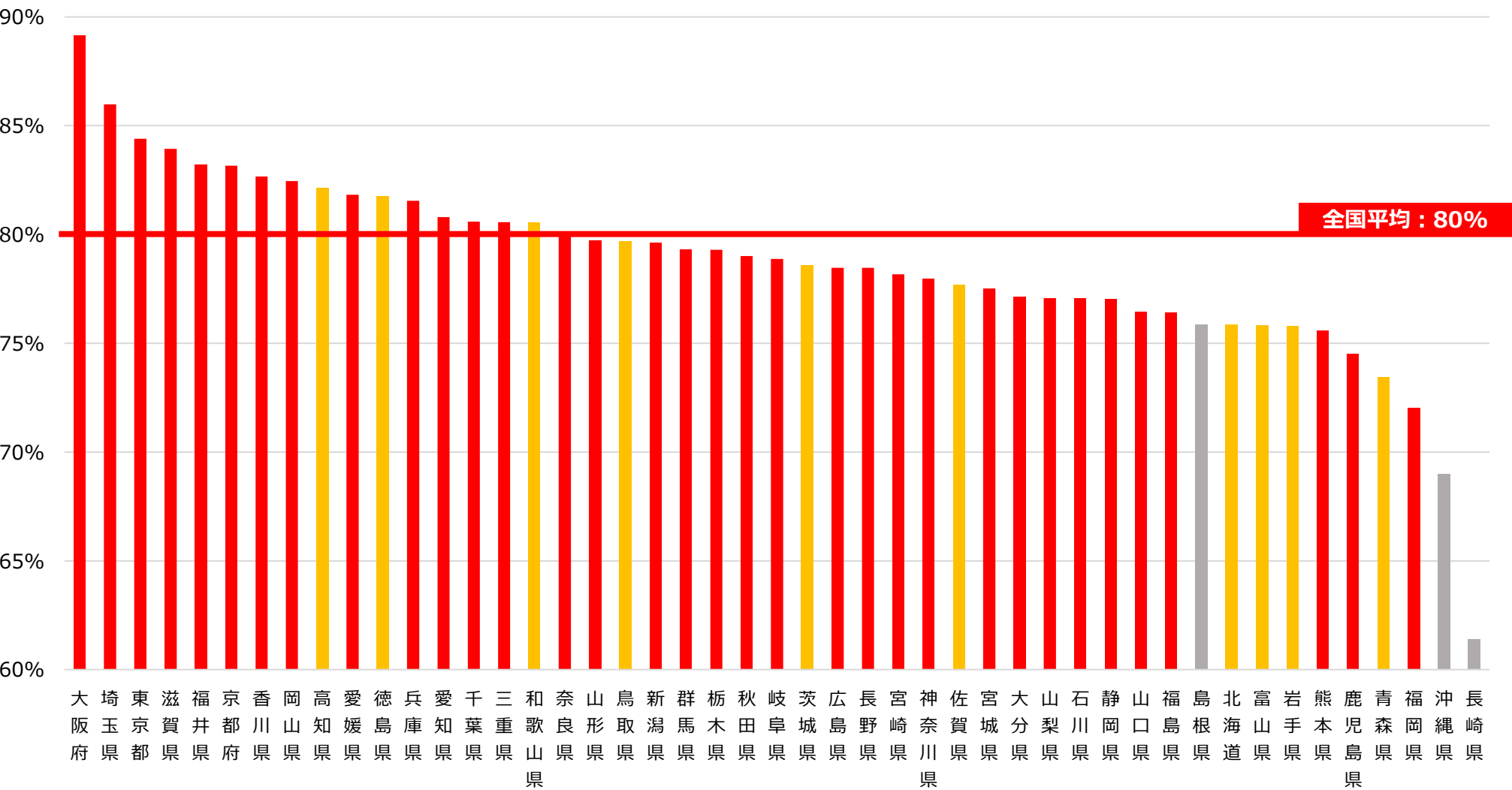
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	457	2.2%	230	2.3%	227	2.1%
20代	2,301	11.0%	1,172	11.8%	1,129	10.3%
30代	3,395	16.3%	1,668	16.8%	1,727	15.7%
40代	3,845	18.4%	1,802	18.2%	2,043	18.6%
50代	4,826	23.1%	2,267	22.9%	2,559	23.3%
60代	3,481	16.7%	1,600	16.1%	1,881	17.1%
70代	1,957	9.4%	898	9.1%	1,059	9.7%
80代～	623	3.0%	279	2.8%	344	3.1%
合計	20,885	100.0%	9,916	100.0%	10,969	100.0%
2024年度	4,528	100.0%	2,181	100.0%	2,347	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	408	89.3%	212	92.2%	196	86.3%
20代	1,739	75.6%	900	76.8%	839	74.3%
30代	2,695	79.4%	1,341	80.4%	1,354	78.4%
40代	3,238	84.2%	1,514	84.0%	1,724	84.4%
50代	3,937	81.6%	1,867	82.4%	2,070	80.9%
60代	2,727	78.3%	1,277	79.8%	1,450	77.1%
70代	1,442	73.7%	669	74.5%	773	73.0%
80代～	375	60.2%	171	61.3%	204	59.3%
合計	16,561	79.3%	7,951	80.2%	8,610	78.5%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

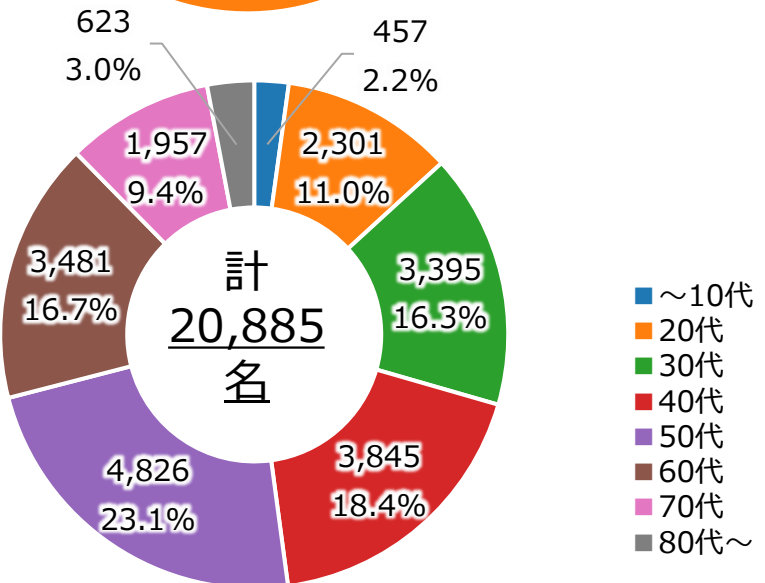
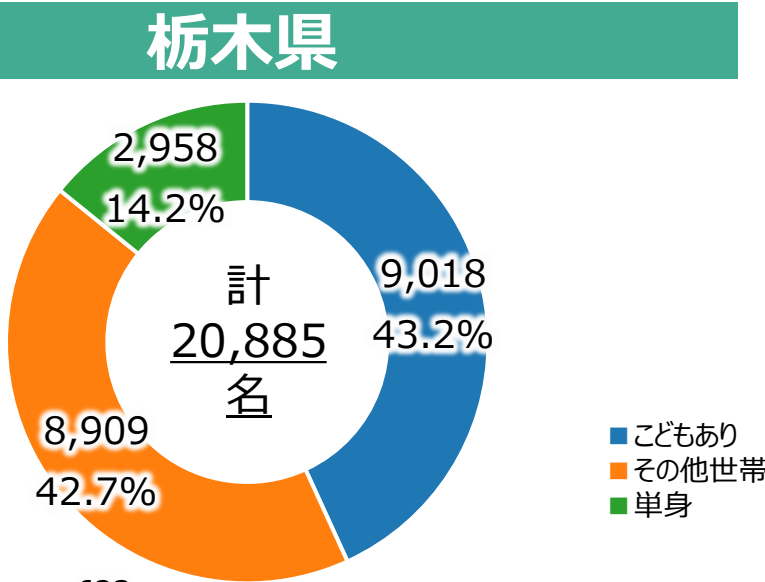
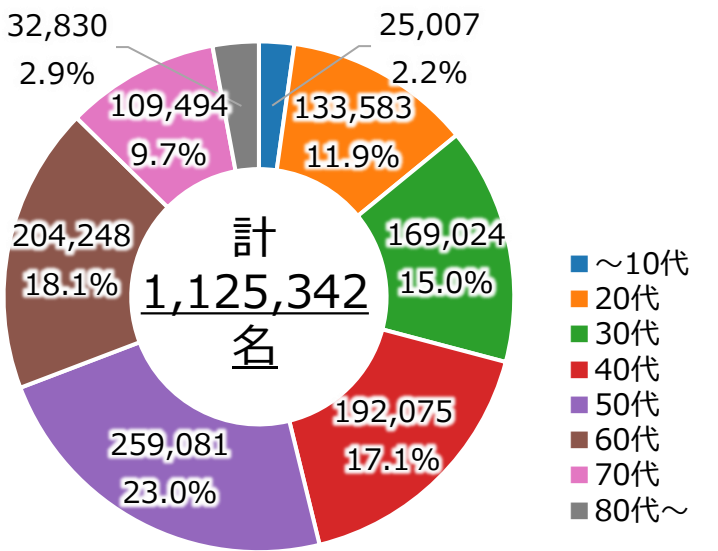
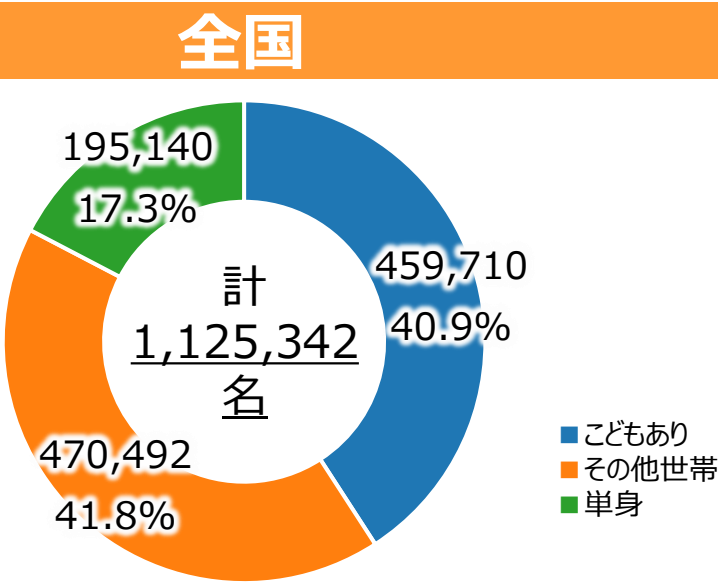
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

世帯構成別

年代別



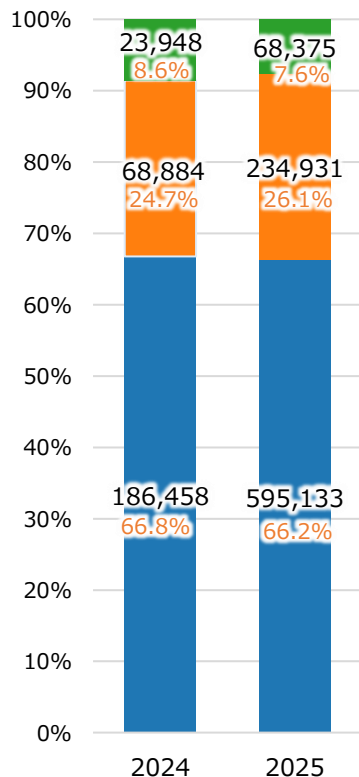
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

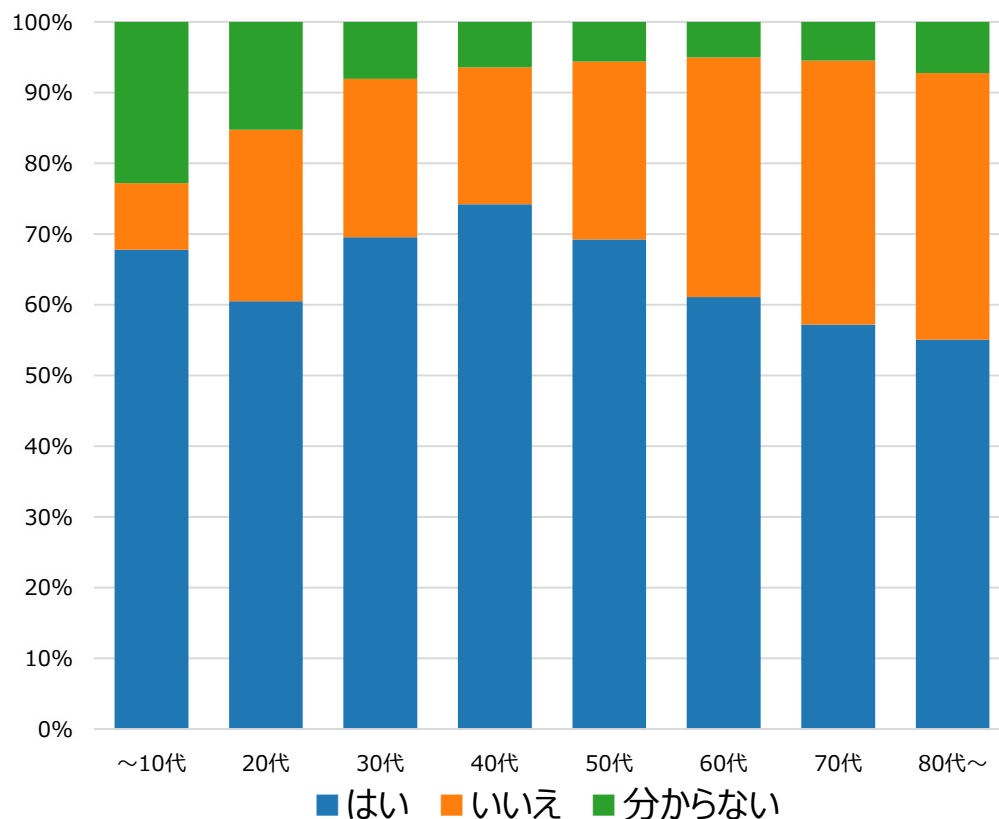
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

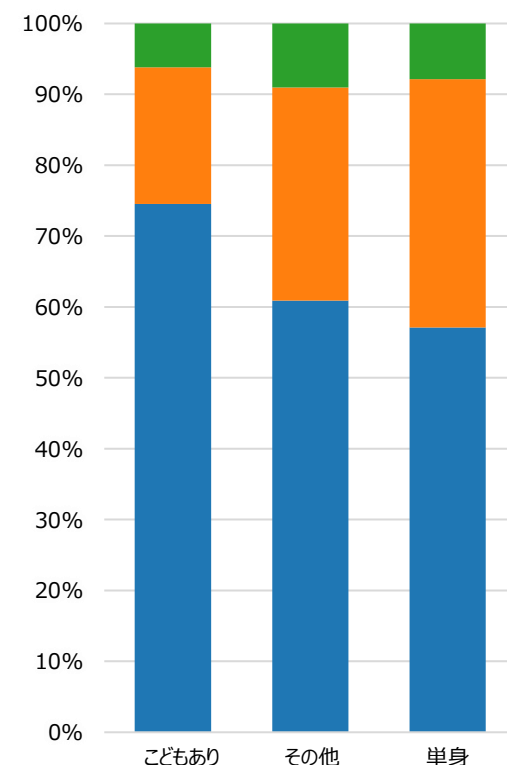
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

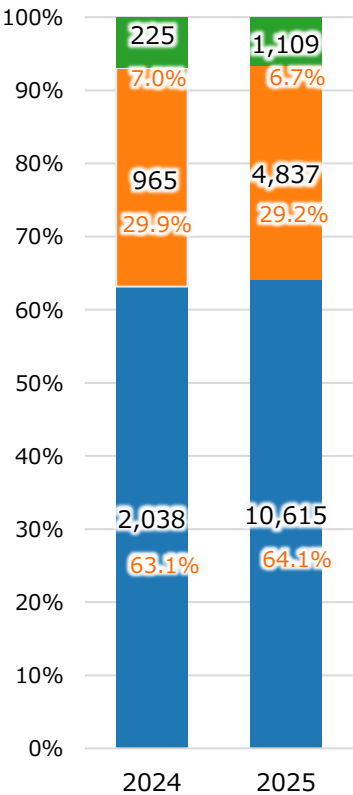
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

栃木県

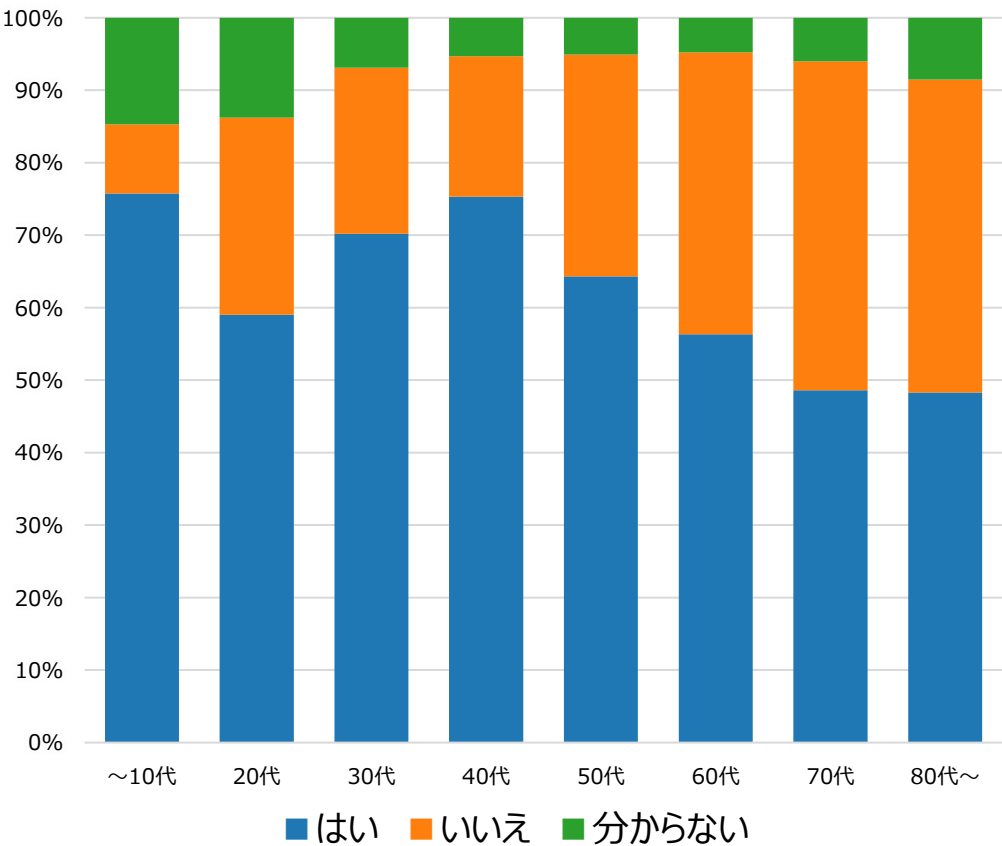
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

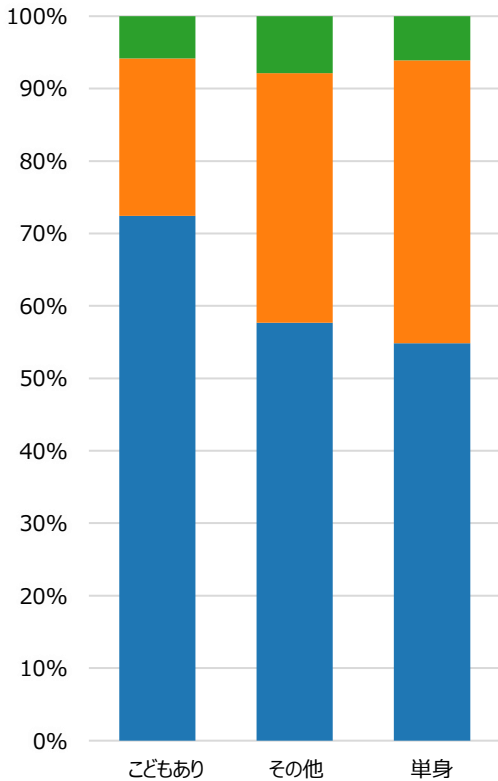
全体



年代別



世帯別



- 加入率は対前年増加（+1Pt）、全国と比較すると低位（▲2Pt）
- 年代別でみると、特に50代以降が全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

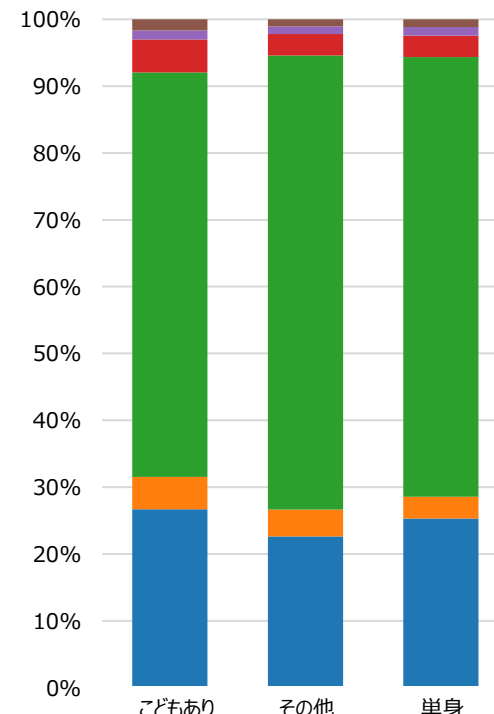
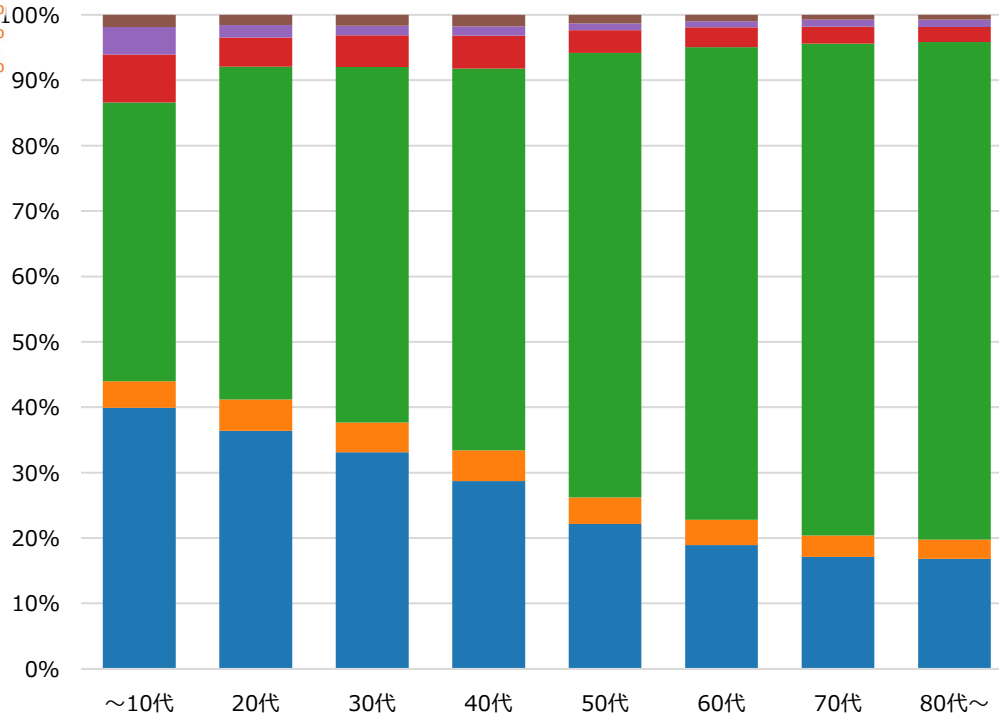
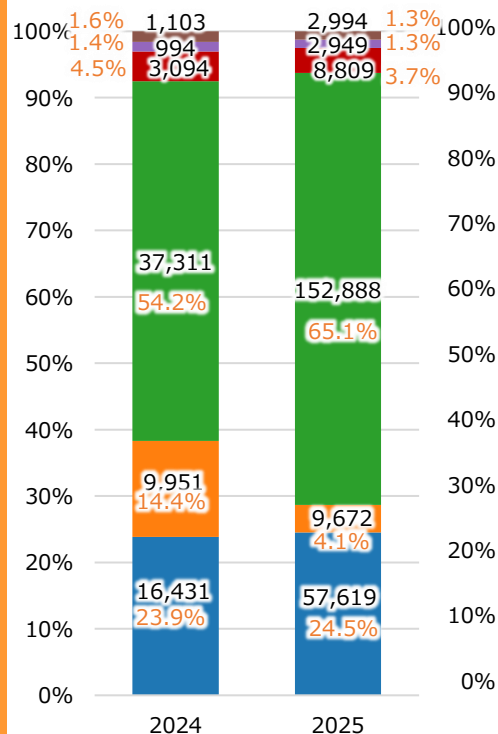
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

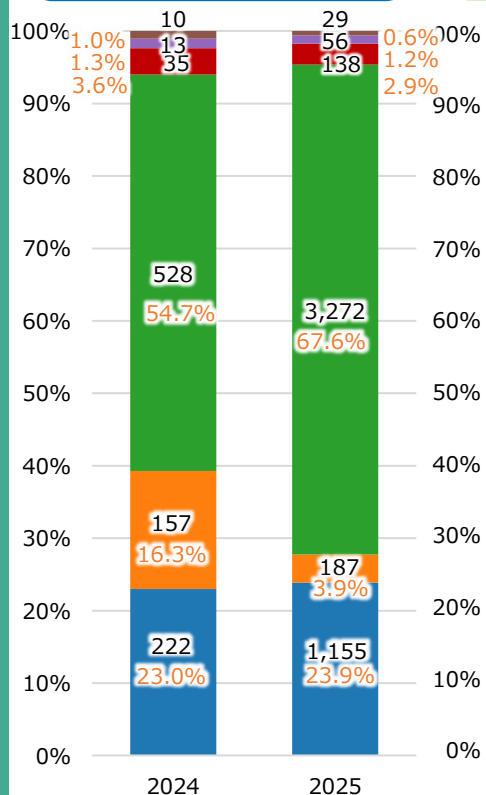
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

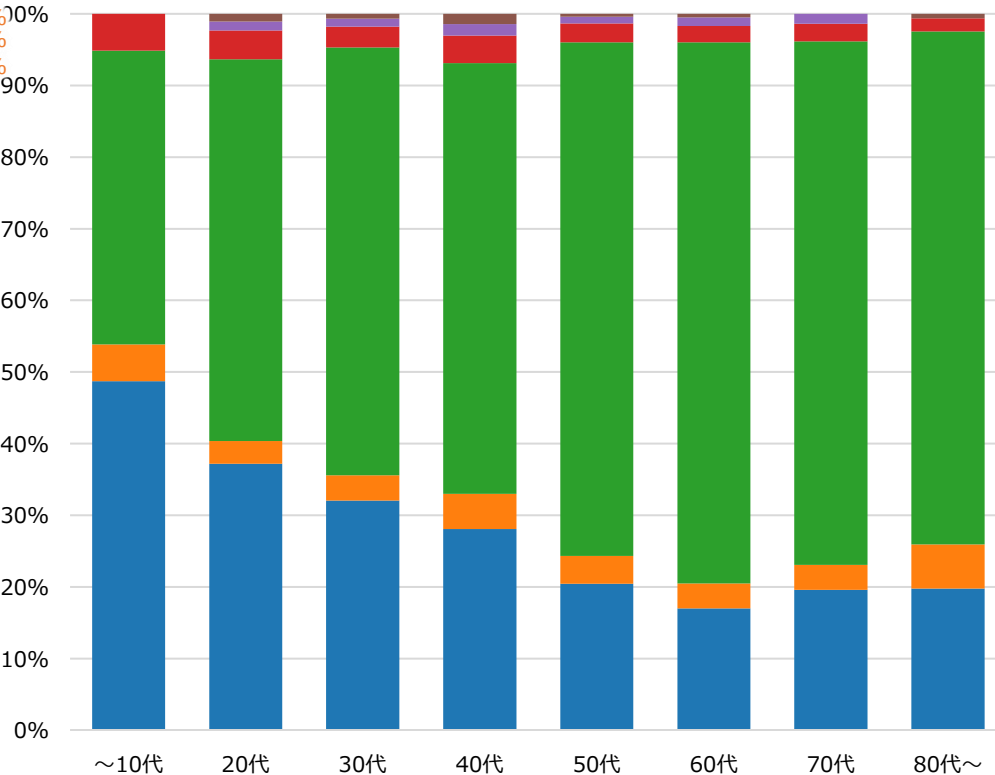
栃木県

単位：名

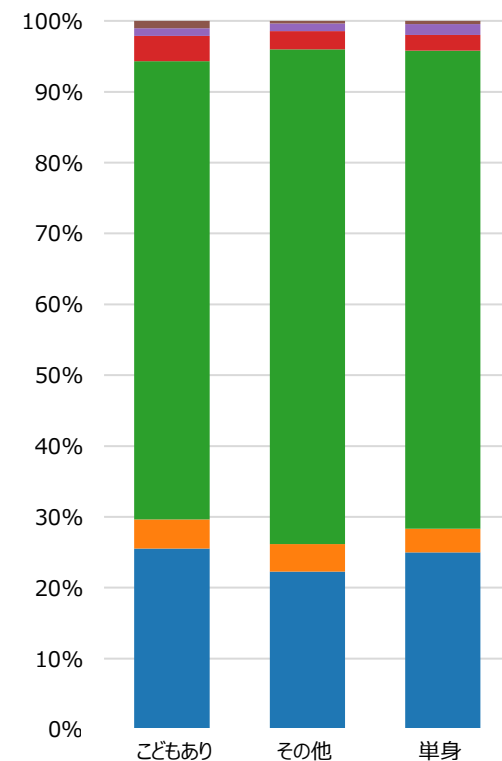
全体



年代別



世帯別



■ きっかけがなかった
 ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから
 ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから
 ■ 入り方がわからなかったから
 ■ 保険料が高いから

● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲12Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

2年連続回答者の自転車保険加入状況

(2年連続回答者：全回答者：16,561名のうち、1,201名)

※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 234 名	② 141 名
	加入	105 名	721 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	20.4%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.1%
加入方法がわからなかったから	2.0%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	21.4%
保険料が高いから	0.0%
必要性を感じないから	50.0%

2024年度「自転車保険加入なし」の375名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

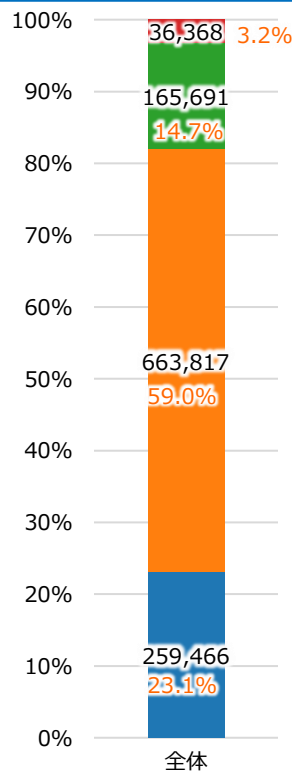
- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

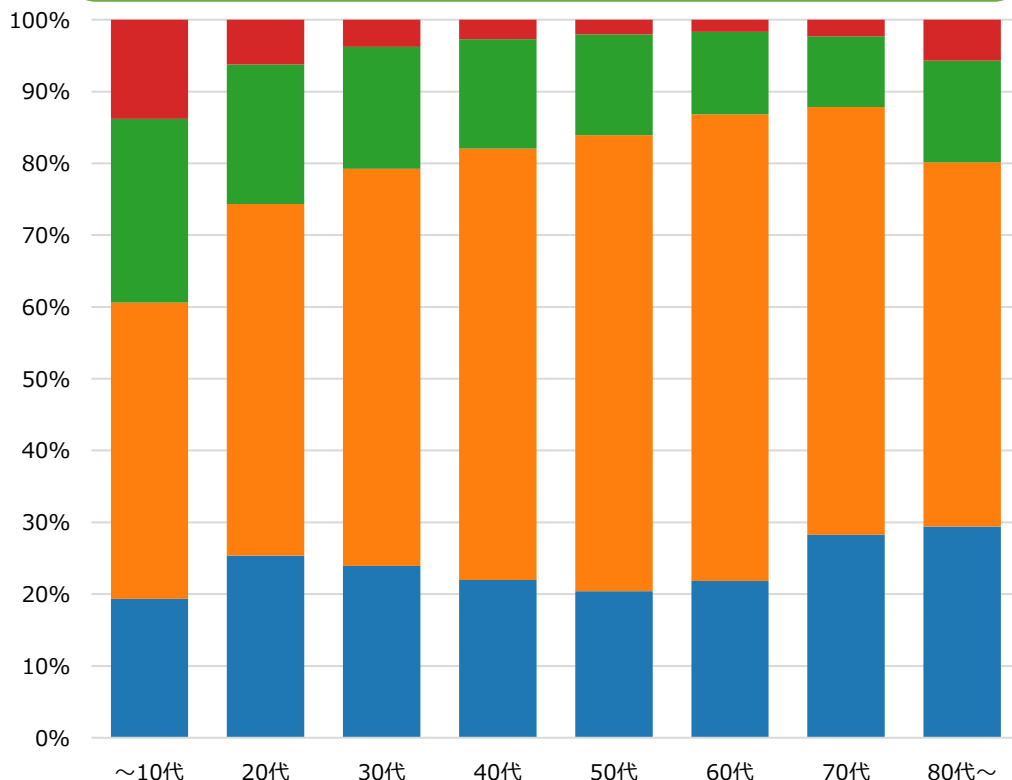
全国

単位：名

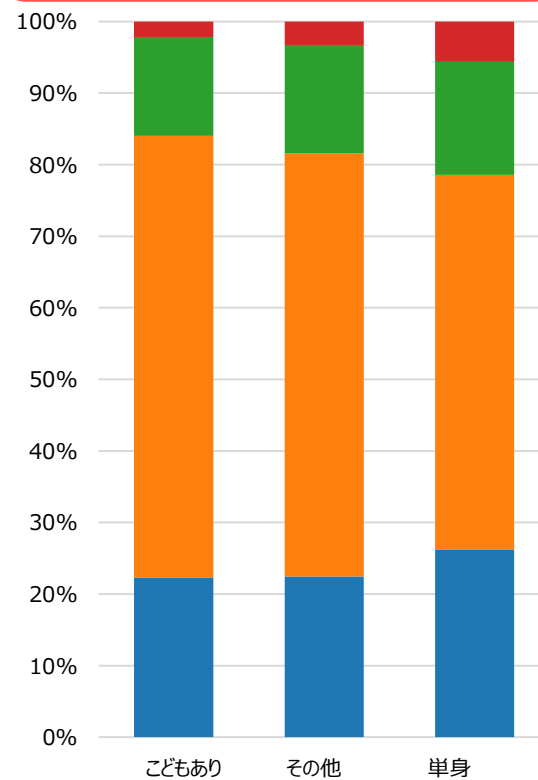
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

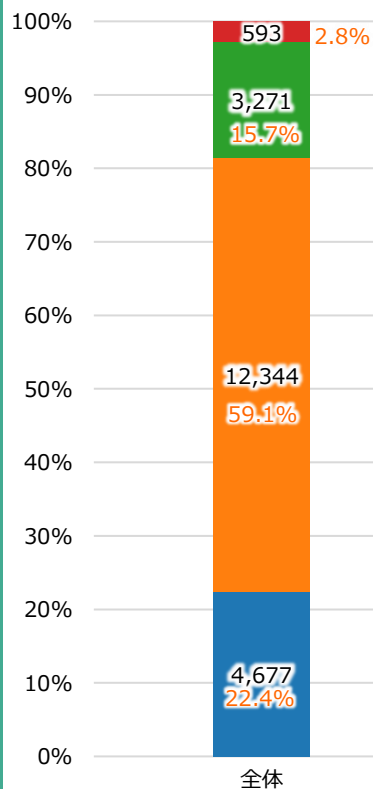
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

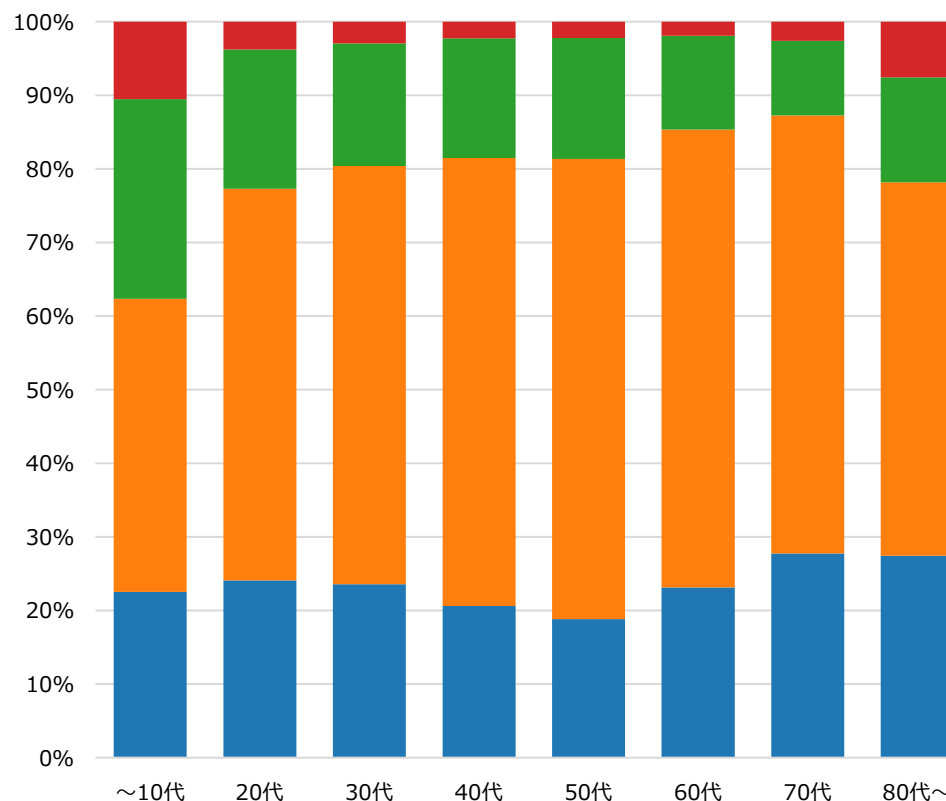
栃木県

単位：名

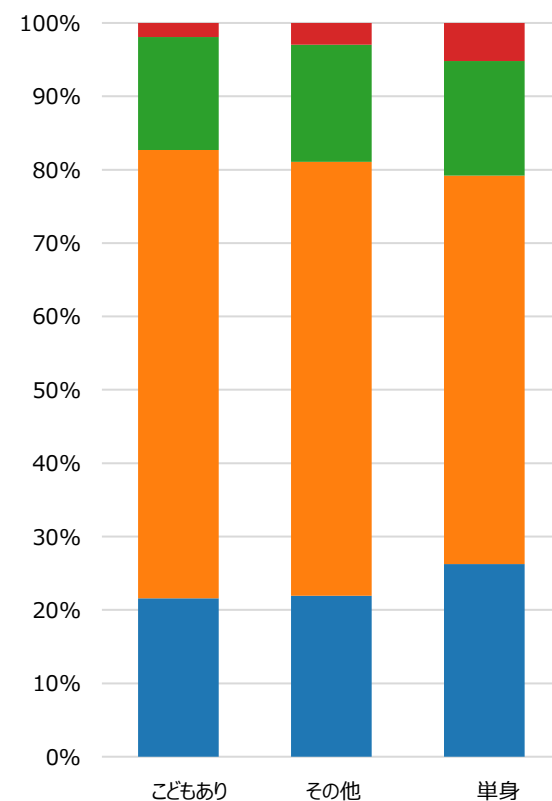
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

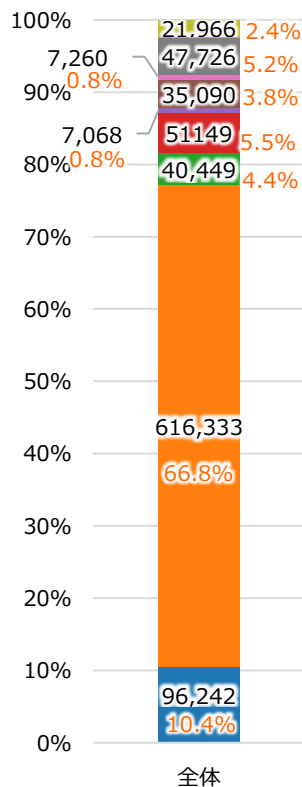
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

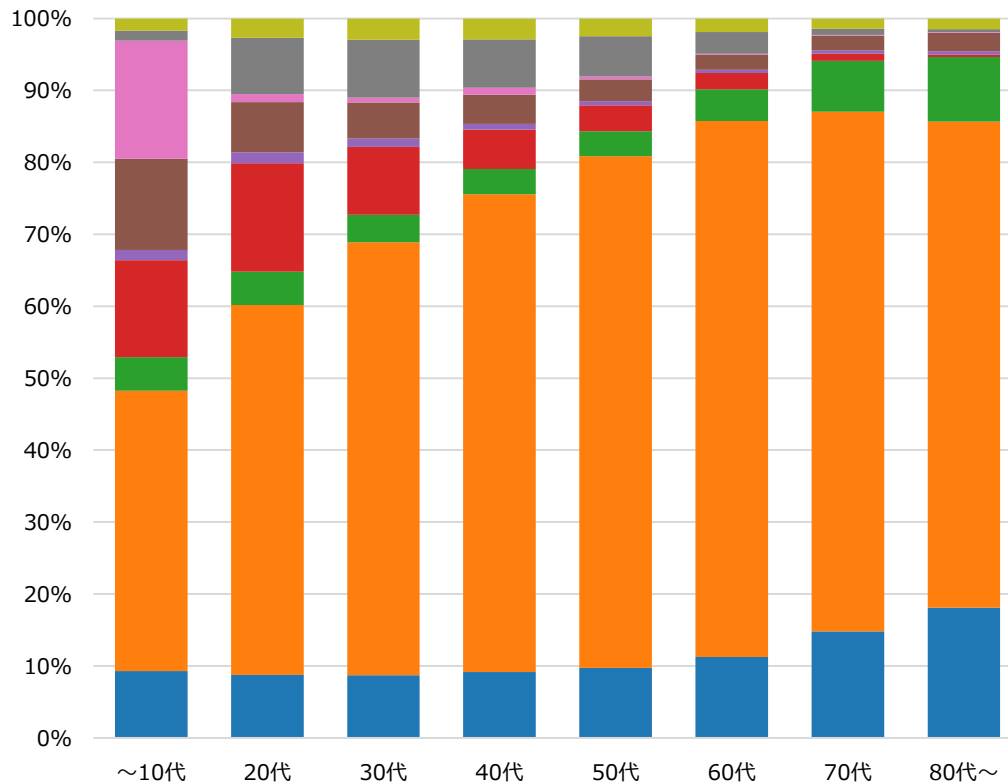
全国

単位：名

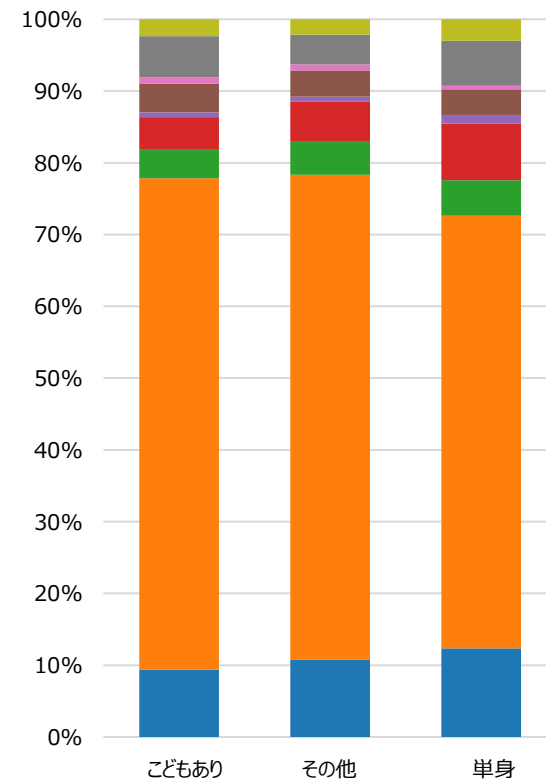
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

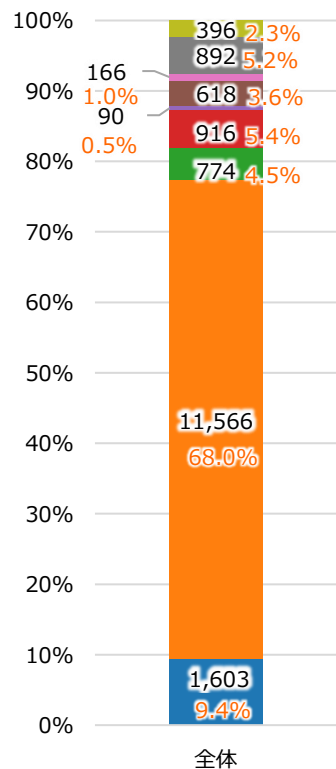
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

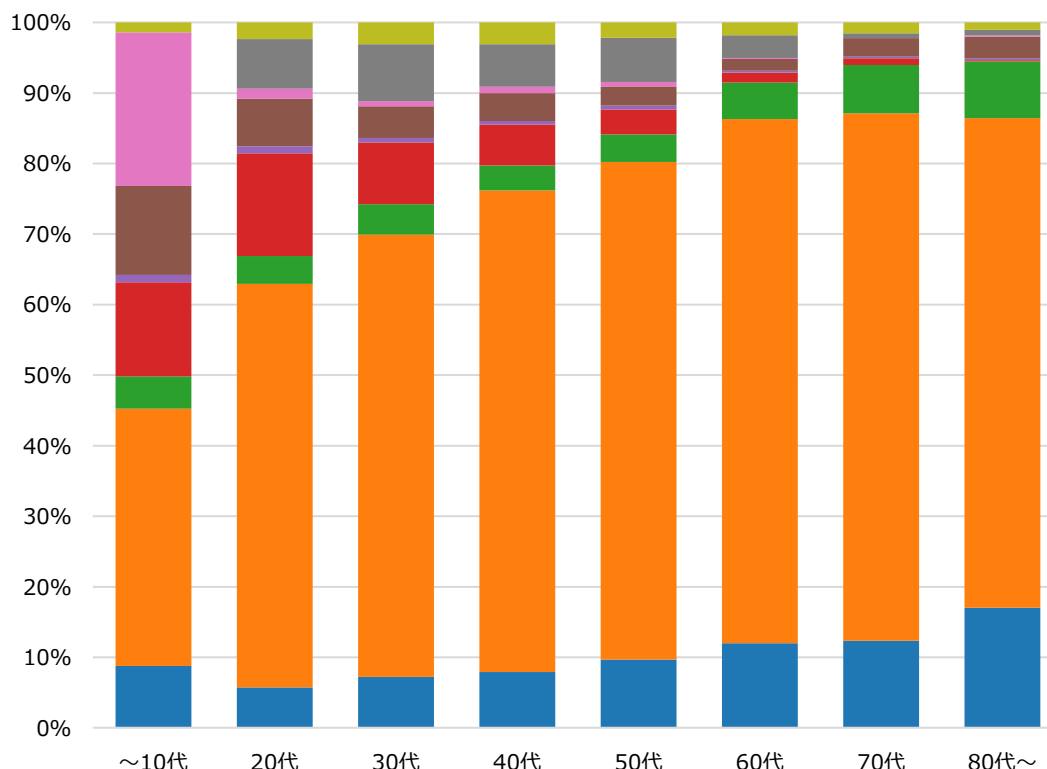
栃木県

単位：名

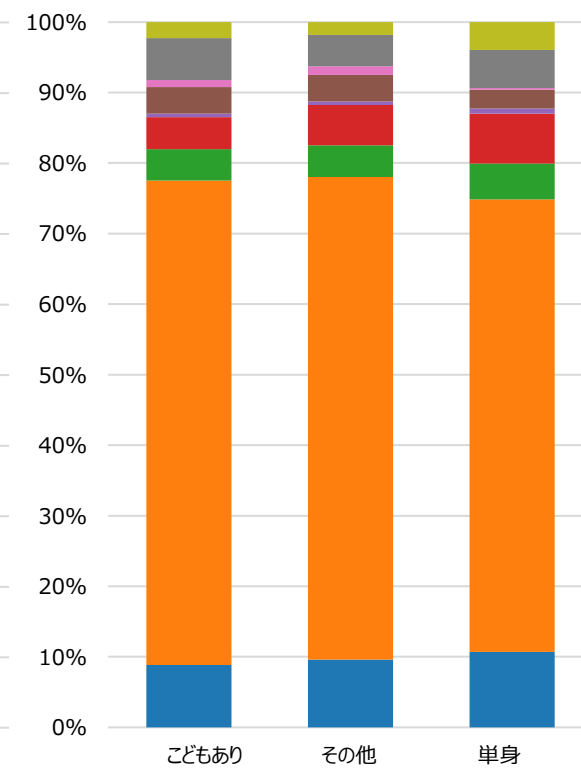
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

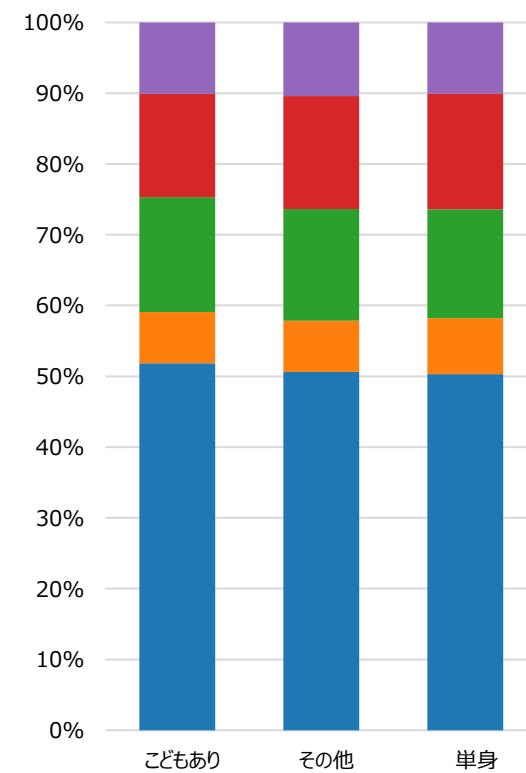
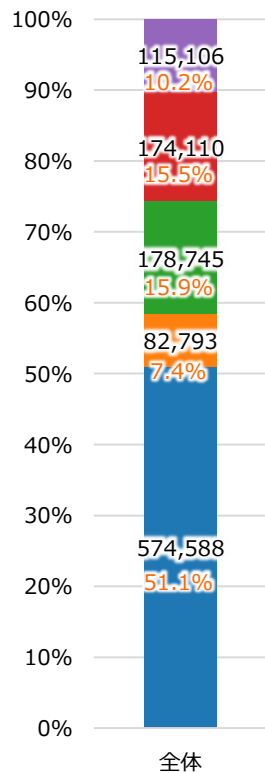
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

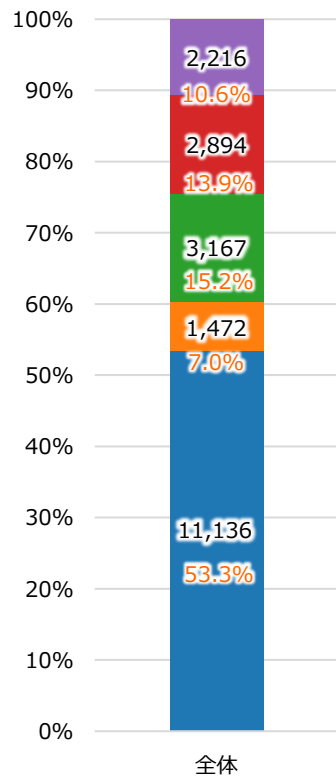
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

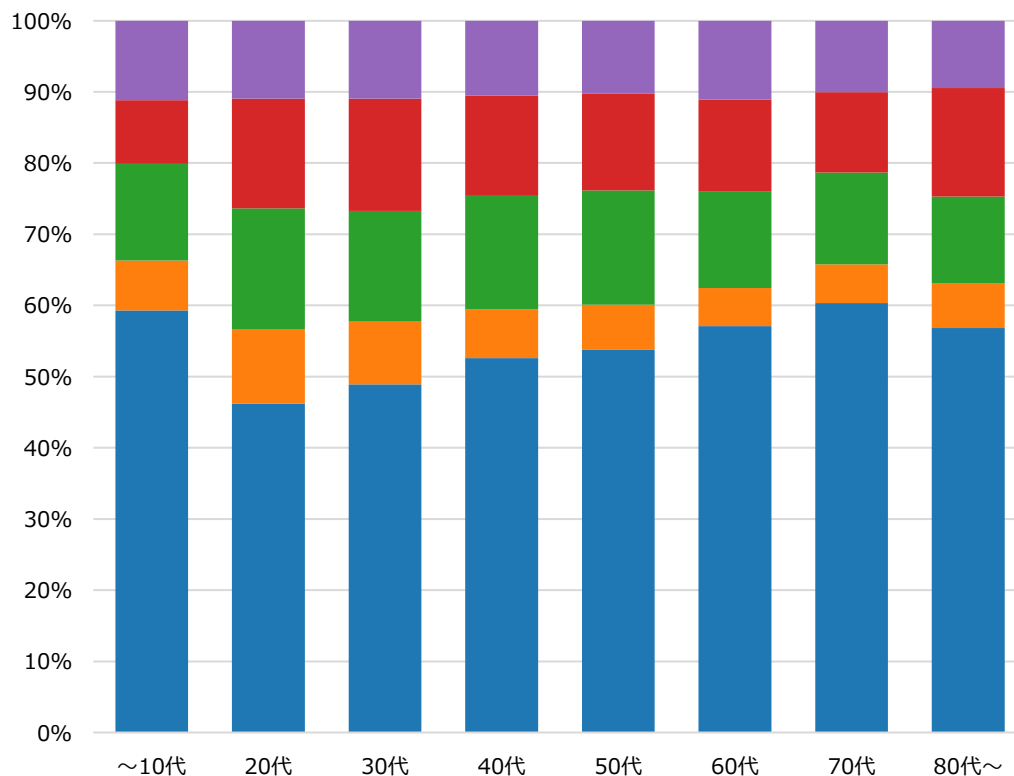
栃木県

単位：名

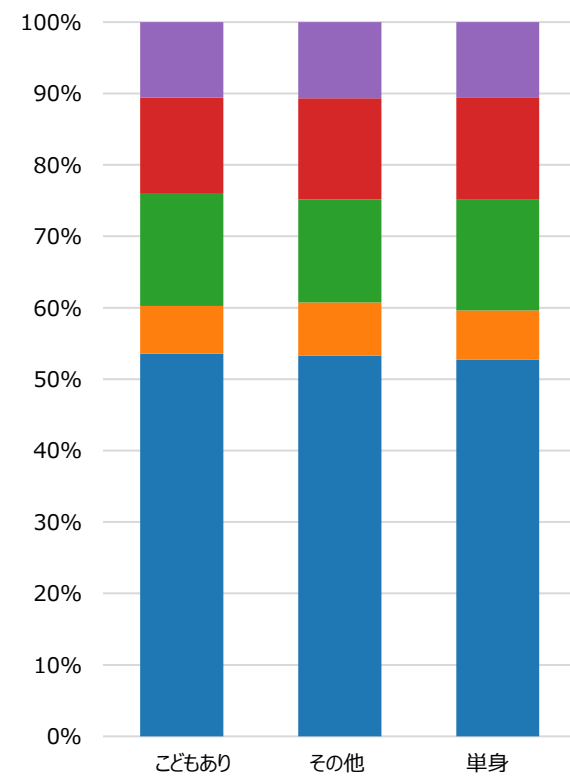
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

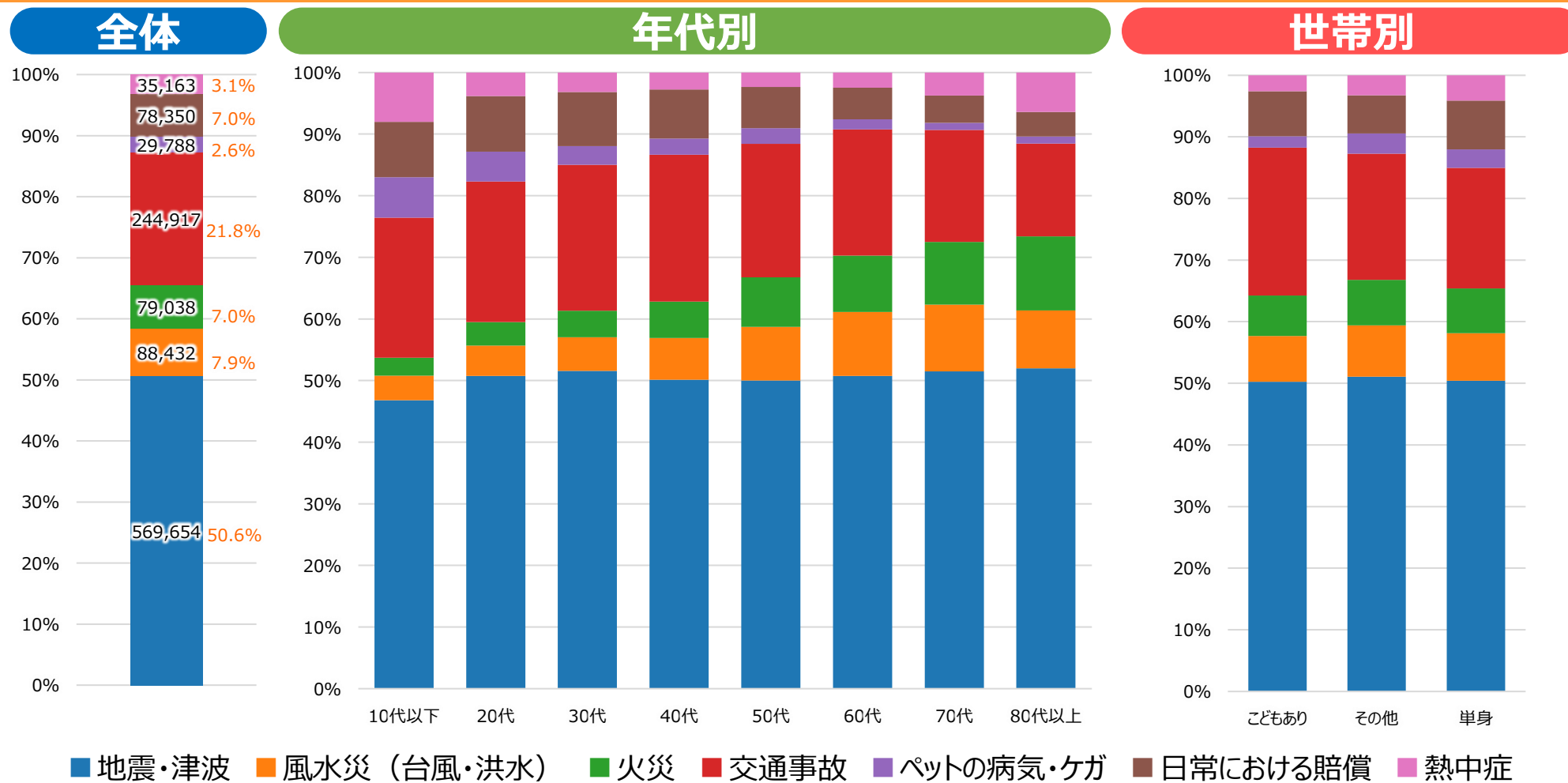
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



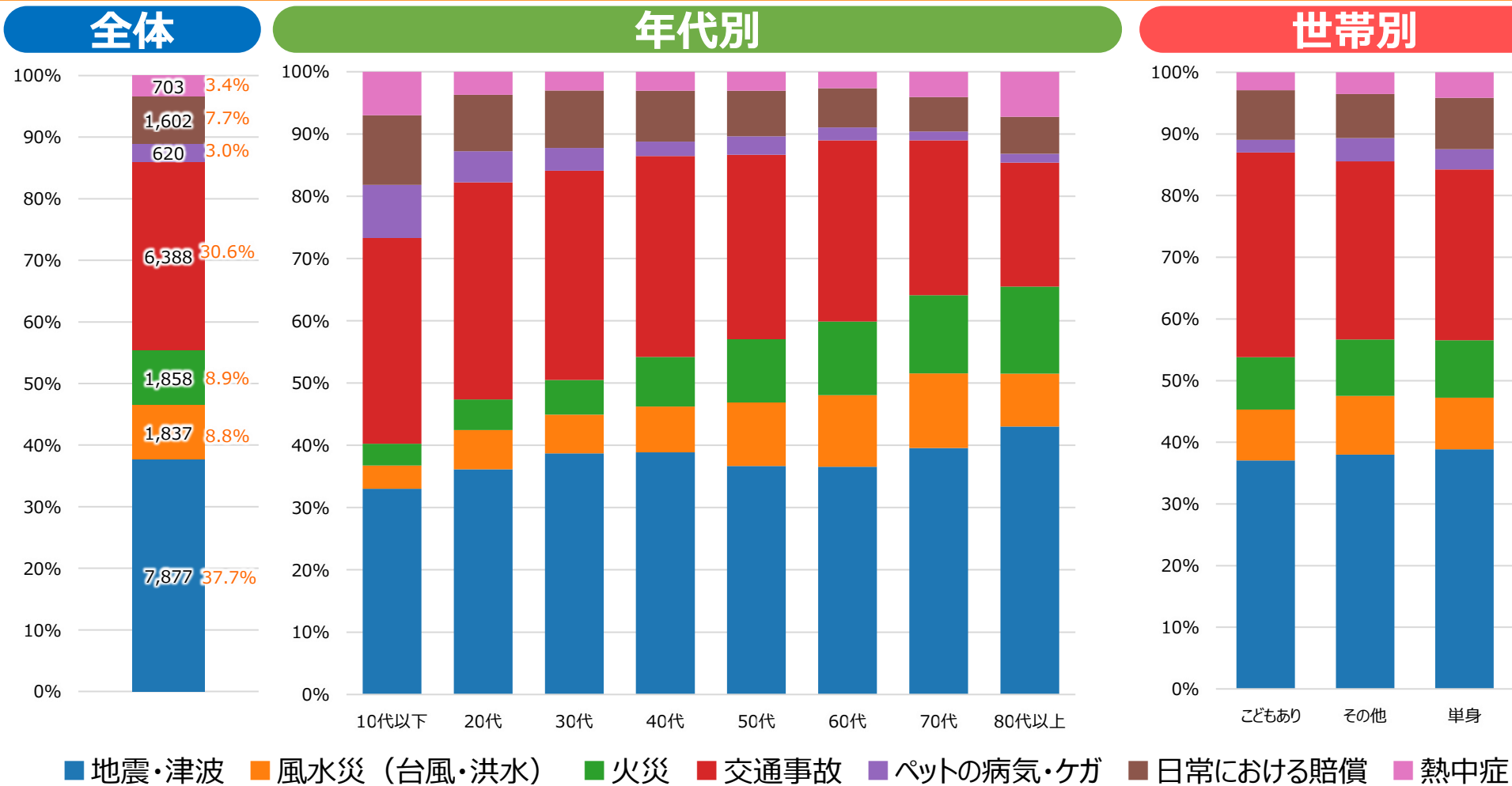
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

栃木県

単位：名

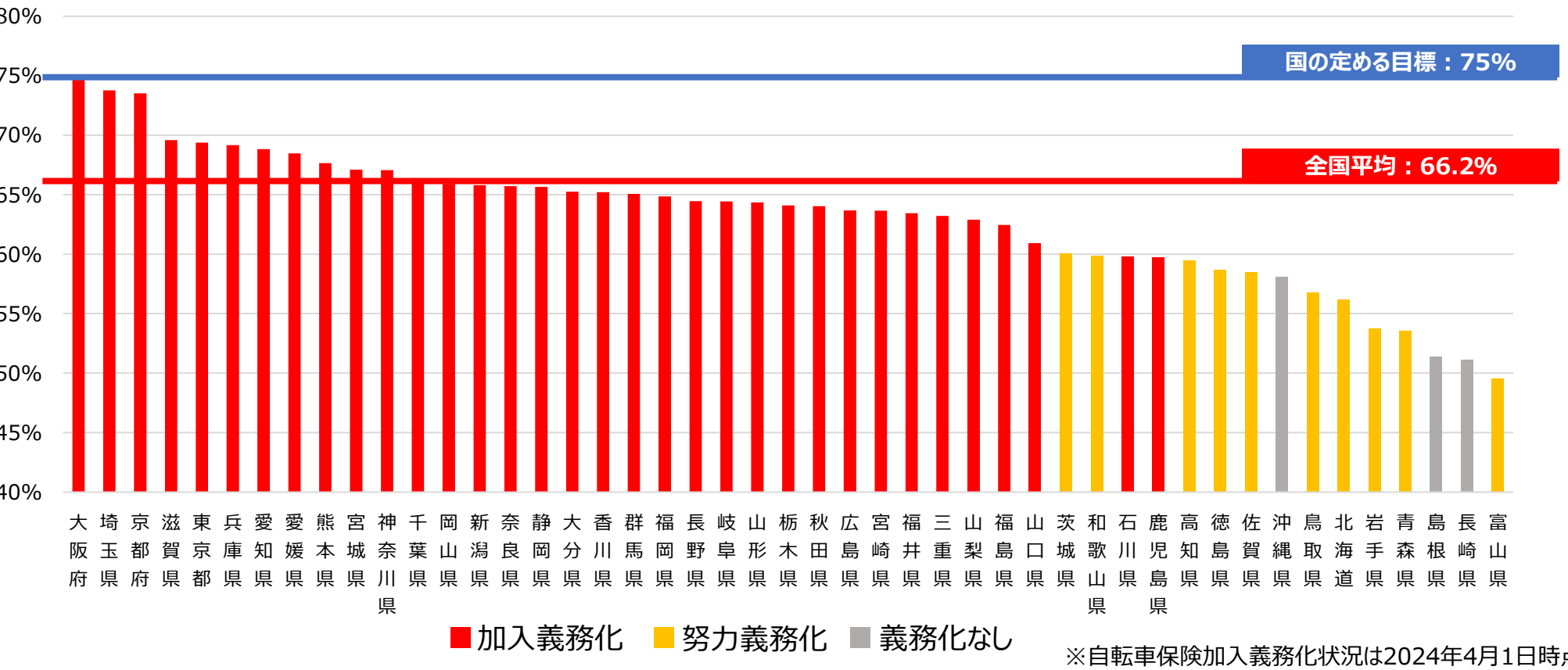
栃木県



- 栃木県では、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い
- 全国と比較して「地震・津波」の割合が低く（▲13Pt）、「交通事故」の割合が高い（+9Pt）

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



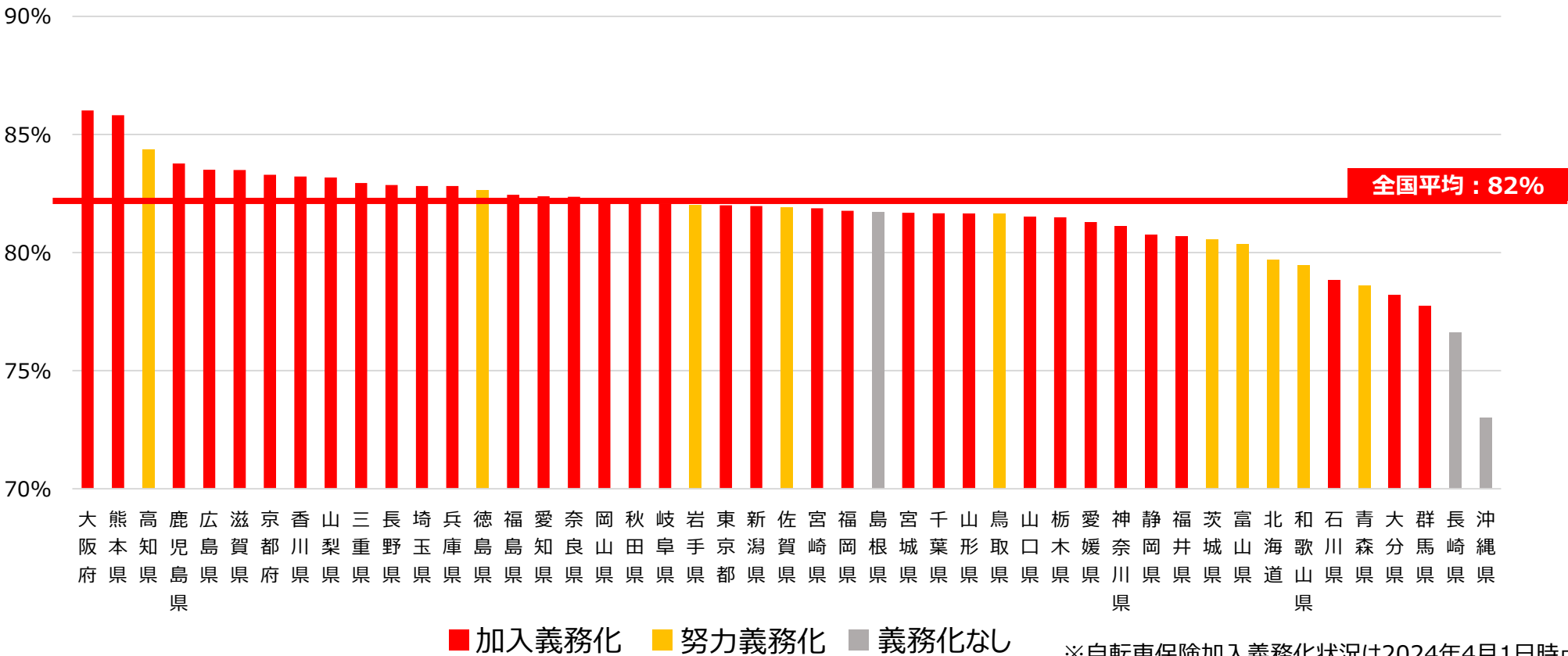
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



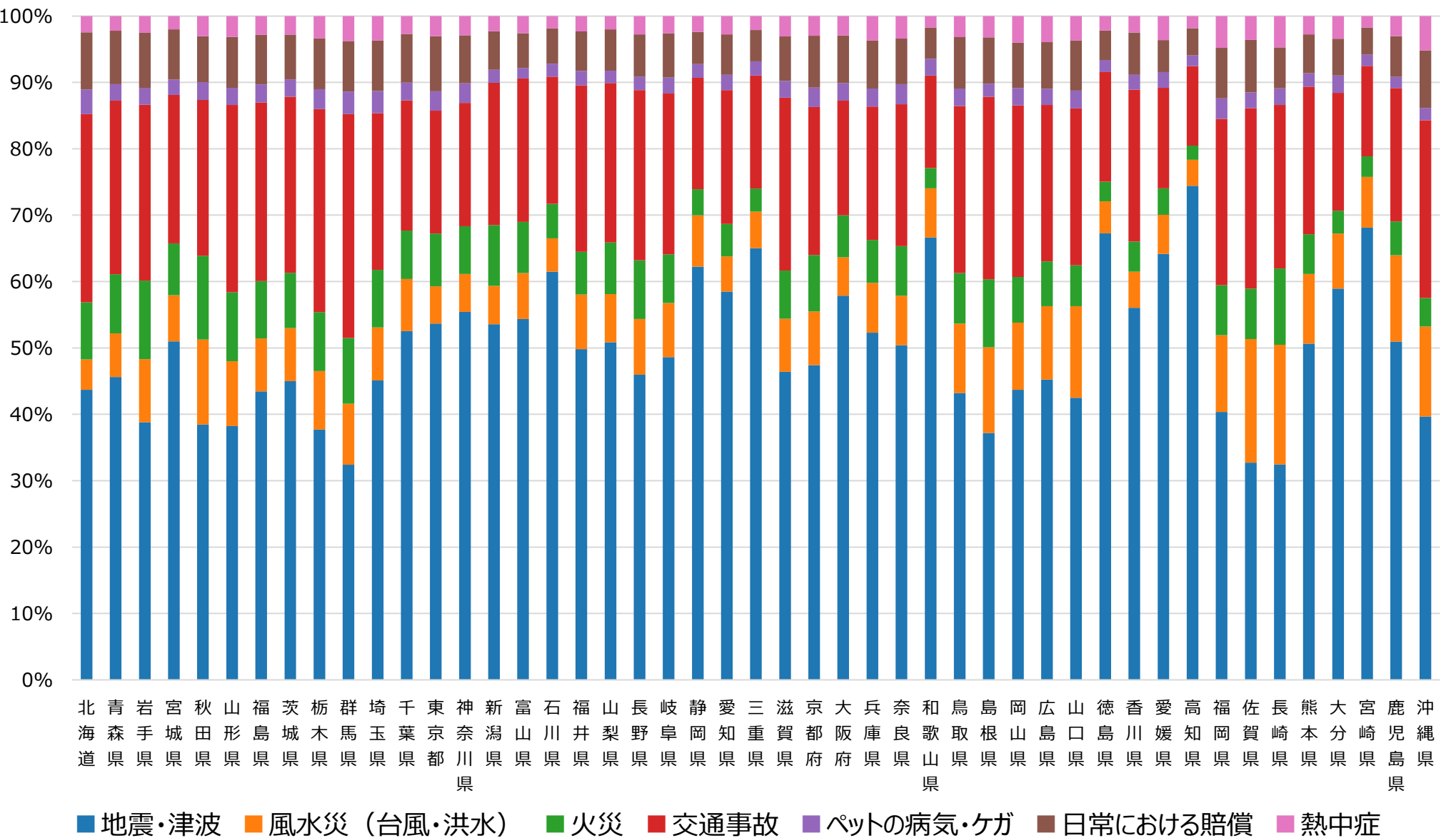
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、
全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

群馬県との 連携協定締結状況

個別連携協定①	
がん啓発・がん検診の受診率向上に向けた包括的連携に関する協定	
締結日	2011/12/20

個別連携協定②	
群馬県地域見守り支援に関する協定	
締結日	2016/11/21

個別連携協定③	
群馬県健康づくり推進連携協定	
締結日	2016/12/20

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

群馬県

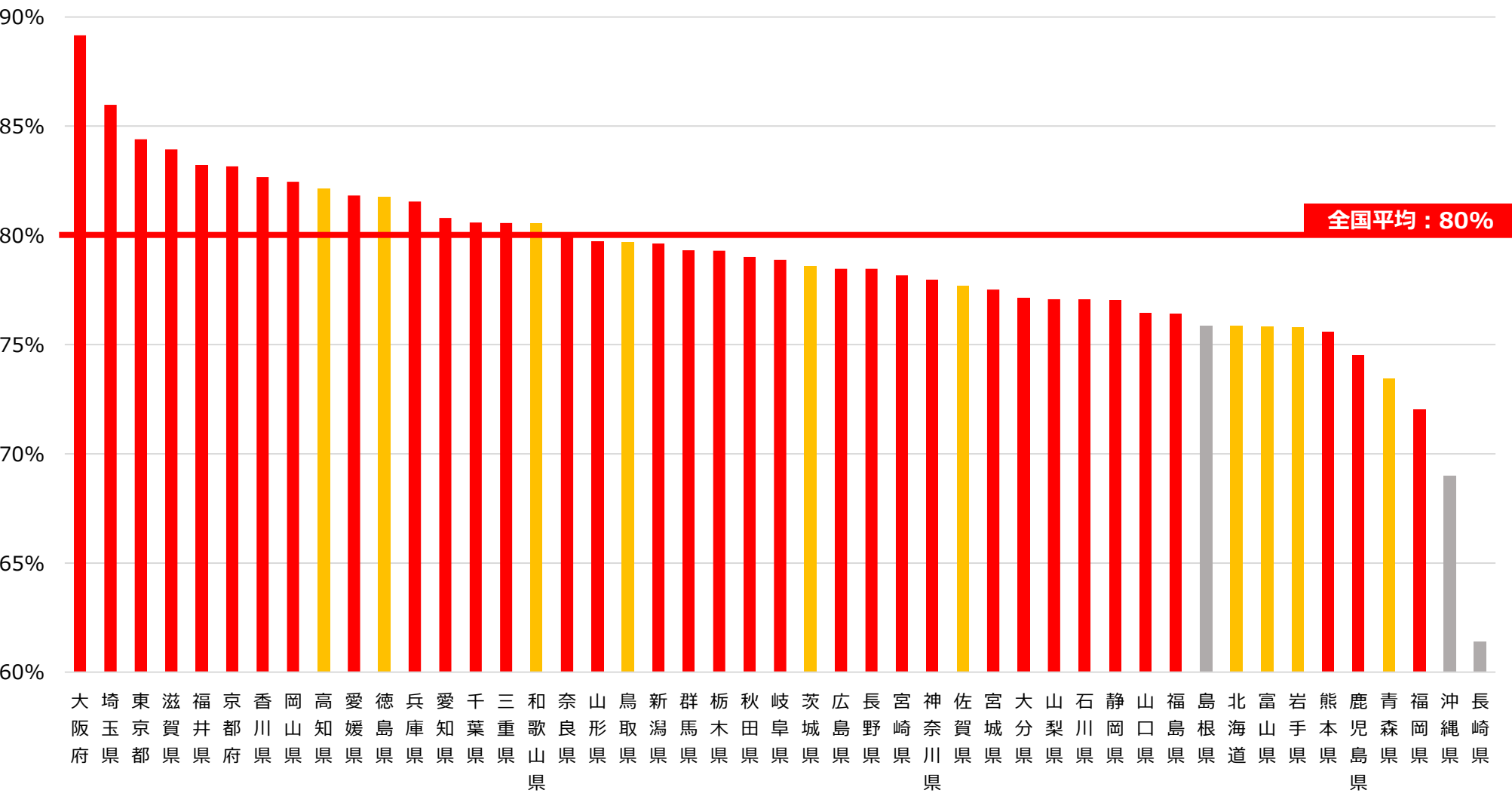
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	387	2.7%	192	2.9%	195	2.6%
20代	1,768	12.5%	851	12.9%	917	12.2%
30代	2,365	16.7%	1,078	16.3%	1,287	17.1%
40代	2,649	18.7%	1,251	18.9%	1,398	18.6%
50代	3,271	23.1%	1,448	21.9%	1,823	24.2%
60代	2,364	16.7%	1,139	17.2%	1,225	16.3%
70代	1,071	7.6%	524	7.9%	547	7.3%
80代～	278	2.0%	134	2.0%	144	1.9%
合計	14,153	100.0%	6,617	100.0%	7,536	100.0%
2024年度	6,682	100.0%	3,192	100.0%	3,490	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	344	88.9%	171	89.1%	173	88.7%
20代	1,327	75.1%	635	74.6%	692	75.5%
30代	1,842	77.9%	837	77.6%	1,005	78.1%
40代	2,225	84.0%	1,044	83.5%	1,181	84.5%
50代	2,631	80.4%	1,201	82.9%	1,430	78.4%
60代	1,837	77.7%	908	79.7%	929	75.8%
70代	813	75.9%	410	78.2%	403	73.7%
80代～	204	73.4%	100	74.6%	104	72.2%
合計	11,223	79.3%	5,306	80.2%	5,917	78.5%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



加入義務化

努力義務化

義務化なし

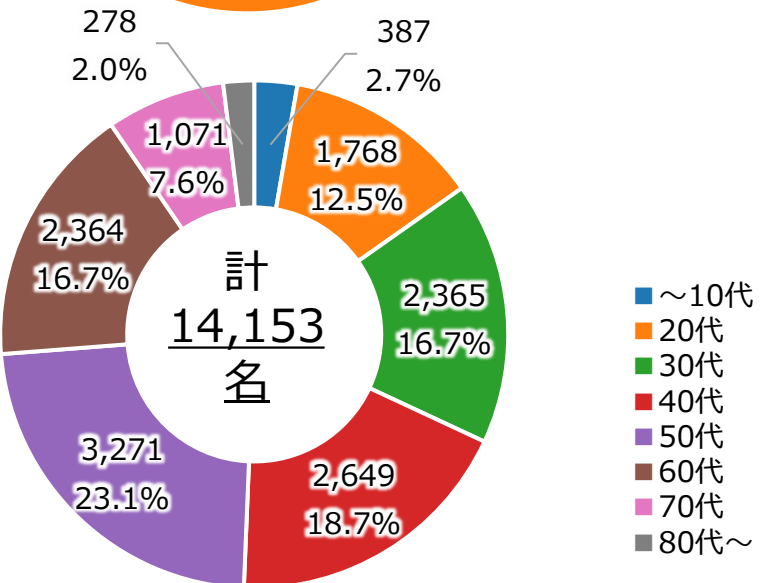
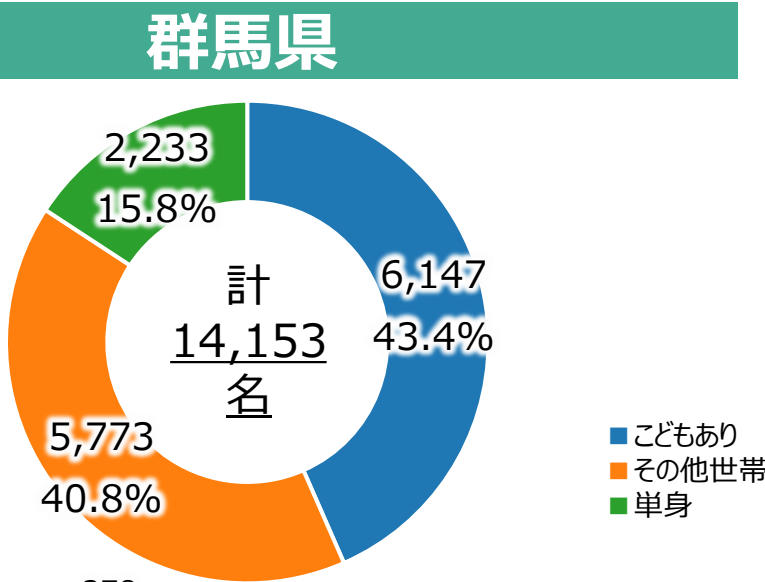
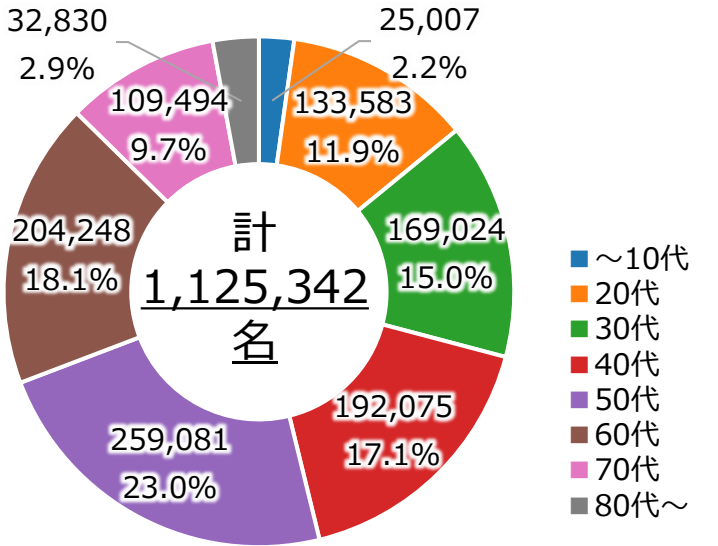
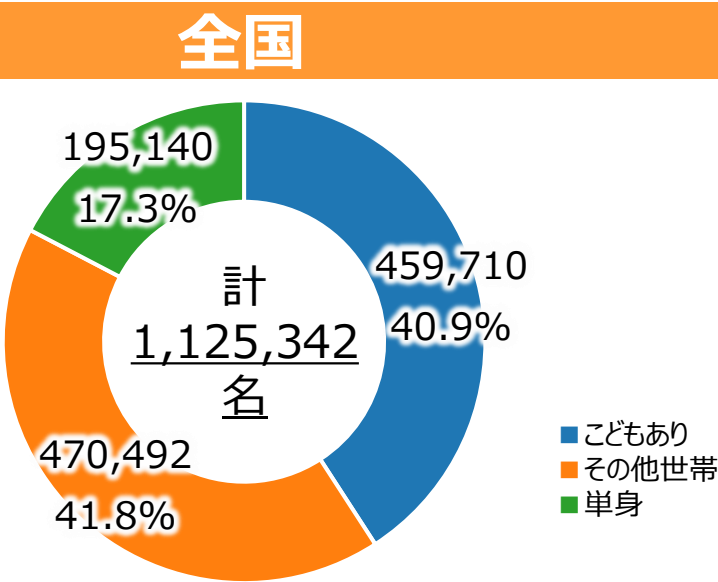
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

世帯構成別

年代別



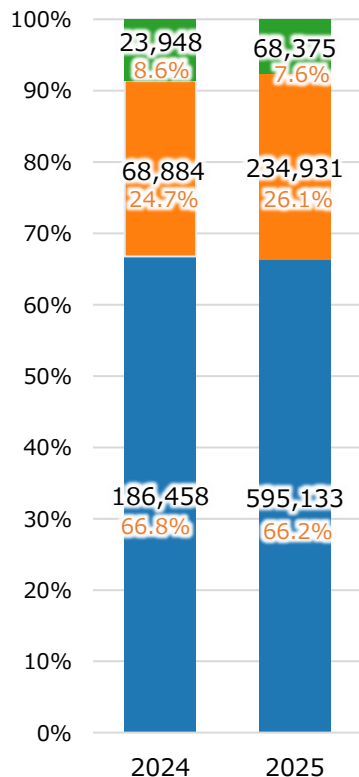
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

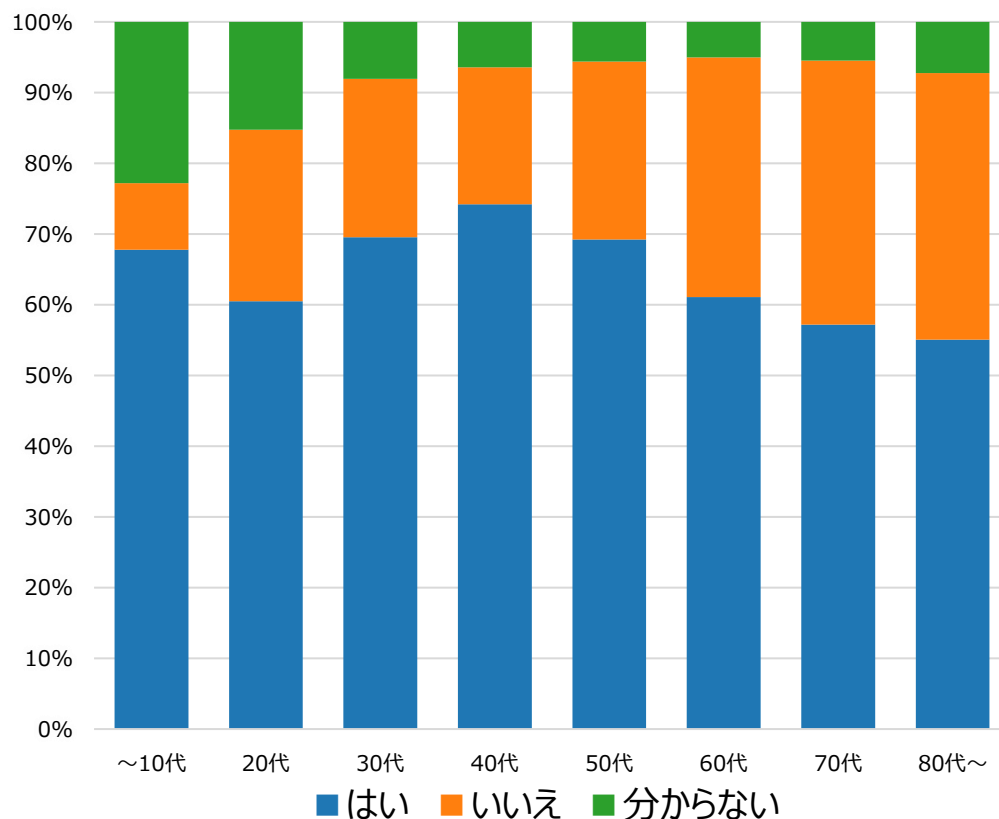
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

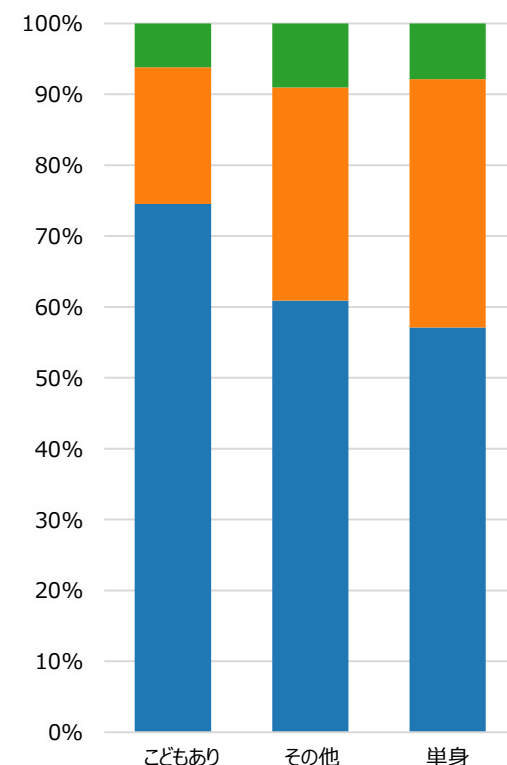
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

群馬県

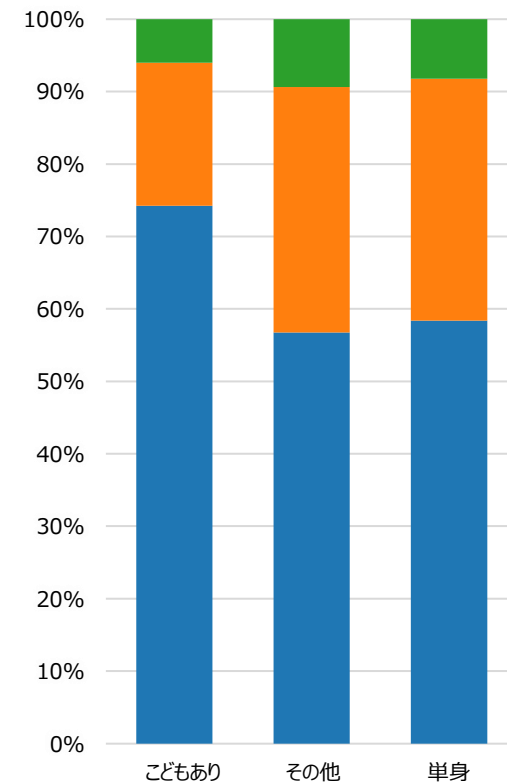
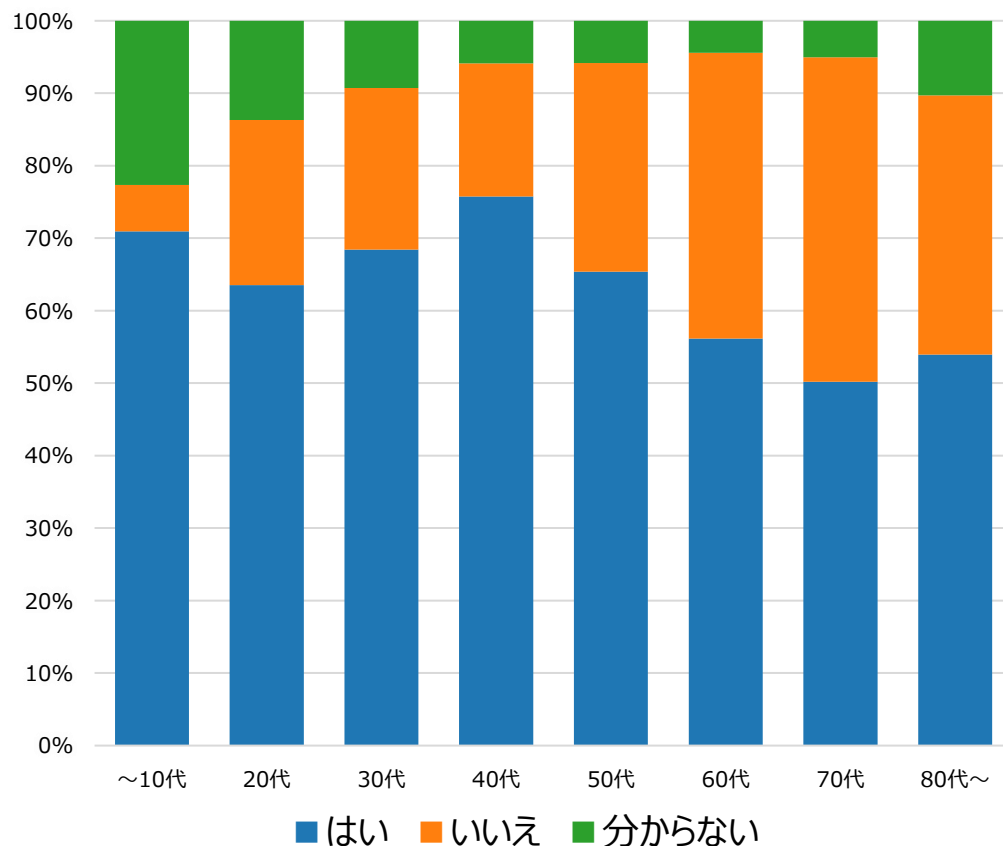
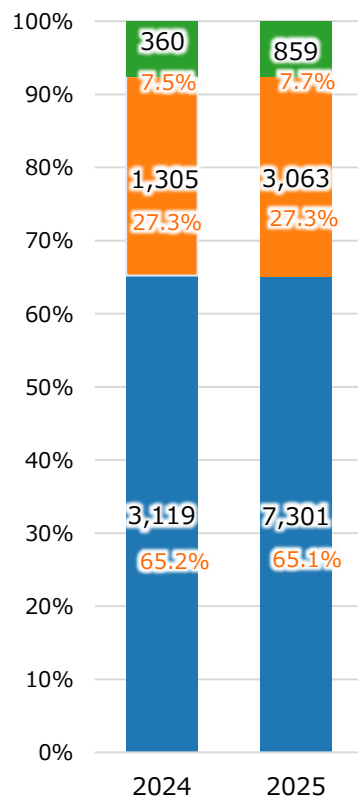
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 加入率は対前年横ばい、全国と比較すると低位（▲1Pt）
- 年代別でみると、特に60代以降が全国に比べ低位な状況

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

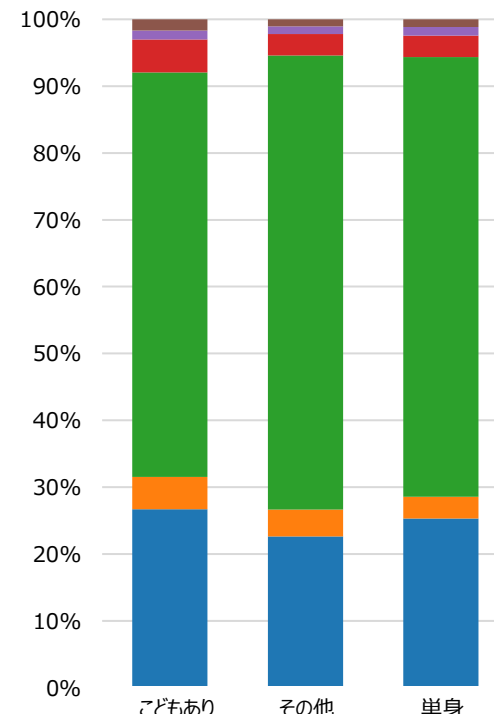
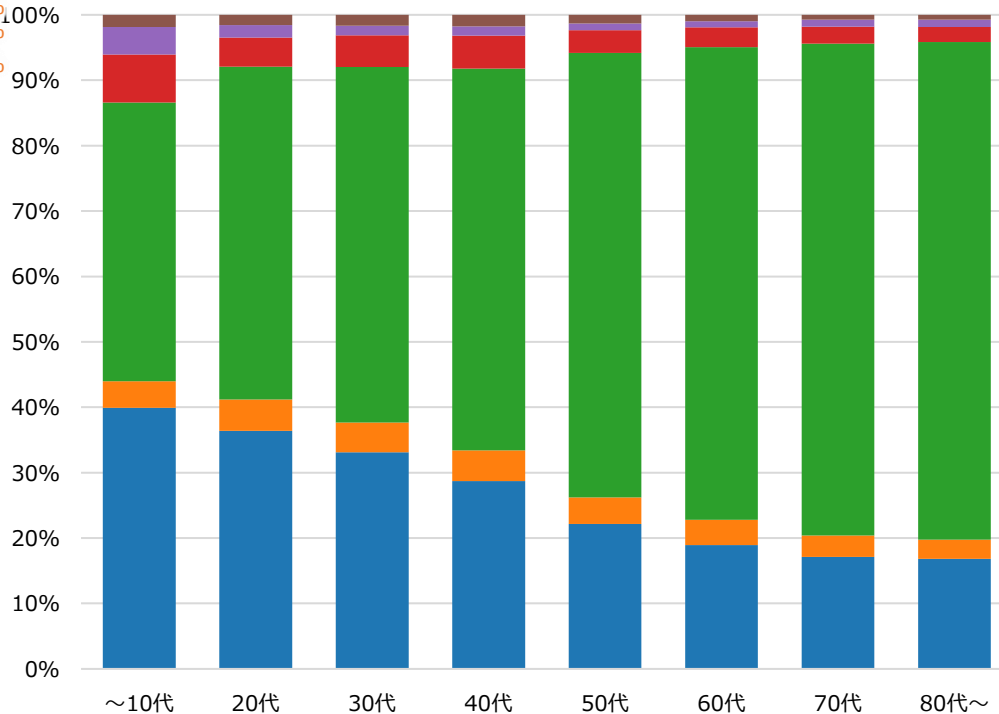
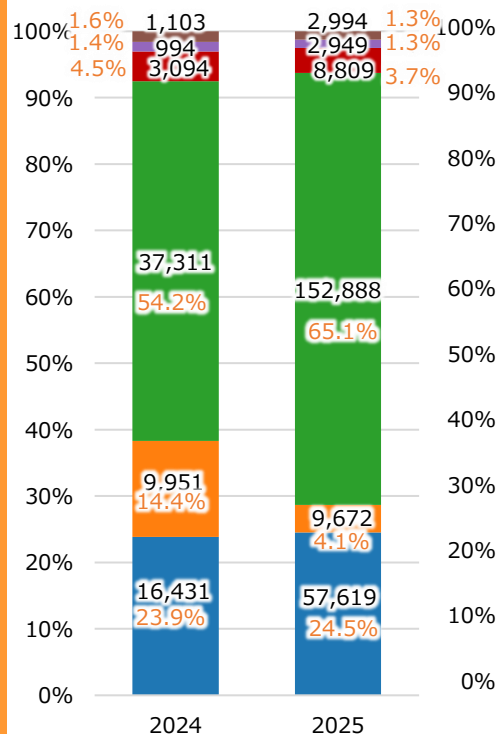
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

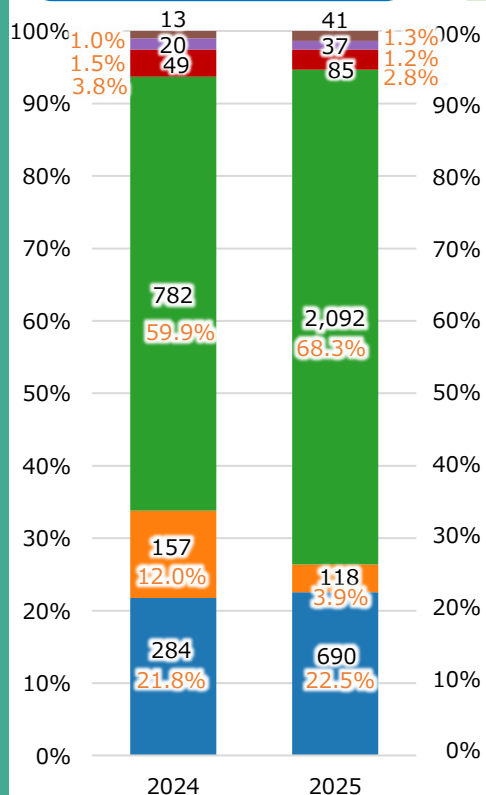
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

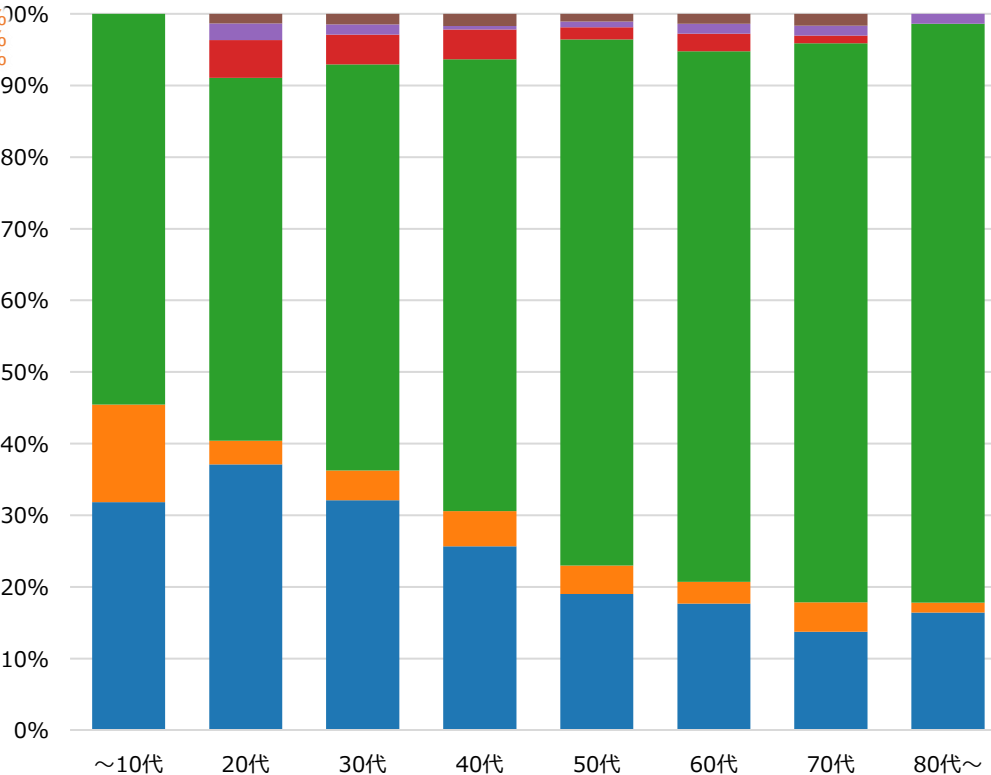
群馬県

単位：名

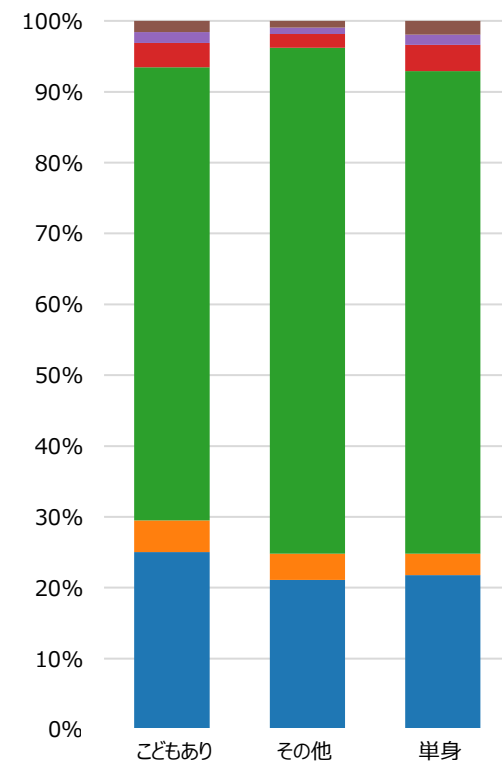
全体



年代別



世帯別



■ きっかけがなかった
 ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから
 ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから
 ■ 入り方がわからなかったから
 ■ 保険料が高いから

● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲8Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

群馬県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:11,223名のうち、1,316名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 268 名	② 172 名
	加入	106 名	770 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	27.3%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	5.0%
加入方法がわからなかったから	2.5%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	17.4%
保険料が高いから	0.8%
必要性を感じないから	47.1%

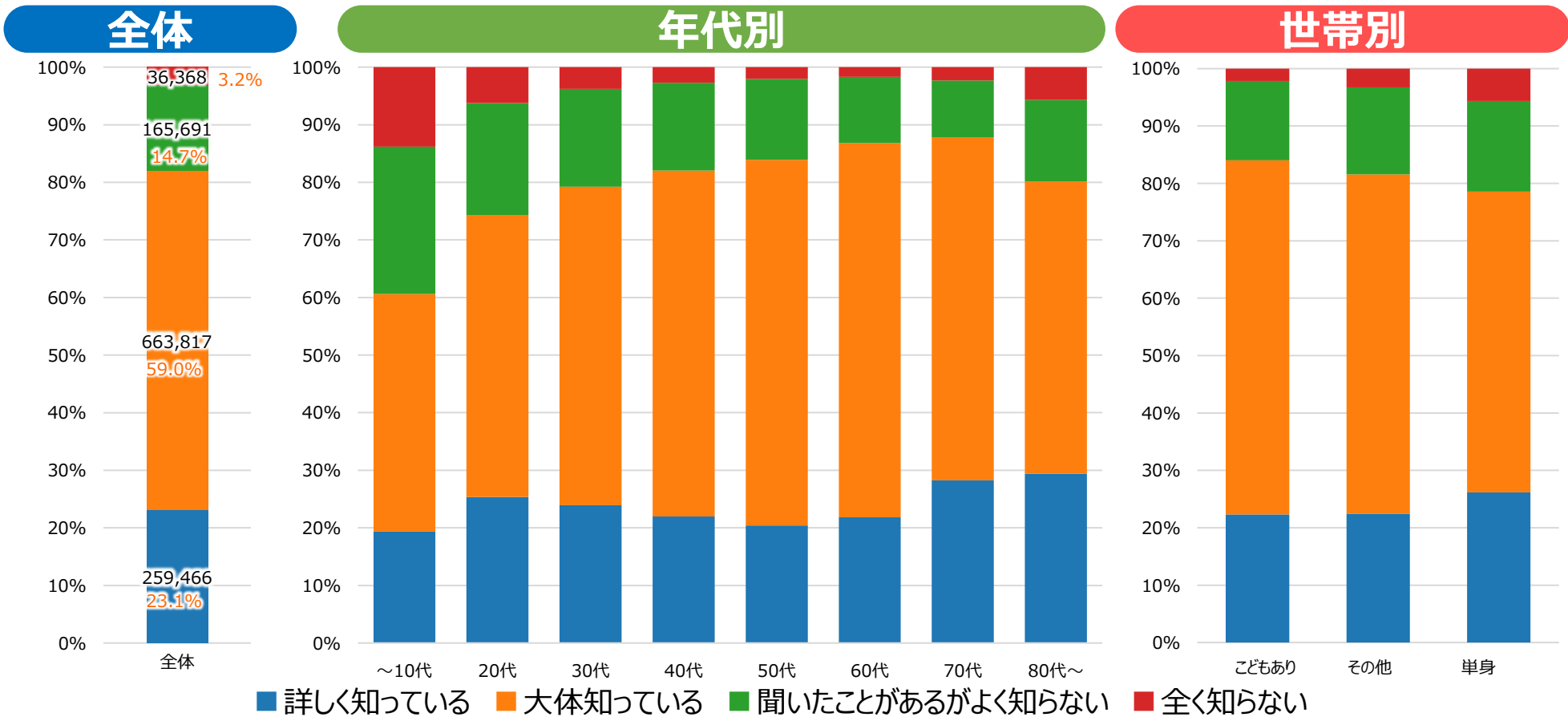
2024年度「自転車保険加入なし」の440名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

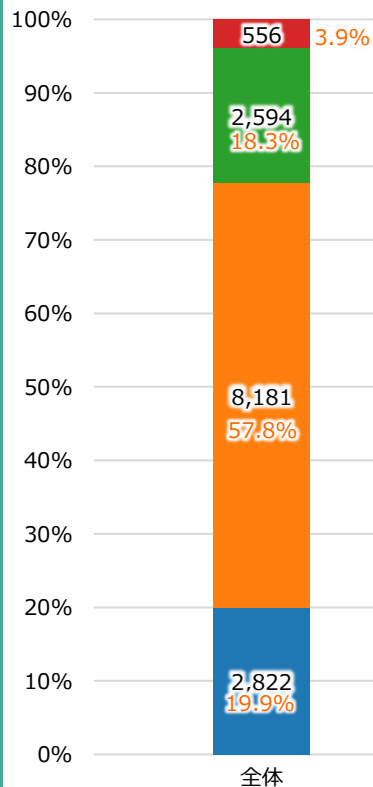
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

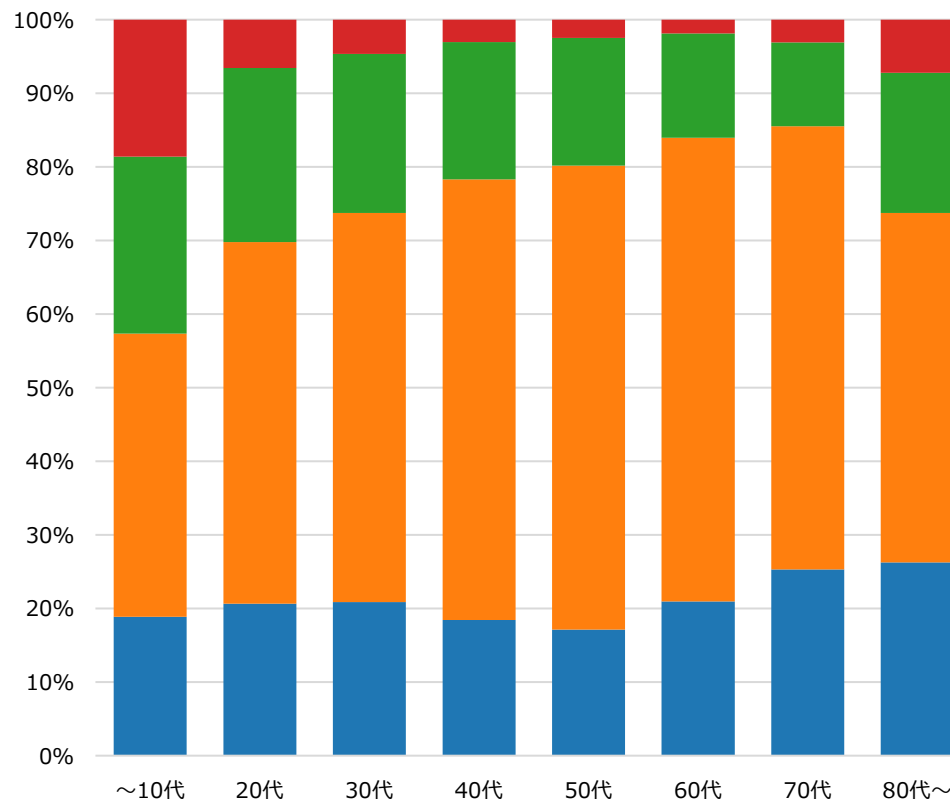
群馬県

単位：名

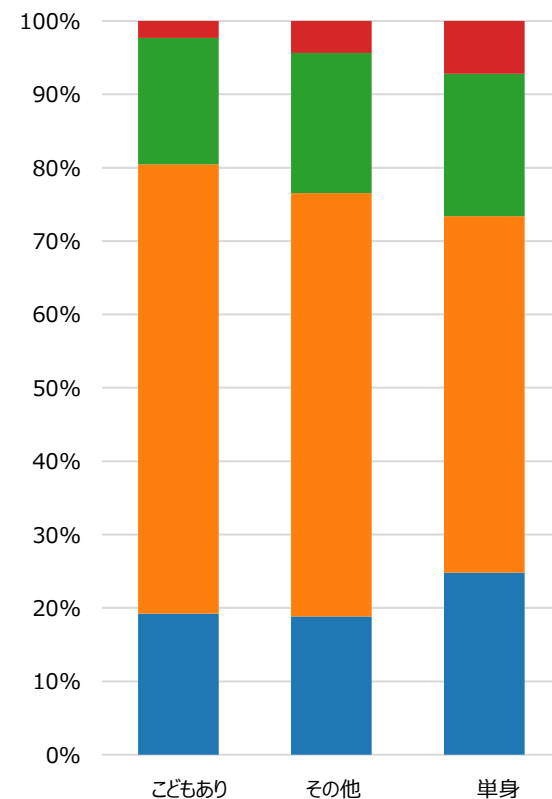
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

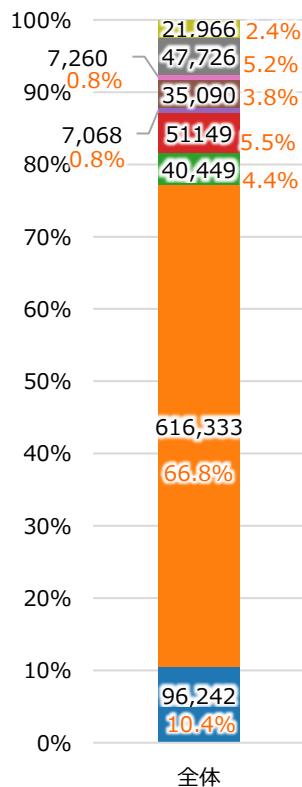
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

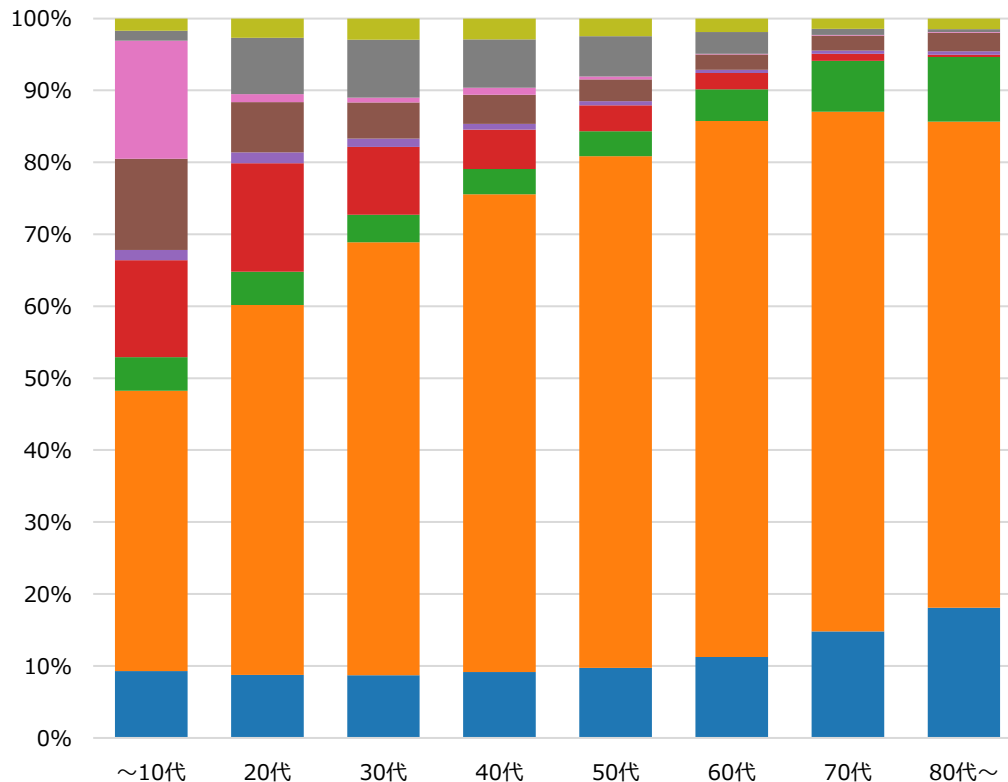
全国

単位：名

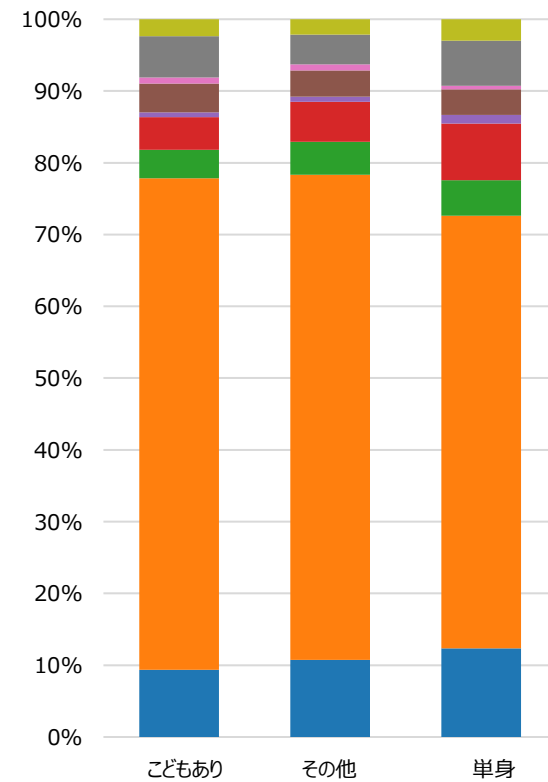
全体



年代別



世帯別



雑誌新聞 ニュース番組 テレビCM SNS ポスター掲示 家族知人 学校 勤務先 その他

- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

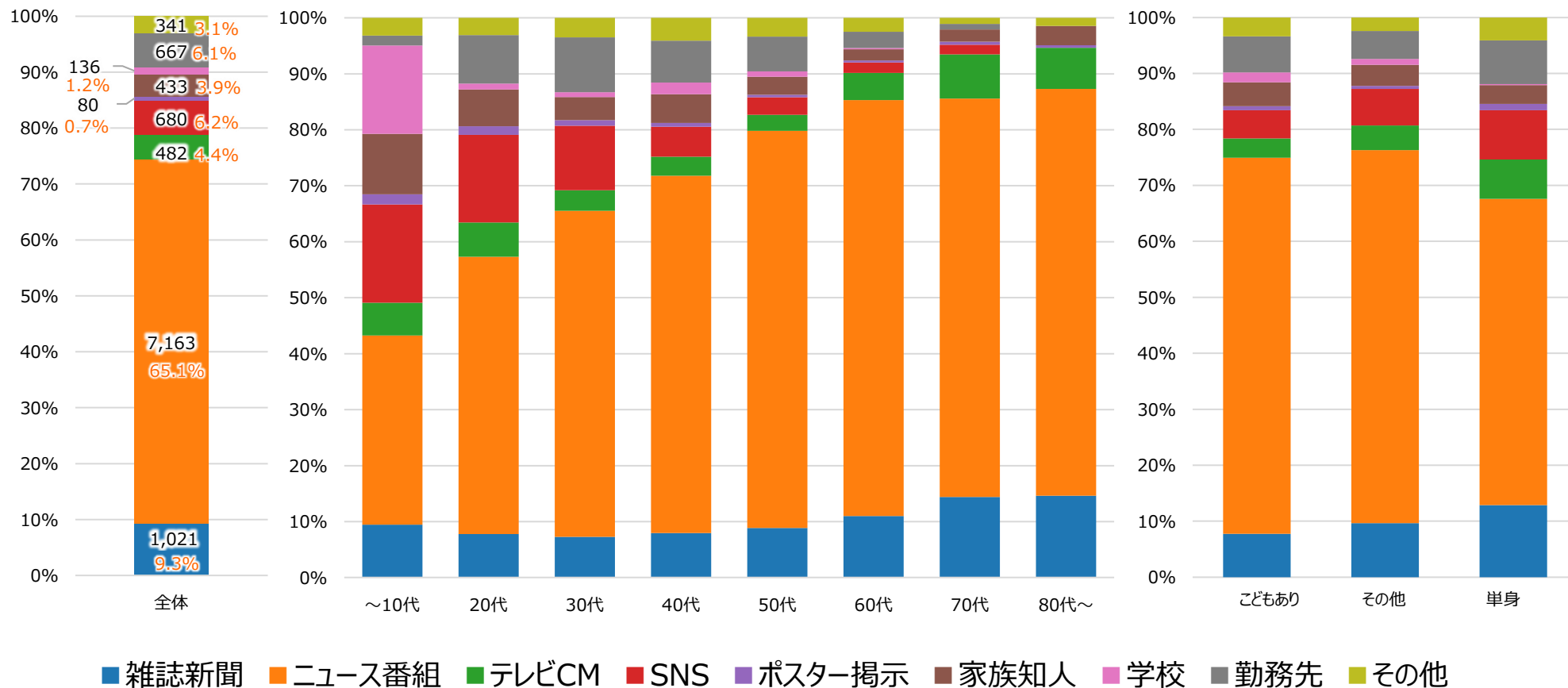
群馬県

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

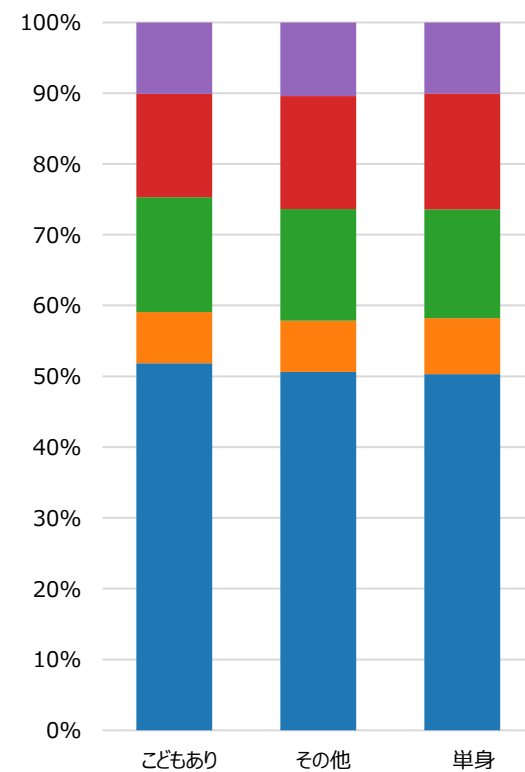
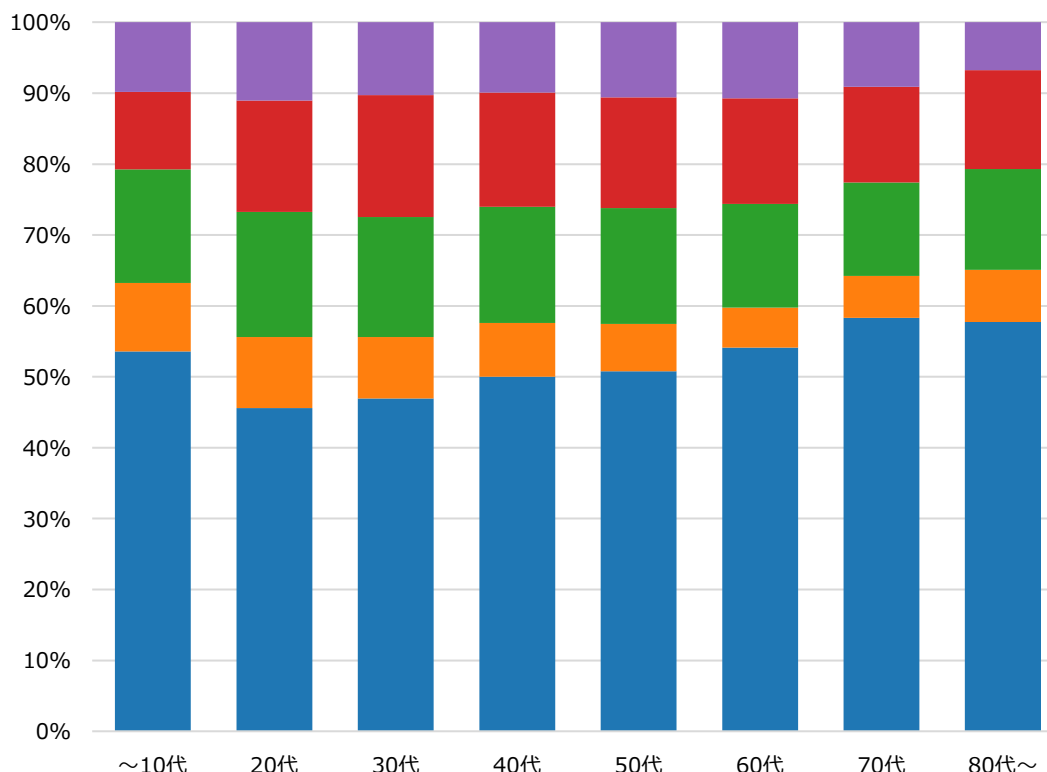
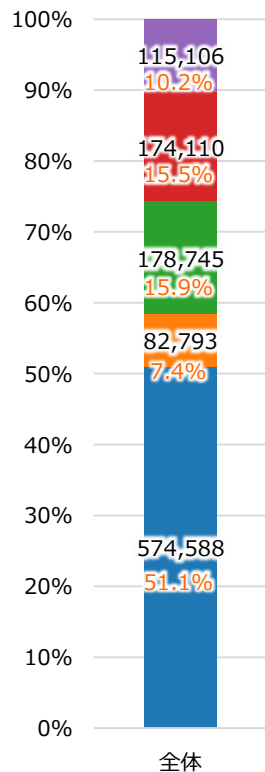
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

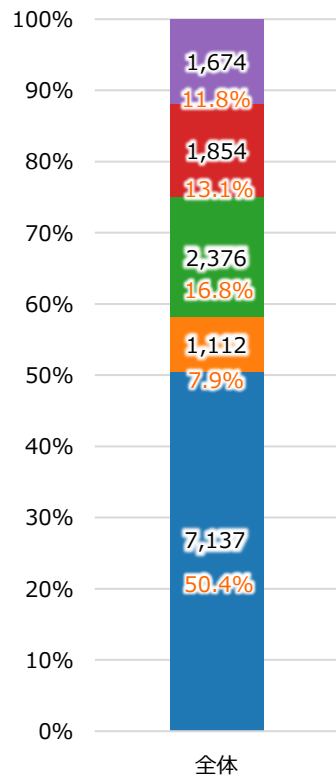
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

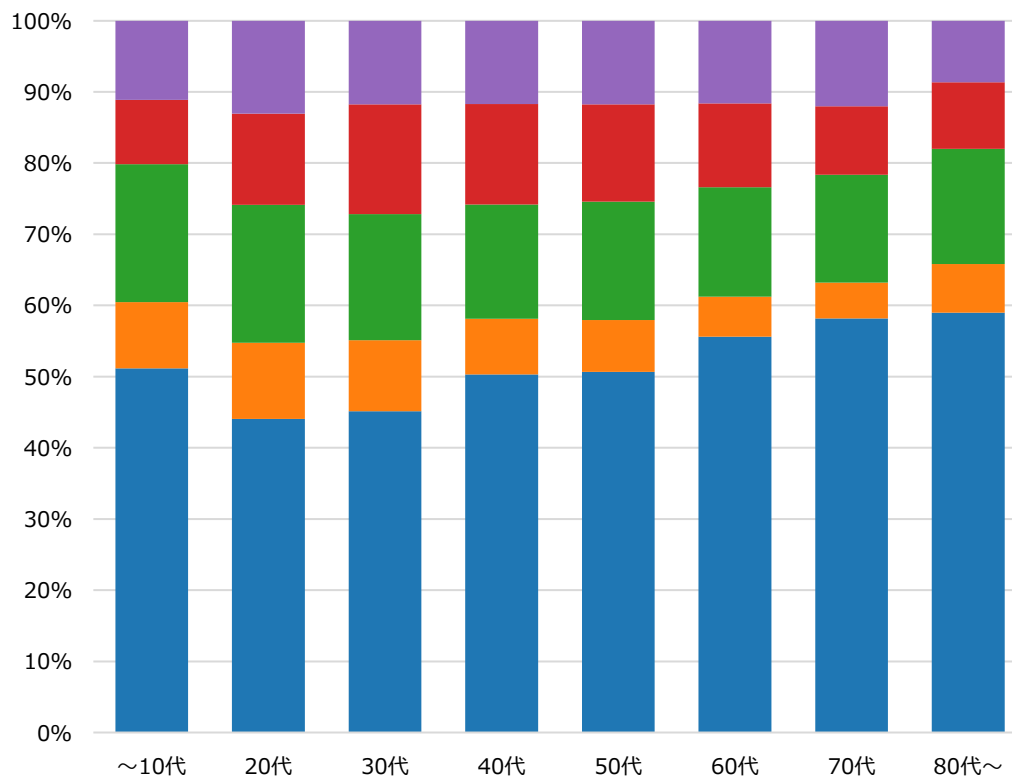
群馬県

単位：名

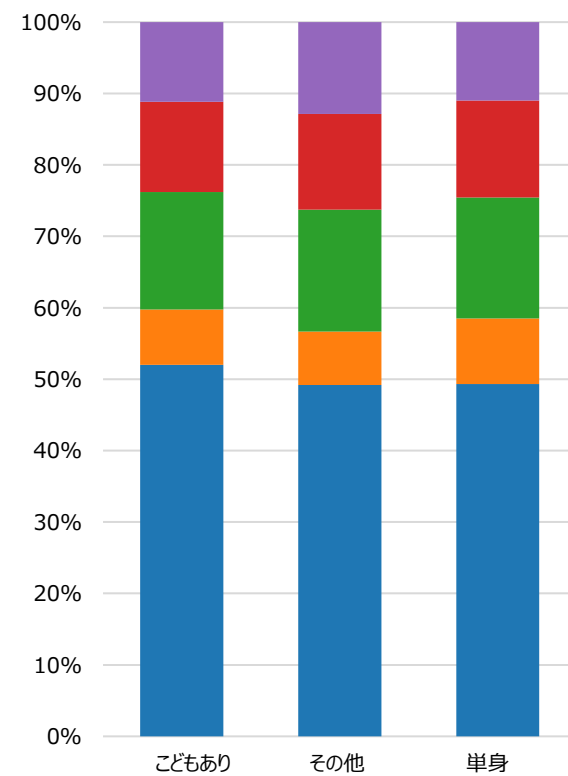
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

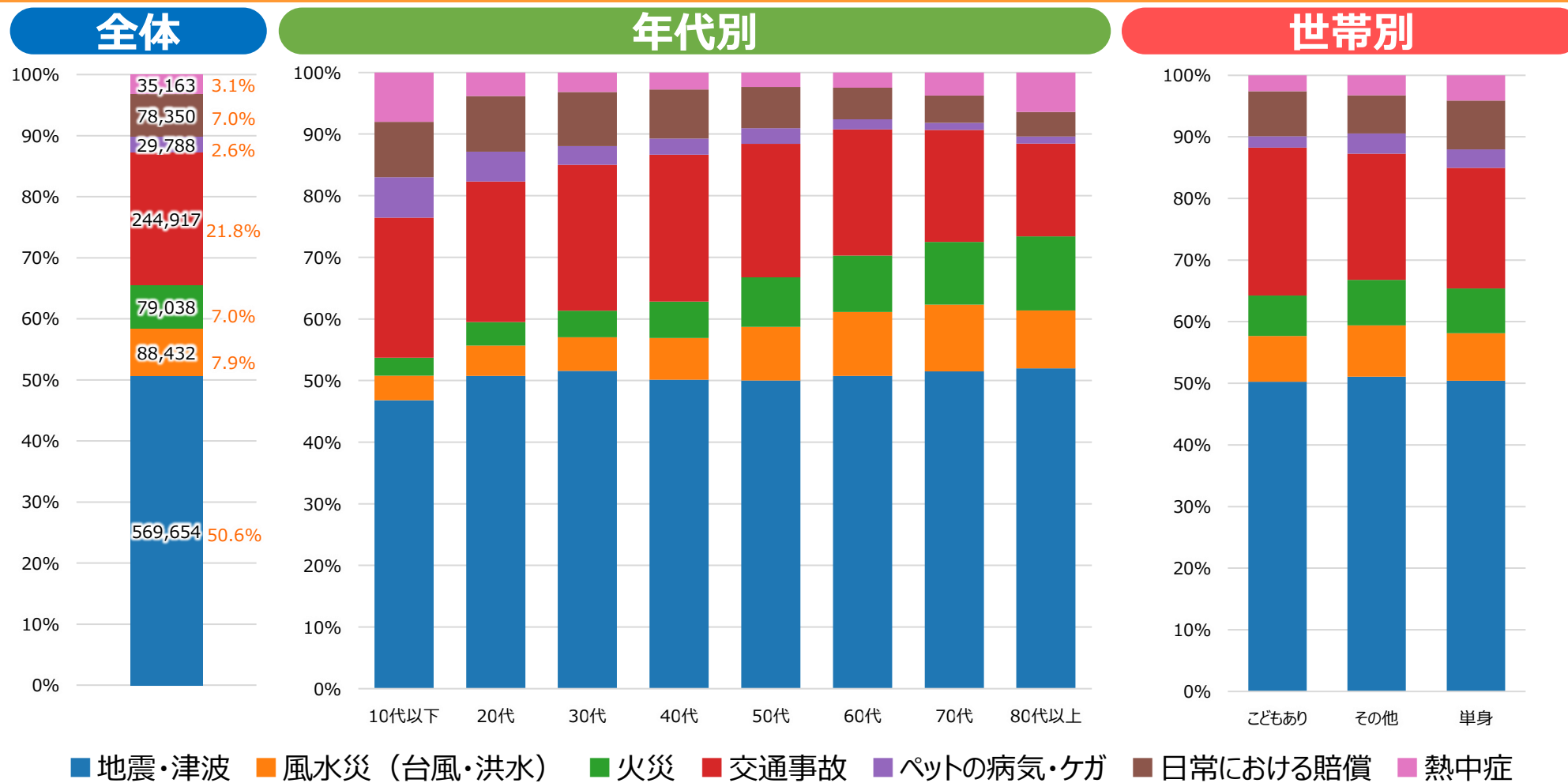
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



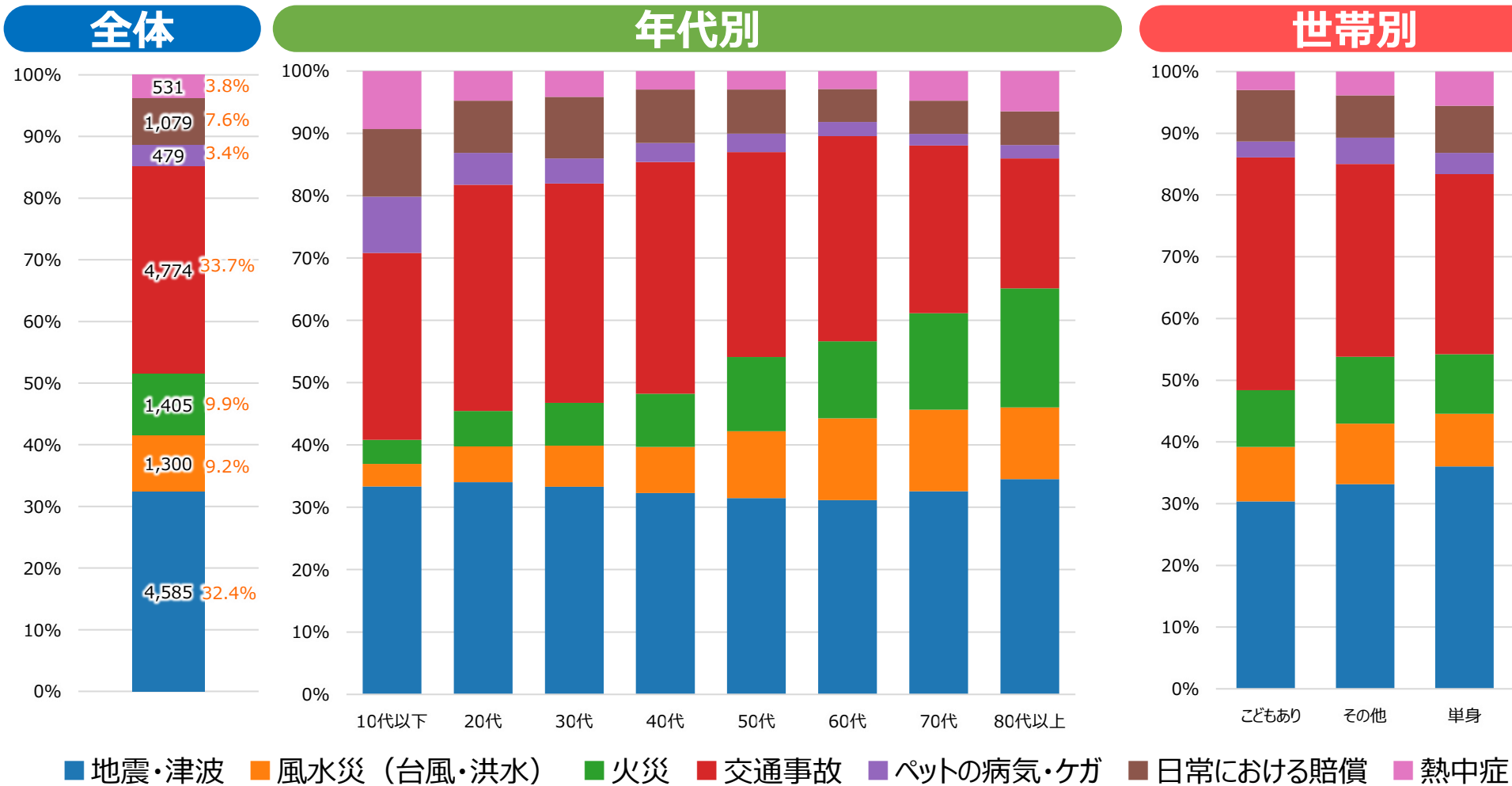
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

群馬県

単位：名

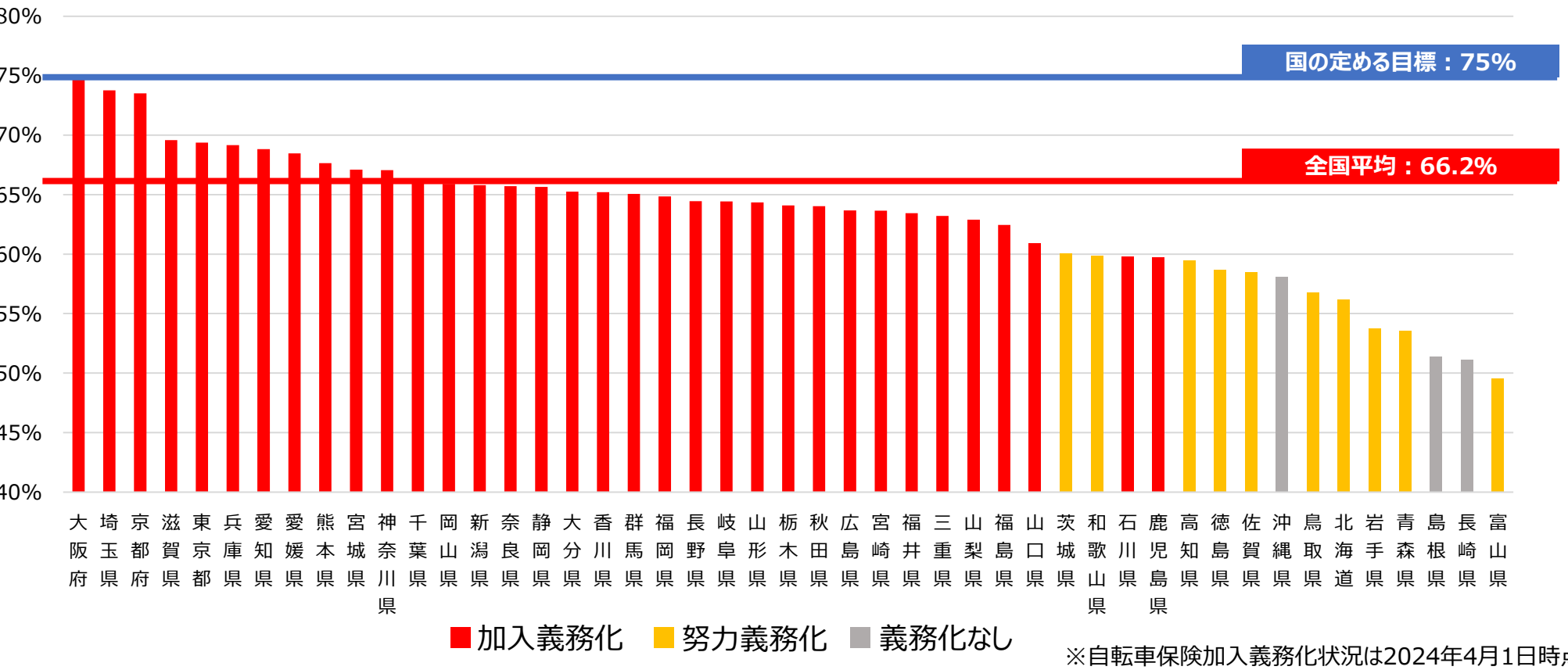
群馬県



- 群馬県では、「交通事故」という回答が最も多く、次いで「地震・津波」が多い
- 全国と比較して「地震・津波」の割合が低く（▲18Pt）、「交通事故」の割合が高い（+12Pt）

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



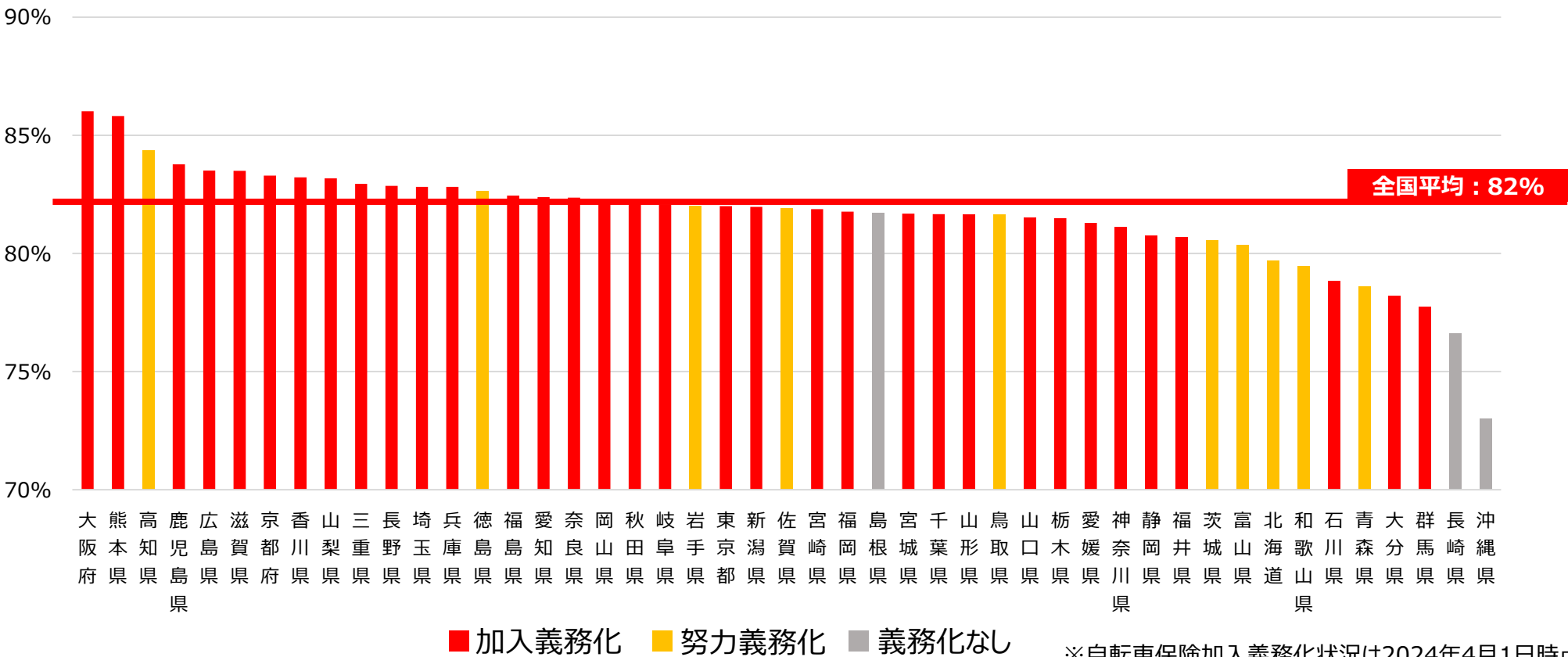
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



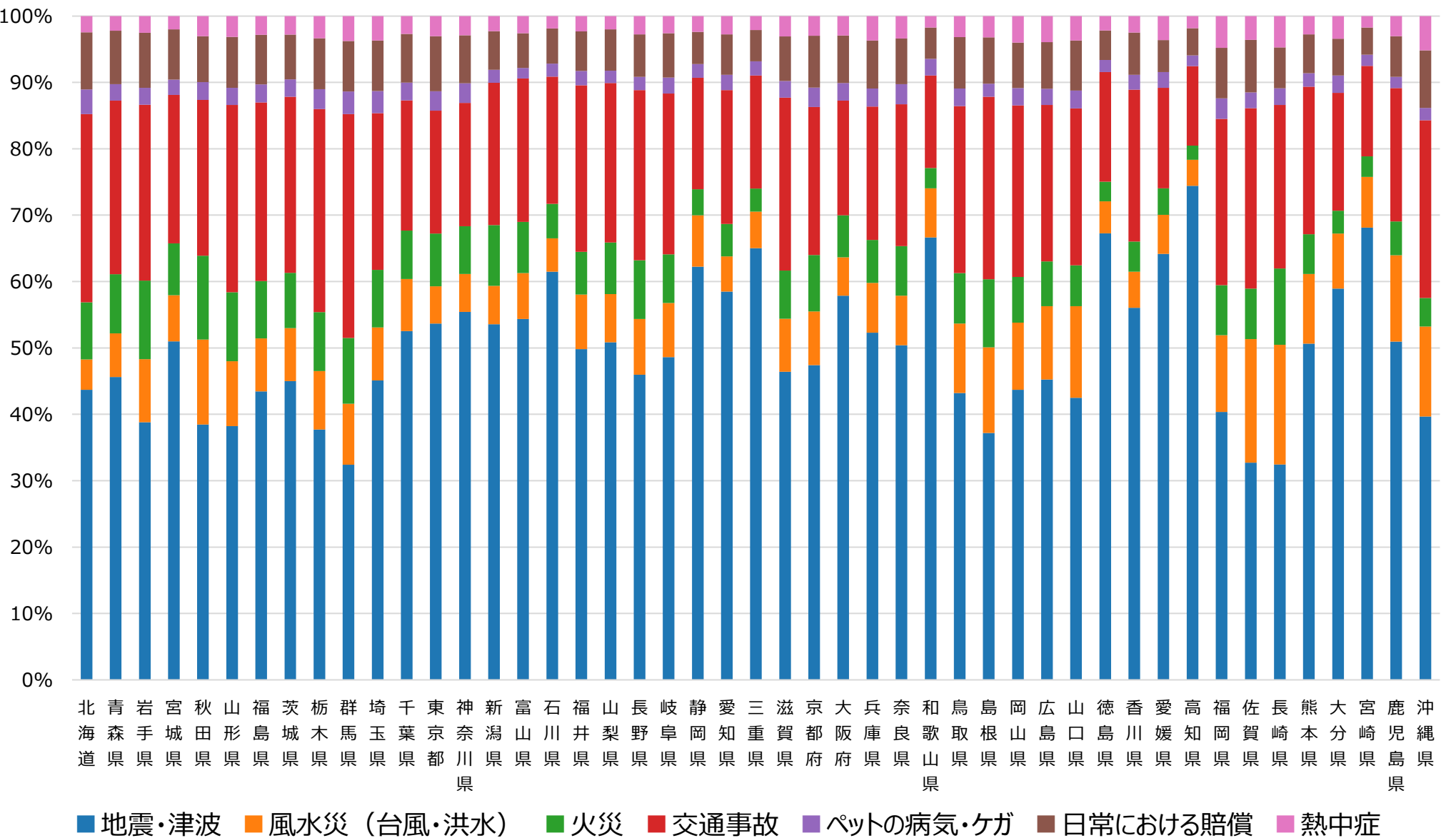
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況					
	加入	割合	未加入	割合	不明	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況			
	知っている	割合	知らない	割合
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

埼玉県との 連携協定締結状況	
締結日	2016/04/11
①	健康増進に関すること
②	がん対策に関すること
③	産業振興・中小企業の支援に関すること
④	障がい者の社会参加の推進に関すること
⑤	教育・文化・スポーツの振興に関すること

他9項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

埼玉県

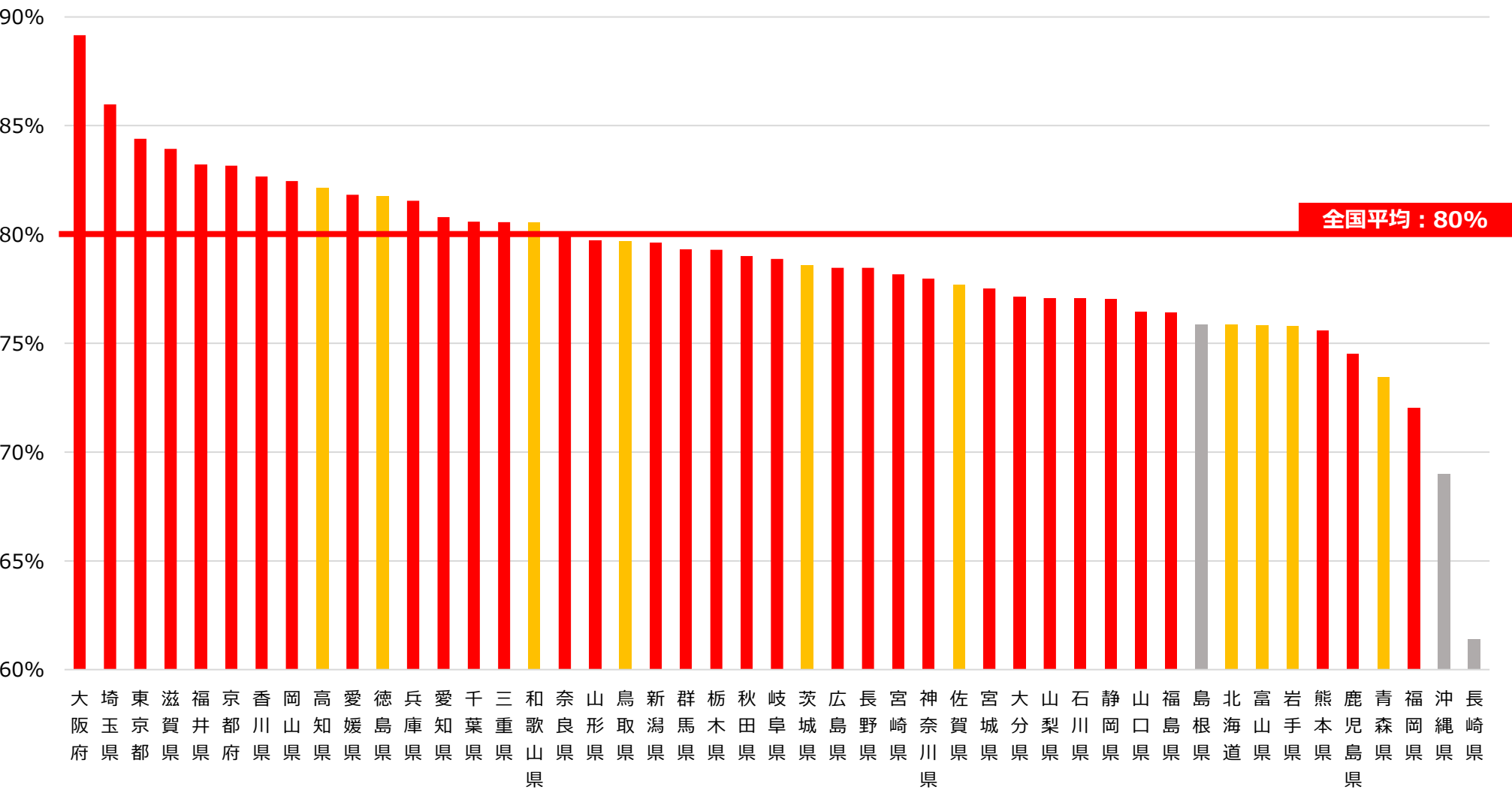
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	1,092	2.0%	518	2.0%	574	2.1%
20代	6,039	11.2%	2,985	11.3%	3,054	11.1%
30代	7,950	14.7%	3,808	14.4%	4,142	15.0%
40代	9,204	17.0%	4,483	17.0%	4,721	17.1%
50代	13,542	25.1%	6,575	24.9%	6,967	25.3%
60代	9,389	17.4%	4,770	18.1%	4,619	16.8%
70代	5,058	9.4%	2,457	9.3%	2,601	9.4%
80代～	1,721	3.2%	827	3.1%	894	3.2%
合計	53,995	100.0%	26,423	100.0%	27,572	100.0%
2024年度	20,571	100.0%	10,112	100.0%	10,459	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	1,006	92.1%	477	92.1%	529	92.2%
20代	5,000	82.8%	2,469	82.7%	2,531	82.9%
30代	6,685	84.1%	3,183	83.6%	3,502	84.5%
40代	8,267	89.8%	3,964	88.4%	4,303	91.1%
50代	11,845	87.5%	5,722	87.0%	6,123	87.9%
60代	8,018	85.4%	4,136	86.7%	3,882	84.0%
70代	4,232	83.7%	2,085	84.9%	2,147	82.5%
80代～	1,369	79.5%	679	82.1%	690	77.2%
合計	46,422	86.0%	22,715	86.0%	23,707	86.0%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



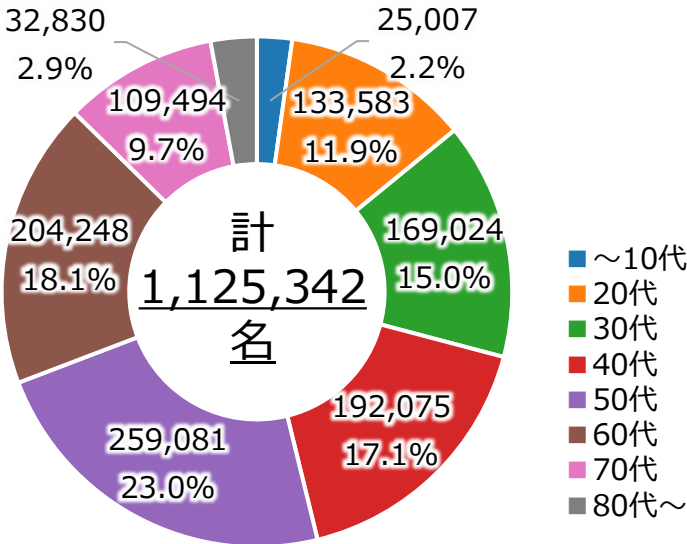
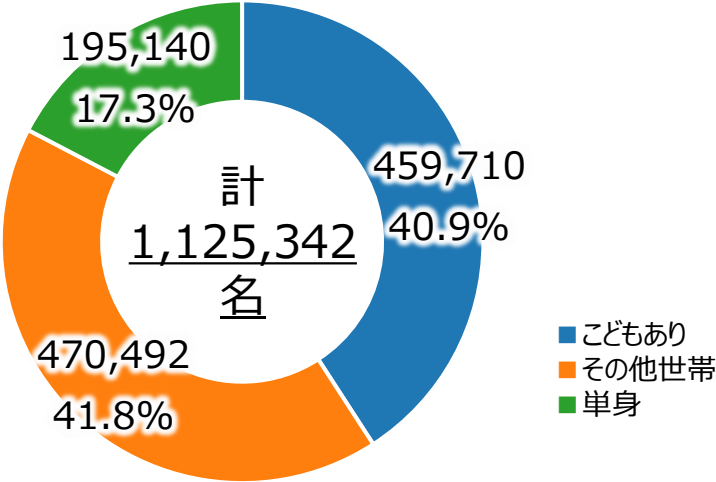
■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

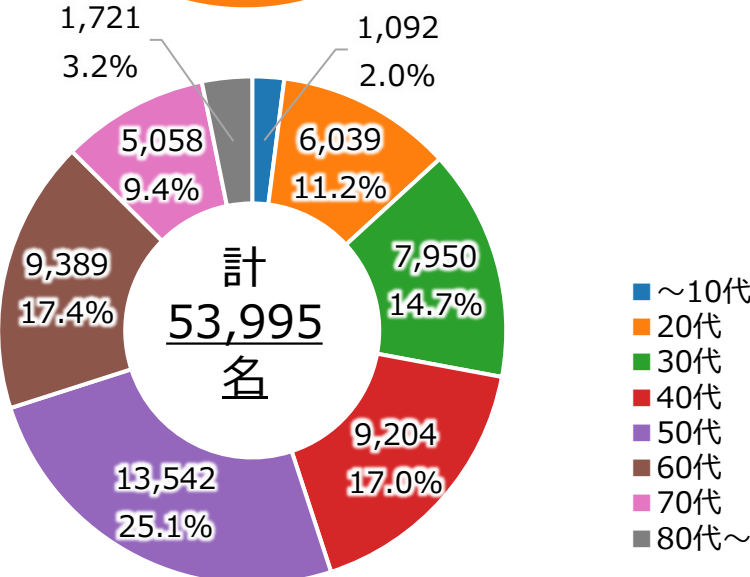
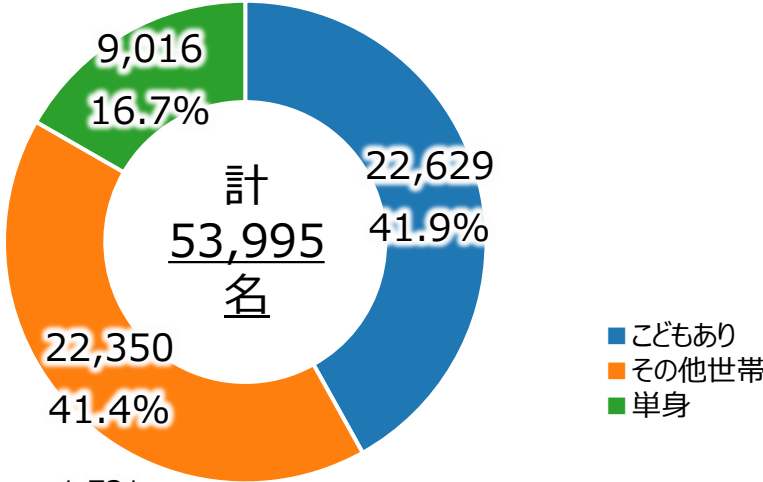
回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国



埼玉県



世帯構成別

年代別

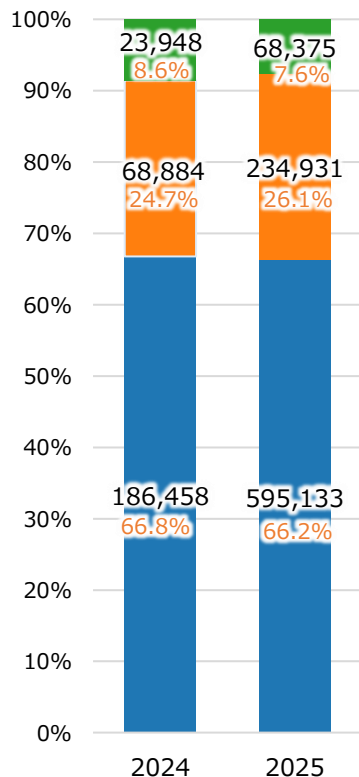
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

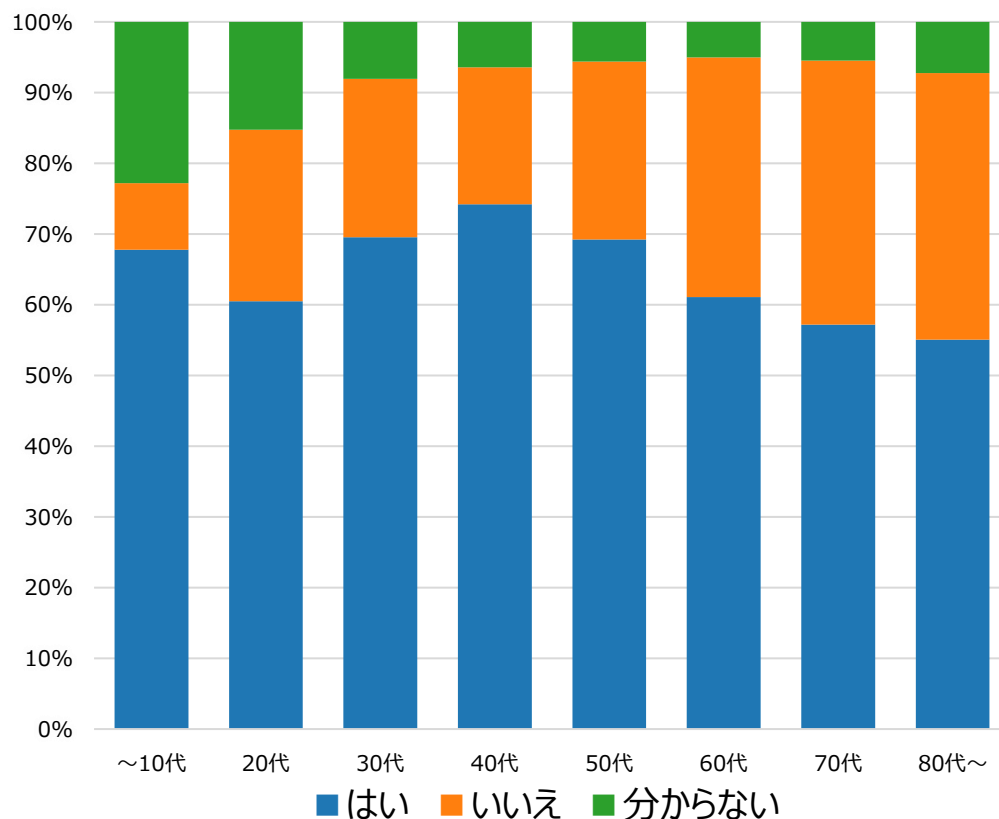
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

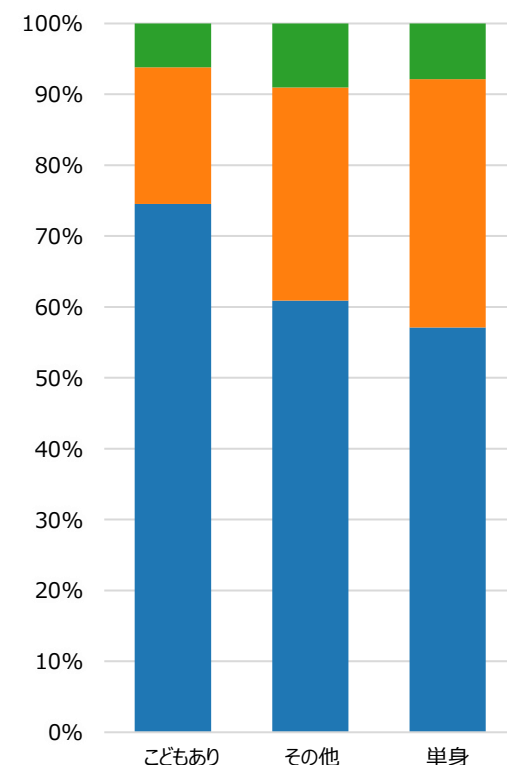
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

埼玉県

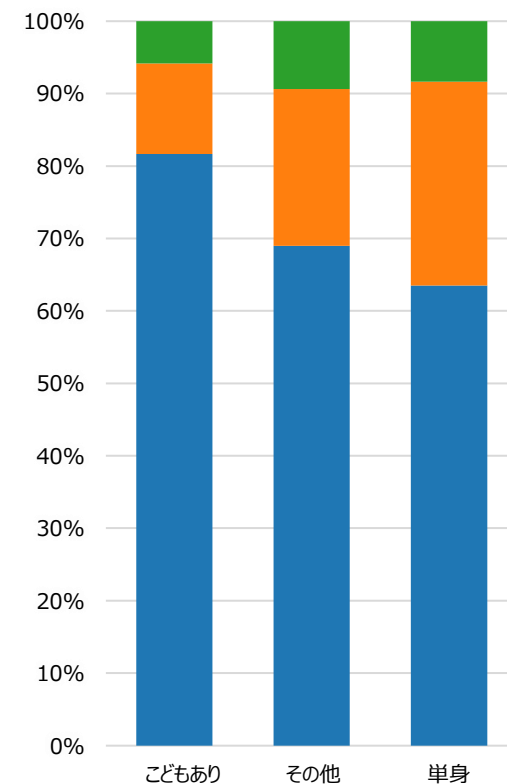
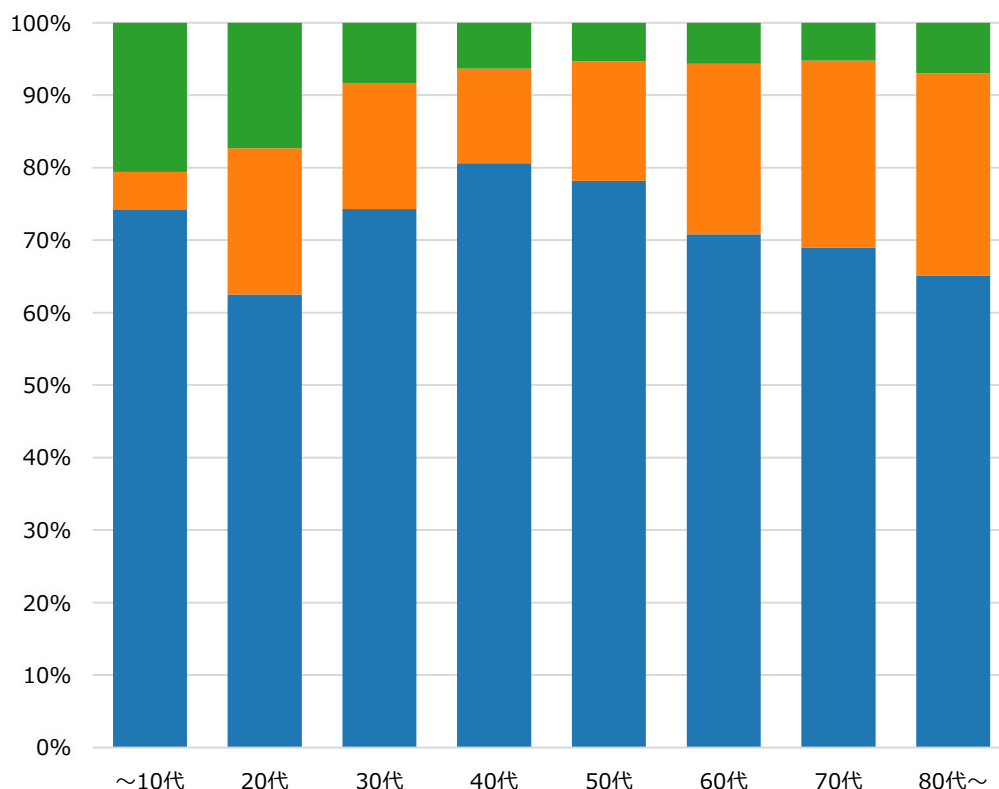
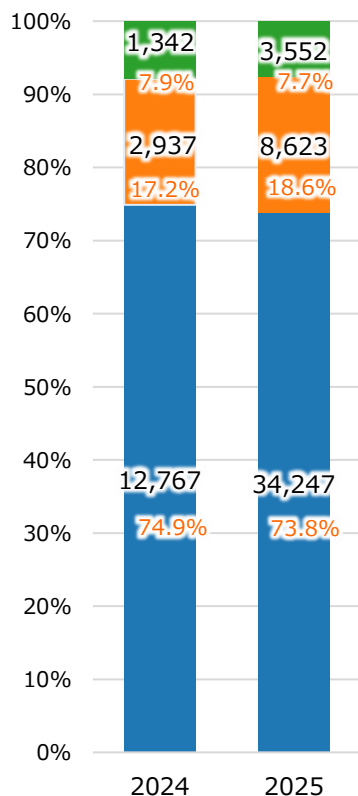
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



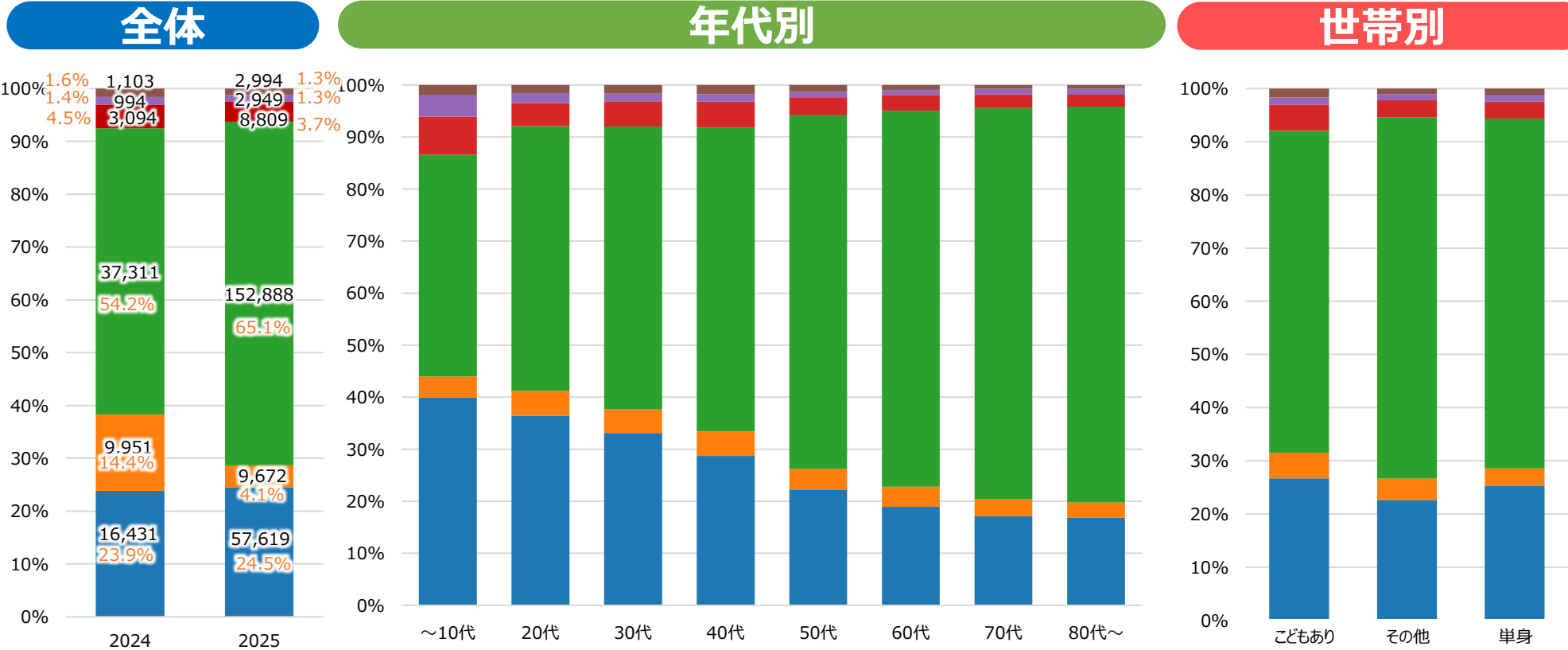
■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年減少（▲1Pt）、全国と比較すると高位（+8Pt）

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

全国

単位：名



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
 ■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

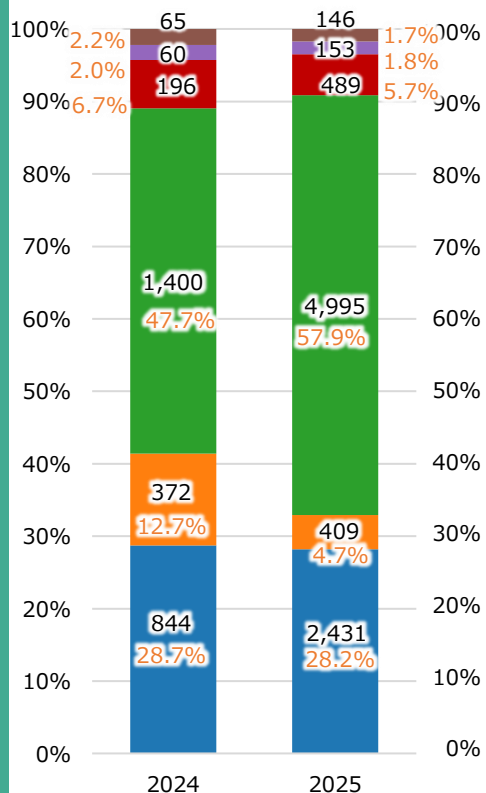
関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

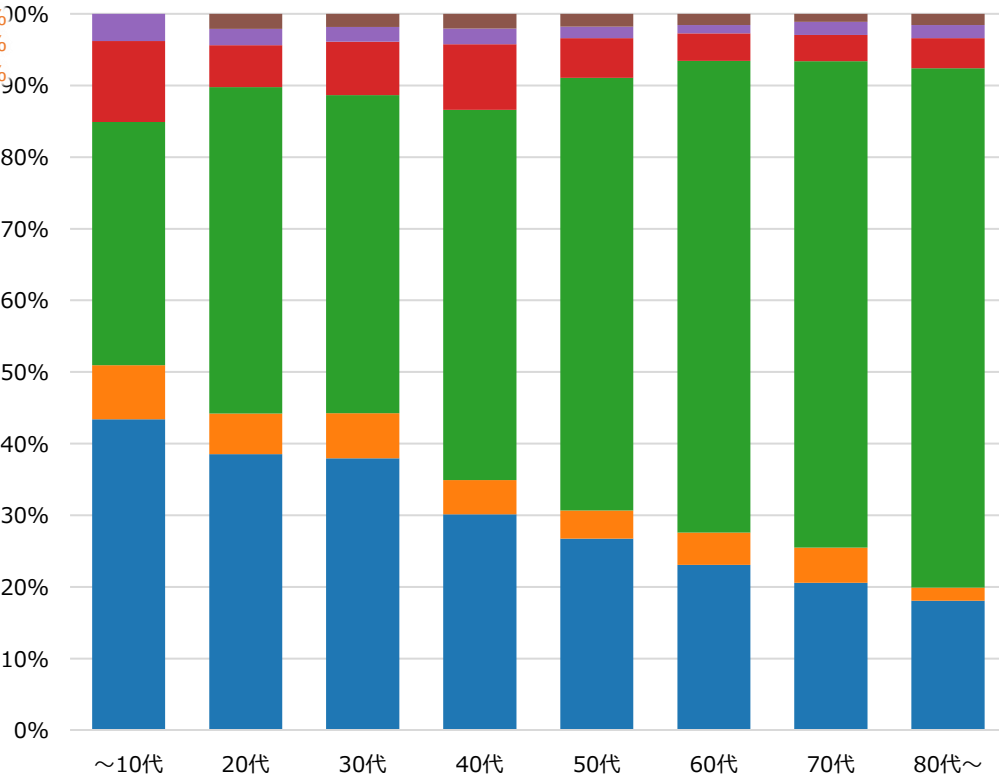
埼玉県

単位：名

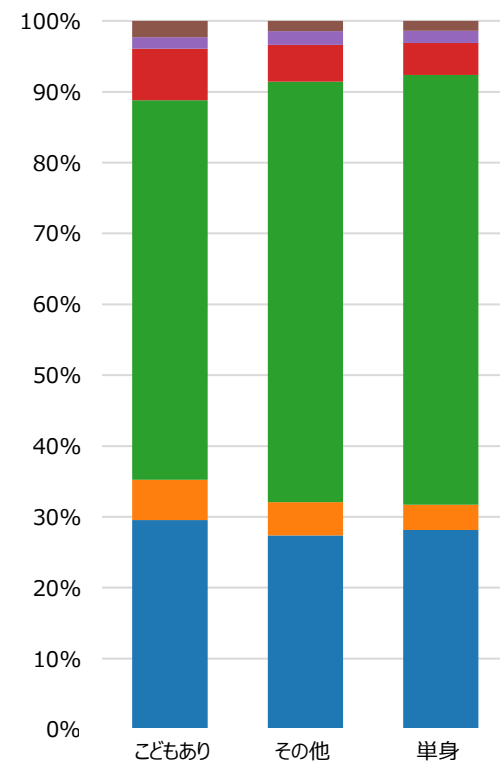
全体



年代別



世帯別



■ きっかけがなかった
 ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから
 ■ 必要性を感じないから
■ どの保険に加入して良いかわからなかったから
 ■ 入り方がわからなかったから
 ■ 保険料が高いから

● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲8Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

埼玉県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:46,422名のうち、5,403名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 638 名	② 438 名
	加入	339 名	3,988 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	28.2%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	9.2%
加入方法がわからなかったから	3.1%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	14.1%
保険料が高いから	3.1%
必要性を感じないから	42.4%

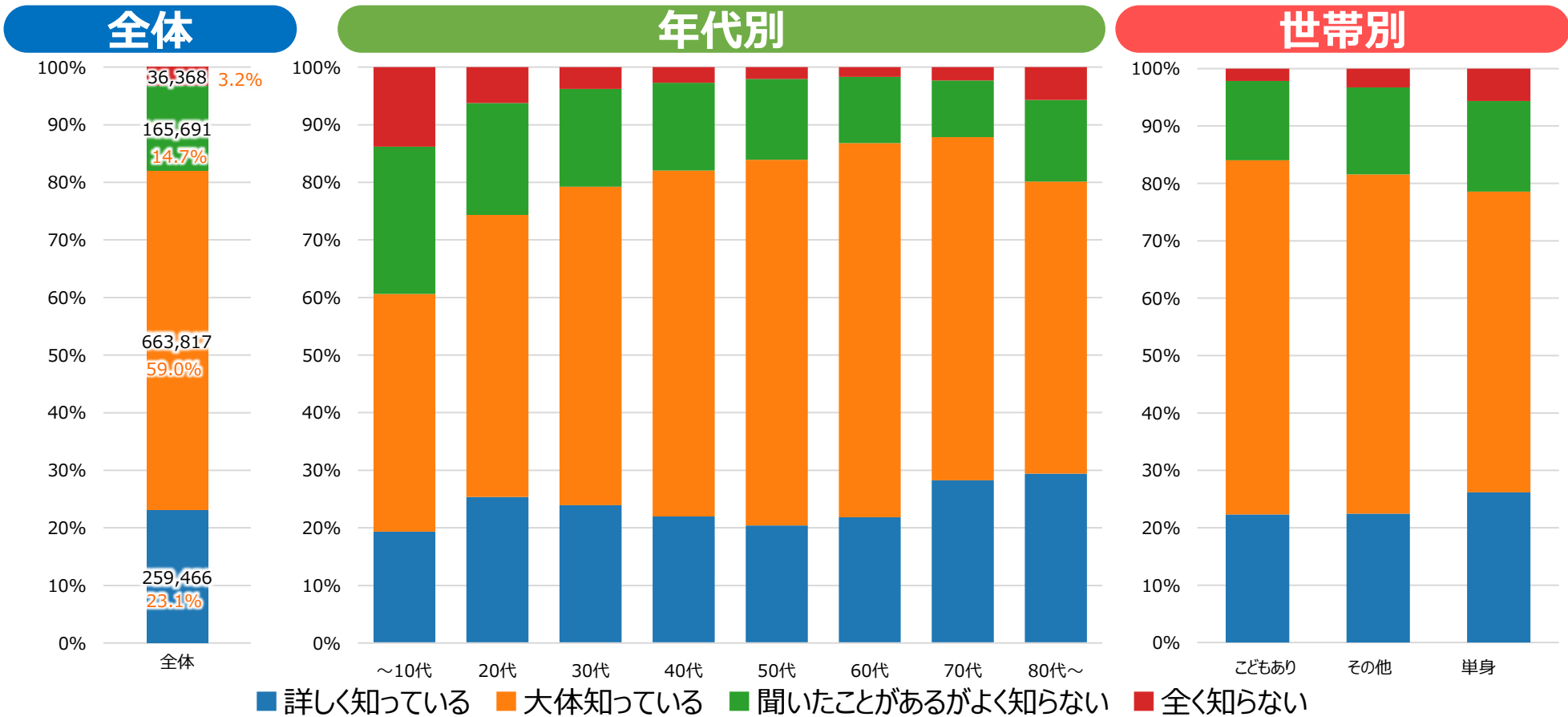
2024年度「自転車保険加入なし」の1,076名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

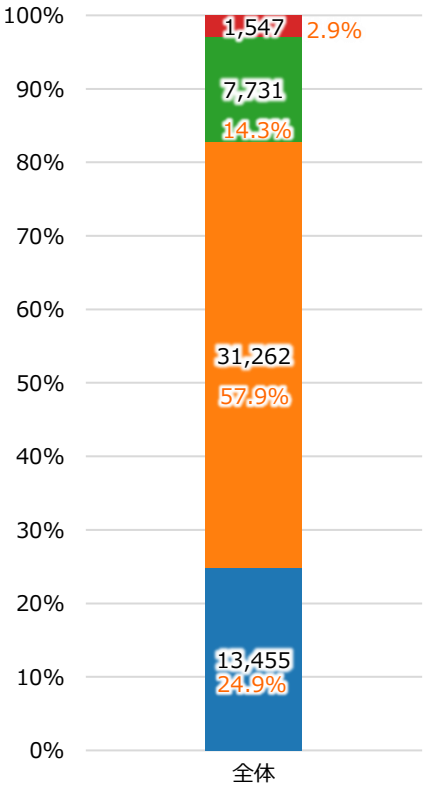
警察庁 交通局 交通企画課 コメント

令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

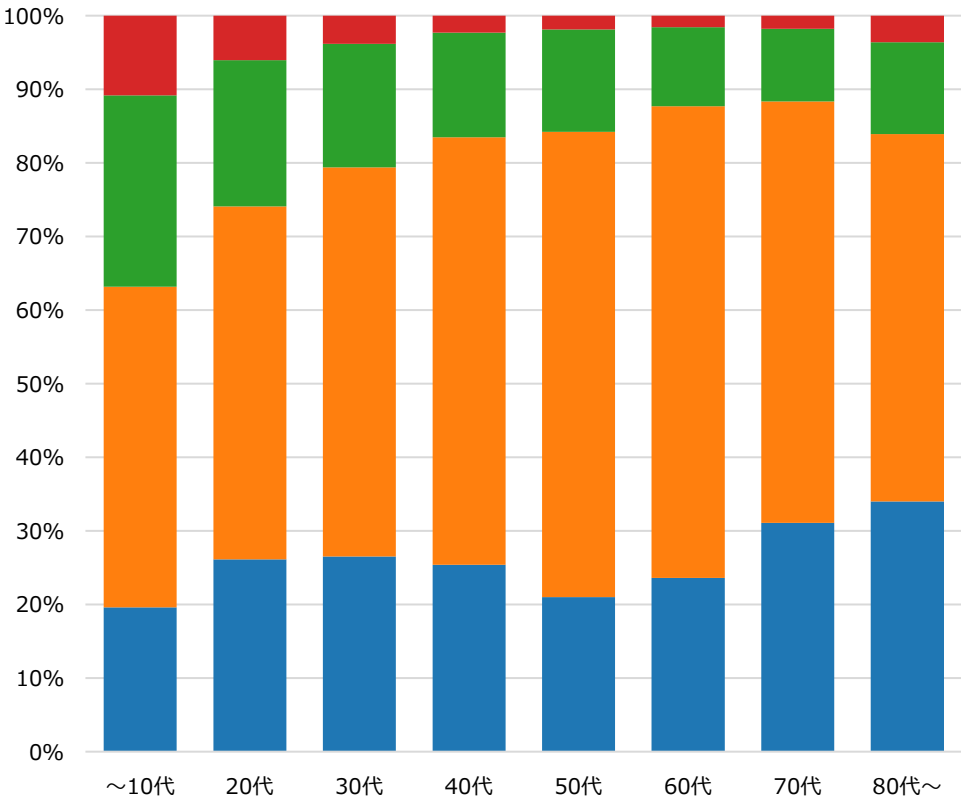
Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

埼玉県
単位：名

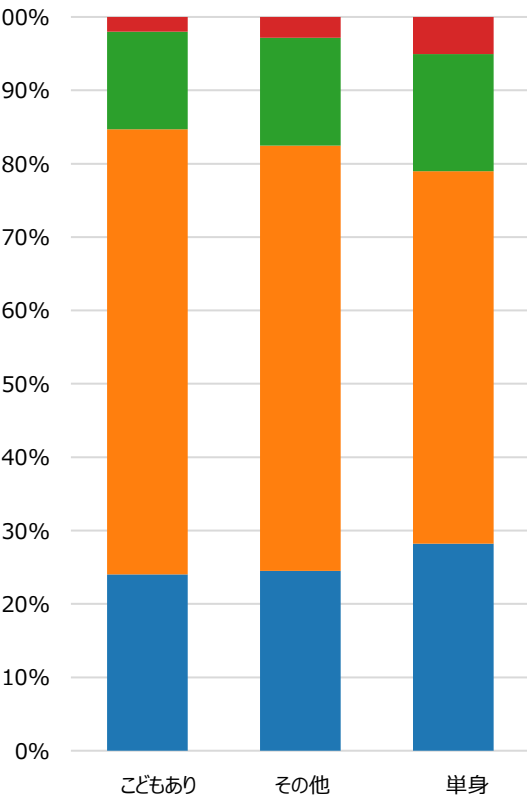
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている
 ■ 大体知っている
 ■ 聞いたことがあるがよく知らない
 ■ 全く知らない

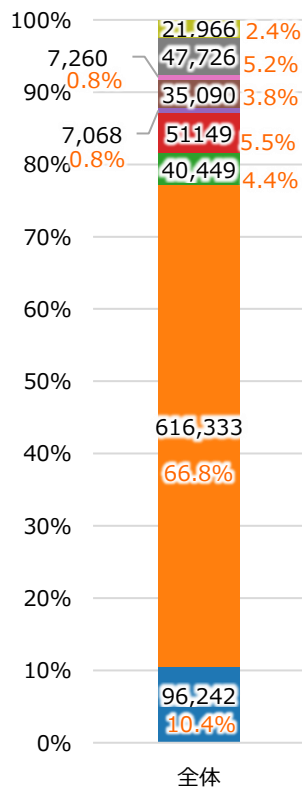
● 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

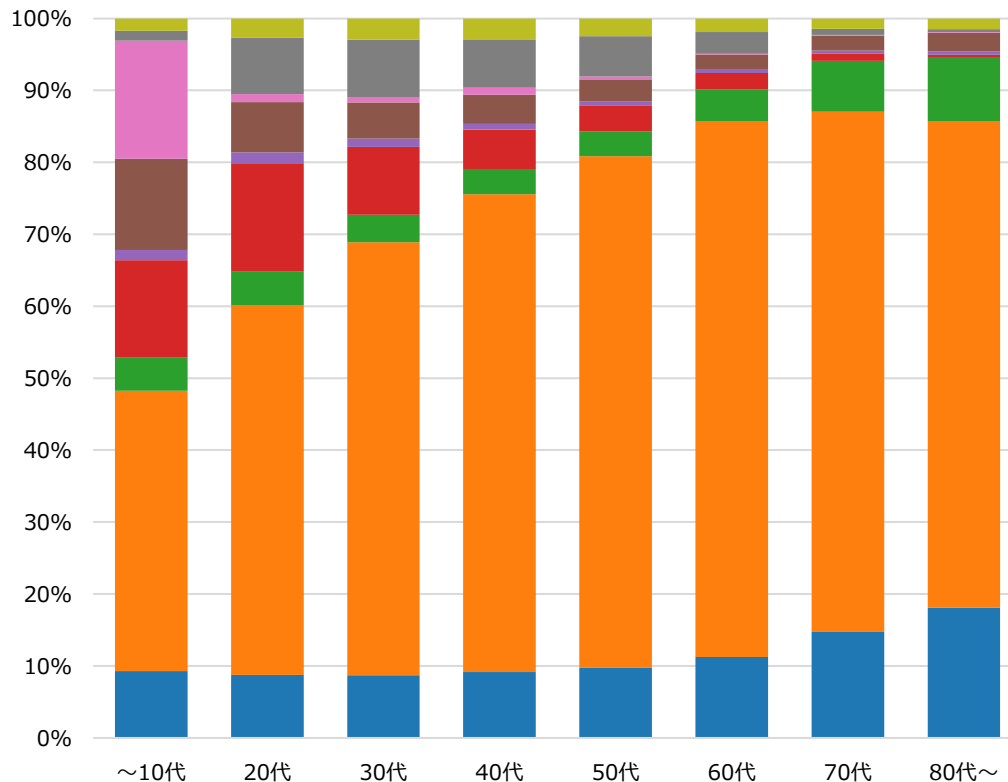
全国

単位：名

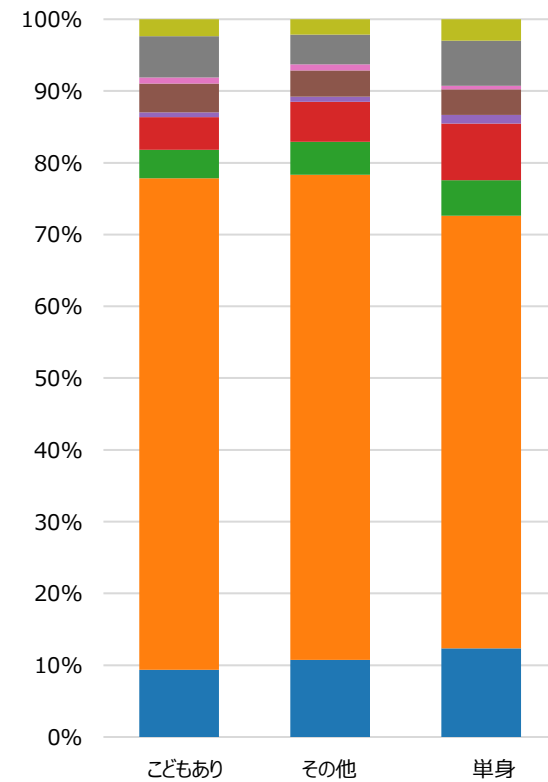
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

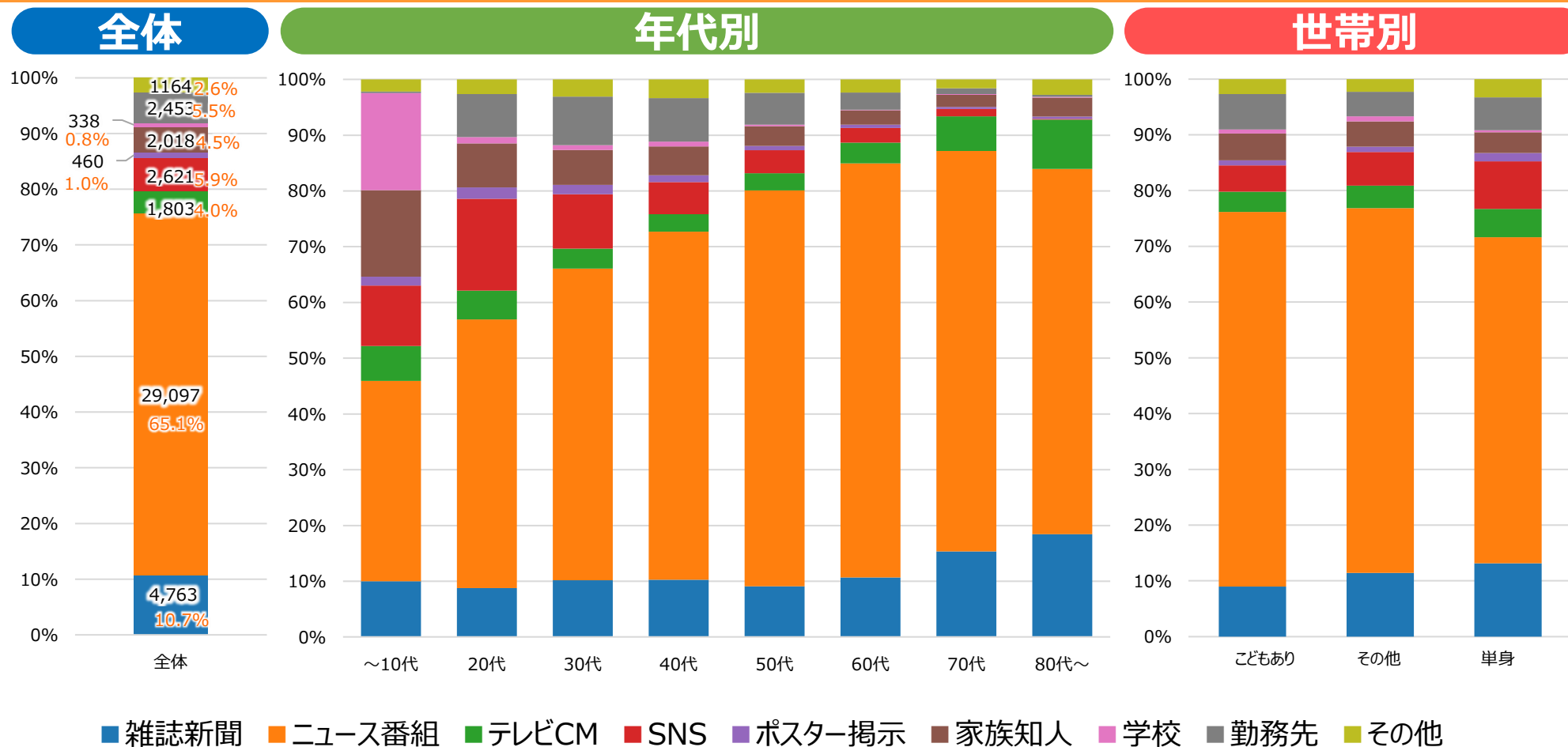
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

埼玉県

単位：名

埼玉県



- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

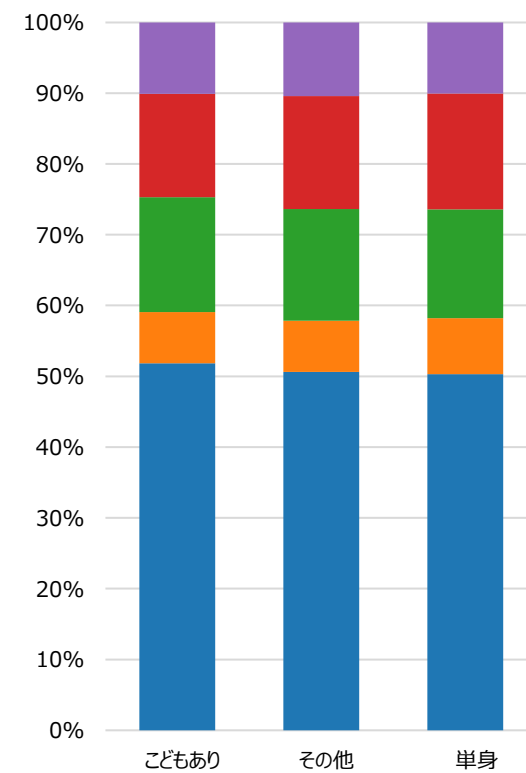
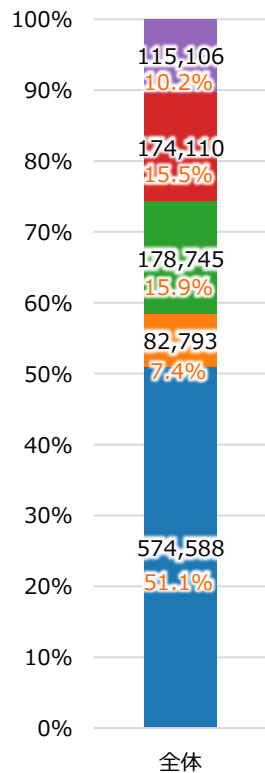
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

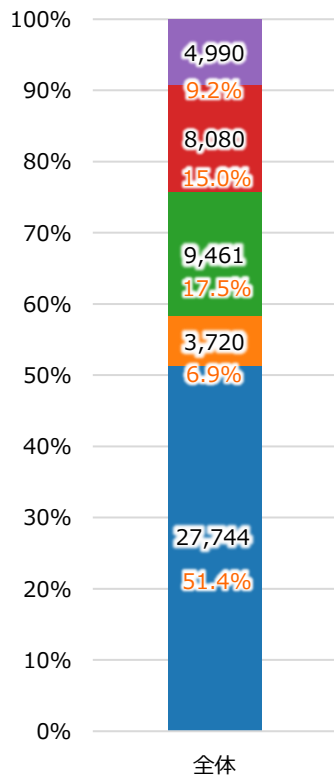
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

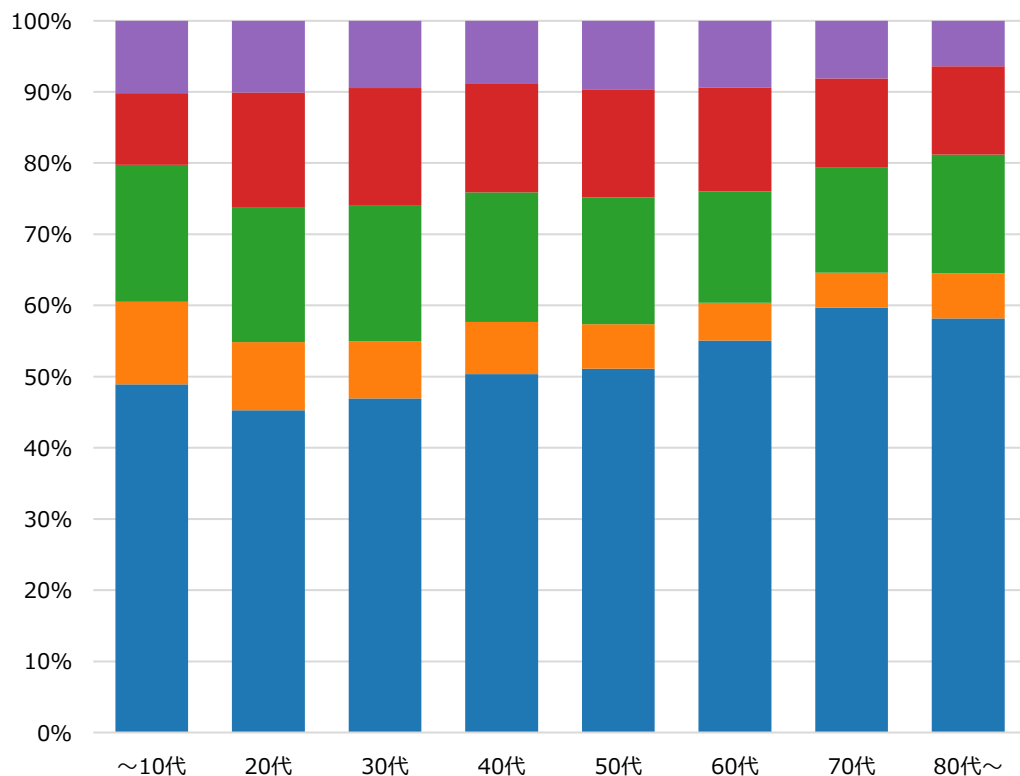
埼玉県

単位：名

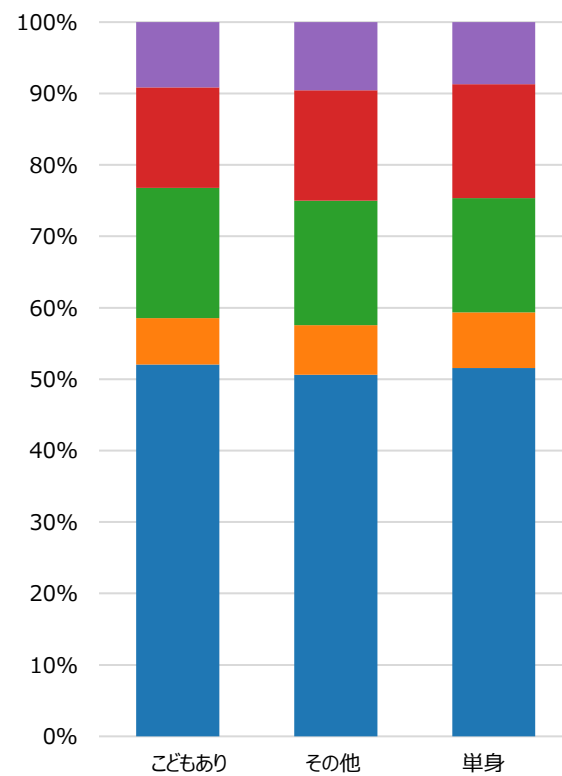
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

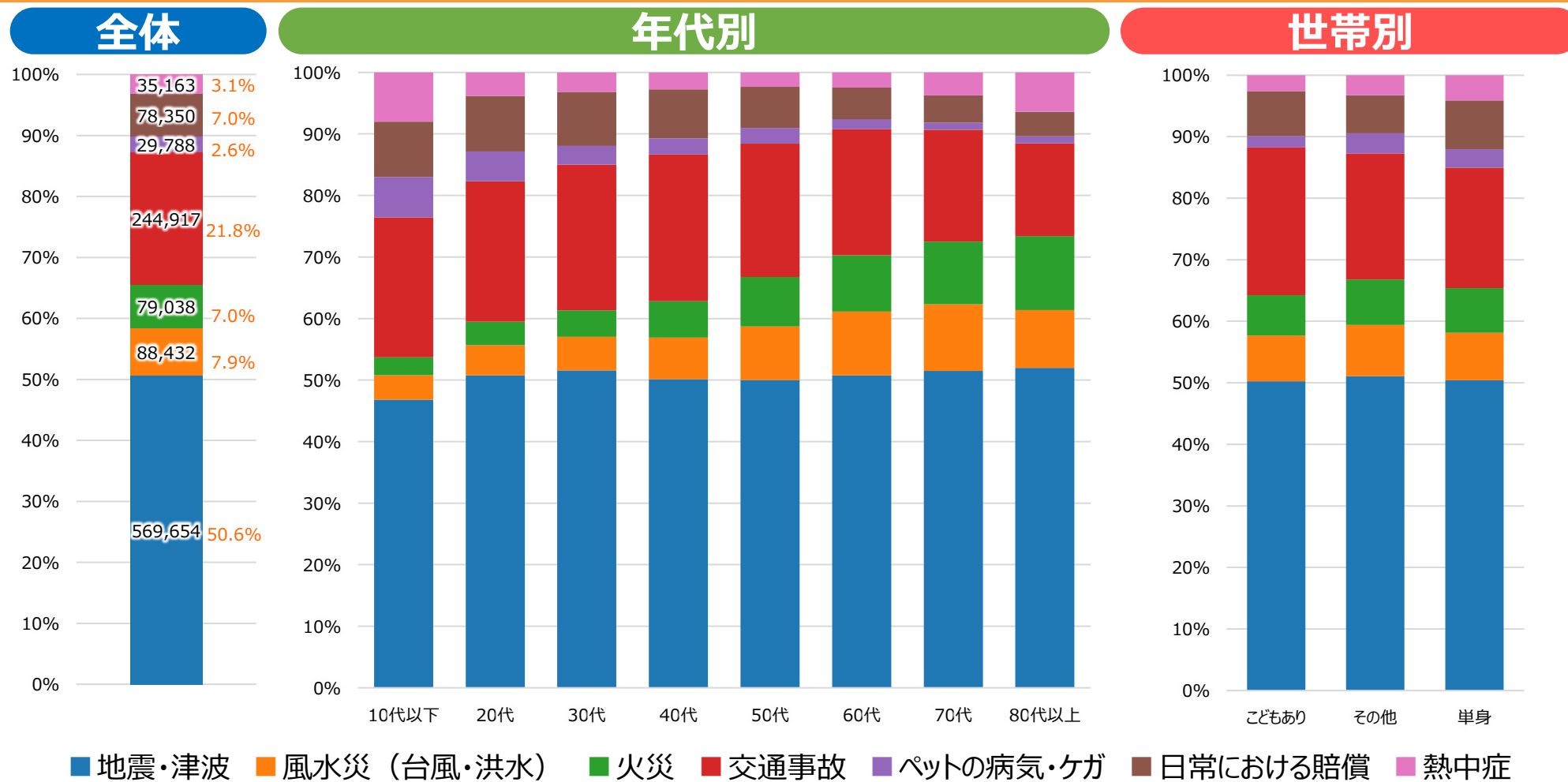
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



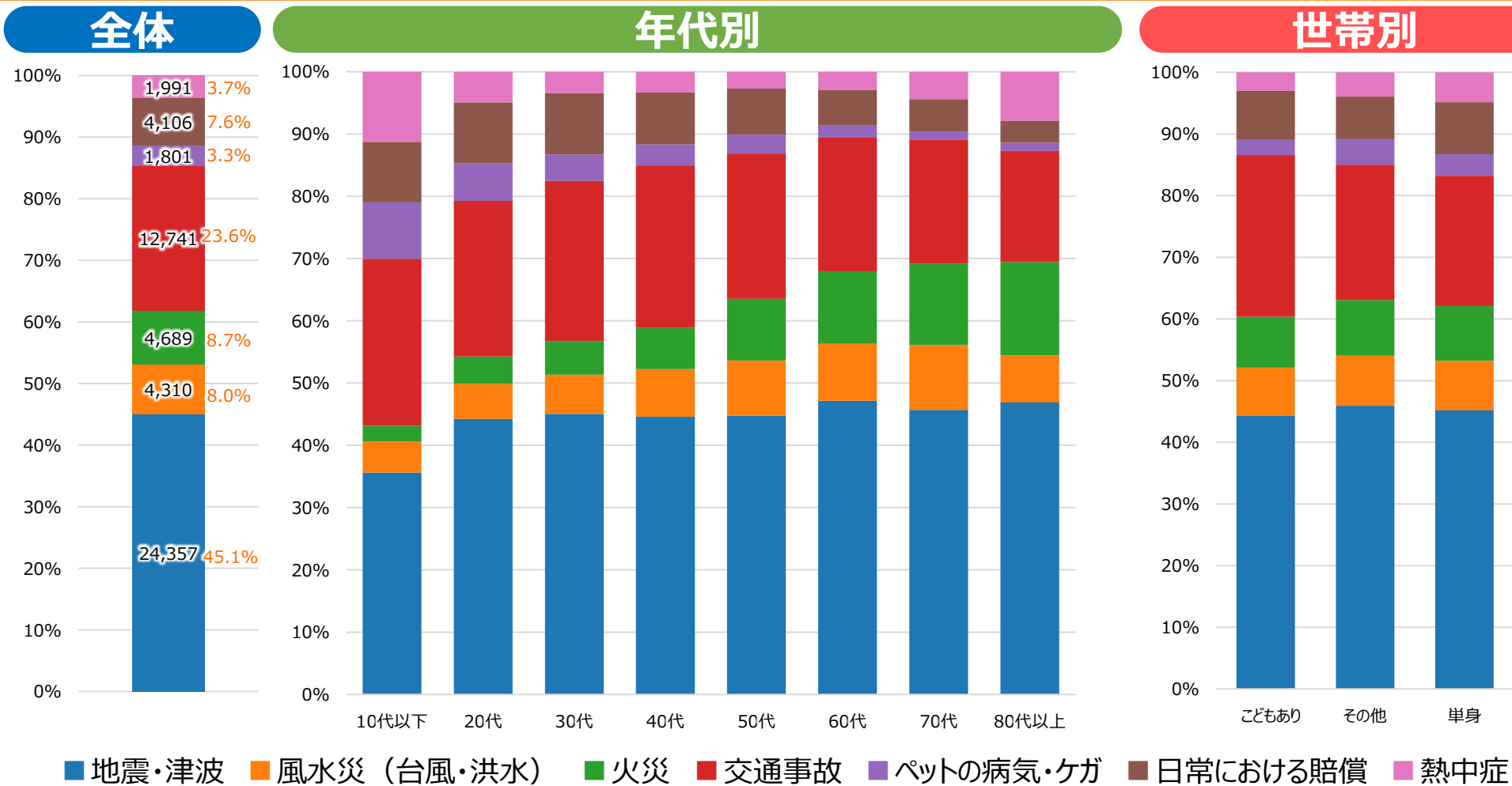
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

埼玉県

単位：名

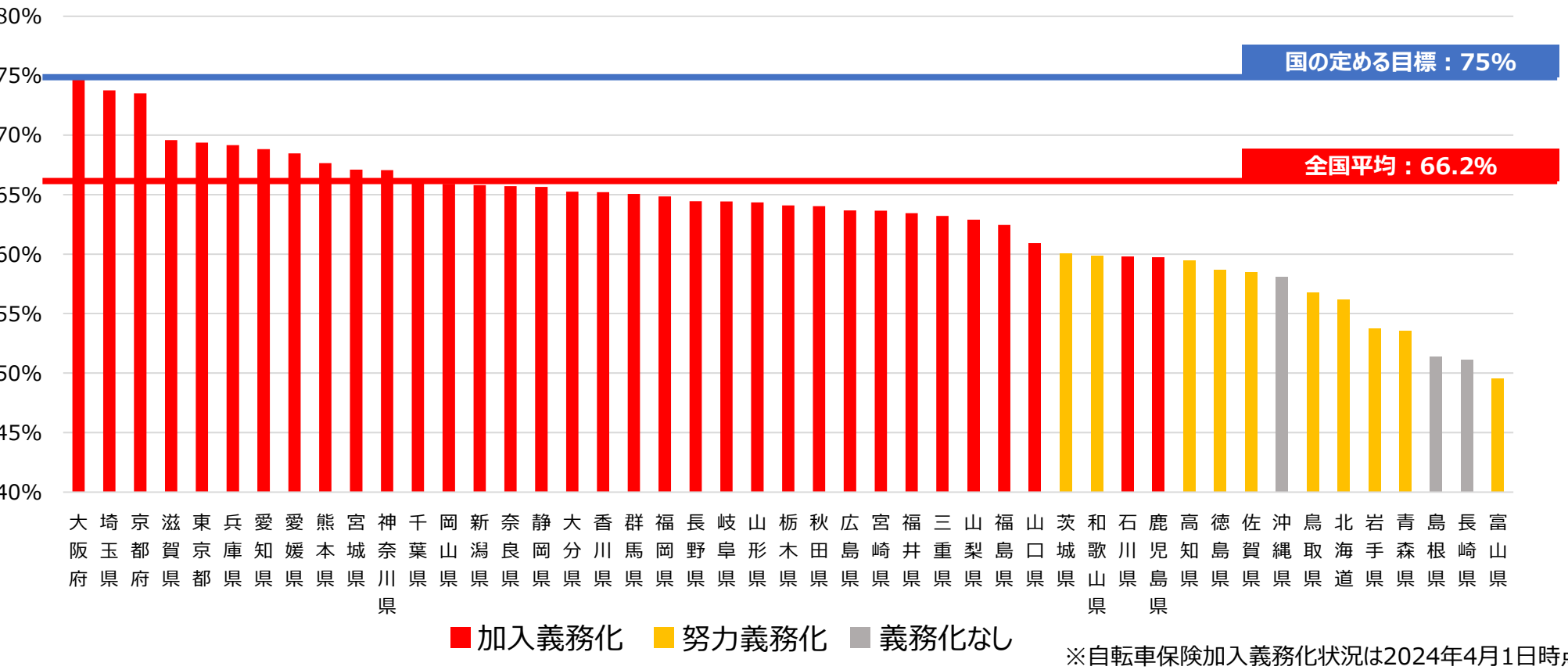
埼玉県



- 埼玉県では、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い
- 全国と比較して「地震・津波」の割合が低い（▲ 5 Pt）

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



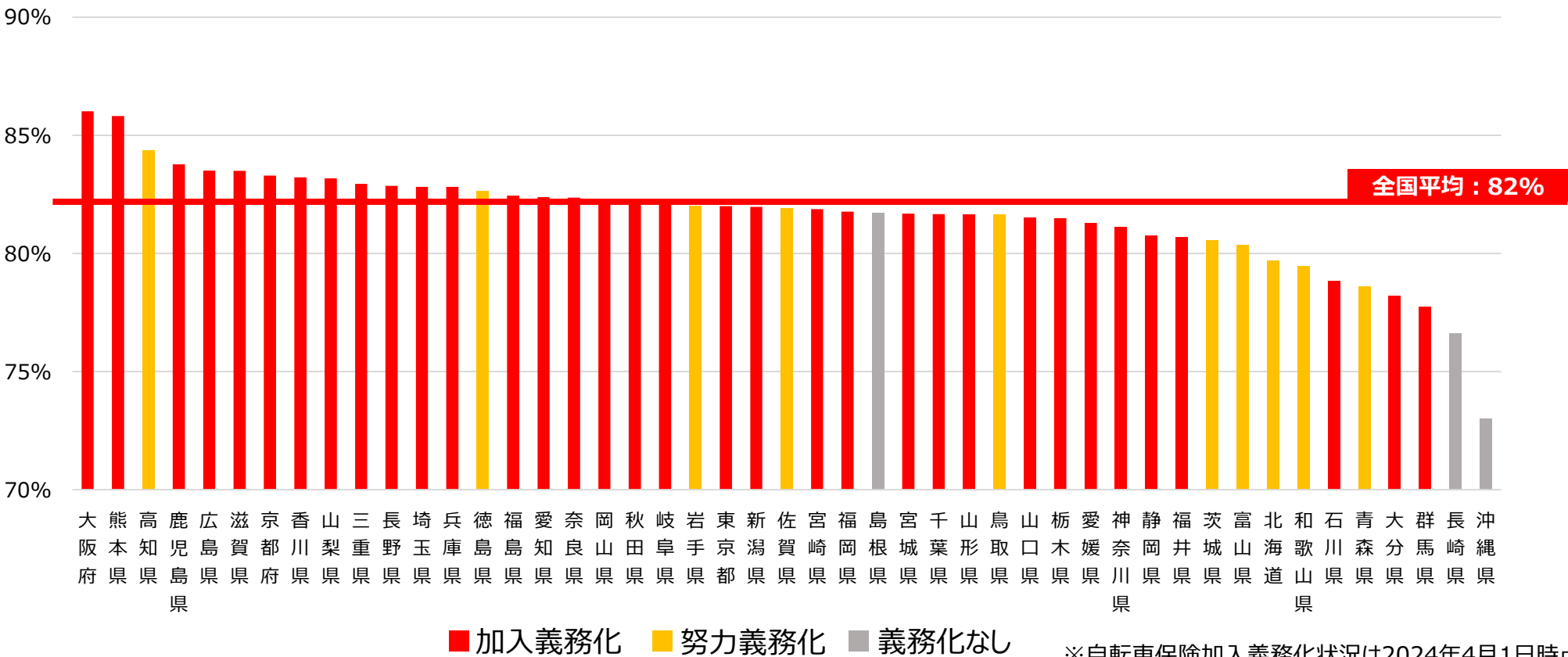
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



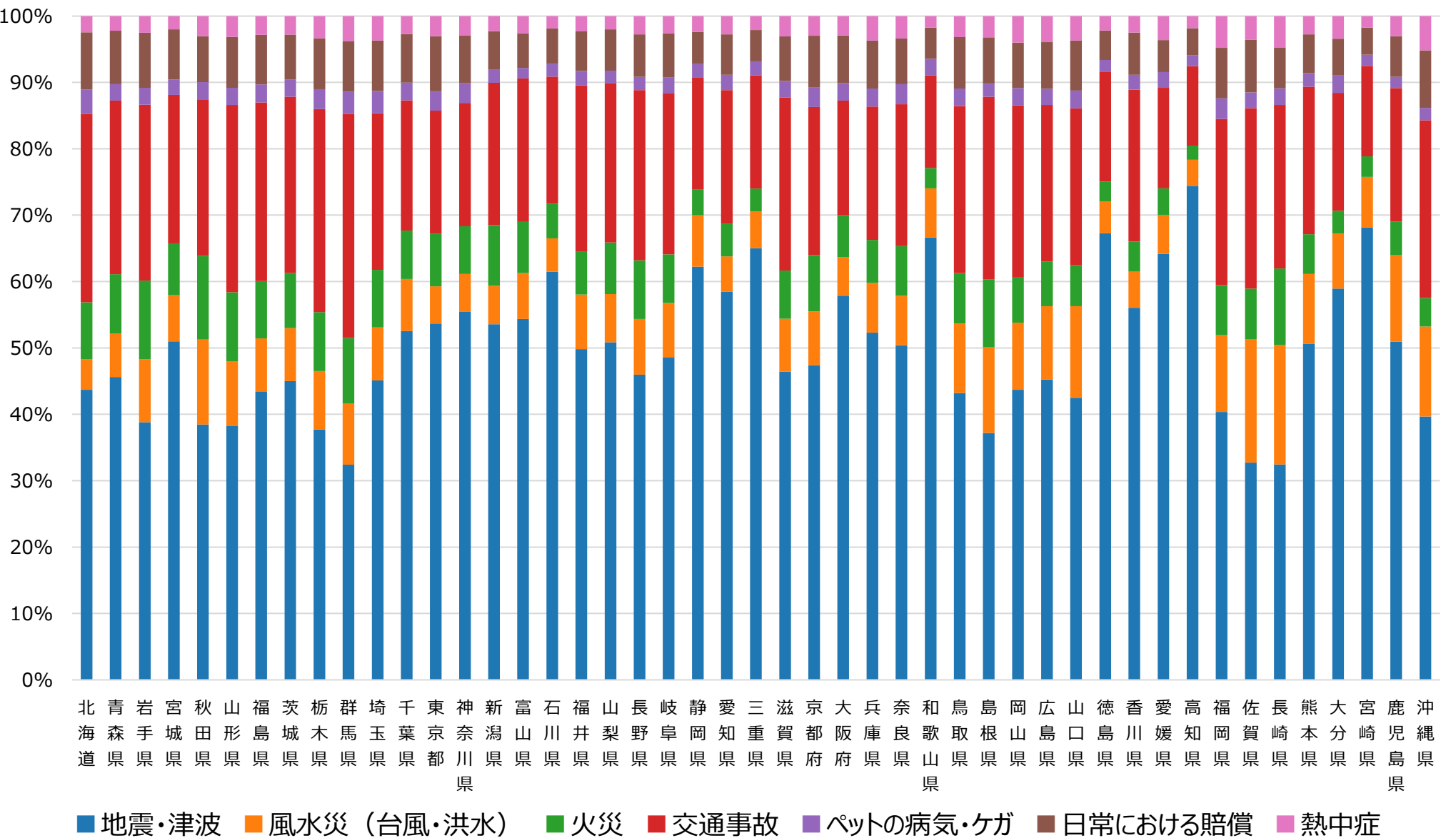
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

千葉県との 連携協定締結状況	
締結日	2020/01/24
①	防災・防犯・交通安全 に関すること
②	健康・福祉に関すること
③	文化・スポーツ・教育に関すること
④	地域経済の活性化に関すること

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

千葉県

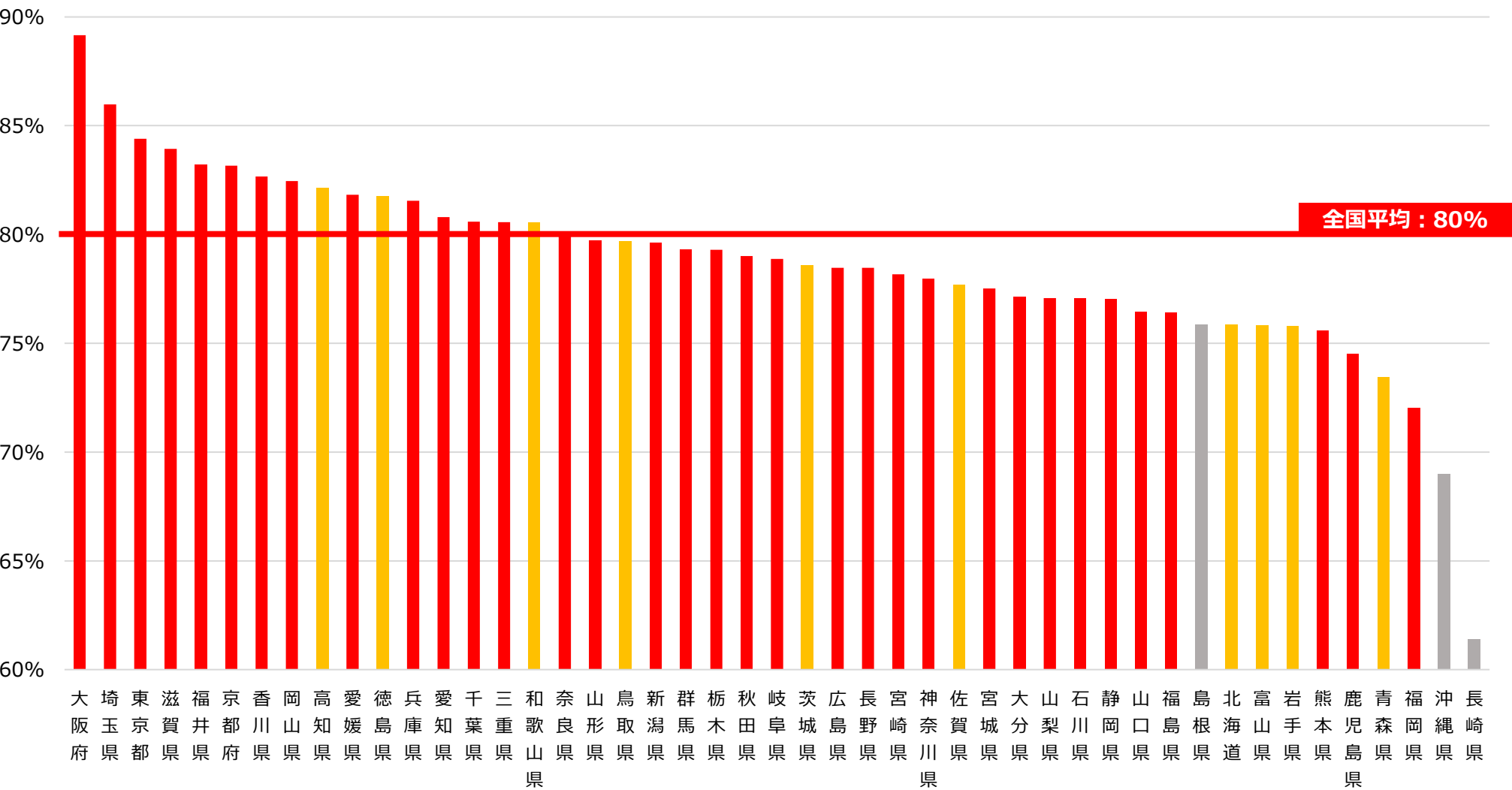
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	784	1.9%	433	2.1%	351	1.6%
20代	4,380	10.4%	2,288	11.0%	2,092	9.8%
30代	6,069	14.4%	2,934	14.1%	3,135	14.7%
40代	7,070	16.8%	3,456	16.6%	3,614	16.9%
50代	10,605	25.2%	5,131	24.7%	5,474	25.7%
60代	7,955	18.9%	4,027	19.3%	3,928	18.4%
70代	4,081	9.7%	1,951	9.4%	2,130	10.0%
80代～	1,207	2.9%	593	2.8%	614	2.9%
合計	42,151	100.0%	20,813	100.0%	21,338	100.0%
2024年度	18,703	100.0%	9,214	100.0%	9,489	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	719	91.7%	405	93.5%	314	89.5%
20代	3,390	77.4%	1,776	77.6%	1,614	77.2%
30代	4,894	80.6%	2,353	80.2%	2,541	81.1%
40代	6,026	85.2%	2,933	84.9%	3,093	85.6%
50代	8,748	82.5%	4,300	83.8%	4,448	81.3%
60代	6,233	78.4%	3,183	79.0%	3,050	77.6%
70代	3,111	76.2%	1,531	78.5%	1,580	74.2%
80代～	845	70.0%	435	73.4%	410	66.8%
合計	33,966	80.6%	16,916	81.3%	17,050	79.9%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化 ■ 努力義務化 ■ 義務化なし

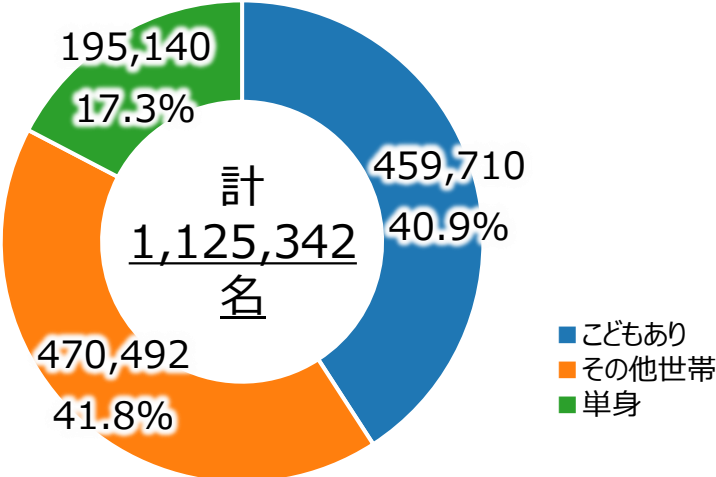
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

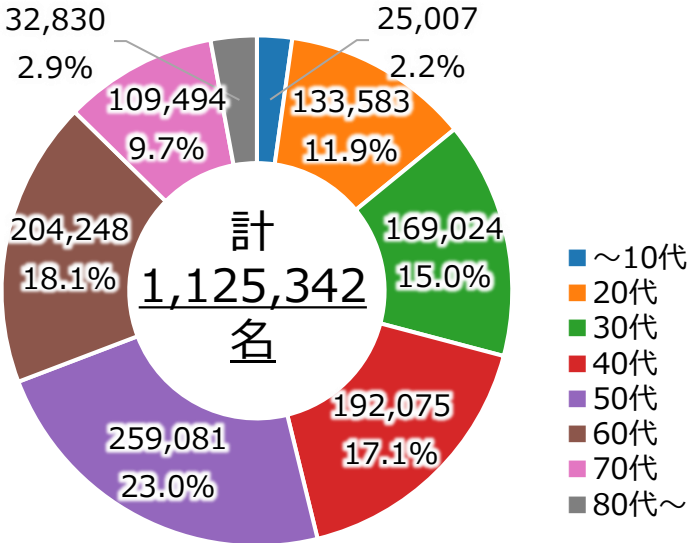
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

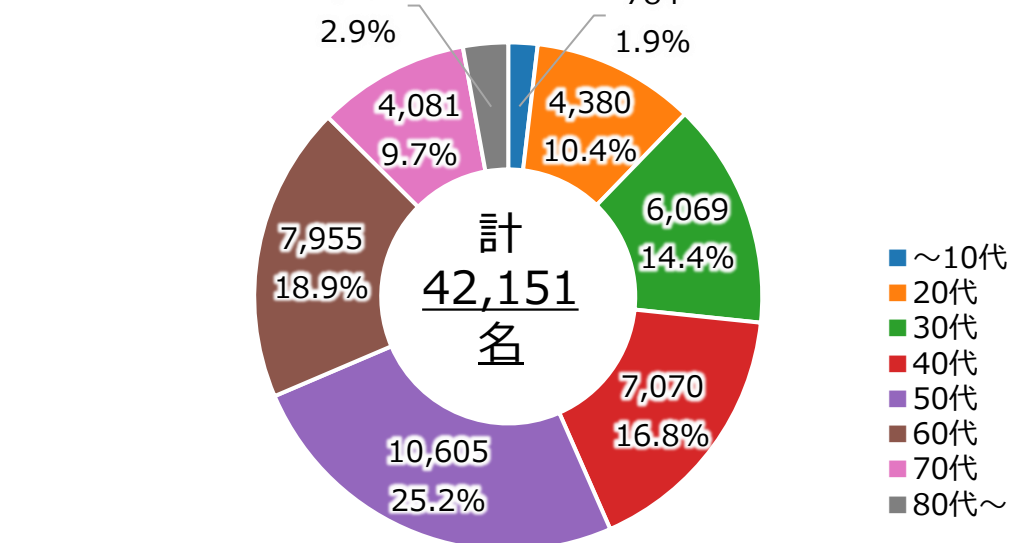
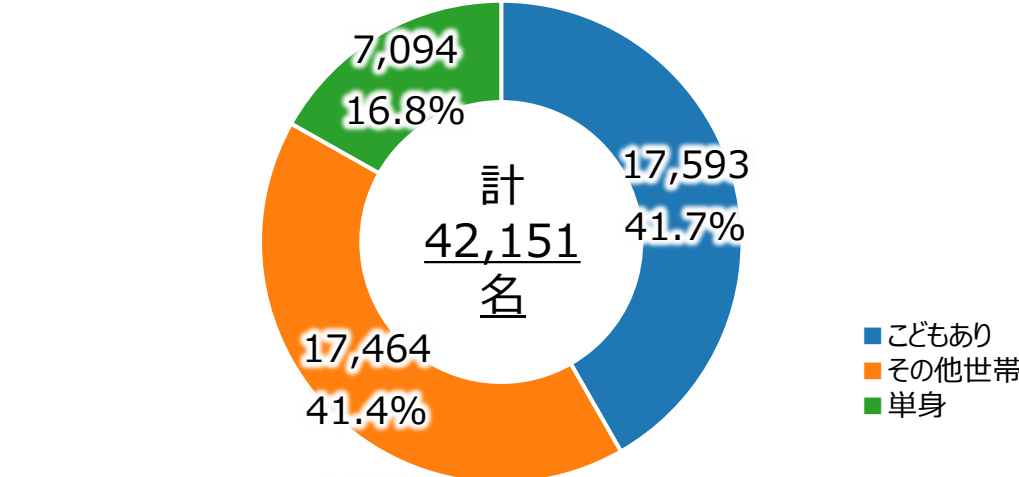
世帯構成別



年代別



千葉県



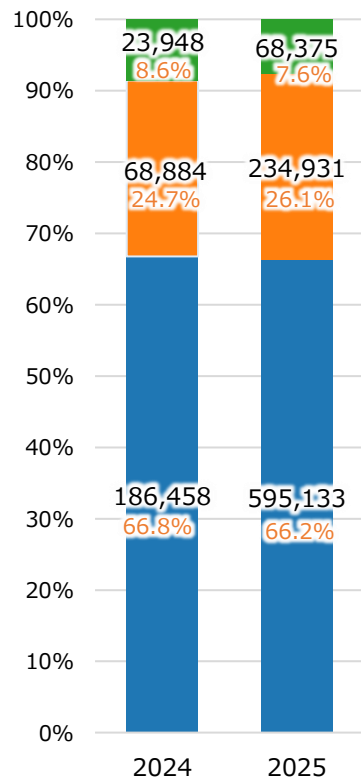
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

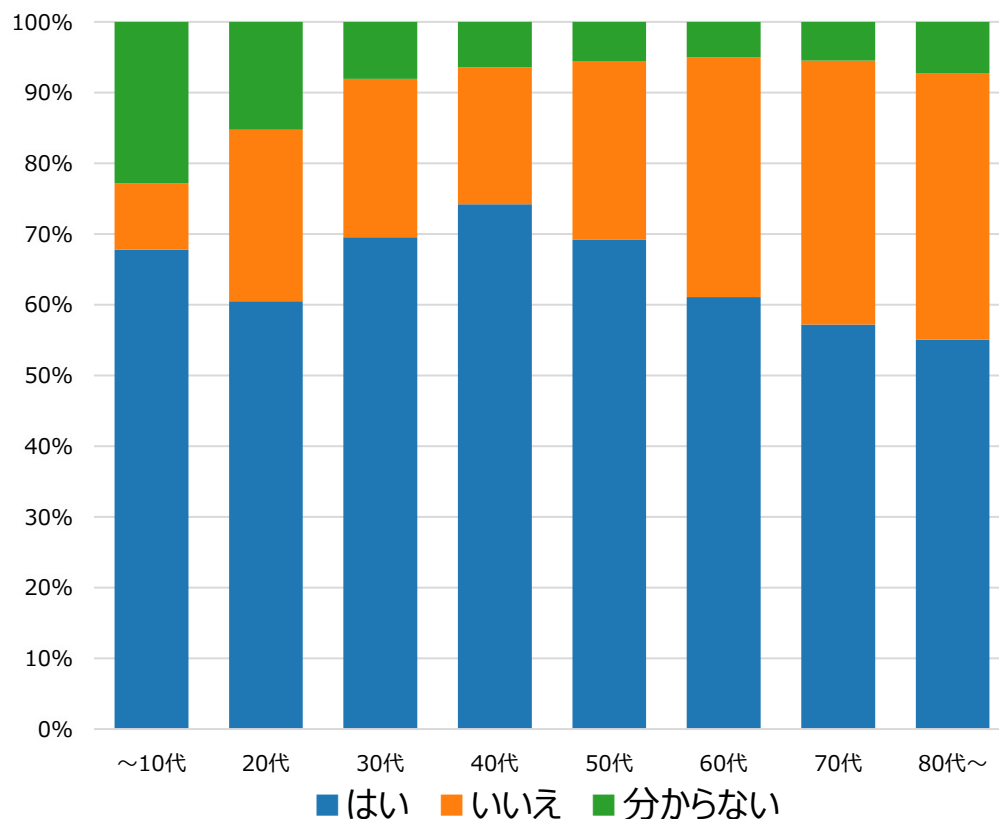
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

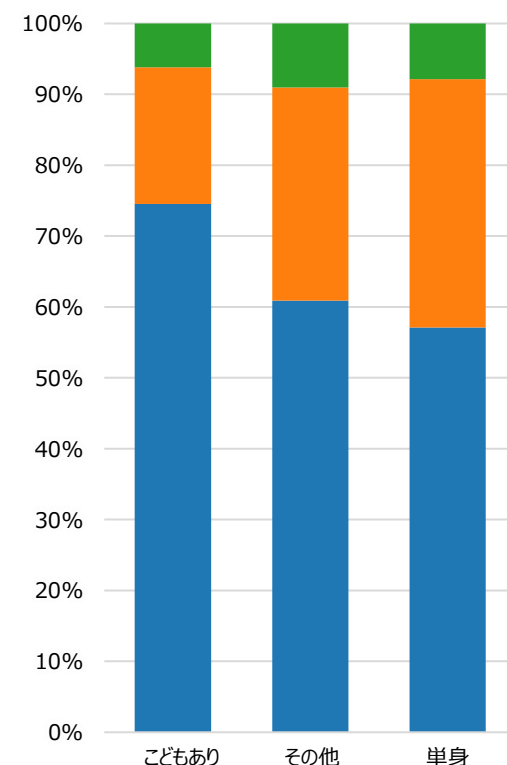
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

千葉県

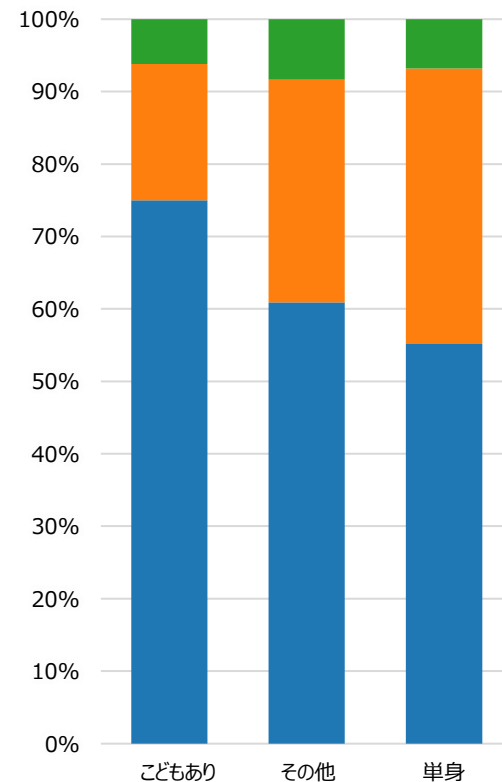
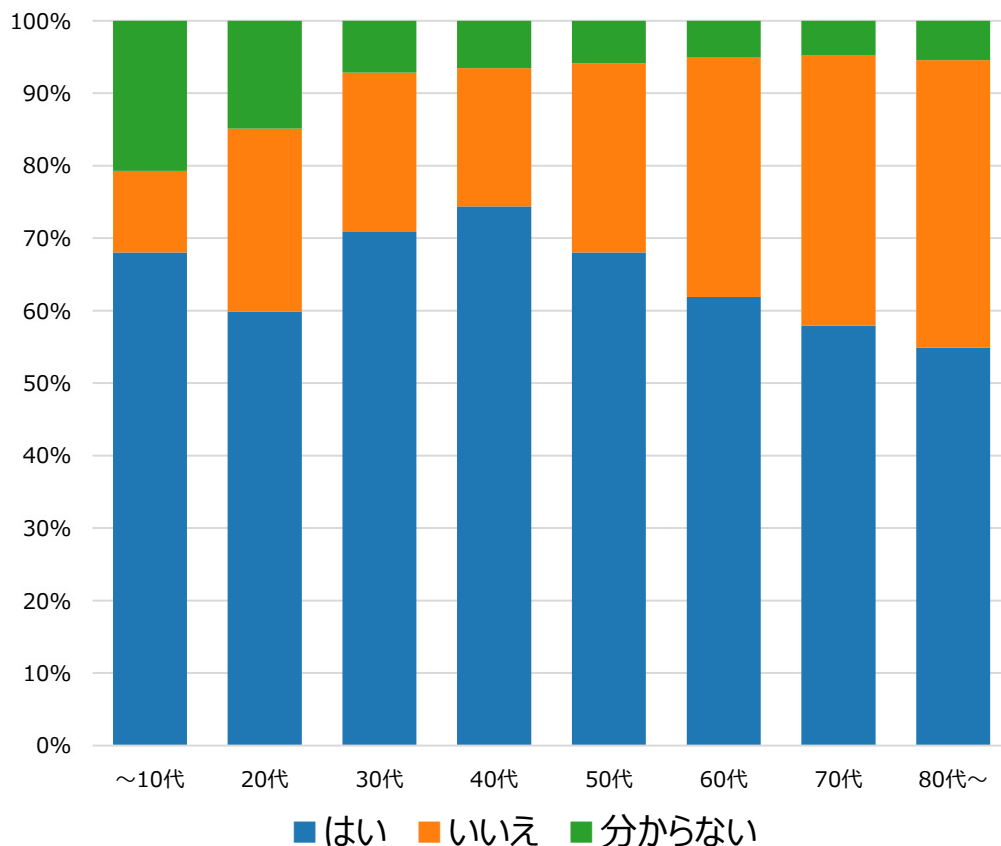
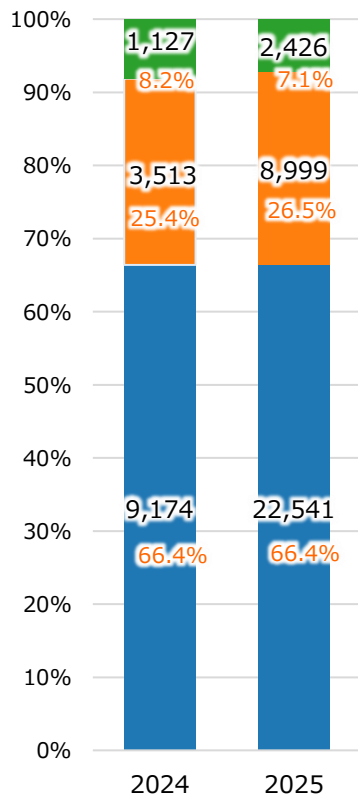
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 加入率是对前年横ばい、全国と比較すると同程度

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

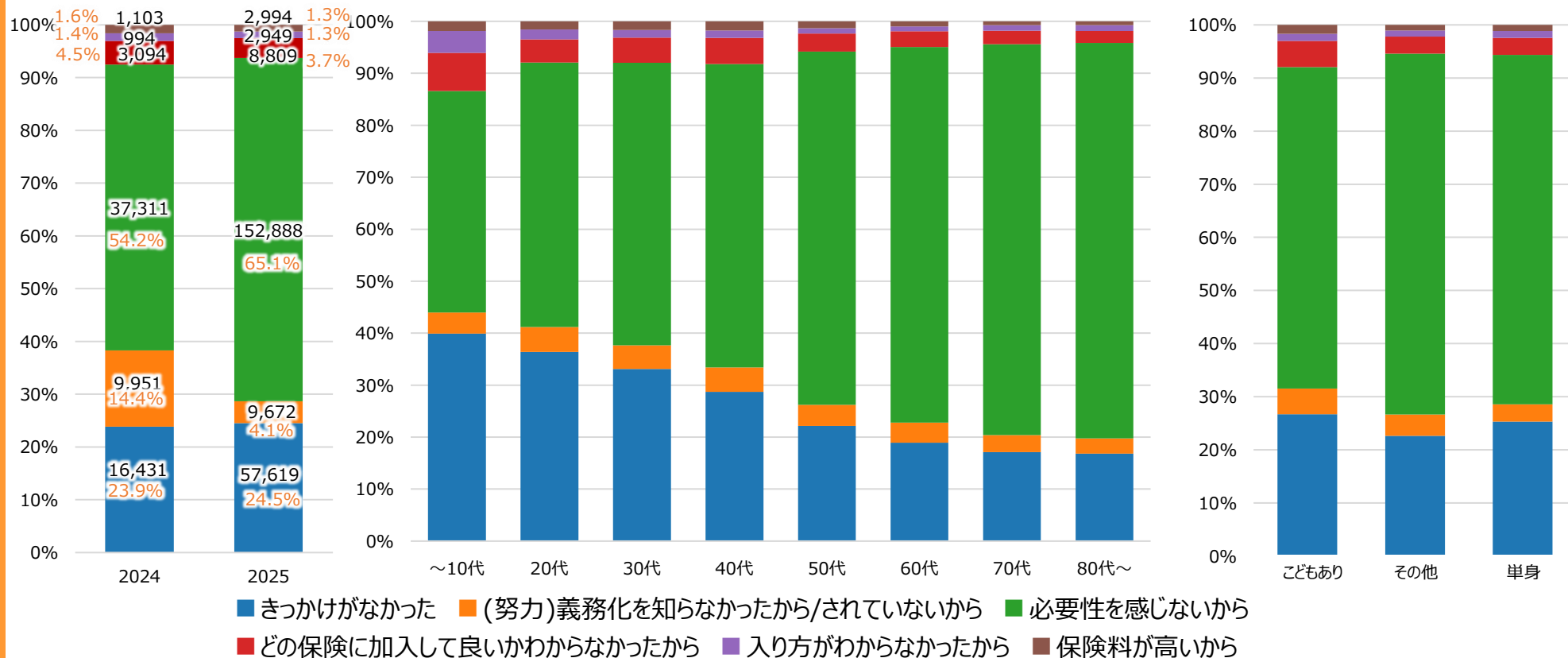
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

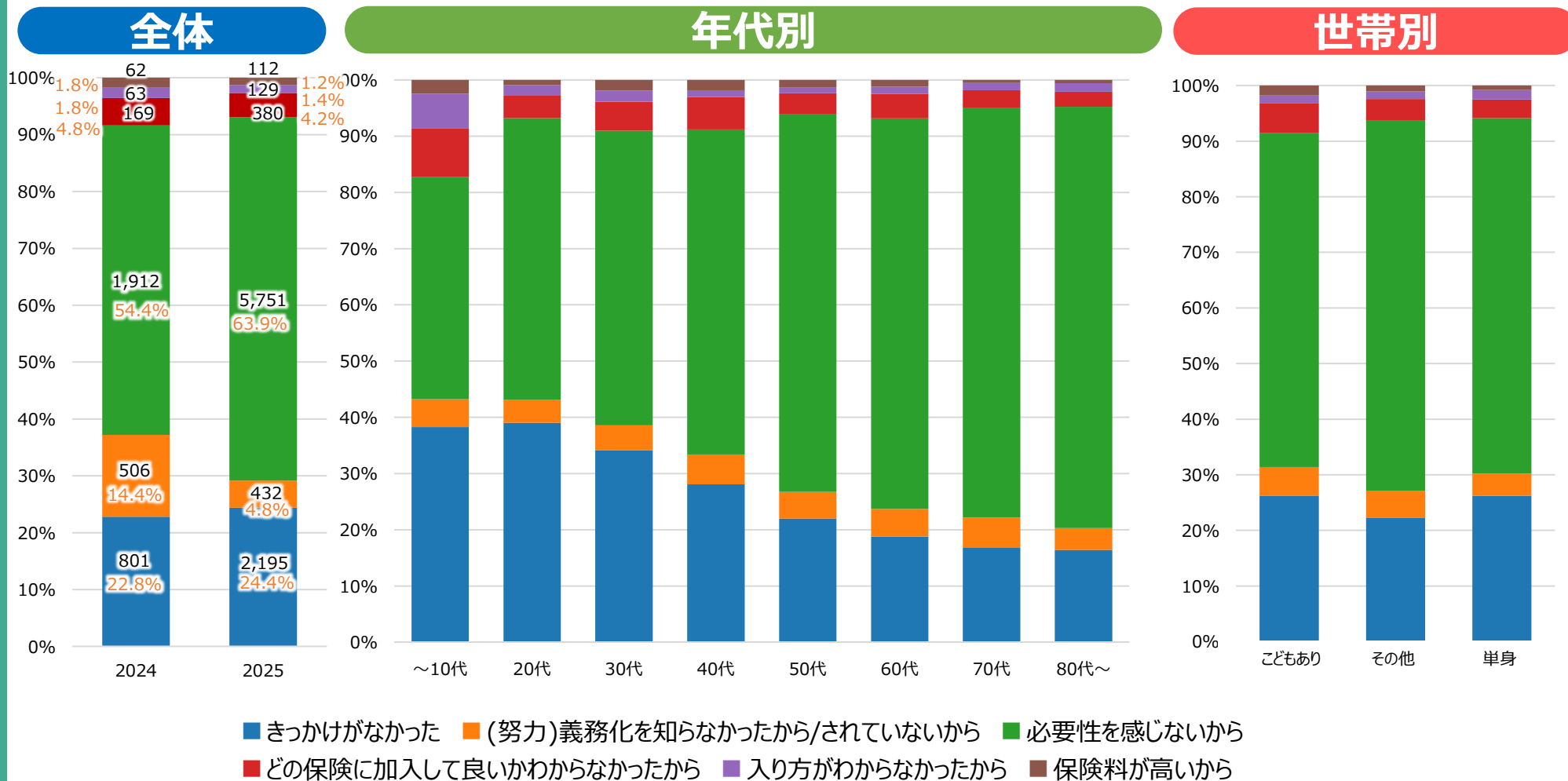
国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

千葉県

単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少 (▲10Pt)

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

千葉県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:33,966名のうち、4,320名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 778 名	② 496 名
	加入	310 名	2,736 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	22.1%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	7.9%
加入方法がわからなかったから	3.0%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	18.1%
保険料が高いから	2.4%
必要性を感じないから	46.5%

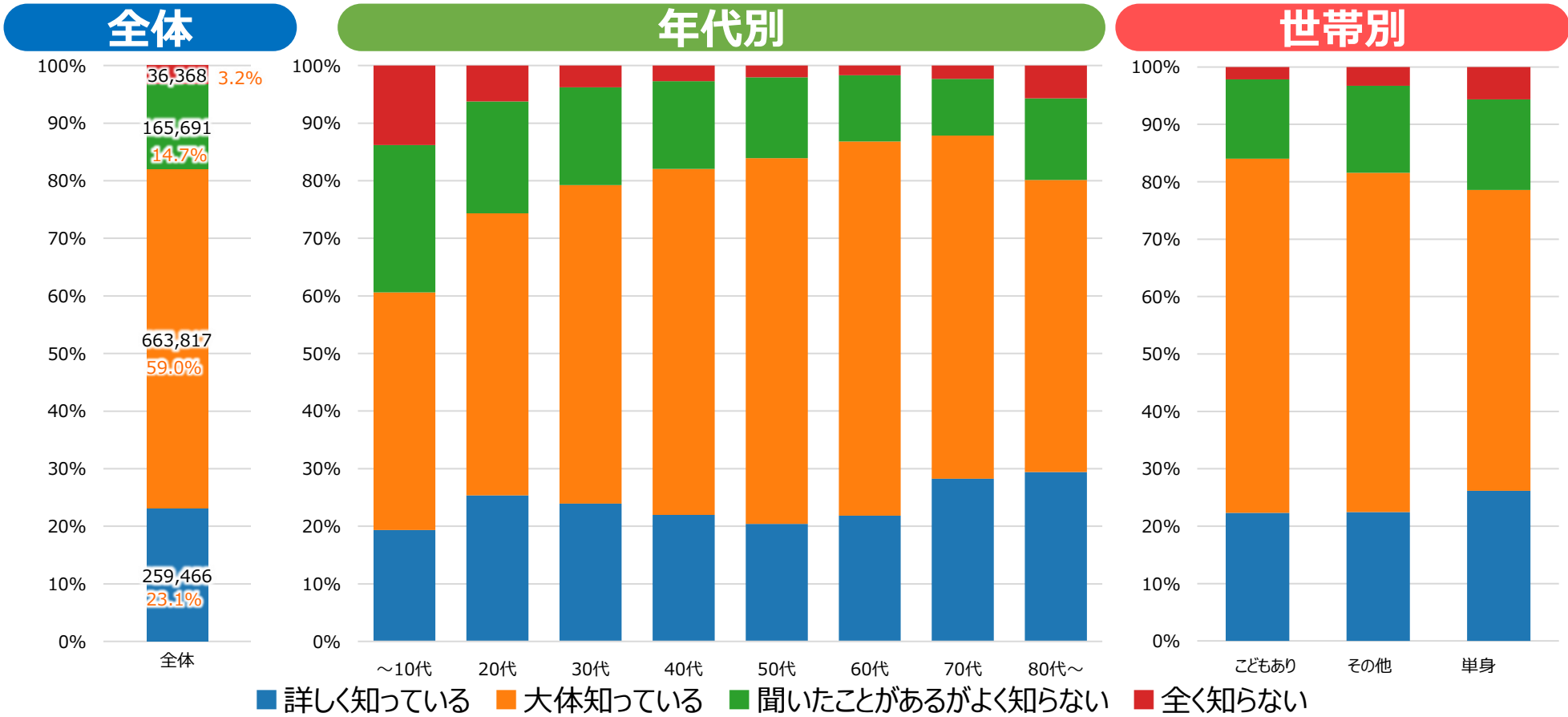
2024年度「自転車保険加入なし」の1,274名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

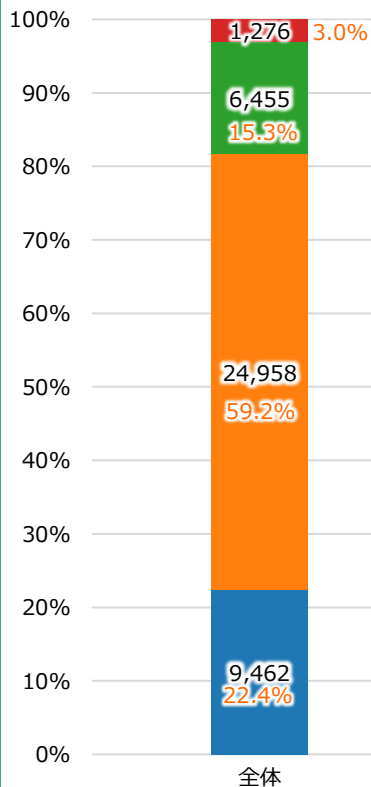
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

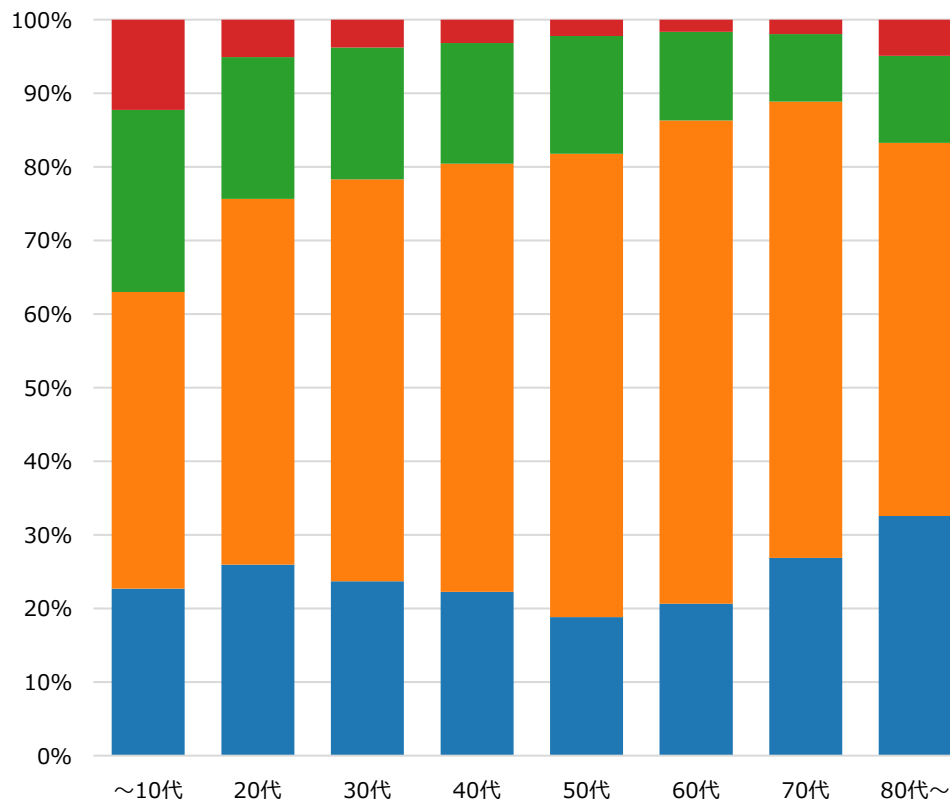
千葉県

単位：名

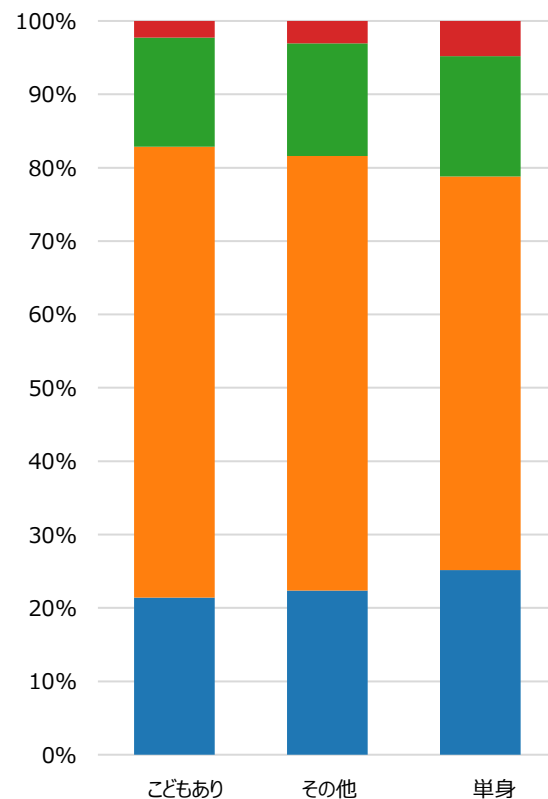
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

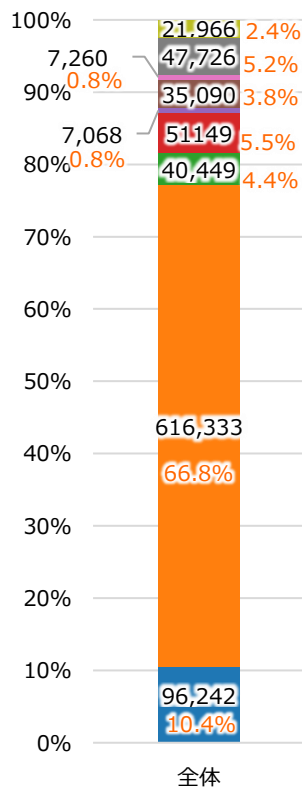
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

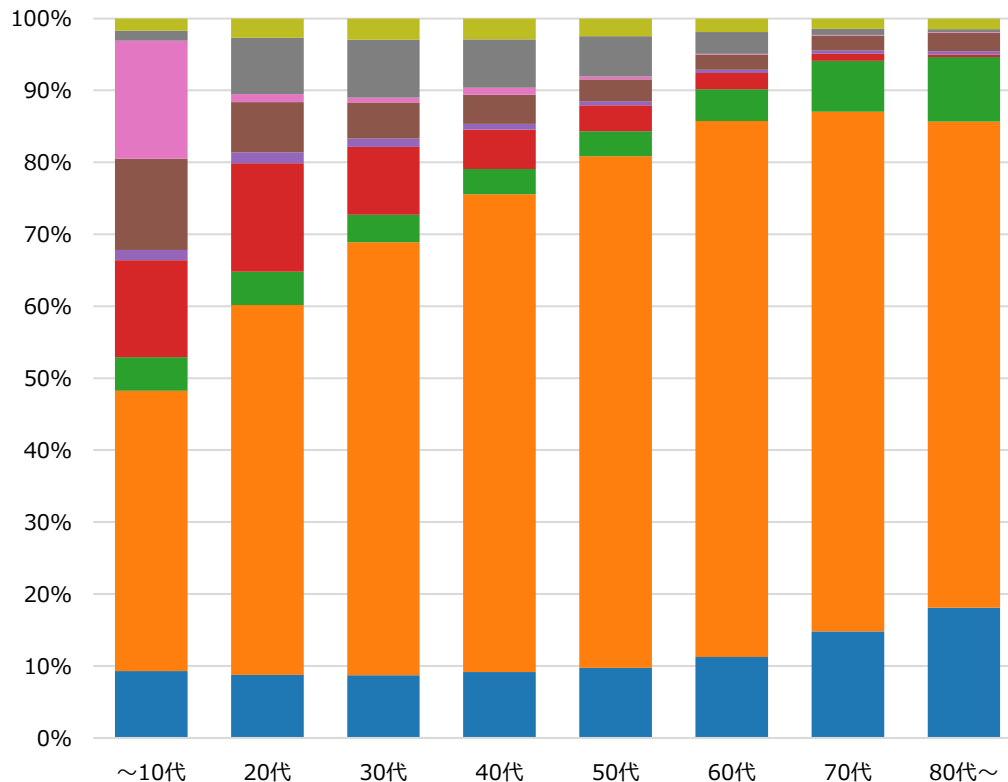
全国

単位：名

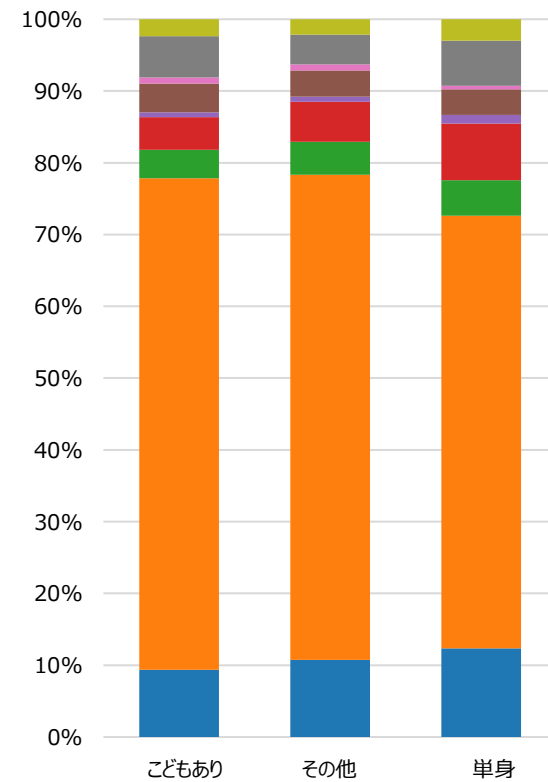
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

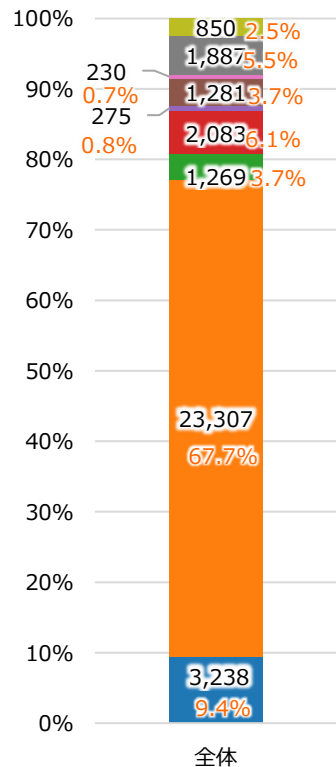
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

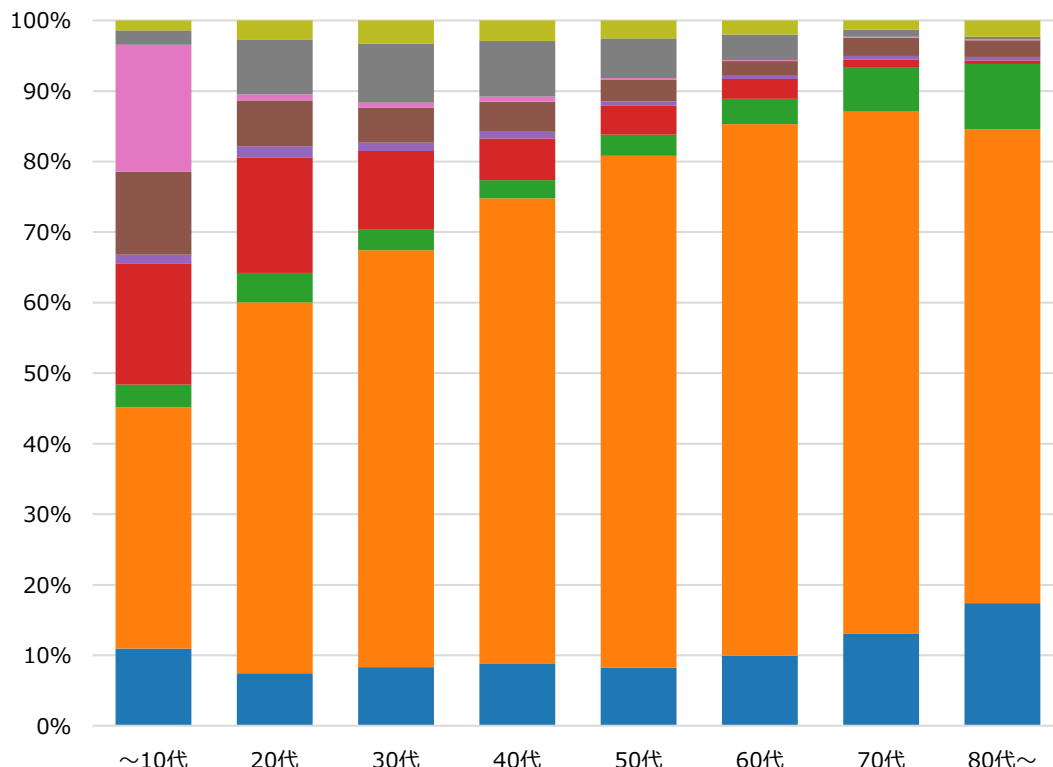
千葉県

単位：名

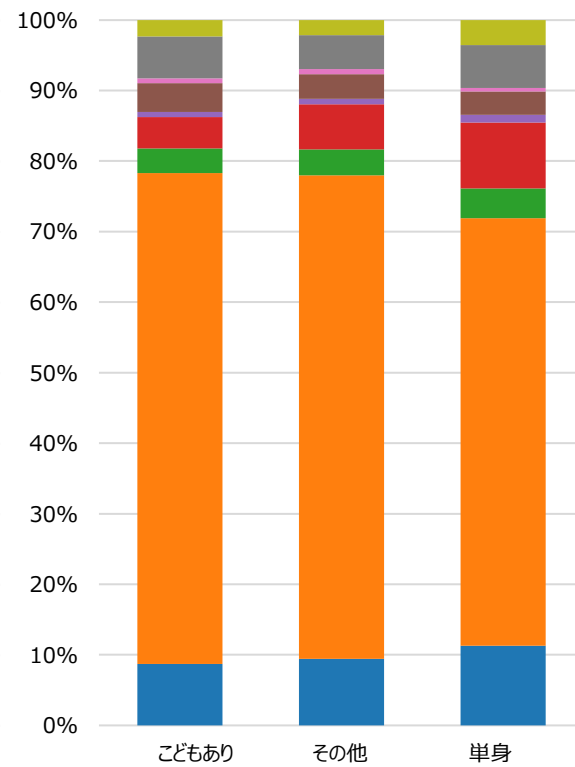
全体



年代別



世帯別



雑誌新聞 ニュース番組 テレビCM SNS ポスター掲示 家族知人 学校 勤務先 その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

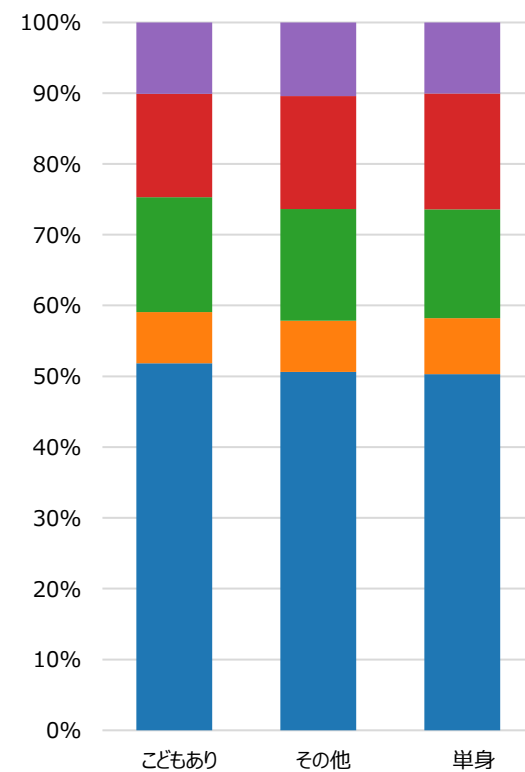
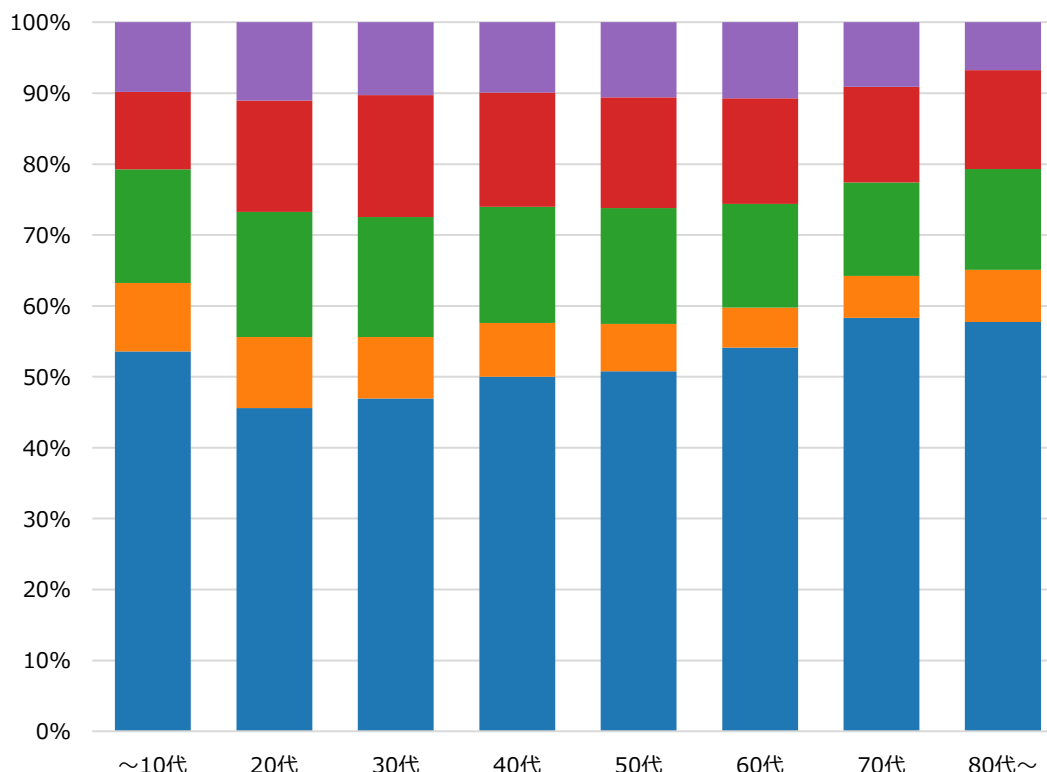
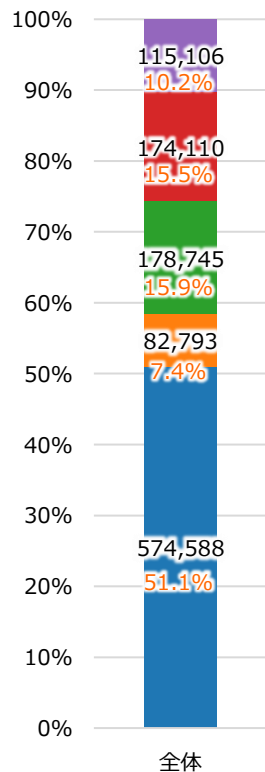
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

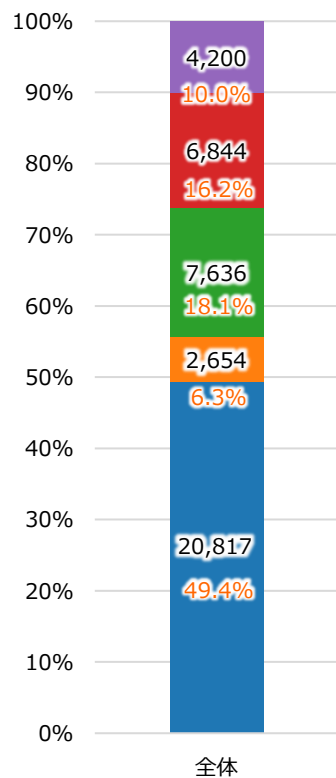
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

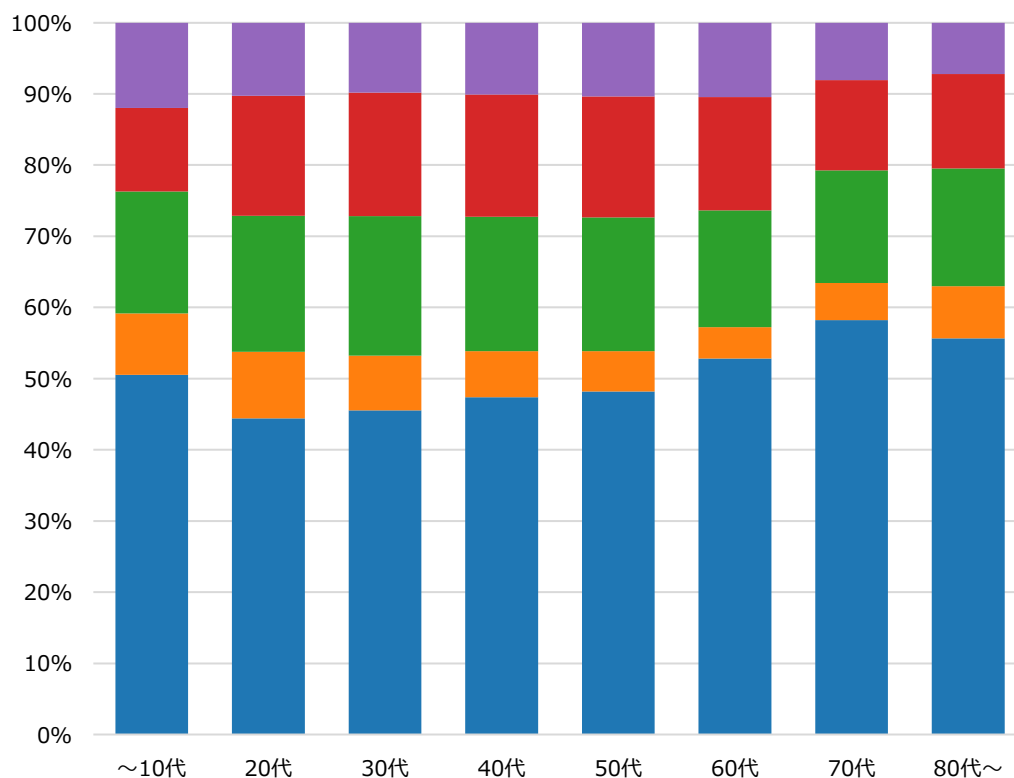
千葉県

単位：名

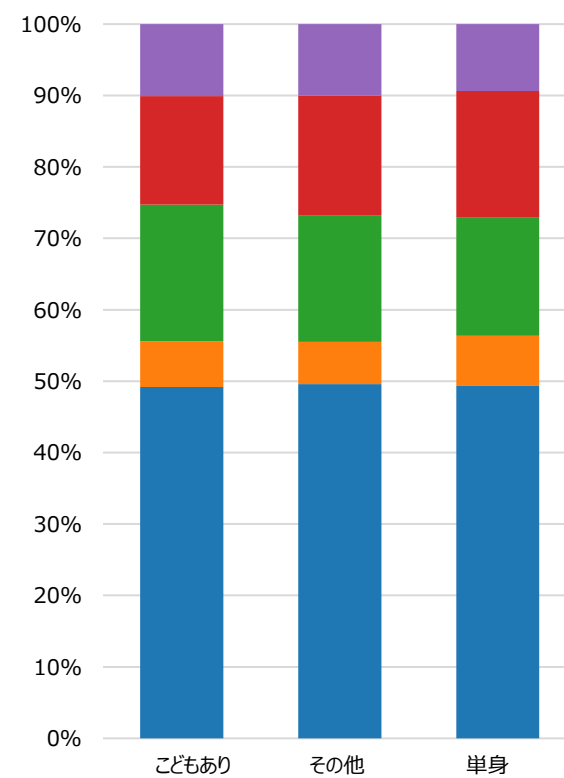
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

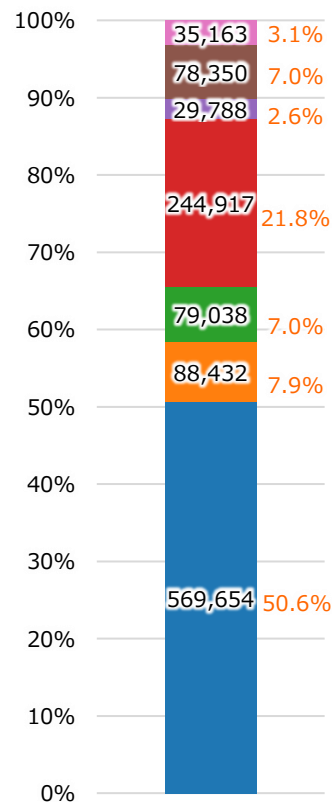
Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

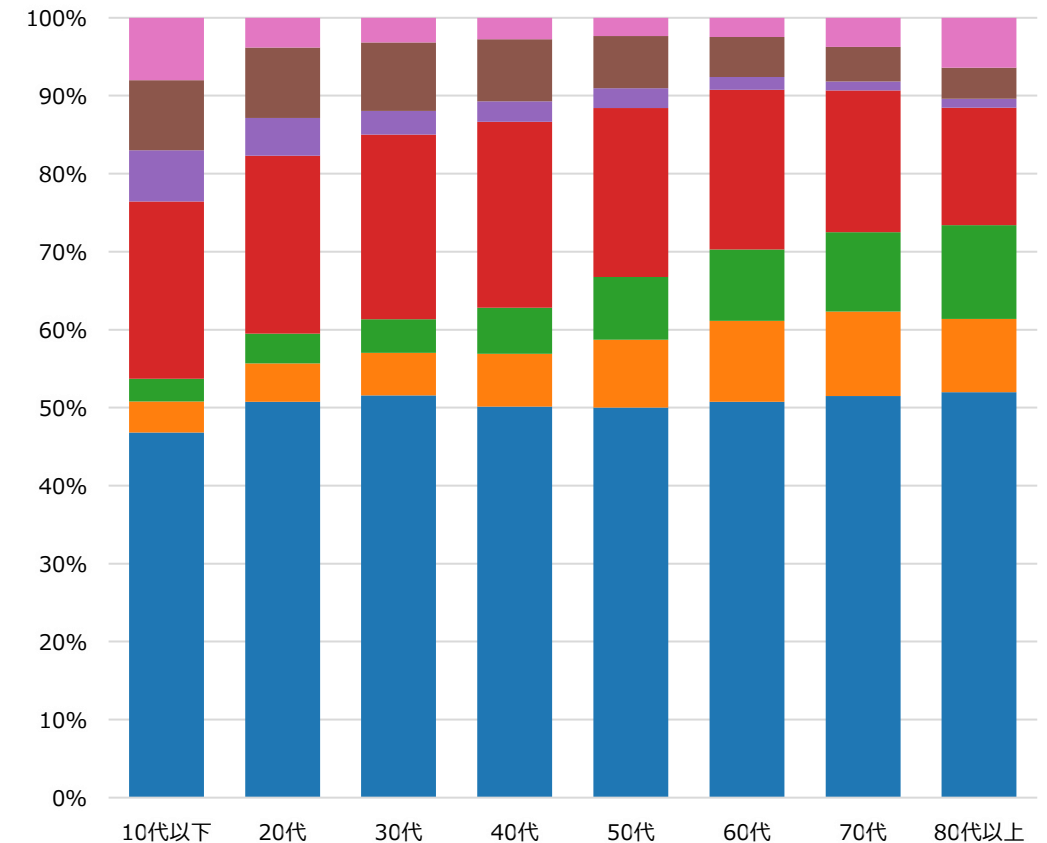
単位：名

全国

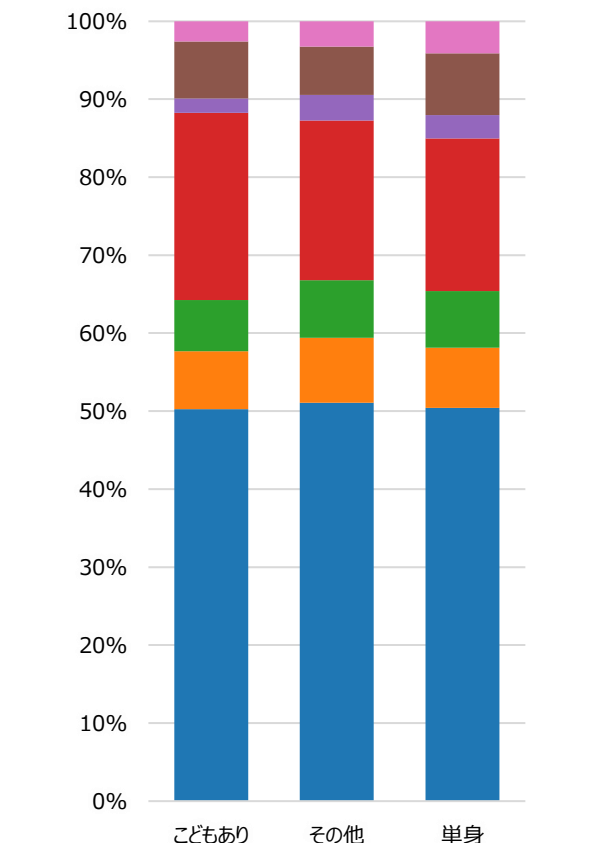
全体



年代別



世帯別



■ 地震・津波 ■ 風水災 (台風・洪水) ■ 火災 ■ 交通事故 ■ ペットの病気・ケガ ■ 日常における賠償 ■ 熱中症

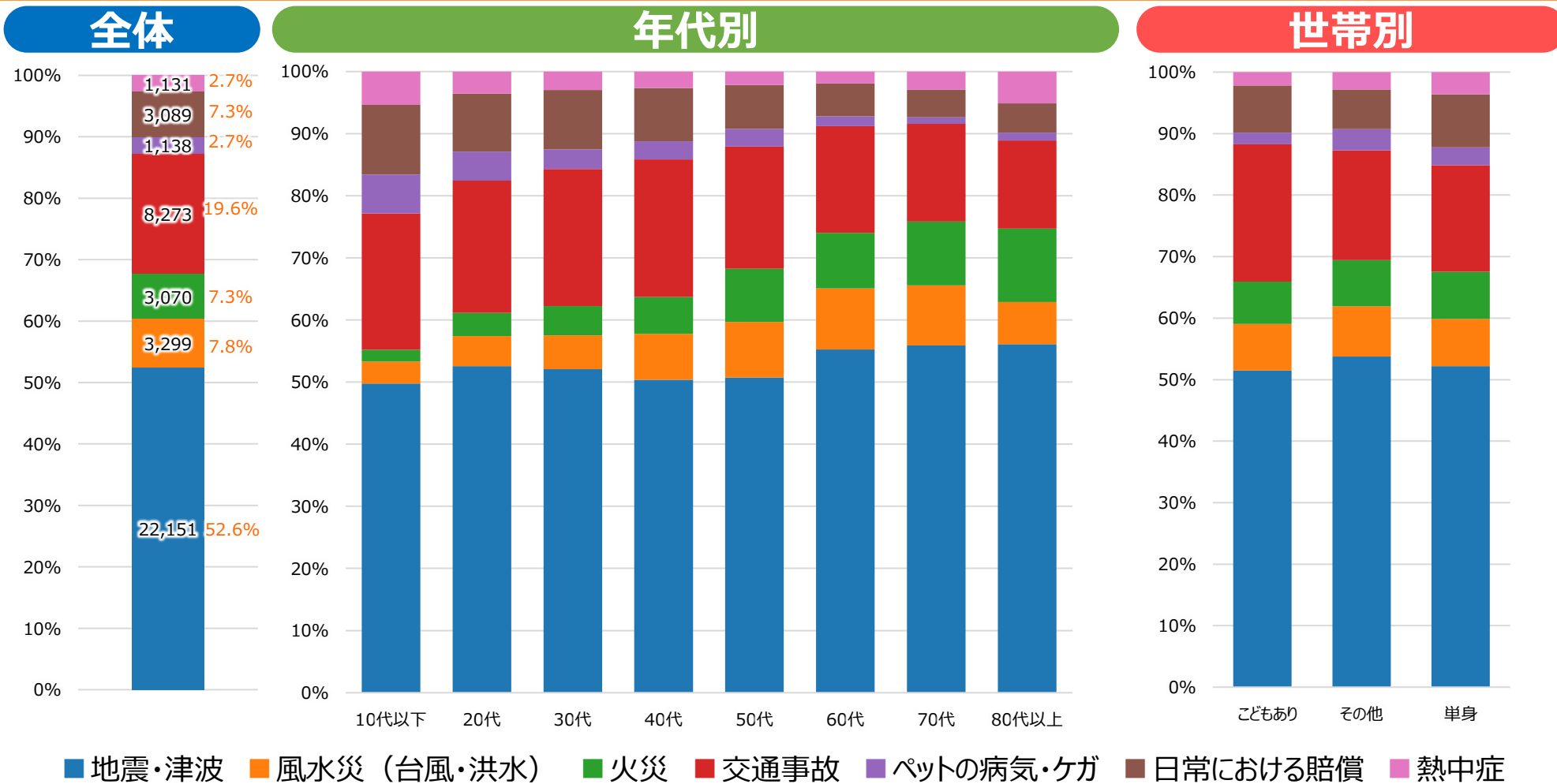
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

千葉県

単位：名

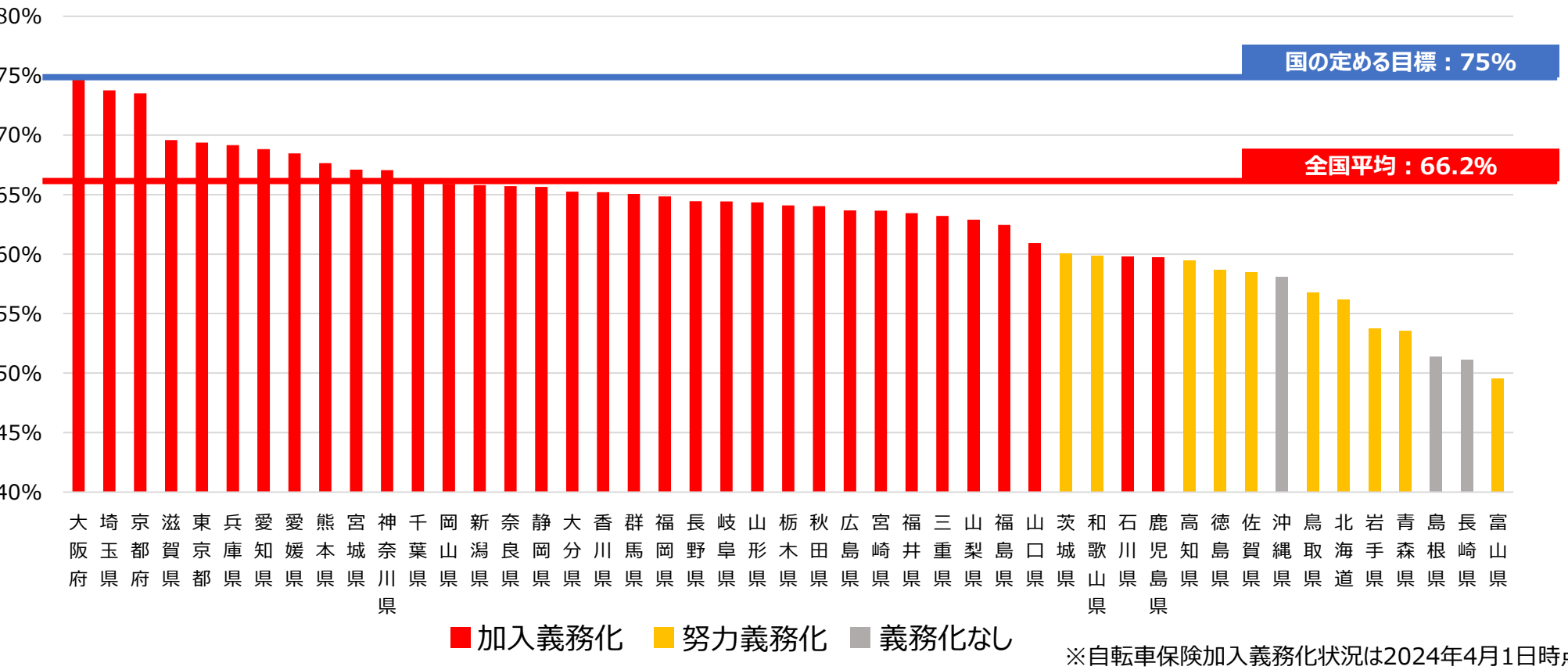
千葉県



- 千葉県では、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



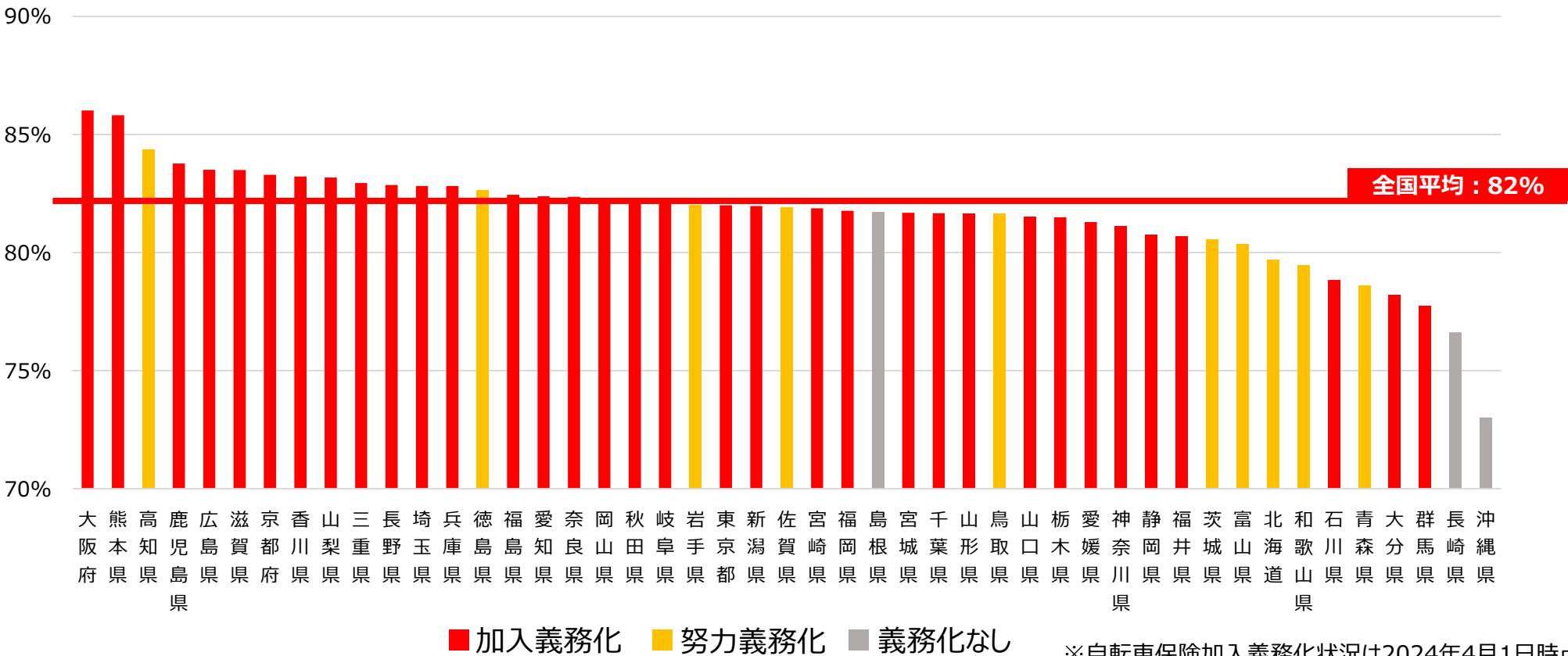
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



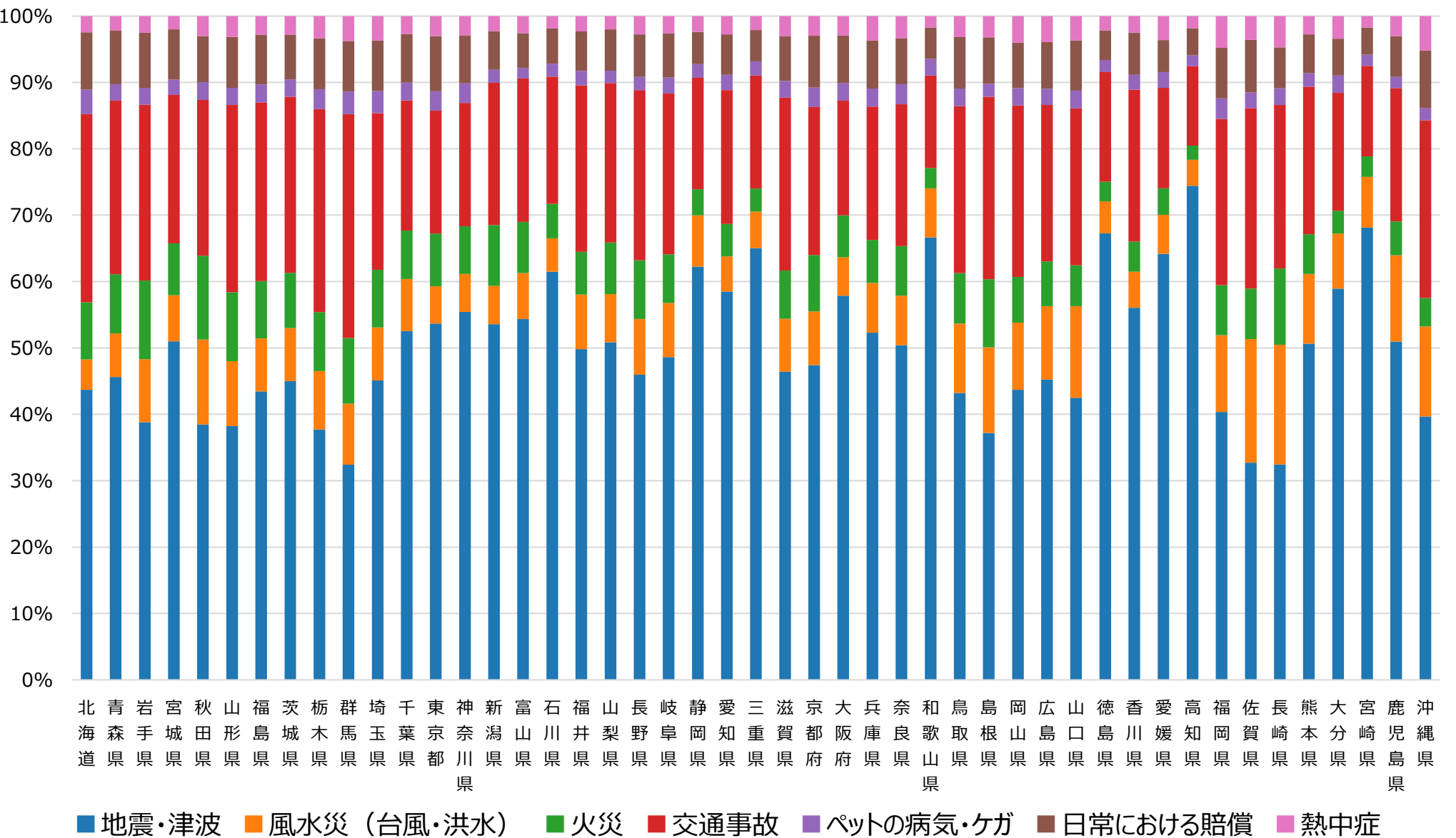
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、
全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

東京都との 連携協定締結状況	
締結日	2020/09/02
①	健康増進に関すること
②	文化及びスポーツ振興に関すること
③	地域の安心安全に関すること
④	環境に関すること
⑤	ライフワーク・バランス及び女性の活躍推進に関すること

他4項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

東京都

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	1,379	1.6%	672	1.6%	707	1.6%
20代	11,023	12.8%	5,510	13.2%	5,513	12.4%
30代	12,699	14.7%	6,093	14.6%	6,606	14.9%
40代	13,345	15.5%	6,394	15.3%	6,951	15.6%
50代	21,208	24.6%	10,332	24.7%	10,876	24.5%
60代	16,347	18.9%	8,107	19.4%	8,240	18.5%
70代	7,639	8.9%	3,530	8.4%	4,109	9.2%
80代～	2,631	3.0%	1,185	2.8%	1,446	3.3%
合計	86,271	100.0%	41,823	100.0%	44,448	100.0%
2024年度	31,167	100.0%	15,554	100.0%	15,613	100.0%

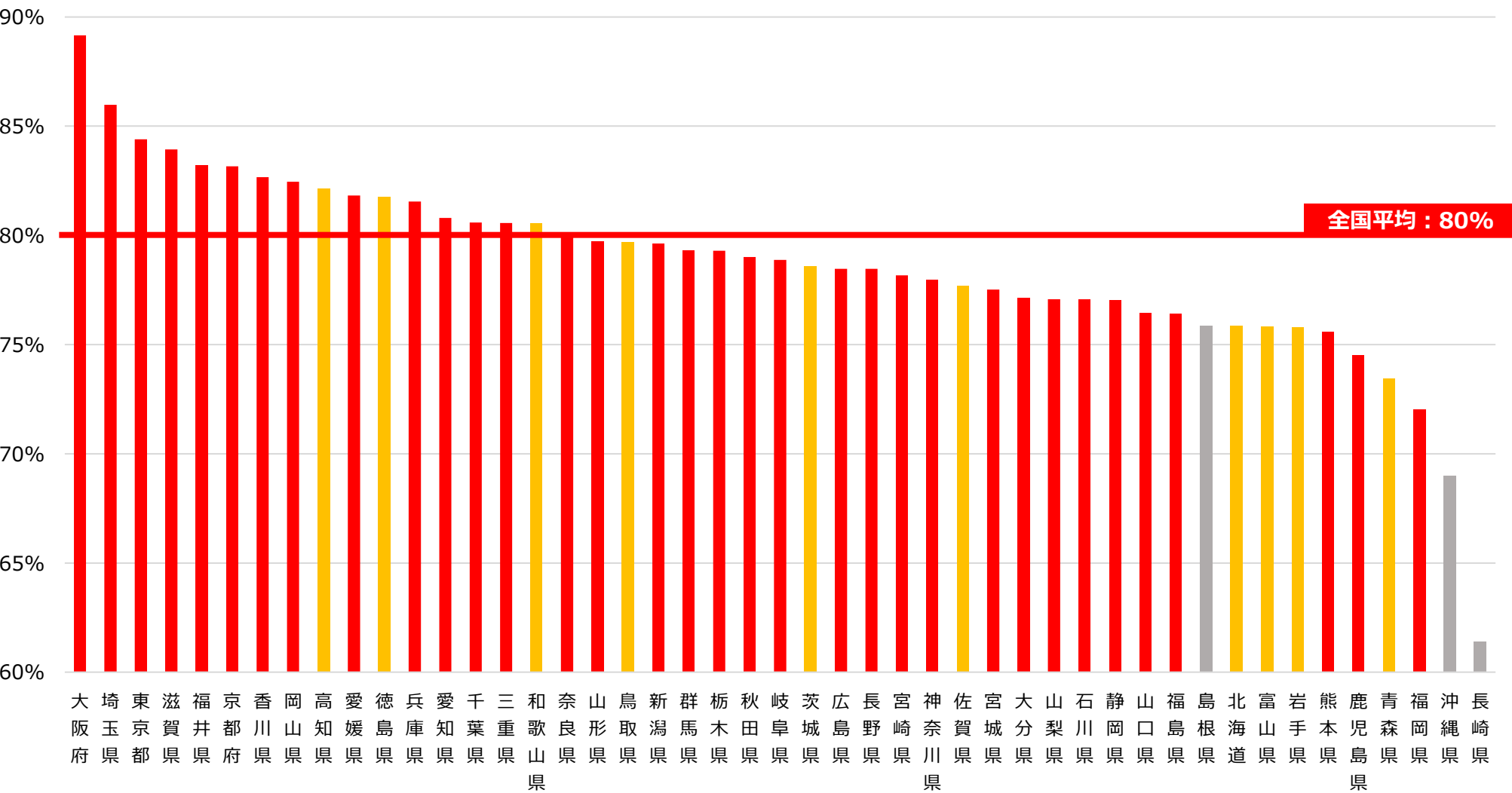
	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	1,290	93.5%	625	93.0%	665	94.1%
20代	8,842	80.2%	4,449	80.7%	4,393	79.7%
30代	10,401	81.9%	4,964	81.5%	5,437	82.3%
40代	11,790	88.3%	5,608	87.7%	6,182	88.9%
50代	18,445	87.0%	8,975	86.9%	9,470	87.1%
60代	13,918	85.1%	6,984	86.1%	6,934	84.2%
70代	6,232	81.6%	2,941	83.3%	3,291	80.1%
80代～	1,893	71.9%	900	75.9%	993	68.7%
合計	72,811	84.4%	35,446	84.8%	37,365	84.1%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



■ 加入義務化

■ 努力義務化

■ 義務化なし

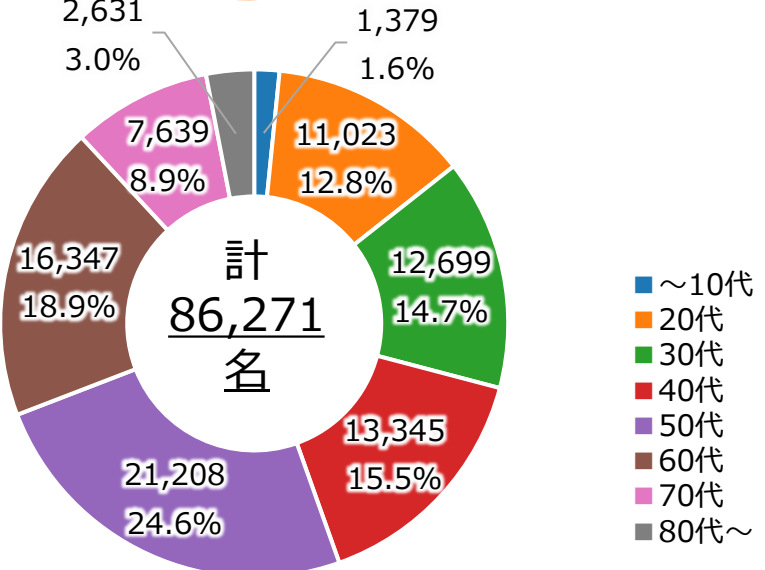
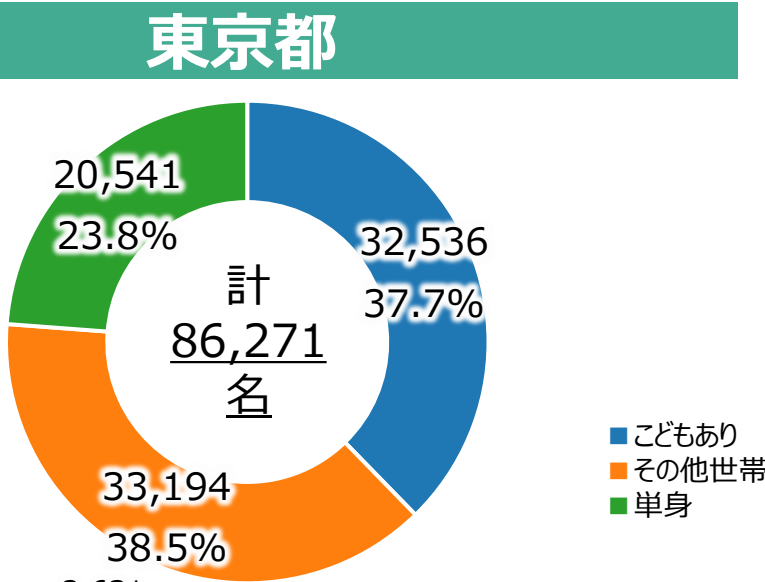
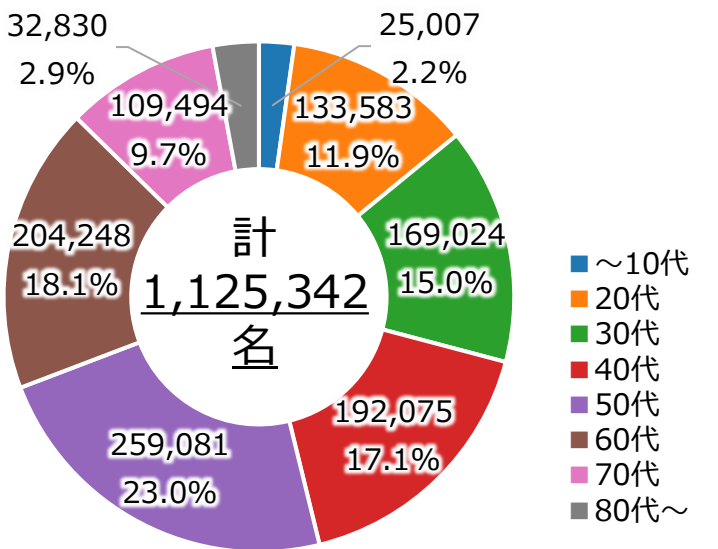
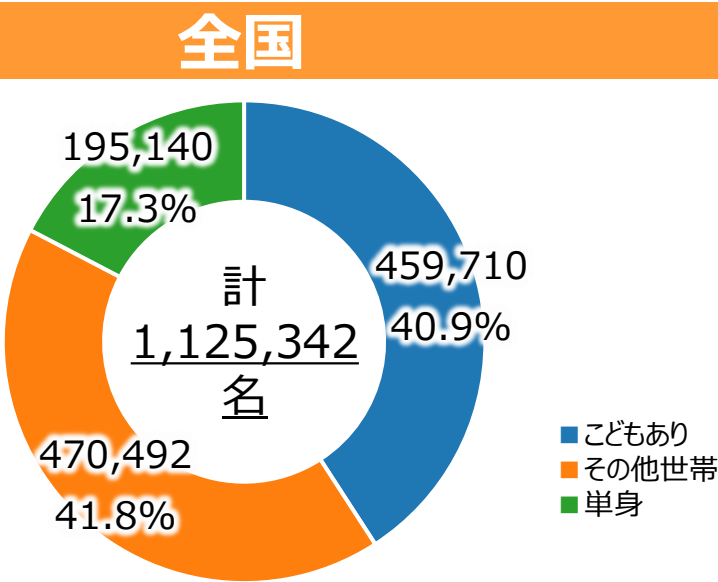
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

世帯構成別

年代別



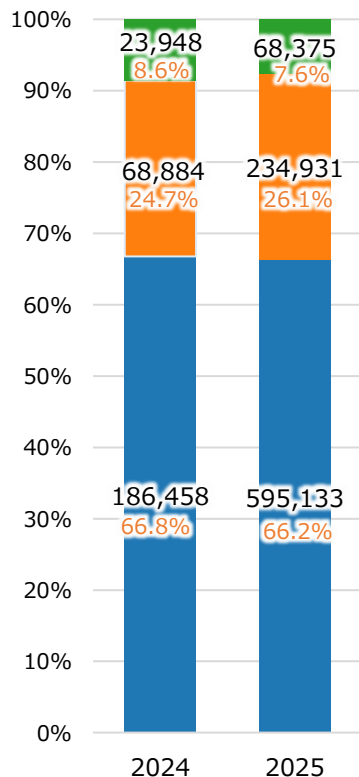
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

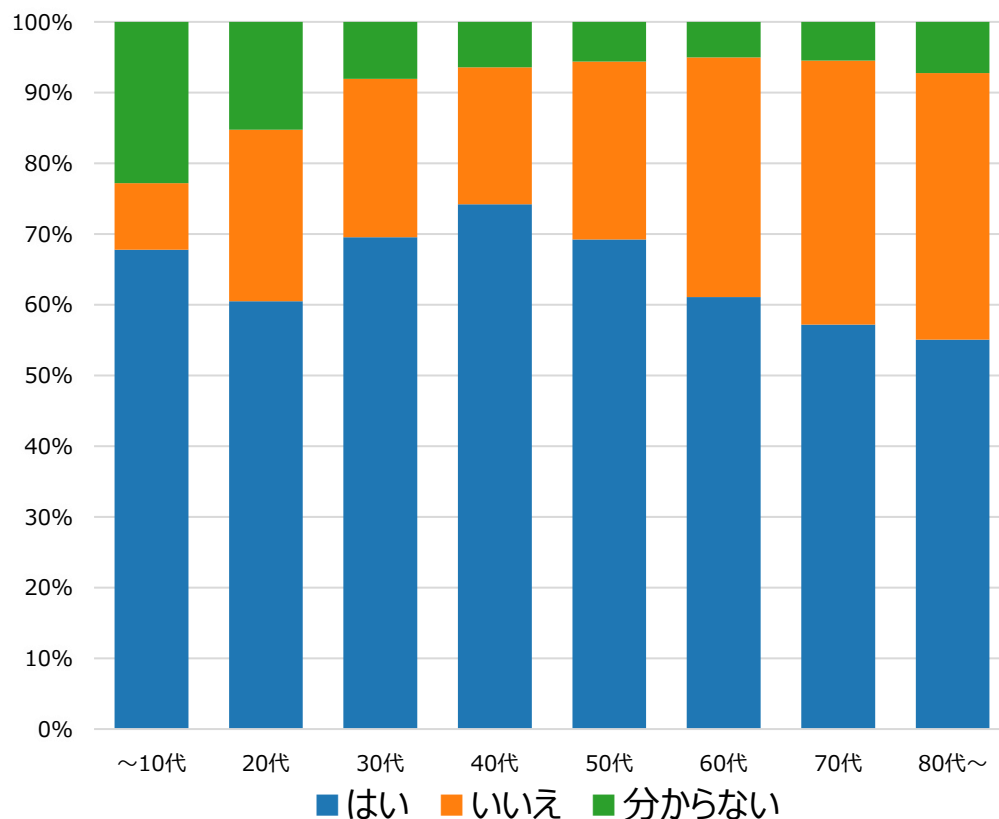
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

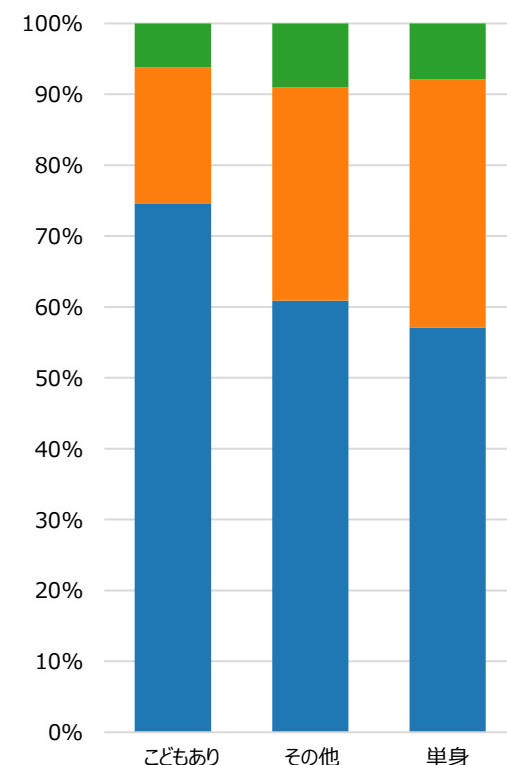
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

東京都

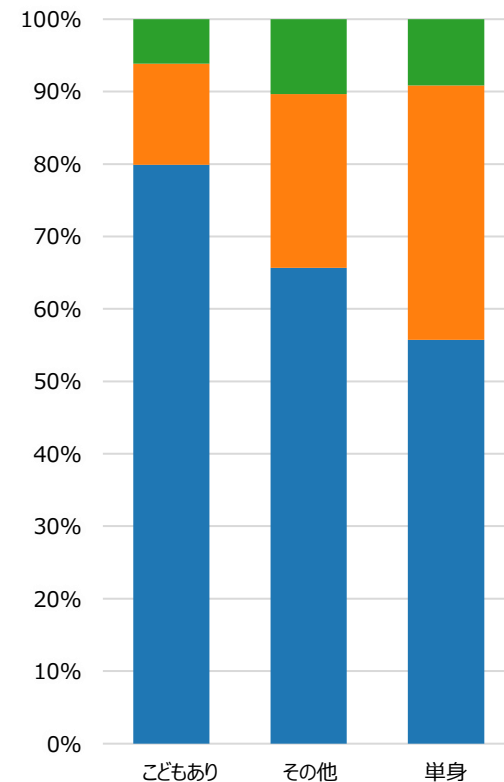
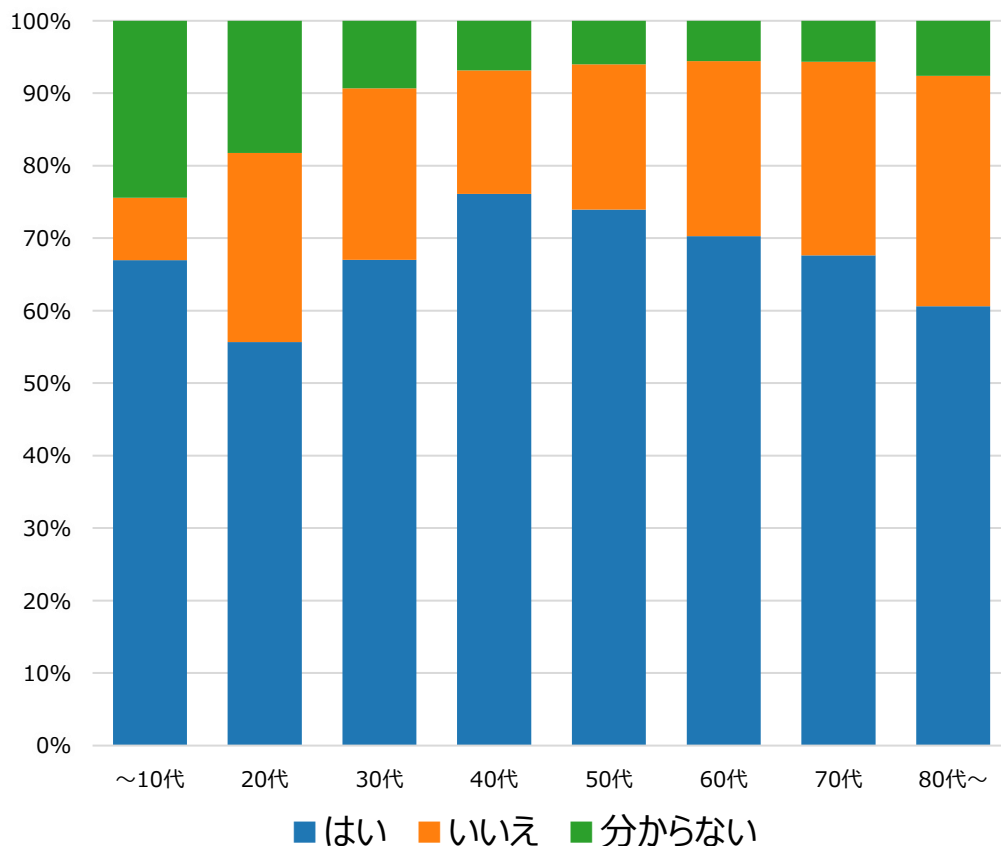
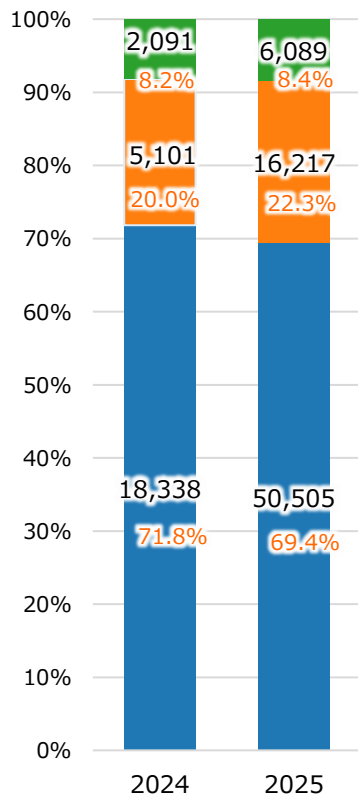
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別

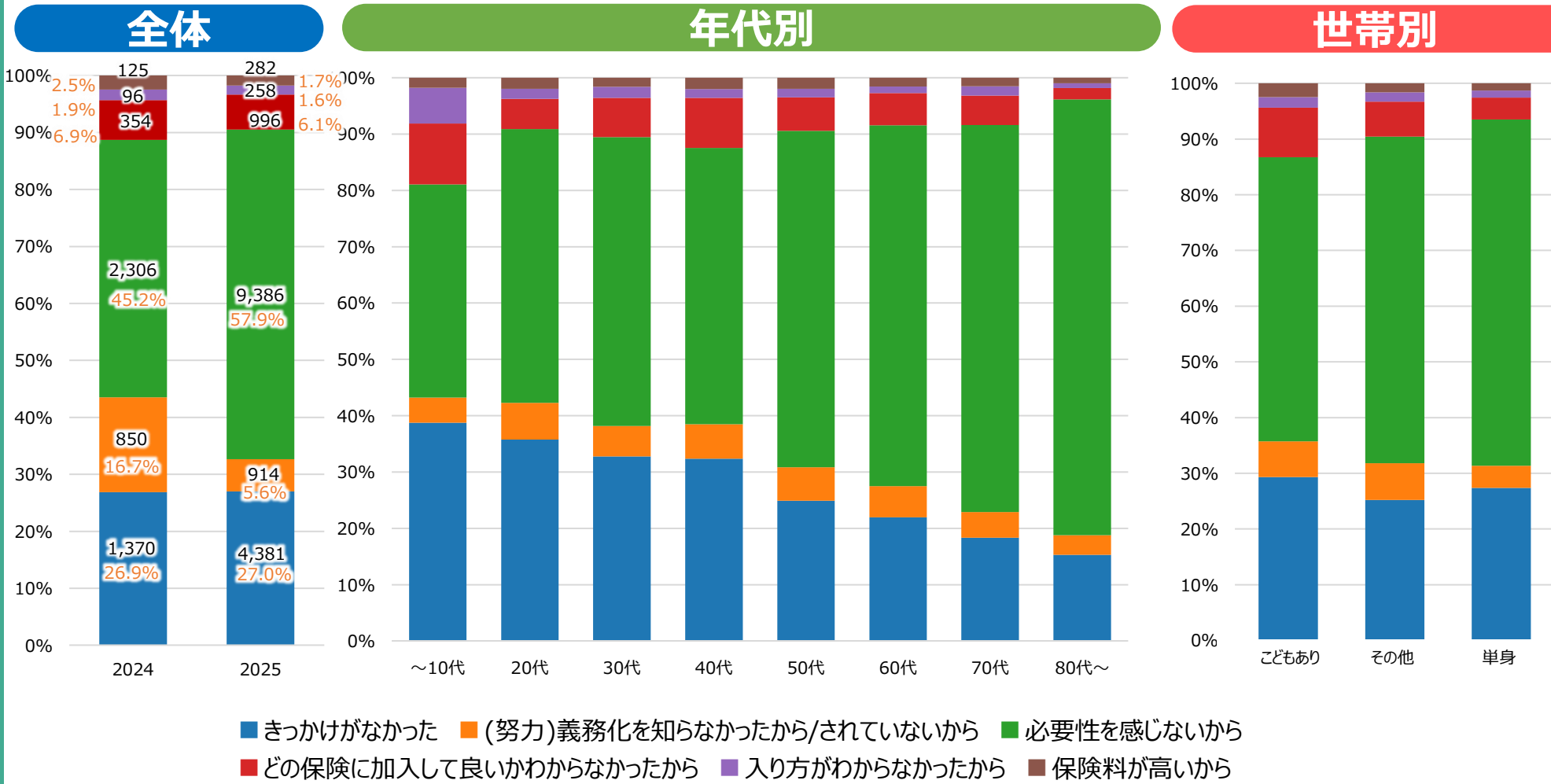


- 加入率は対前年減少（▲2Pt）、全国と比較すると高位（+3Pt）
- 世帯別でみると、特にこどもあり世帯が全国に比べ高位

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

東京都
単位：名



● 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少（▲11Pt）

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

2年連続回答者の自転車保険加入状況

東京都

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:72,811名のうち、8,195名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 1,187 名	② 745 名
	加入	491 名	5,772 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	29.1%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	10.2%
加入方法がわからなかったから	2.5%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	21.4%
保険料が高いから	2.3%
必要性を感じないから	34.5%

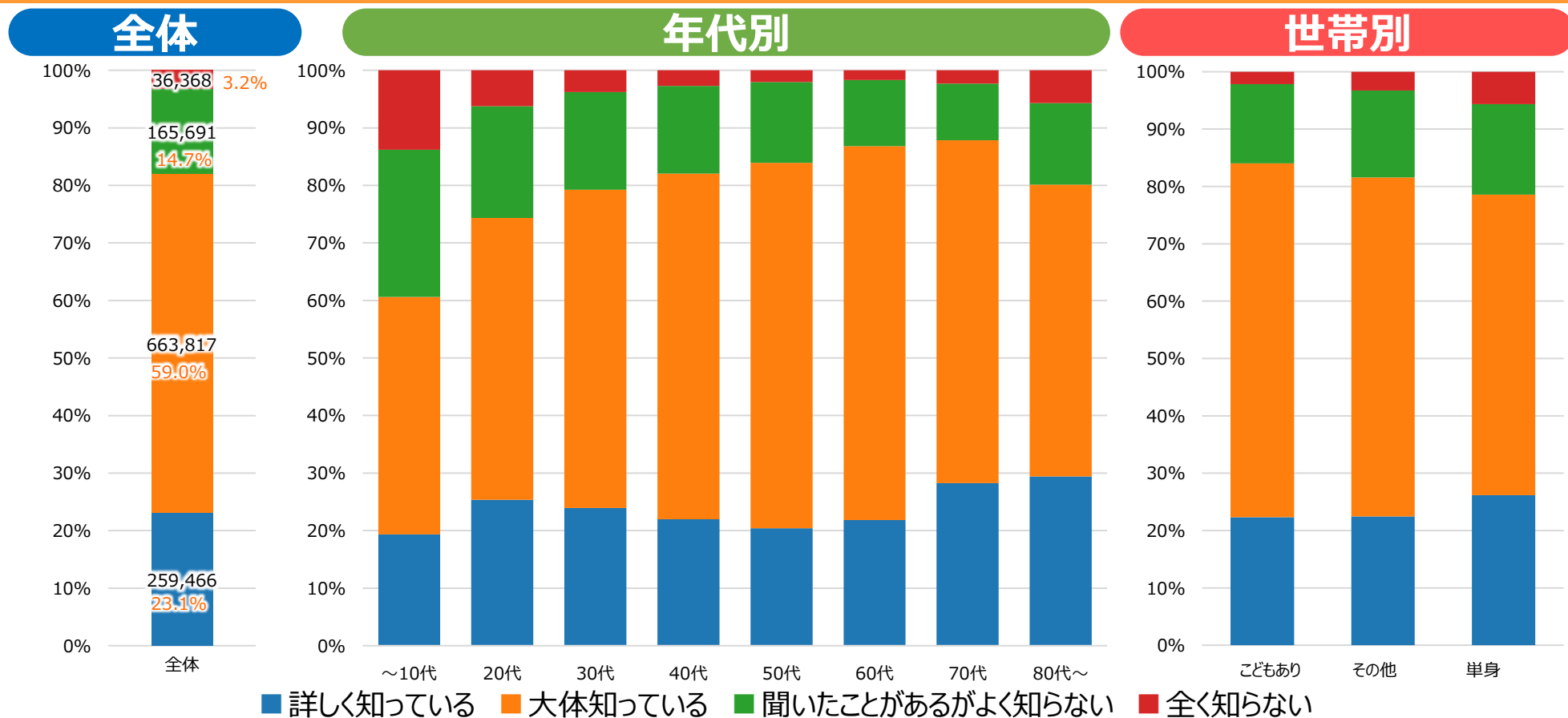
2024年度「自転車保険加入なし」の1,932名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約3分の1は、昨年度「必要性を感じない」と回答。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

全国

単位：名



- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

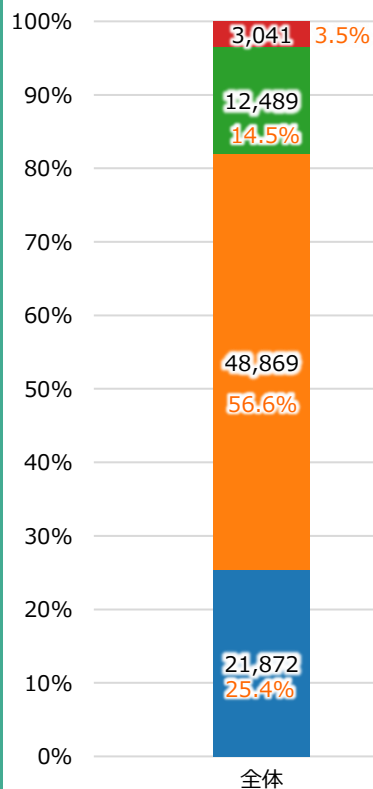
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

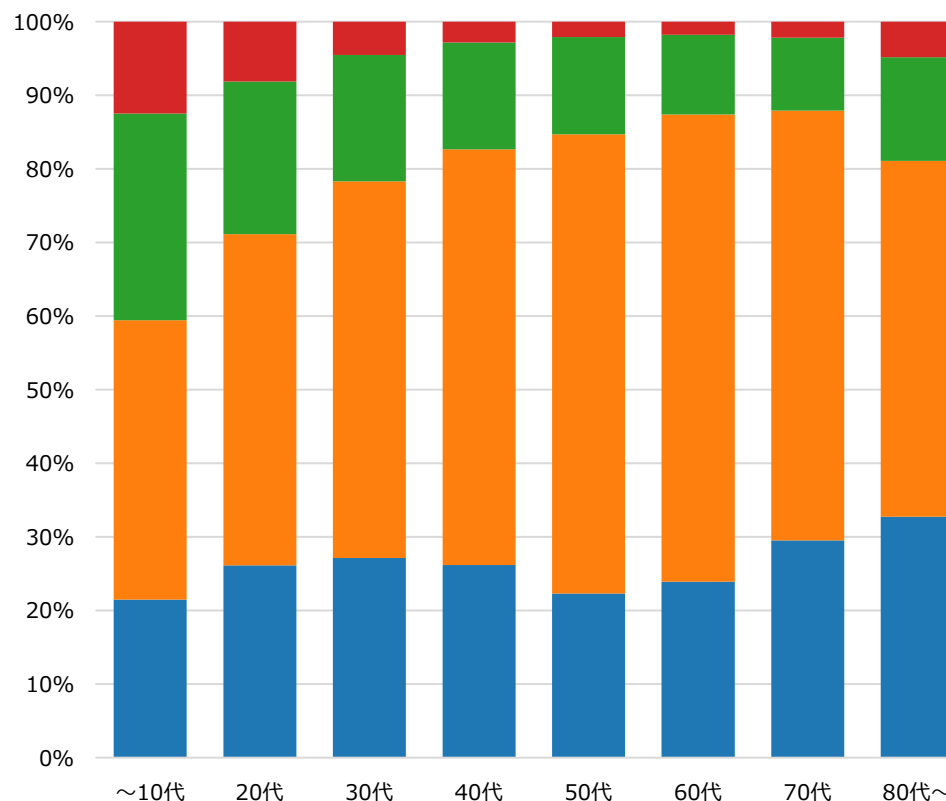
東京都

単位：名

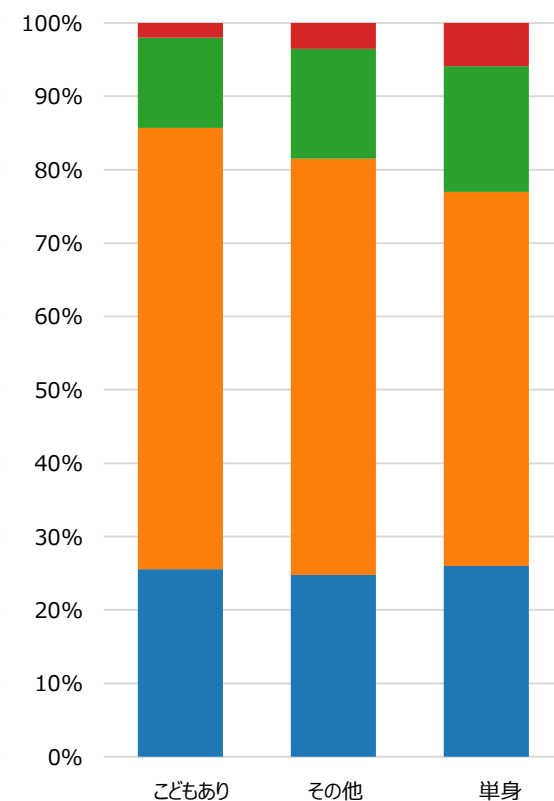
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

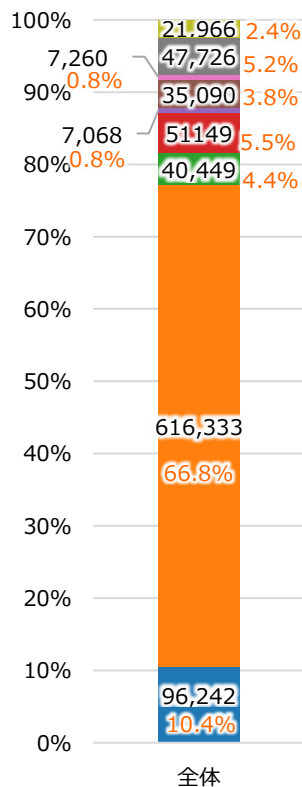
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

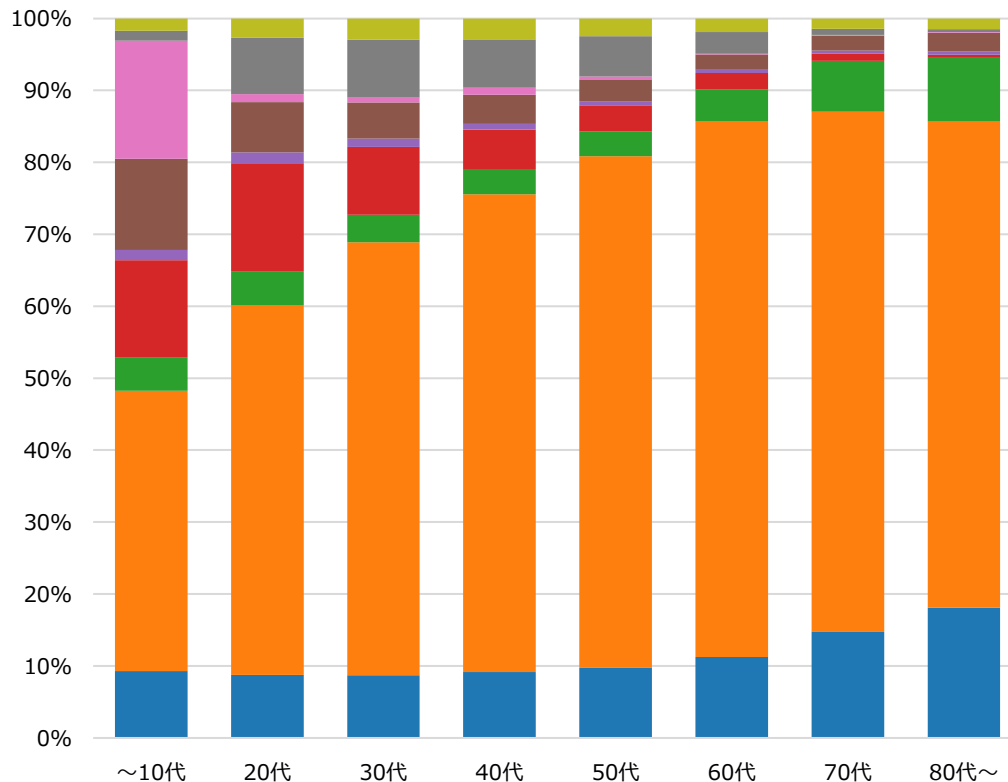
全国

単位：名

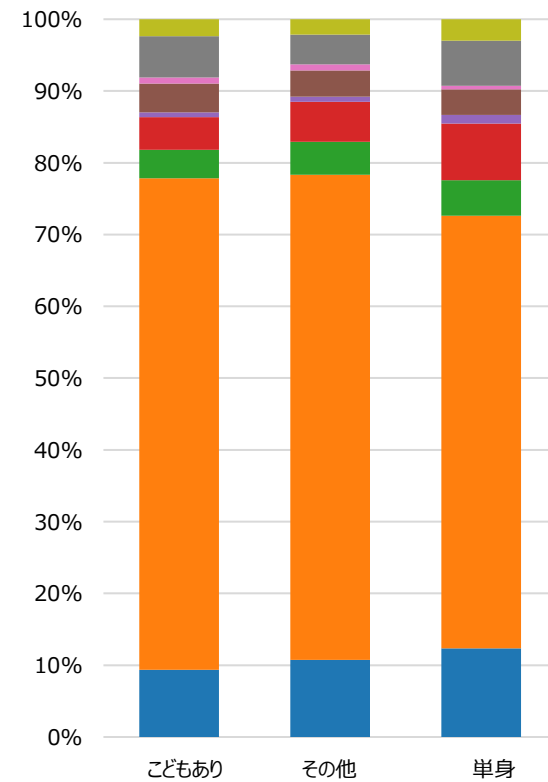
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

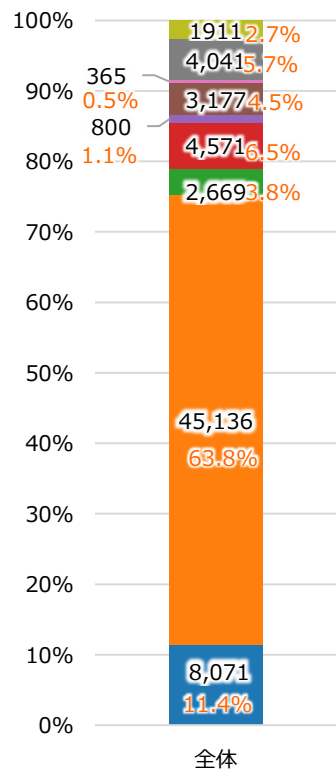
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

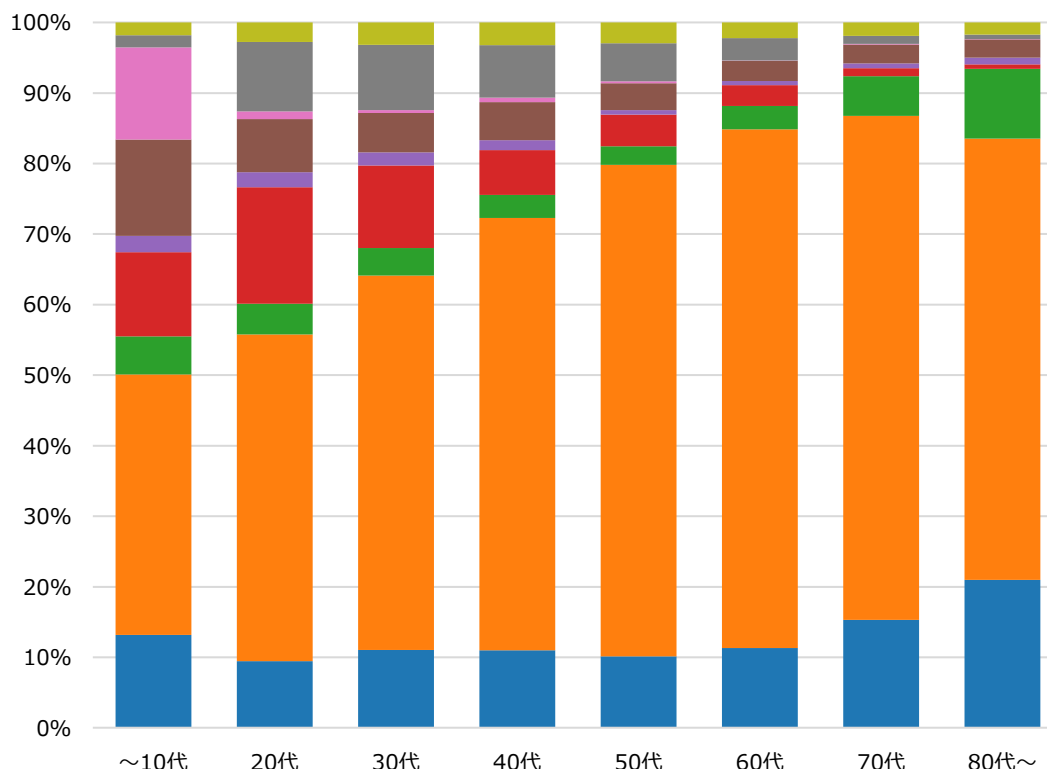
東京都

単位：名

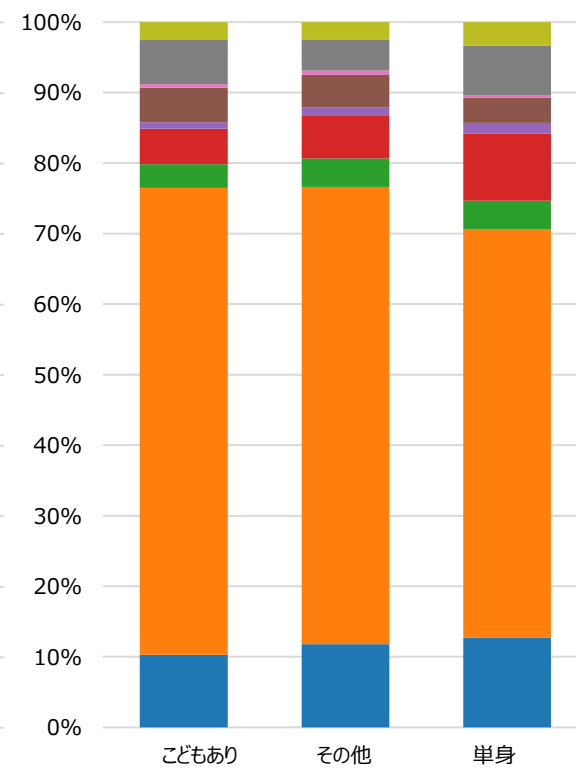
全体



年代別



世帯別



雑誌新聞 ニュース番組 テレビCM SNS ポスター掲示 家族知人 学校 勤務先 その他

- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

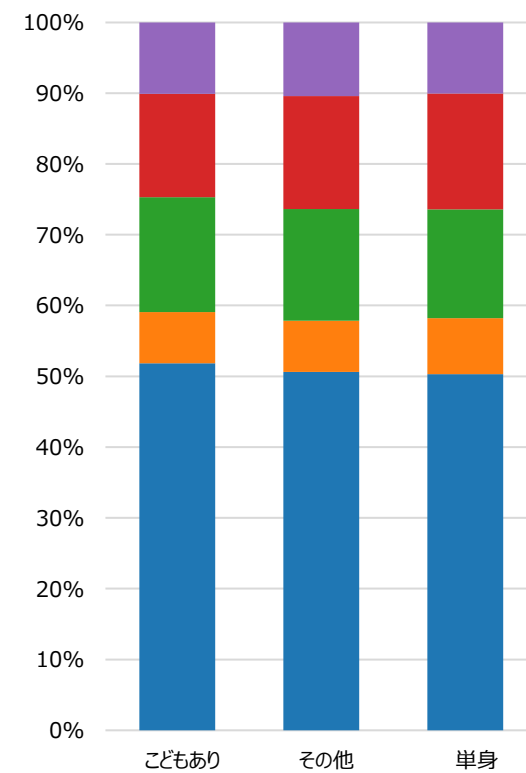
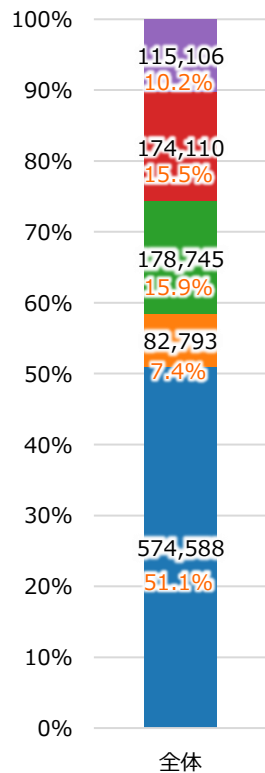
全国

単位：名

全体

年代別

世帯別



交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 事故多発地点等の周知 道路環境の整備 取締り・罰則の強化 車両の安全機能の向上、普及

- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

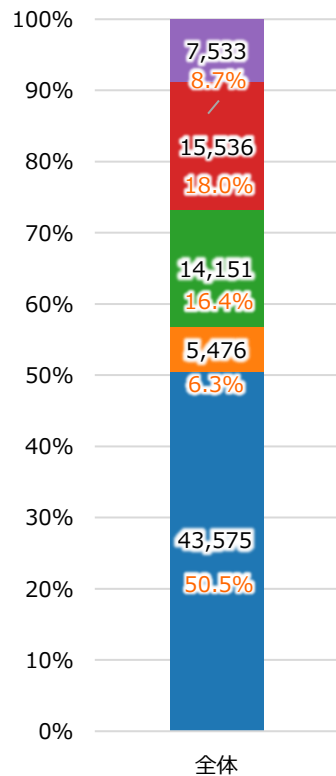
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

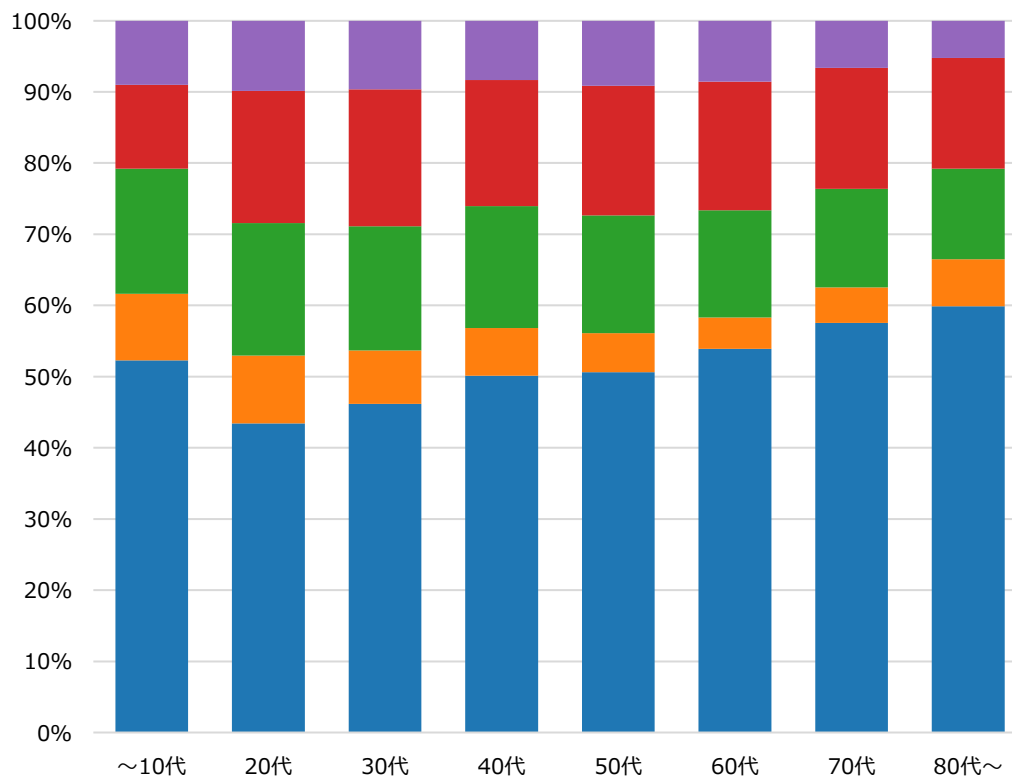
東京都

単位：名

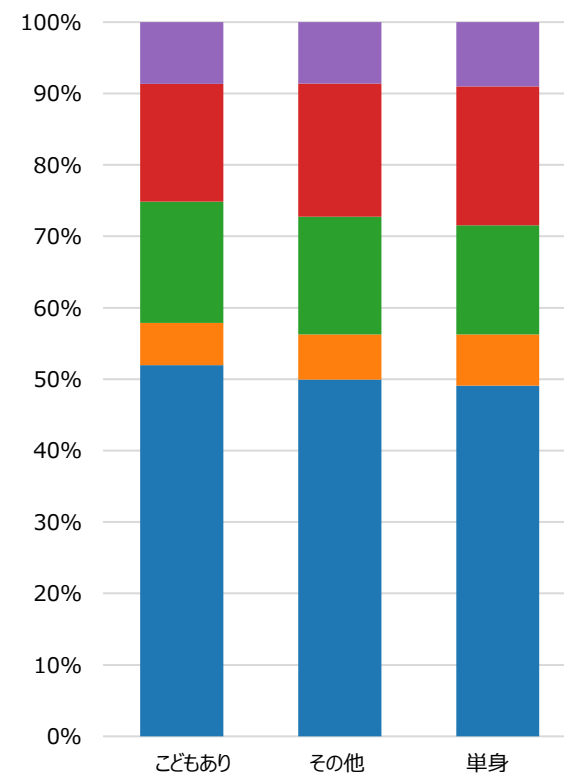
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

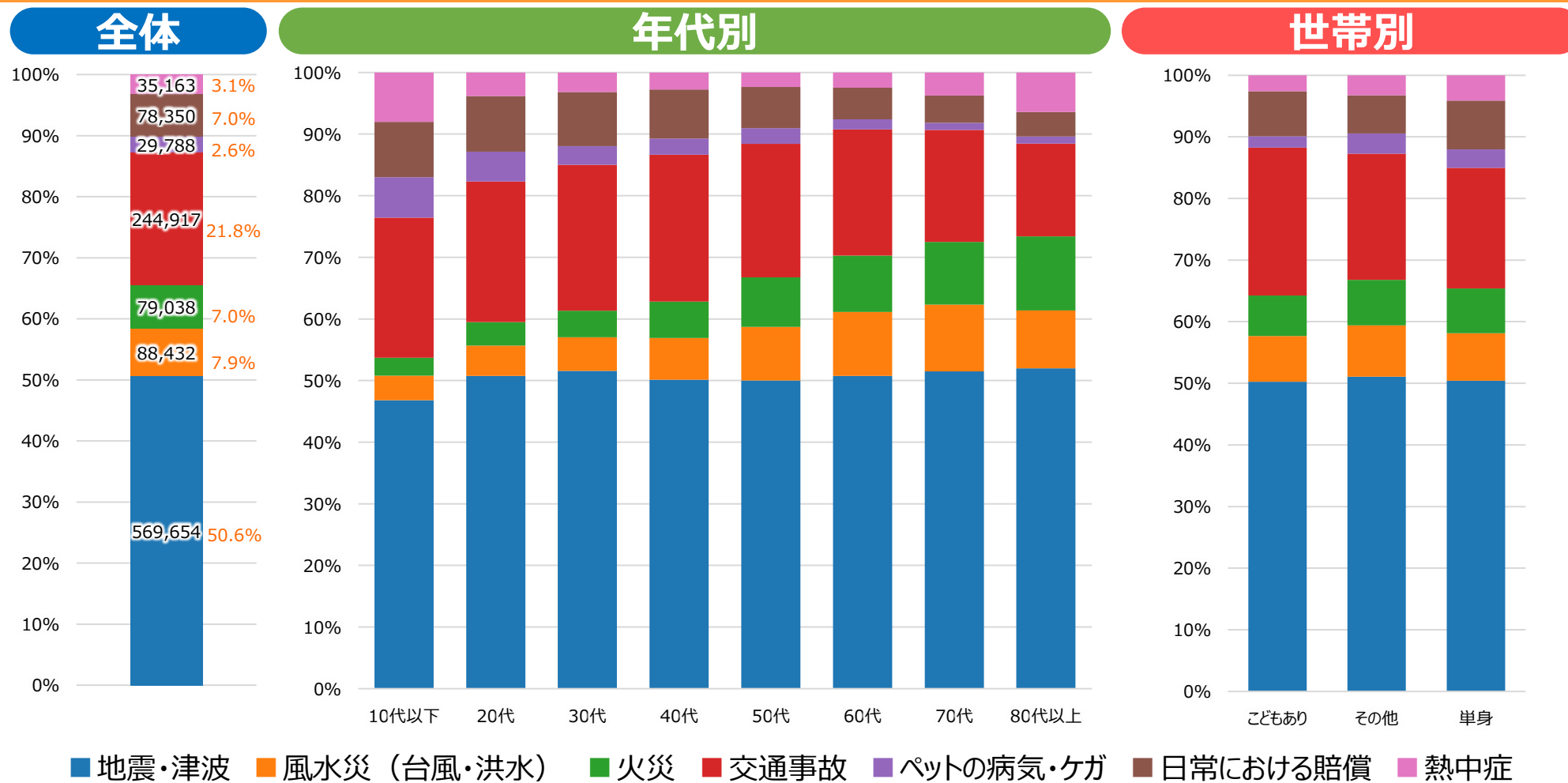
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高い
- 次に「取締り・罰則の強化」の割合が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



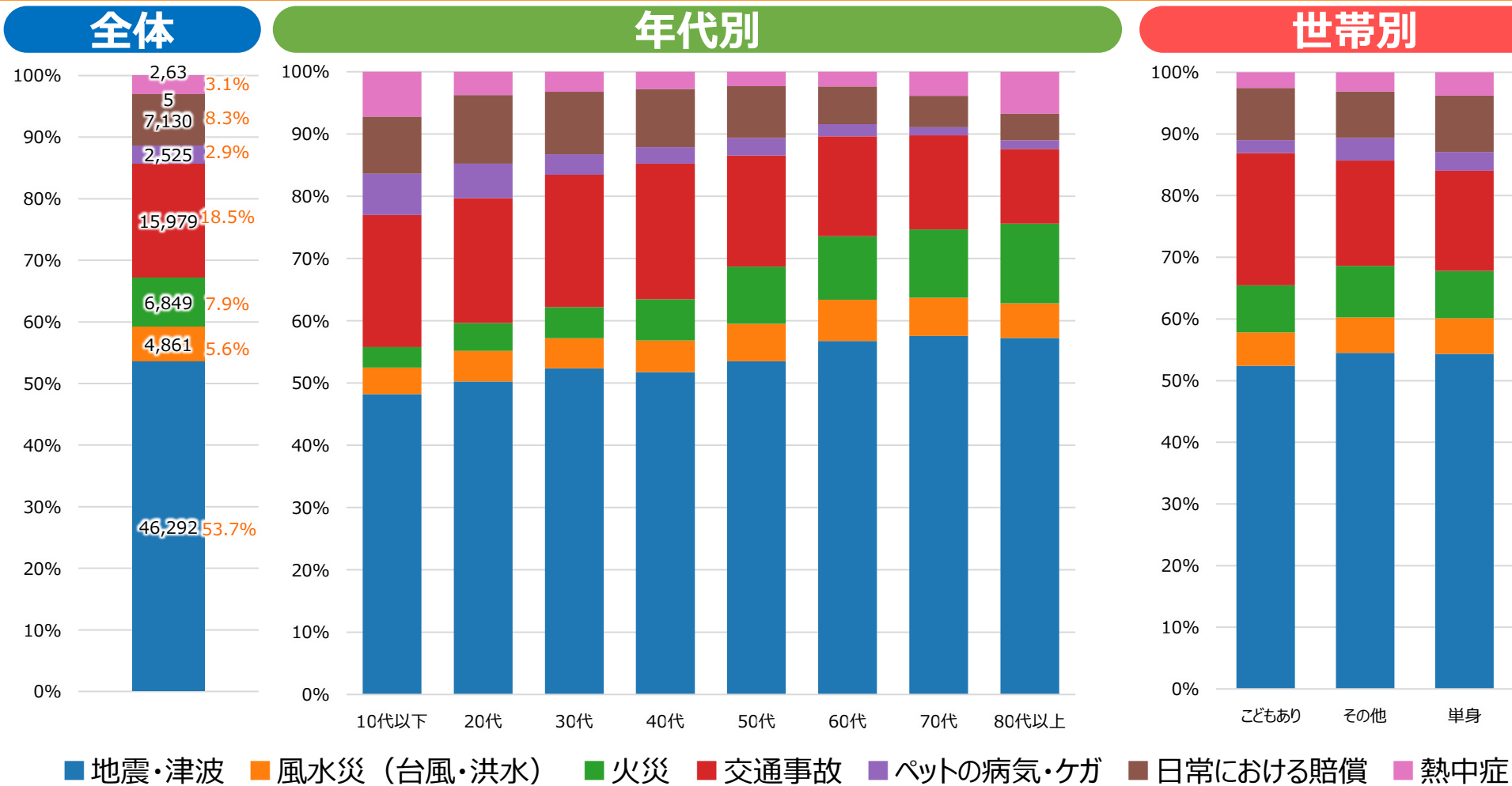
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

東京都

単位：名

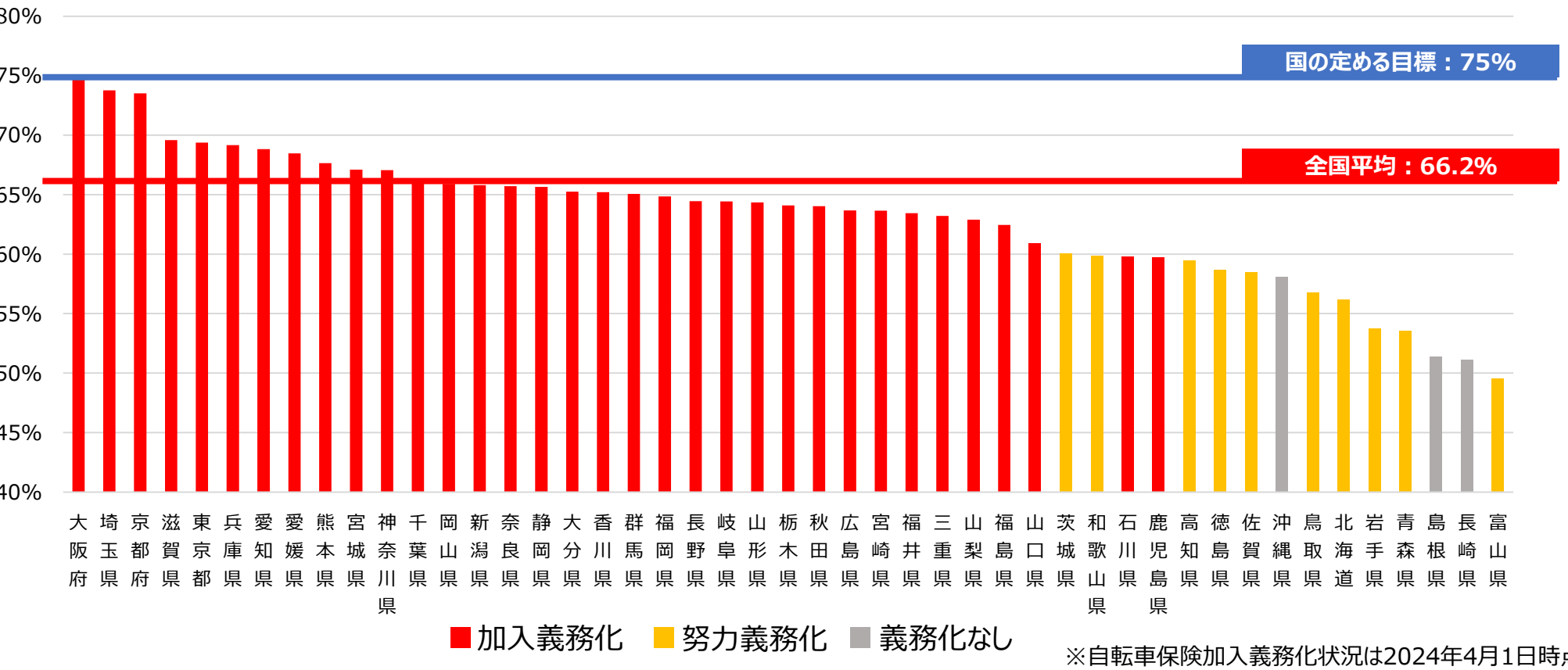
東京都



- 全国と同様「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



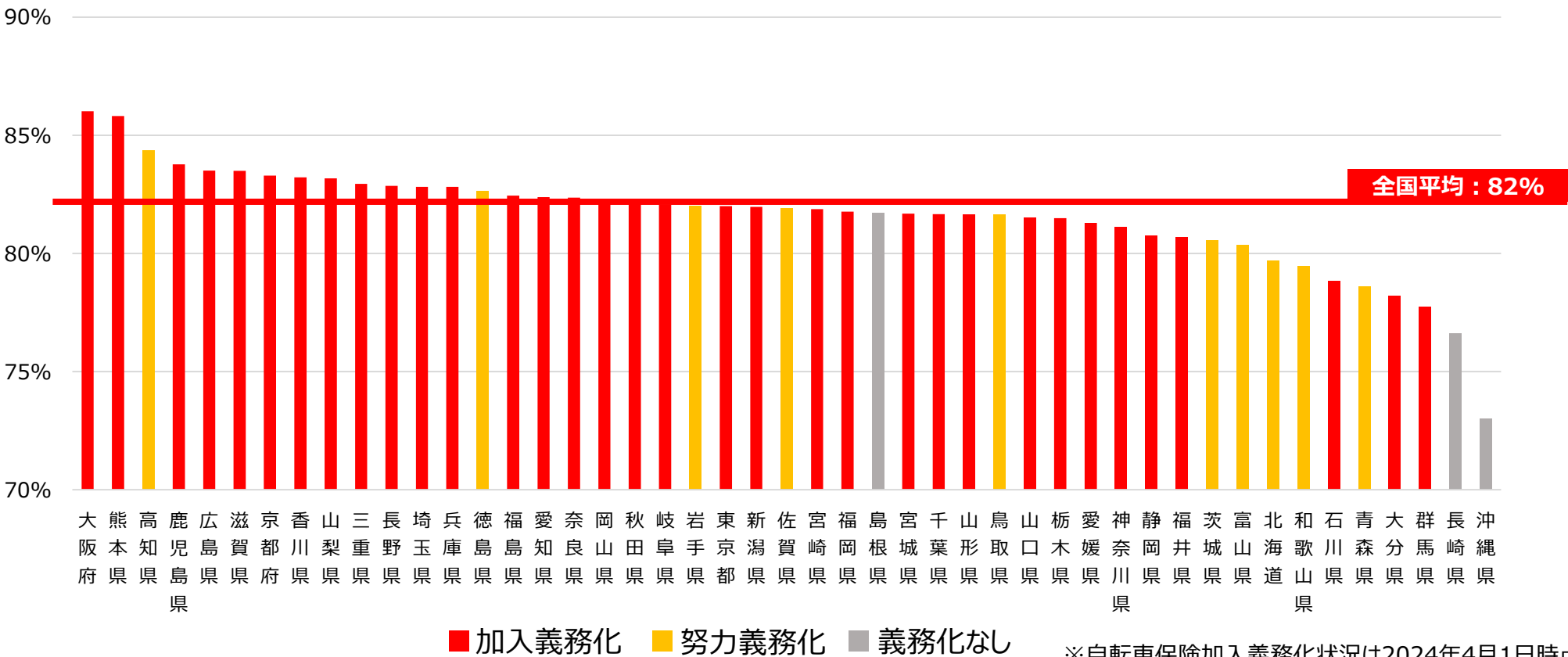
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



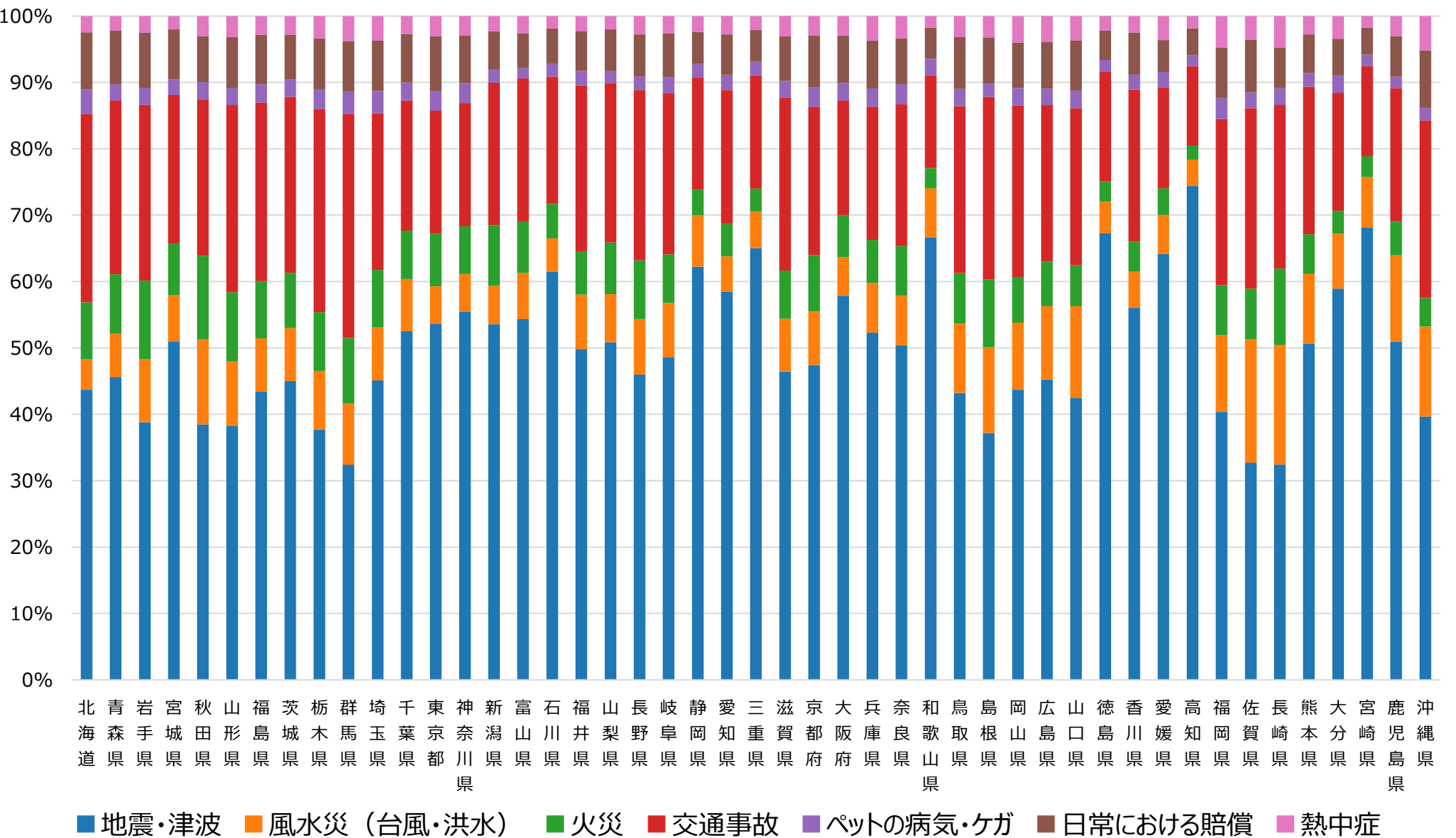
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名



2025年度 「交通安全に関するアンケート」 集計結果について ～交通事故の抑止・減少にむけて～

**日本生命は47都道府県と包括連携協定等を締結し、
地域に根差した取組みを進めています**

日本生命グループは、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指し、
「人」「地域社会」「地球環境」の3領域に取組み、サステナビリティ経営を推進しています。



NISSAY

日本生命保険相互会社
地域振興支援室

はじめに

日本生命グループは『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』を目指し、「人」「地域社会」「地球環境」のサステナビリティ向上に向けた取組みを行っています。このうち「地域社会」領域では、全国47都道府県や、多くの市区町村との連携協定に基づき、それぞれの地域・社会の課題に応じた多様な協働取組みを進めています。

2025年度からは、「**につせーのせ！地域振興寄付金**」の取組みを開始しました。
当寄付金は、地域の安全・健康・福祉の向上を目的に、**アンケート1件につき10円**を、全国の交通安全協会および日本赤十字社へ寄付する仕組みです。
地域の皆さまと“ともに”地域課題の解決に取り組む、新たな地域貢献活動の形となります。



また、2024年度より開始した「**交通安全啓発活動**」では、地域の交通事故の抑止・減少に向けて取組んでおり、交通安全に関する情報提供やセミナー・イベントの開催を通じて、地域の皆さまに交通安全への意識を高めていただくことを目的としています。活動の一環である、当社営業職員約5万名による、地域の皆さまへの交通安全に関する意識実態調査「交通安全アンケート」では、**1,125,342件**のご回答につき、**総額11,253,420円**を全国47都道府県の交通安全協会へ寄付いたしました。
当寄付金は、交通安全教育や事故防止対策など、各地域の安全に関わる取組みに活用されます。

本報告書では、同アンケートの全国および都道府県別の集計結果を掲載しております。自治体における交通安全施策のご検討の一助となれば幸いです。

日本生命は、地域の交通安全意識の向上と、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。

神奈川県との 連携協定締結状況	
締結日	2019/02/04
①	S D G s の普及啓発 に関すること
②	健康増進に関すること
③	未病を改善する取組に関すること
④	人生100歳時代の設計図の 取組に関すること
⑤	共生社会の推進に関すること

他4項目

はじめに

アンケート期間：2025年3月25日(火)～2025年7月27日(日)

回答者数：1,125,342名（男性：529,208名、女性：596,134名）

実施方法：「交通安全アンケート回答のお願い」でのWEBアンケート調査

実施主体：日本生命保険相互会社



「交通安全アンケート回答のお願い」ピラ

アンケート項目

- Q1** 現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？（複数選択）
- Q2** ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？
- Q3** （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。
- Q4** 2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか？ **新設**
- Q5** （Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？ **新設**
- Q6** 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？
- Q7** 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？（複数選択）

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q2 ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

ポイント

加入率是对前年横ばいで推移。
20代と60代以降の自転車保険加入率は約6割と低位。

Q3 （Q2で「いいえ」と回答した方）自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

ポイント

「義務化を知らない」という回答の割合が対前年減少も、
「必要性を感じない」という回答が対前年増加し、全体の約7割を占める。

行動変容

2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化。

2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の**約半数**は、**昨年度「必要性を感じない」と回答**していた。保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる。

アンケート項目と集計結果のポイント（全国データより）

Q4

2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が
厳罰化されたことをご存知ですか？

ポイント

「よく知らない」「全く知らない」の回答割合は全体の約**2割**を占める。

Q5

（Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方）
Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

ポイント

「**ニュース番組**」で知ったと回答した人が最も多く約**7割**を占める。

Q6

交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

ポイント

「**交通安全意識の啓発や交通ルールの教育**」の割合が最も高く、
次に「**道路環境の整備**」が高い。

Q7

暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

ポイント

「**地震・津波**」が半数を占め、次いで「**交通事故**」が高い。

回答結果

回答者数・自転車利用者数（年代別・男女別）

全国

	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	25,007	2.2%	12,777	2.4%	12,230	2.1%
20代	133,583	11.9%	67,177	12.7%	66,406	11.1%
30代	169,024	15.0%	80,199	15.2%	88,825	14.9%
40代	192,075	17.1%	89,425	16.9%	102,650	17.2%
50代	259,081	23.0%	119,310	22.5%	139,771	23.4%
60代	204,248	18.1%	94,768	17.9%	109,480	18.4%
70代	109,494	9.7%	50,117	9.5%	59,377	10.0%
80代～	32,830	2.9%	15,435	2.9%	17,395	2.9%
合計	1,125,342	100.0%	529,208	100.0%	596,134	100.0%
2024年度	373,505	100.0%	175,637	100.0%	197,868	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	22,355	89.4%	11,514	90.1%	10,841	88.6%
20代	102,880	77.0%	52,312	77.9%	50,568	76.1%
30代	135,366	80.1%	64,067	79.9%	71,299	80.3%
40代	163,087	84.9%	75,687	84.6%	87,400	85.1%
50代	211,898	81.8%	98,978	83.0%	112,920	80.8%
60代	159,470	78.1%	75,557	79.7%	83,913	76.6%
70代	81,597	74.5%	38,090	76.0%	43,507	73.3%
80代～	21,786	66.4%	10,561	68.4%	11,225	64.5%
合計	898,439	79.8%	426,766	80.6%	471,673	79.1%

神奈川県

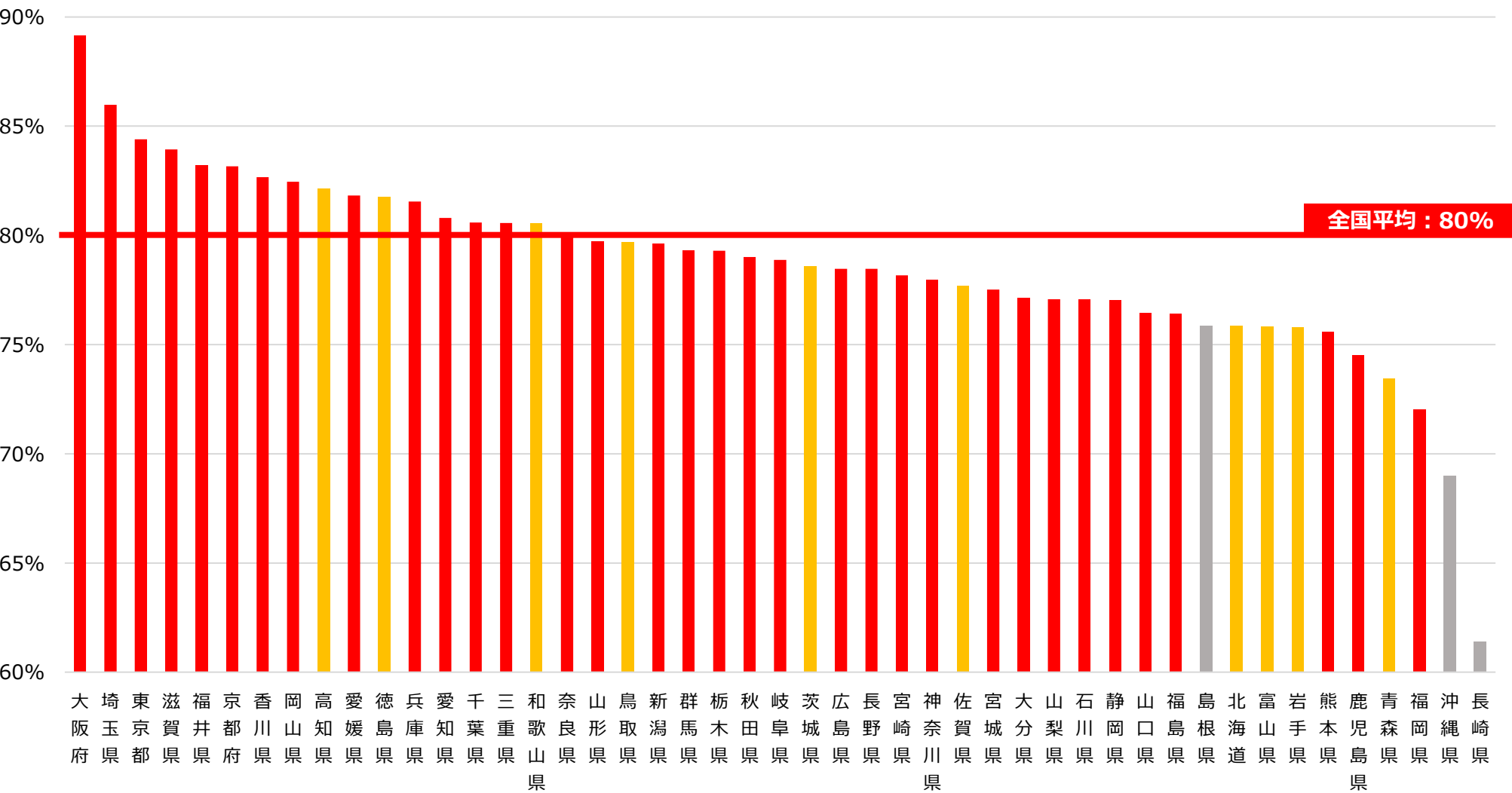
	全体		男性		女性	
	(名)	対総数	(名)	対総数	(名)	対総数
～10代	1,101	1.8%	550	1.8%	551	1.9%
20代	7,370	12.3%	3,665	12.0%	3,705	12.5%
30代	8,453	14.1%	4,226	13.8%	4,227	14.3%
40代	9,461	15.7%	4,735	15.5%	4,726	16.0%
50代	15,263	25.4%	7,894	25.8%	7,369	25.0%
60代	11,578	19.3%	6,133	20.0%	5,445	18.4%
70代	5,405	9.0%	2,688	8.8%	2,717	9.2%
80代～	1,488	2.5%	699	2.3%	789	2.7%
合計	60,119	100.0%	30,590	100.0%	29,529	100.0%
2024年度	22,087	100.0%	11,402	100.0%	10,685	100.0%

	全体		男性		女性	
	(名)	利用率	(名)	利用率	(名)	利用率
～10代	973	88.4%	496	90.2%	477	86.6%
20代	5,582	75.7%	2,820	76.9%	2,762	74.5%
30代	6,652	78.7%	3,326	78.7%	3,326	78.7%
40代	7,804	82.5%	3,875	81.8%	3,929	83.1%
50代	12,227	80.1%	6,393	81.0%	5,834	79.2%
60代	8,686	75.0%	4,709	76.8%	3,977	73.0%
70代	3,953	73.1%	2,015	75.0%	1,938	71.3%
80代～	998	67.1%	482	69.0%	516	65.4%
合計	46,875	78.0%	24,116	78.8%	22,759	77.1%

回答者数

自転車利用者数

都道府県別自転車利用率



加入義務化

努力義務化

義務化なし

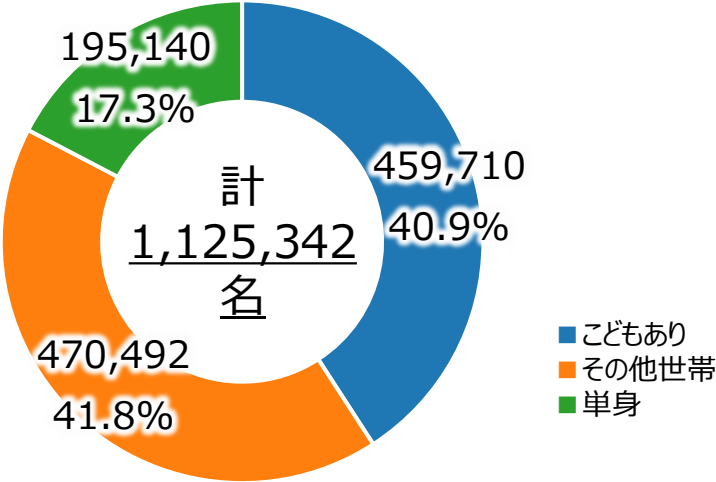
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点
出典：国土交通省公式HP「自転車損害賠償責任保険等への加入促進について」
<<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/promotion/index.html>>

回答者 世帯構成・年代構成

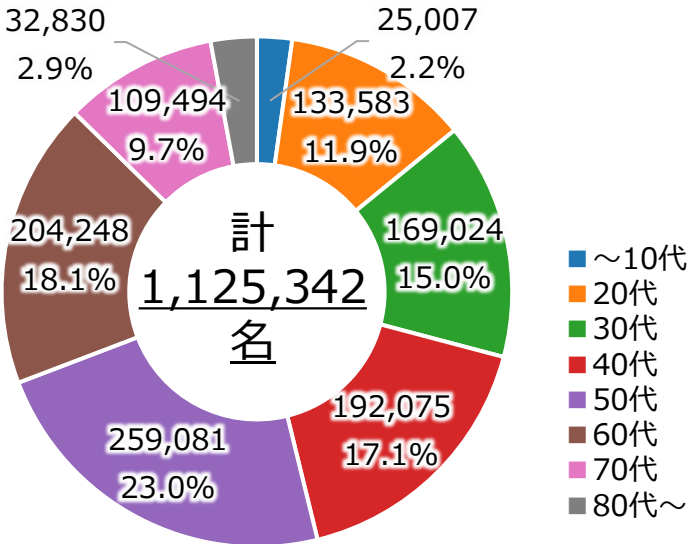
(Q1.現在、一緒にお住まいの方はいらっしゃいますか？より)

全国

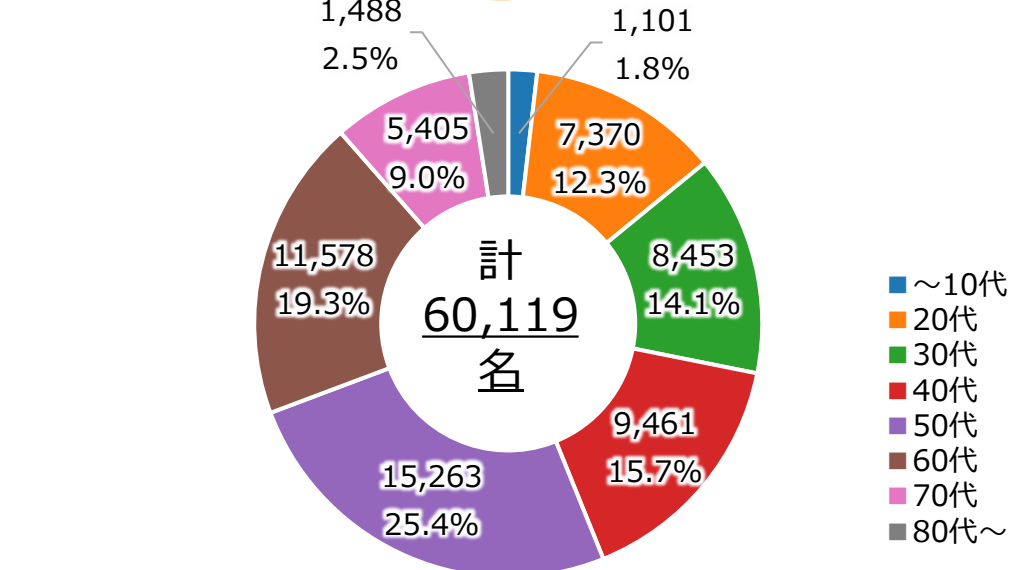
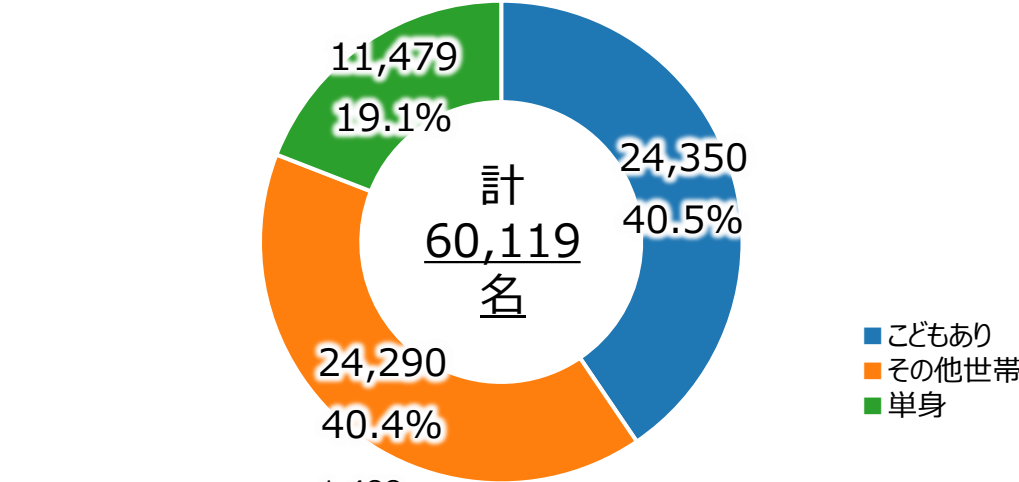
世帯構成別



年代別



神奈川県



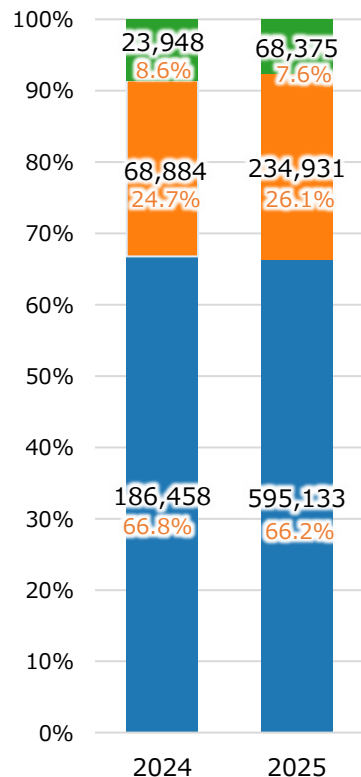
Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

全国

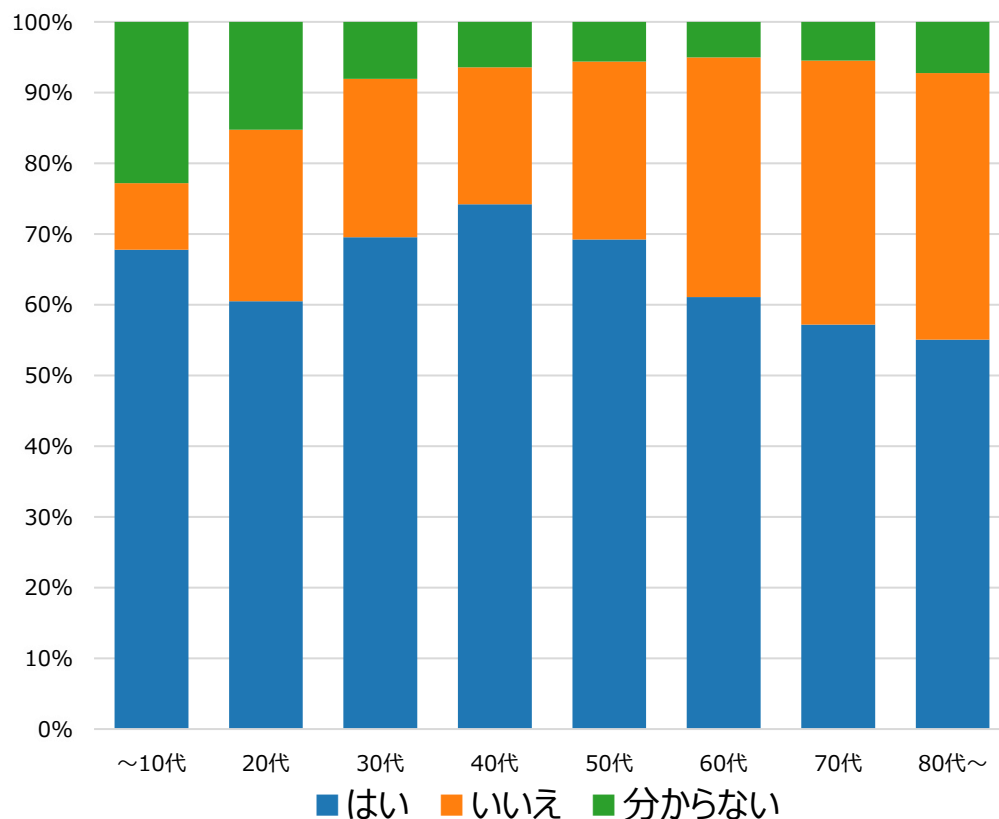
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

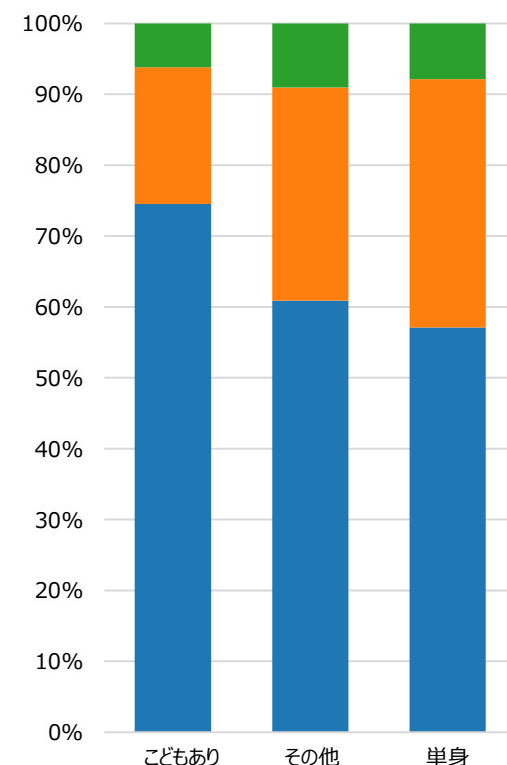
全体



年代別



世帯別



- 加入率是对前年横ばいで推移。40代の自転車保険加入率が高い一方で、20代や60代以上の加入率が低い
- こどもあり世帯は他世帯と比べて加入率が高い

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

自治体におかれては、このような世代ごとの加入率の状況も意識しながら、効果的な広報・啓発活動に取り組んでいただくようお願いします。

Q2.ご自身（同居の方も含む）は自転車保険に加入していますか？

神奈川県

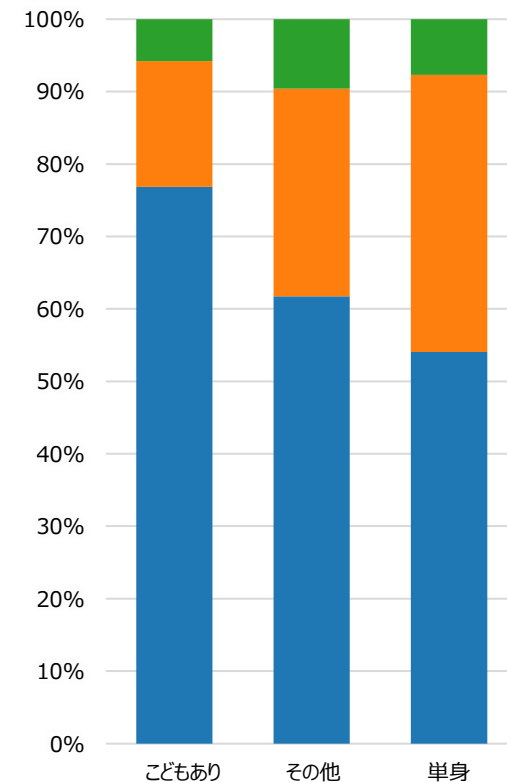
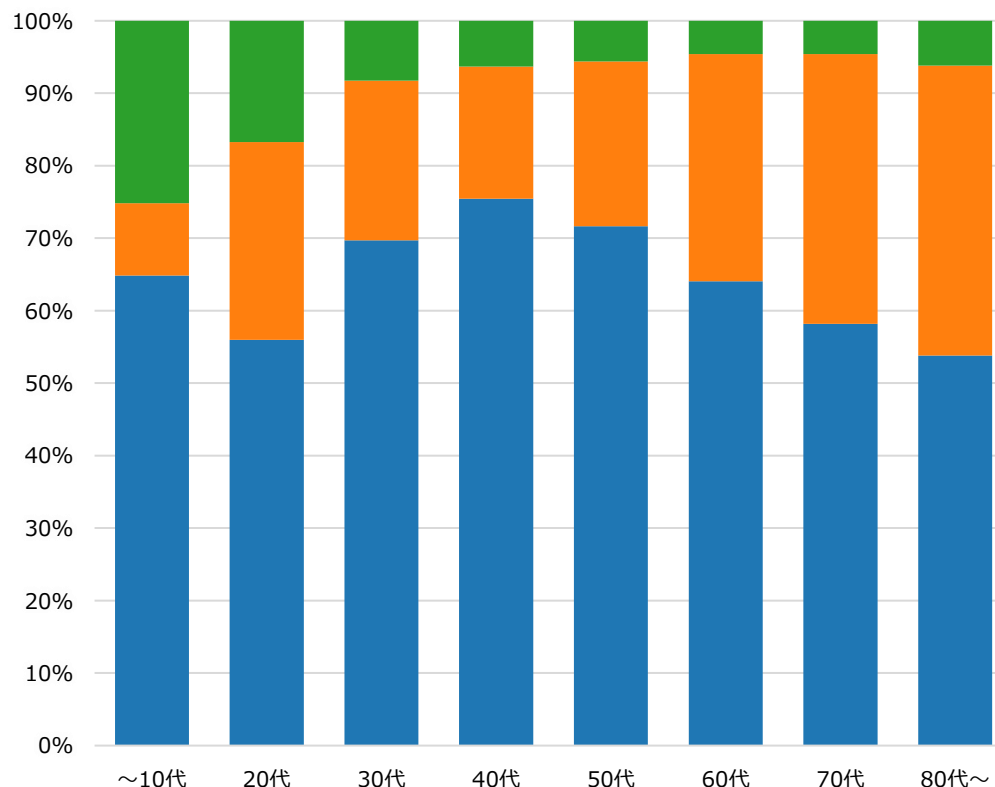
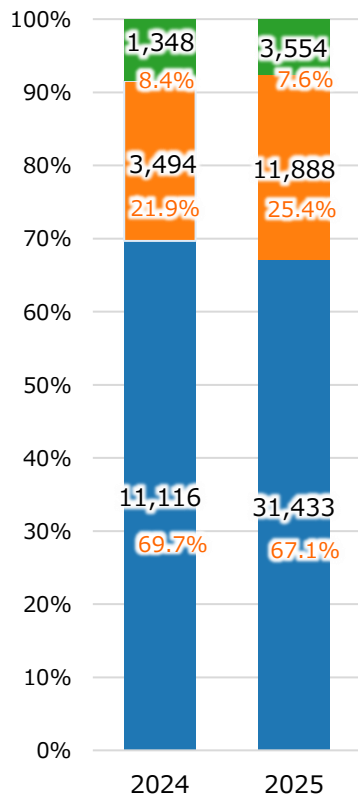
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

単位：名

全体

年代別

世帯別



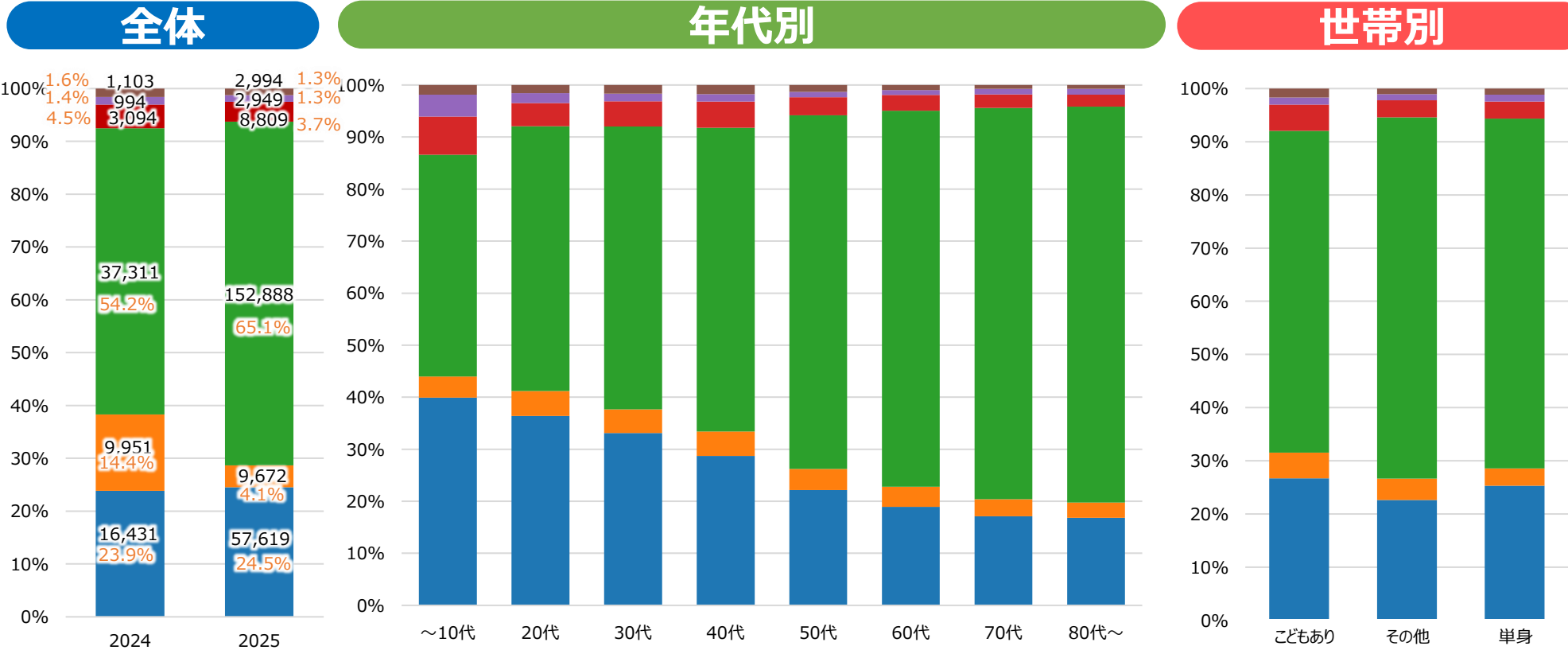
■ はい ■ いいえ ■ 分からない

- 加入率は対前年減少（▲3Pt）、全国と比較すると高位（+1Pt）

Q3. (Q2で「いいえ」と回答した方) 自転車保険に加入していない理由のうち、最もあてはまるものを選択してください。

全国

単位：名



■ きっかけがなかった ■ (努力)義務化を知らなかったから/されていないから ■ 必要性を感じないから
 ■ どの保険に加入して良いかわからなかったから ■ 入り方がわからなかったから ■ 保険料が高いから

- 未加入理由は、「義務化を知らない」が対前年減少（▲10Pt）
- 年齢が高齢になるにつれて、「必要性を感じない」が増加する傾向

国土交通省 自転車活用推進本部事務局 コメント

関係各所におかれては、自転車保険の必要性を訴える等、継続した広報・啓発活動等により、一層の加入率向上に繋げていただきますようお願いいたします。

單位：名



- 未加入理由は、全国と同様に「義務化を知らない」が対前年減少（▲9Pt）

2年連続回答者の自転車保険加入状況

全国

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:898,439名のうち、94,309名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 16,302 名	② 10,839 名
	加入	7,274 名	59,894 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度 未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	25.0%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	6.6%
加入方法がわからなかったから	1.6%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	16.7%
保険料が高いから	2.0%
必要性を感じないから	48.1%

2024年度「自転車保険加入なし」の27,141名(① + ②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

2年連続回答者の自転車保険加入状況

神奈川県

単位：名

2年連続回答者の自転車保険加入状況
(2年連続回答者：全回答者:46,875名のうち、5,197名)
※「自転車を利用しない」と回答した方は除く

		2025年度自転車保険	
		未加入	加入
2024年度 自転車保険	未加入	① 798 名	② 505 名
	加入	365 名	3,529 名

「加入あり」に変化した人の2024年度の未加入理由

■ 2024年度「加入なし」・2025年度「加入あり」の回答者

2024年度未加入理由	縦占率
きっかけがなかったから	24.4%
どの保険に加入して良いかわからなかったから	9.7%
加入方法がわからなかったから	1.0%
(努力) 義務化を知らなかったから (されてないから)	18.2%
保険料が高いから	3.9%
必要性を感じないから	42.9%

2024年度「自転車保険加入なし」の1,303名(①+②)のうち、
約5人に2人が「自転車保険加入あり」に変化

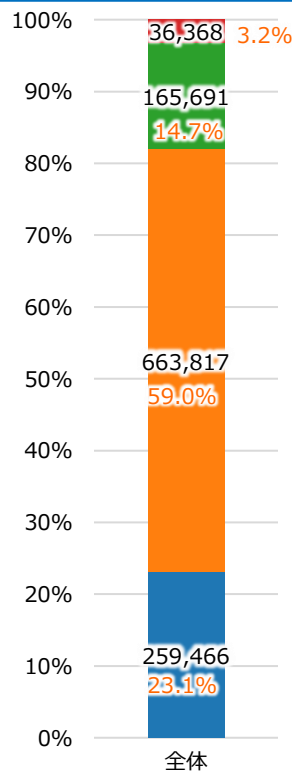
- 2024年度「自転車保険加入なし」と回答した約5人に2人が、「自転車保険加入あり」に変化
- 2024年度「自転車保険加入なし」から、2025年度「加入あり」に変化した回答者の約半数は、昨年度「必要性を感じない」と回答
保険の必要性を認識し、加入に至ったと考えられる

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

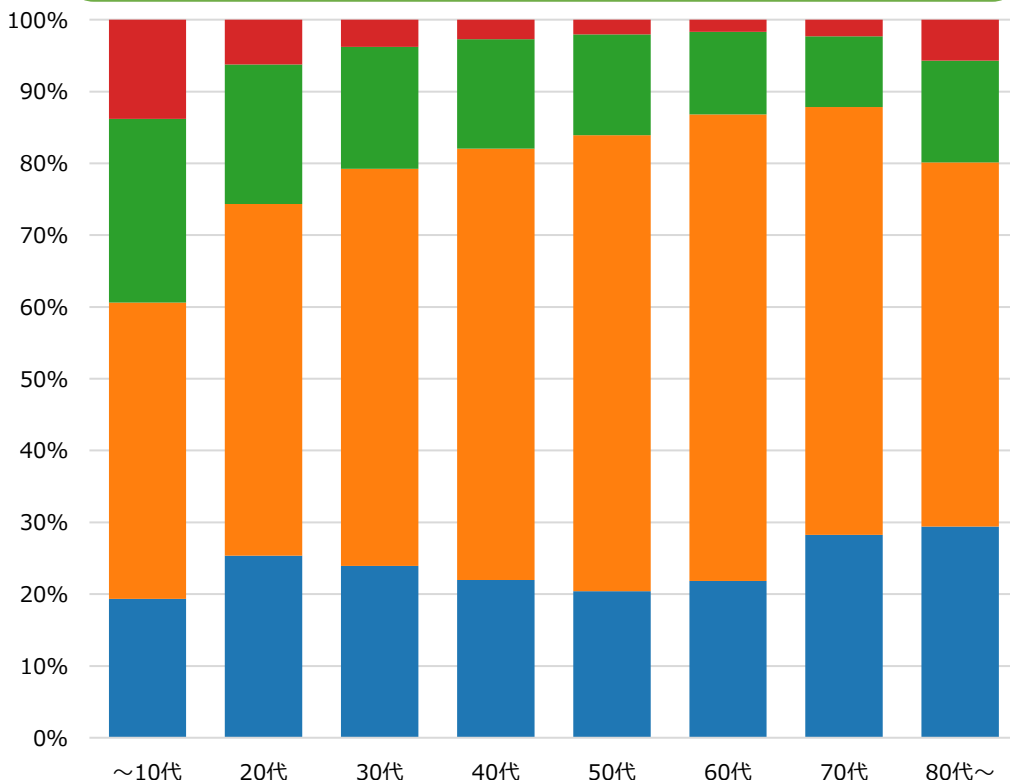
全国

単位：名

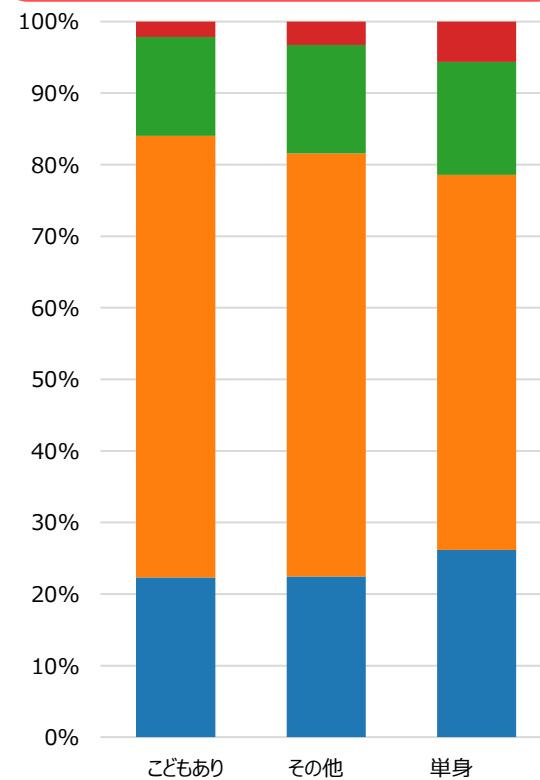
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

- 全体では、約8割の認知度だが、約2割が「よく知らない」「全く知らない」と回答
- 年代別では、10代以下の認知度が低く、年代が上がるほど認知度が高い傾向

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

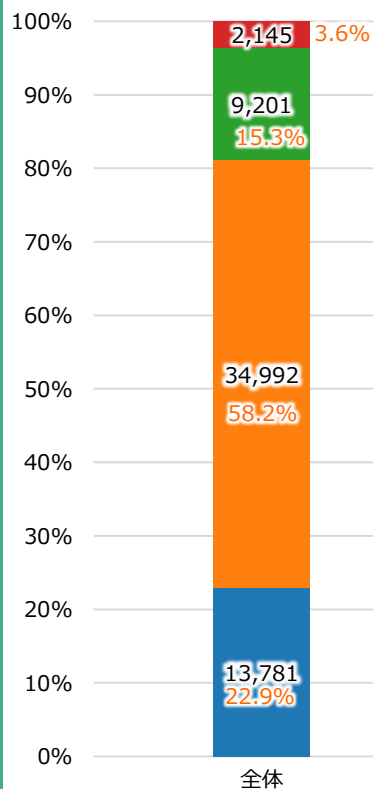
令和6年11月から自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化し、「酒気帯び運転」の罰則が新設されました。自転車の危険行為によって事故の相手方を死亡させてしまうこともあります。今一度、自転車の運転に関するルールを確認し、安全に自転車を利用するよう呼びかけをお願いします。

Q4.2024年11月より自転車の「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」が厳罰化されたことをご存知ですか。

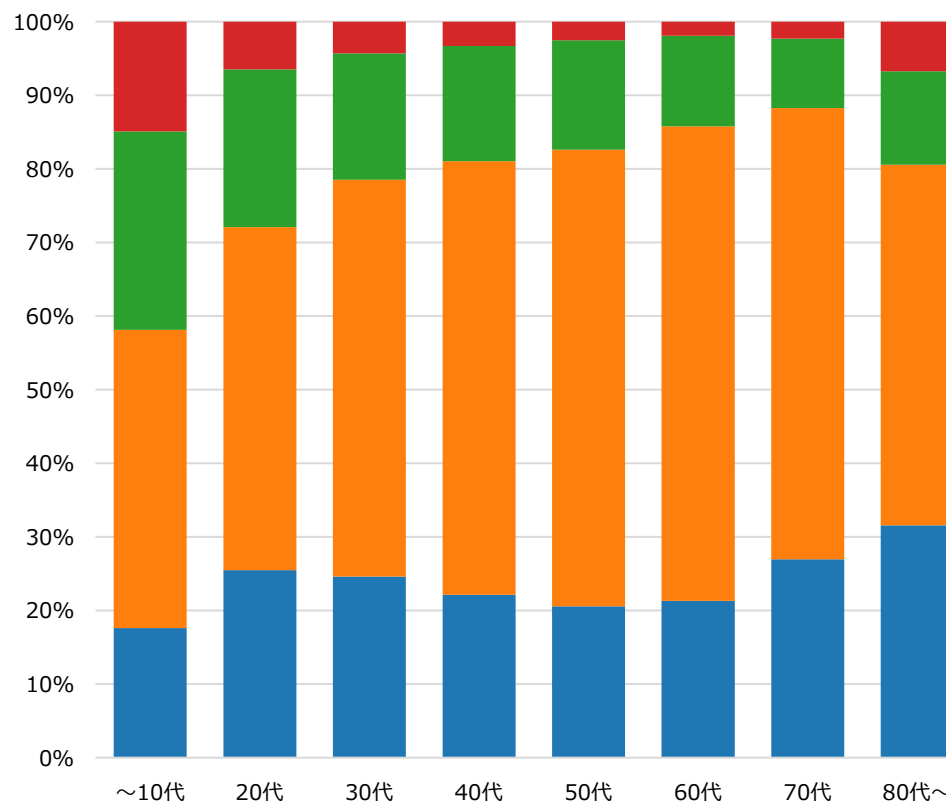
神奈川県

単位：名

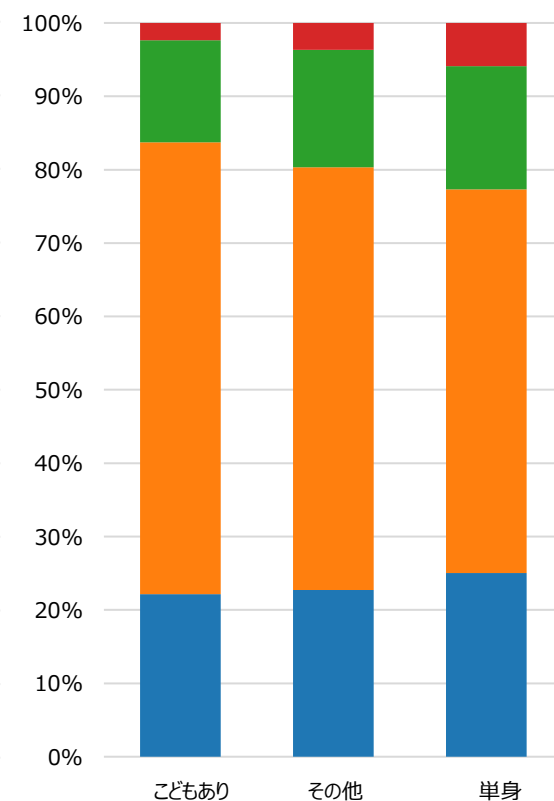
全体



年代別



世帯別



■ 詳しく知っている ■ 大体知っている ■ 聞いたことがあるがよく知らない ■ 全く知らない

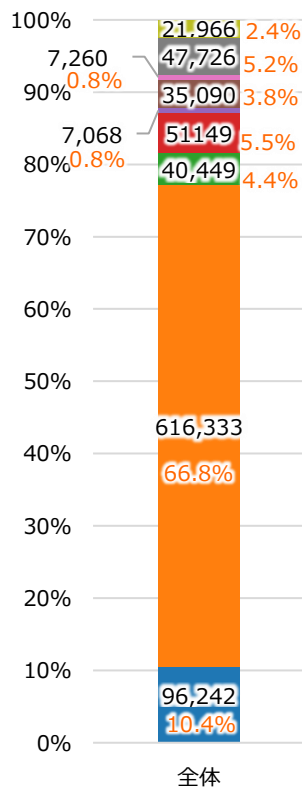
- 全体では認知度が約8割と、全国と同程度

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

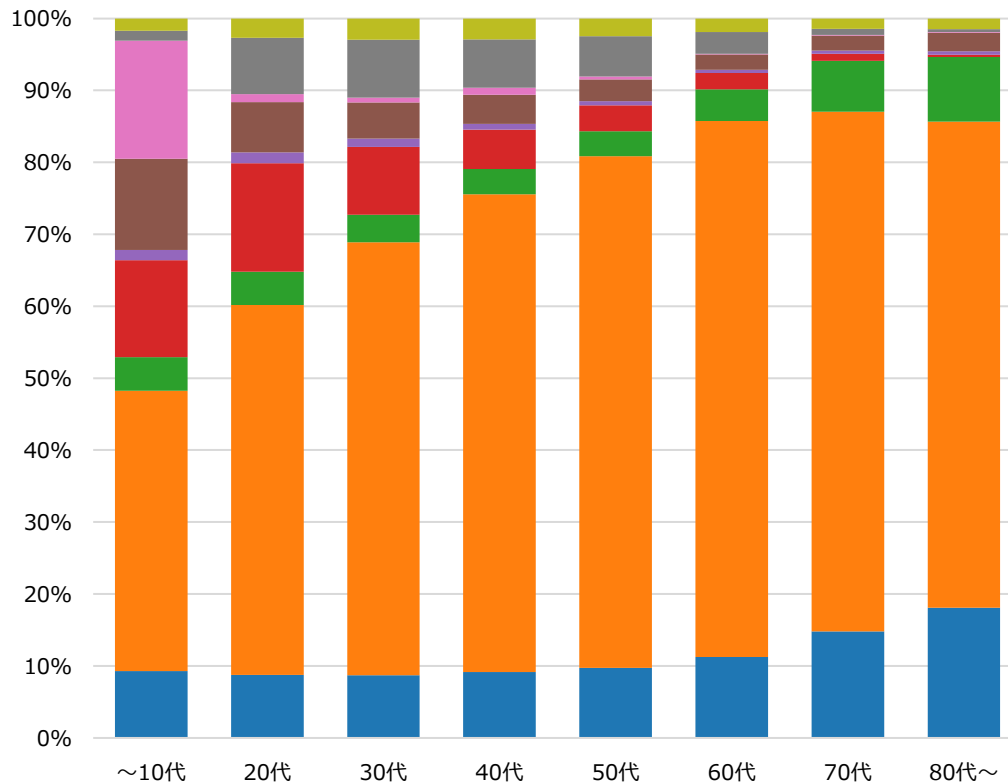
全国

単位：名

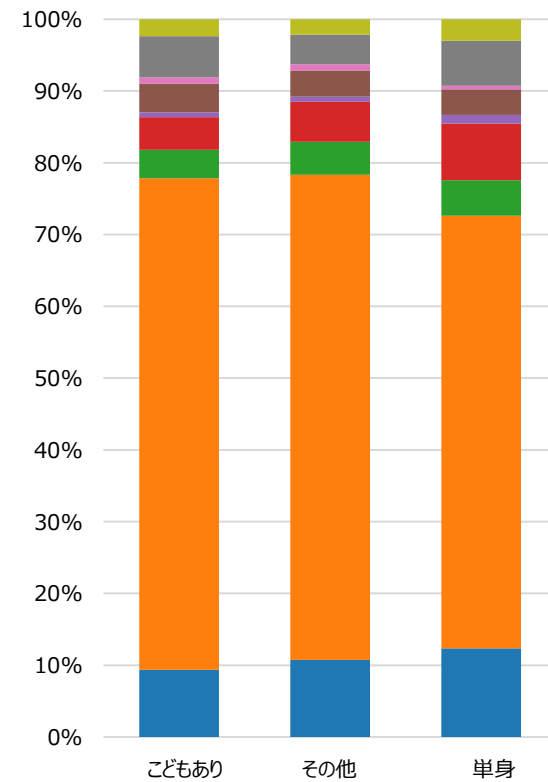
全体



年代別



世帯別



■ 雑誌新聞 ■ ニュース番組 ■ テレビCM ■ SNS ■ ポスター掲示 ■ 家族知人 ■ 学校 ■ 勤務先 ■ その他

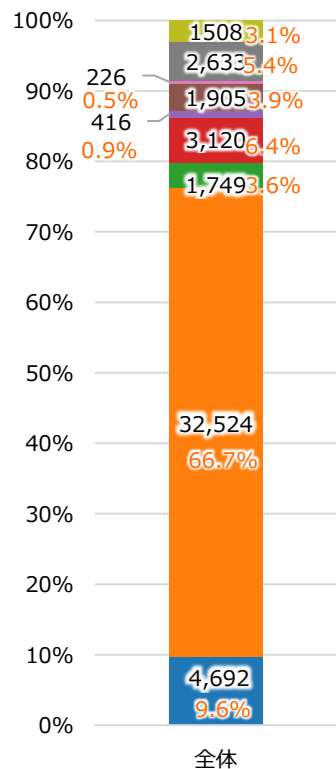
- 「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多く約7割を占める。10代以下は「学校」、20代以下は「SNS」の割合も高い

Q5. <Q4で「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方> Q4の厳罰化について、どこで知りましたか？

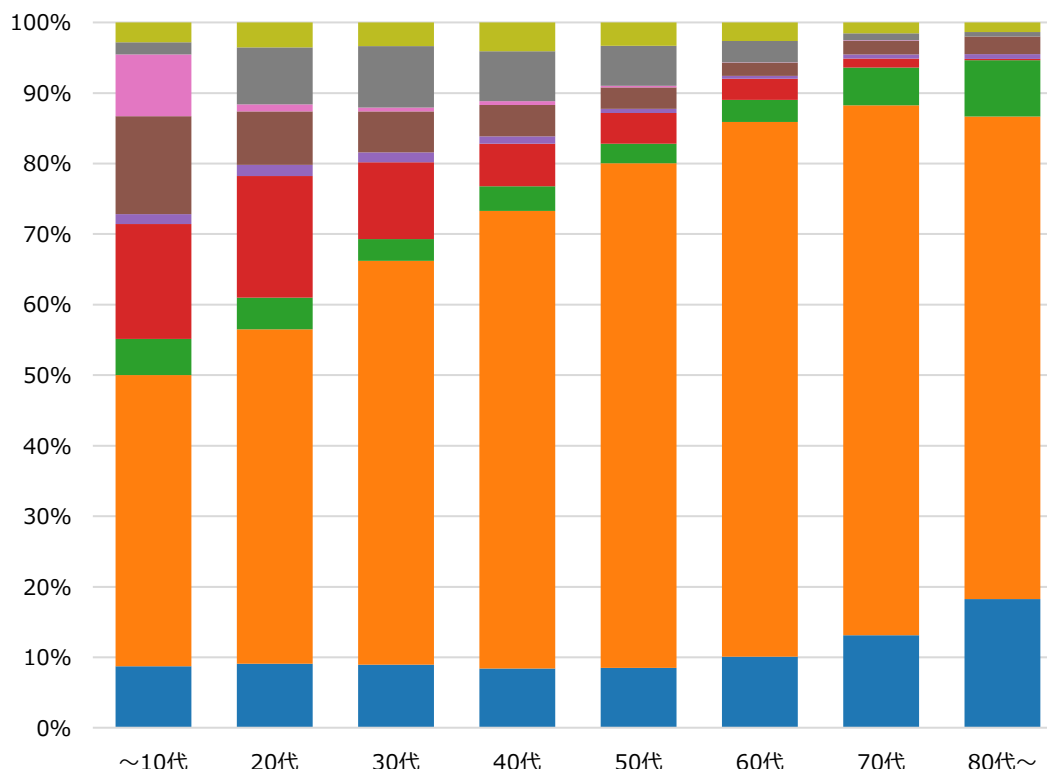
神奈川県

単位：名

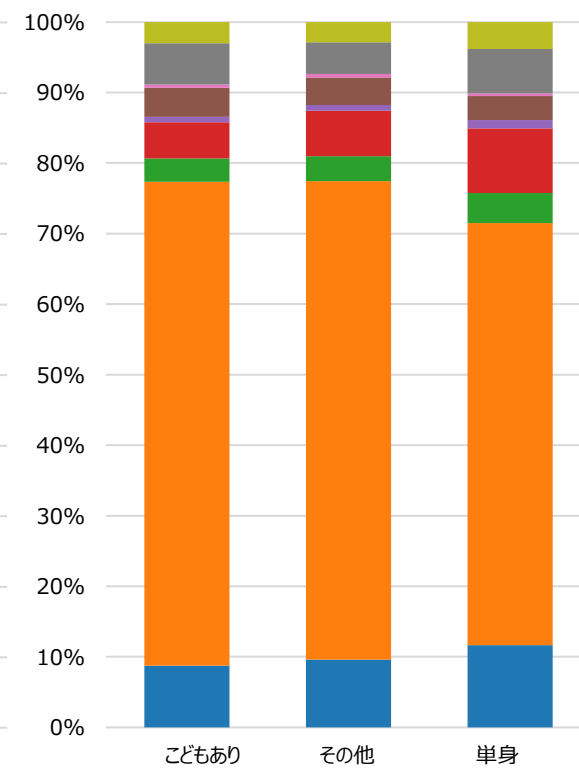
全体



年代別



世帯別



雑誌新聞 ニュース番組 テレビCM SNS ポスター掲示 家族知人 学校 勤務先 その他

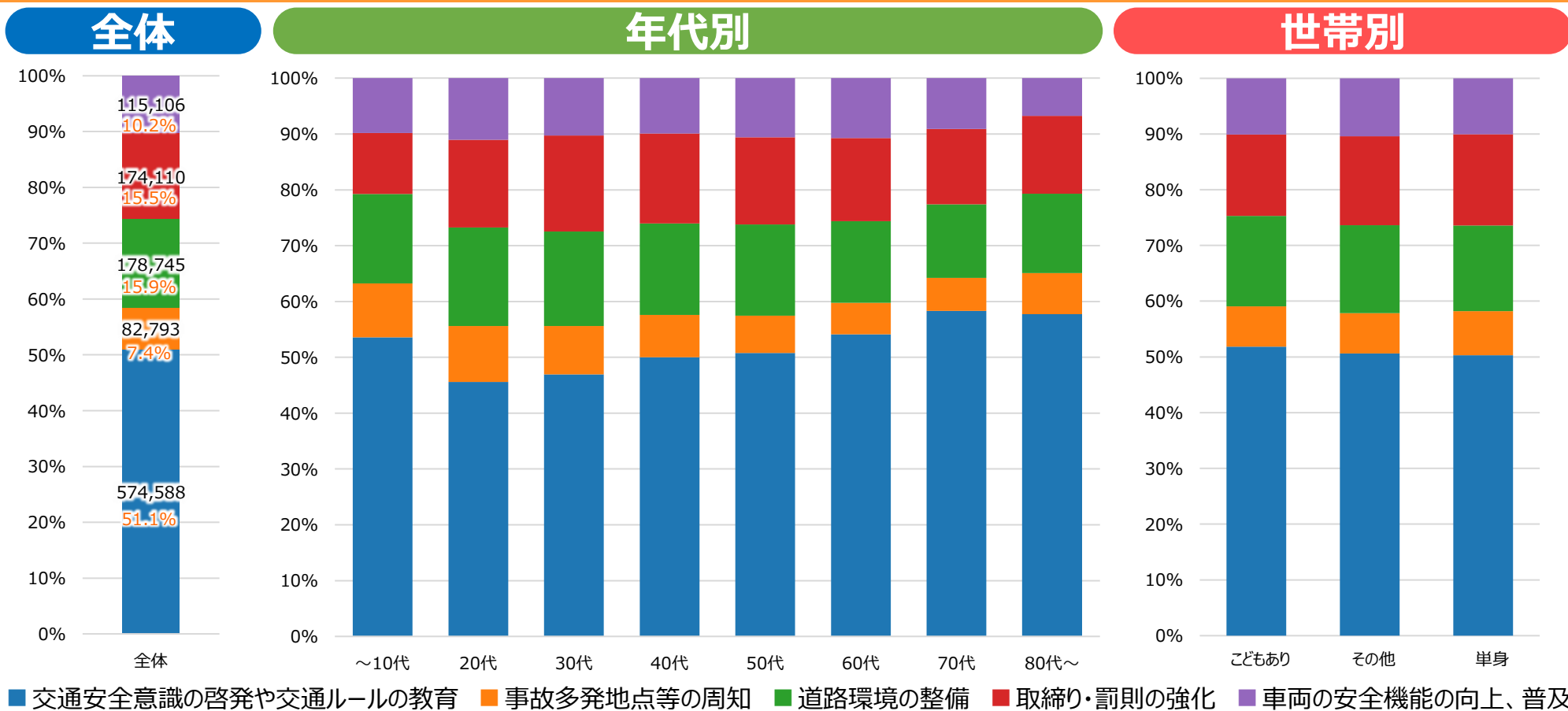
- 全国と同様、「ニュース番組」で知ったと回答した人が最も多い

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

全国

単位：名

全国



- 全体では「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高く、次に「道路環境の整備」が高い

警察庁 交通局 交通企画課 コメント

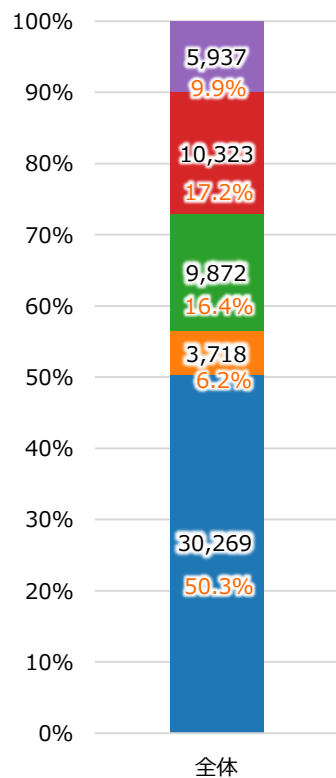
交通事故防止に最も必要と思う取組として、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」が過半数を占めています。警察としては、引き続き、地方自治体をはじめとする関係機関や団体等と連携し、交通安全教育の充実に努めるなど、交通ルールの周知徹底を図ってまいりたいと考えています。また、令和8年4月の自転車に対する交通反則通告制度の円滑な導入に向け、警察庁では、本年9月、「自転車ルールブック」を作成しておりますのでご覧ください。

Q6. 交通事故抑止に最も必要と思う取組は何ですか？

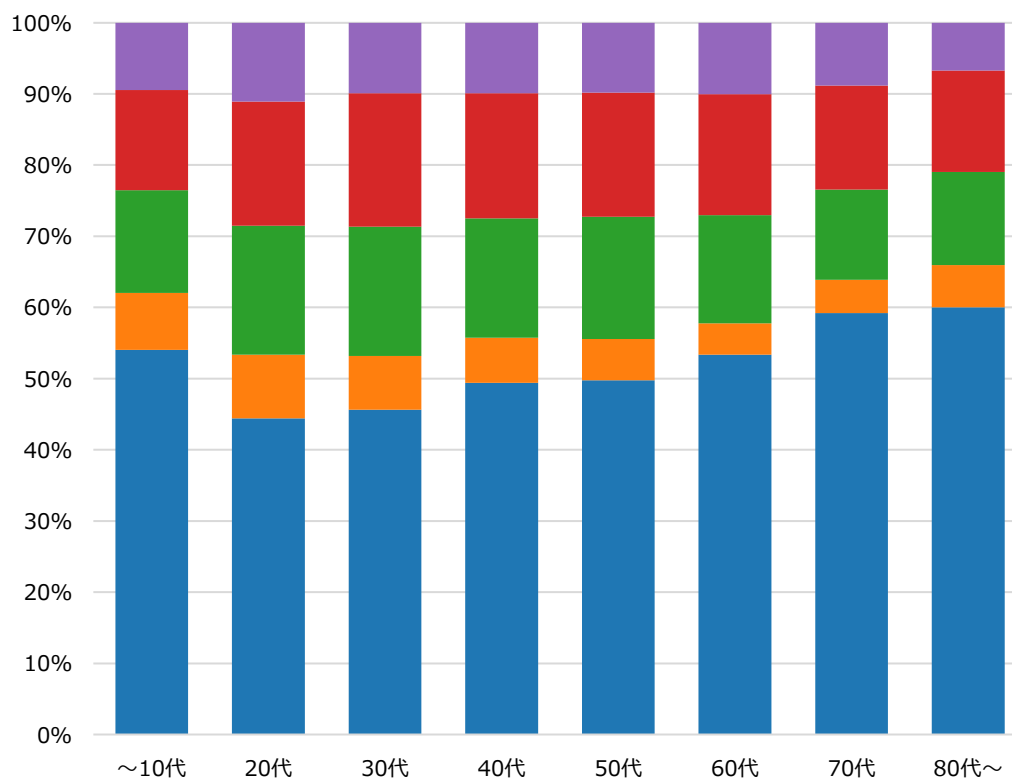
神奈川県

単位：名

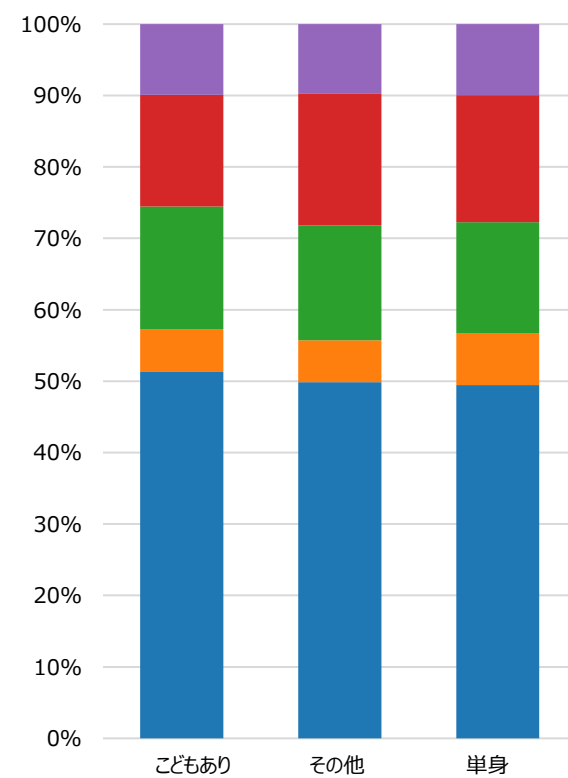
全体



年代別



世帯別



■ 交通安全意識の啓発や交通ルールの教育 ■ 事故多発地点等の周知 ■ 道路環境の整備 ■ 取締り・罰則の強化 ■ 車両の安全機能の向上、普及

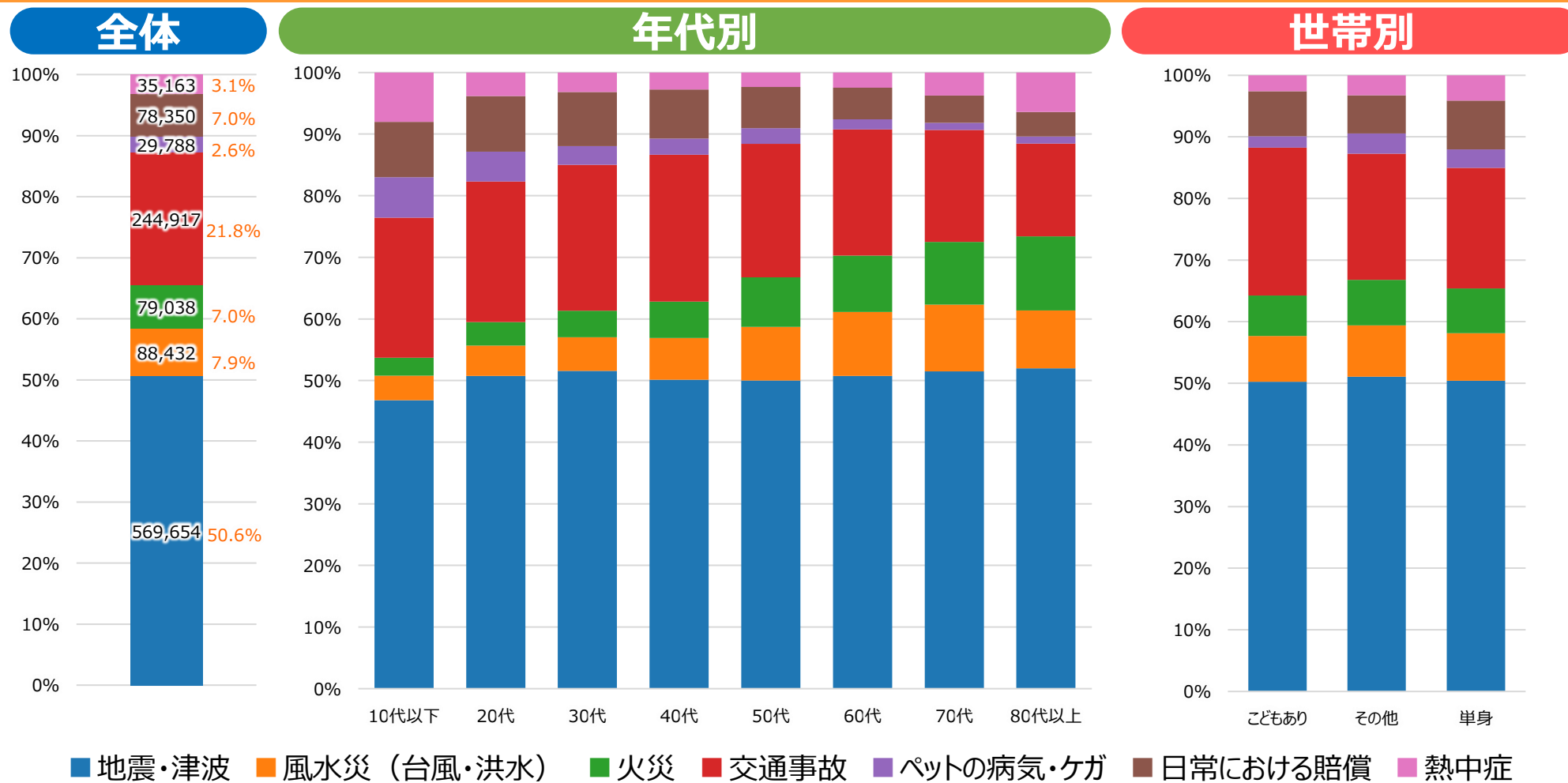
- 全国同様、「交通安全意識の啓発や交通ルールの教育」の割合が最も高い
- 次に「取締り・罰則の強化」が高い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

全国

単位：名

全国



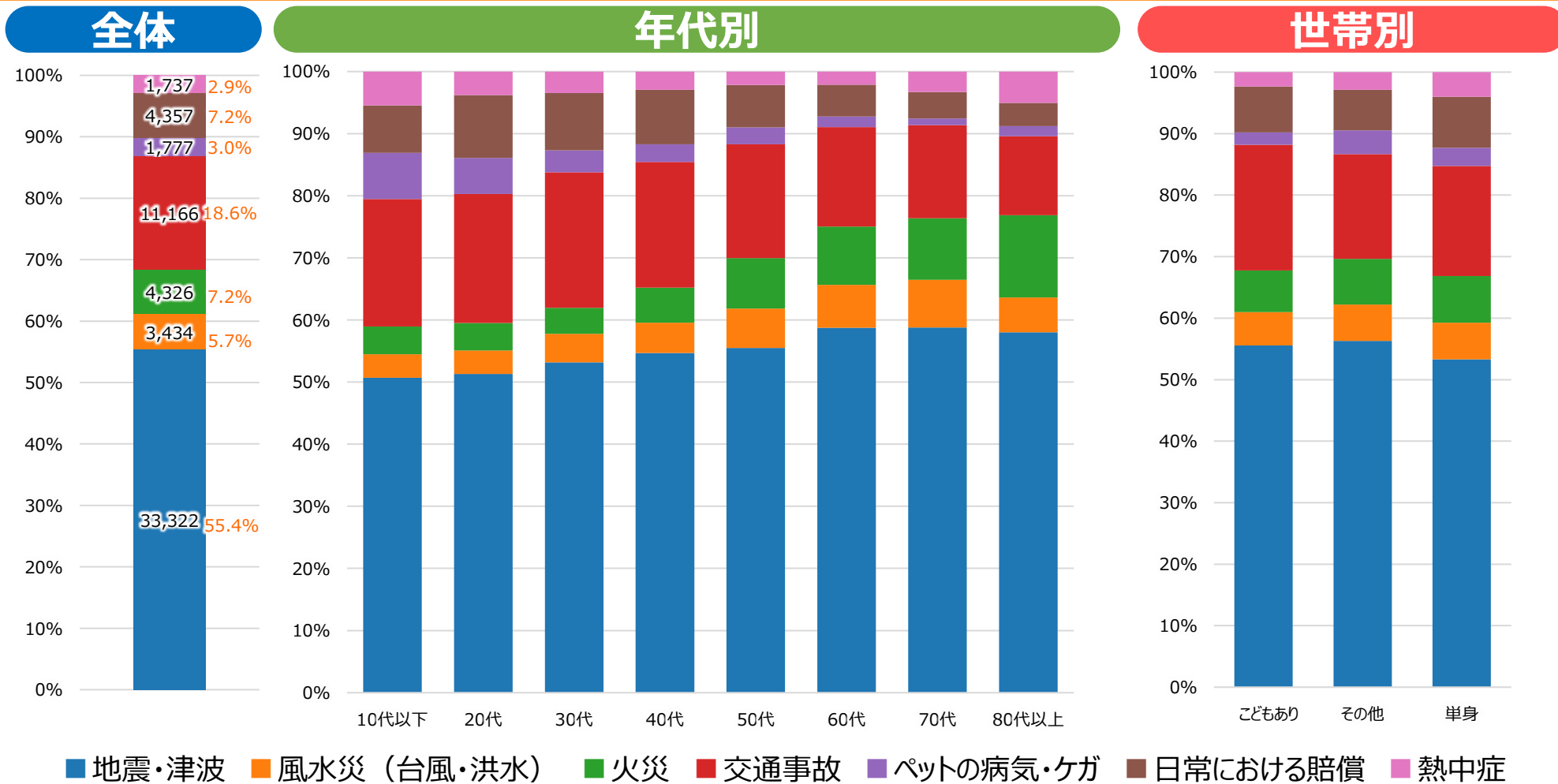
- 「地震・津波」という回答が全体の50%と最も多く、次いで「交通事故」が多い

Q7. 暮らしに関わる次のリスクのうち、最も心配なものはどれですか？

神奈川県

単位：名

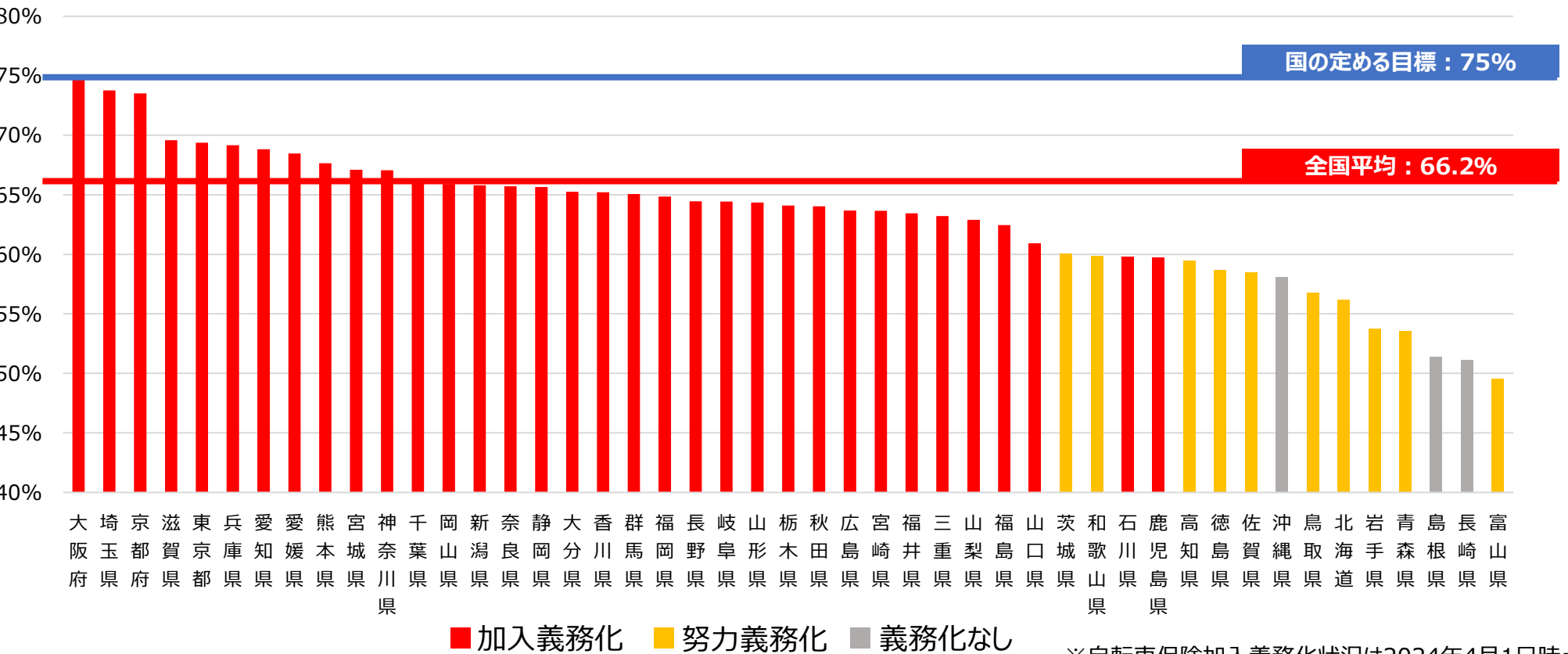
神奈川県



- 神奈川県では、「地震・津波」という回答が最も多く、次いで「交通事故」が多い
- 全国と比較して「地震・津波」の割合が高い（+5Pt）

都道府県別 自転車保険加入状況

(※Q2.「自転車を利用しない」と回答した方は除く)



※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

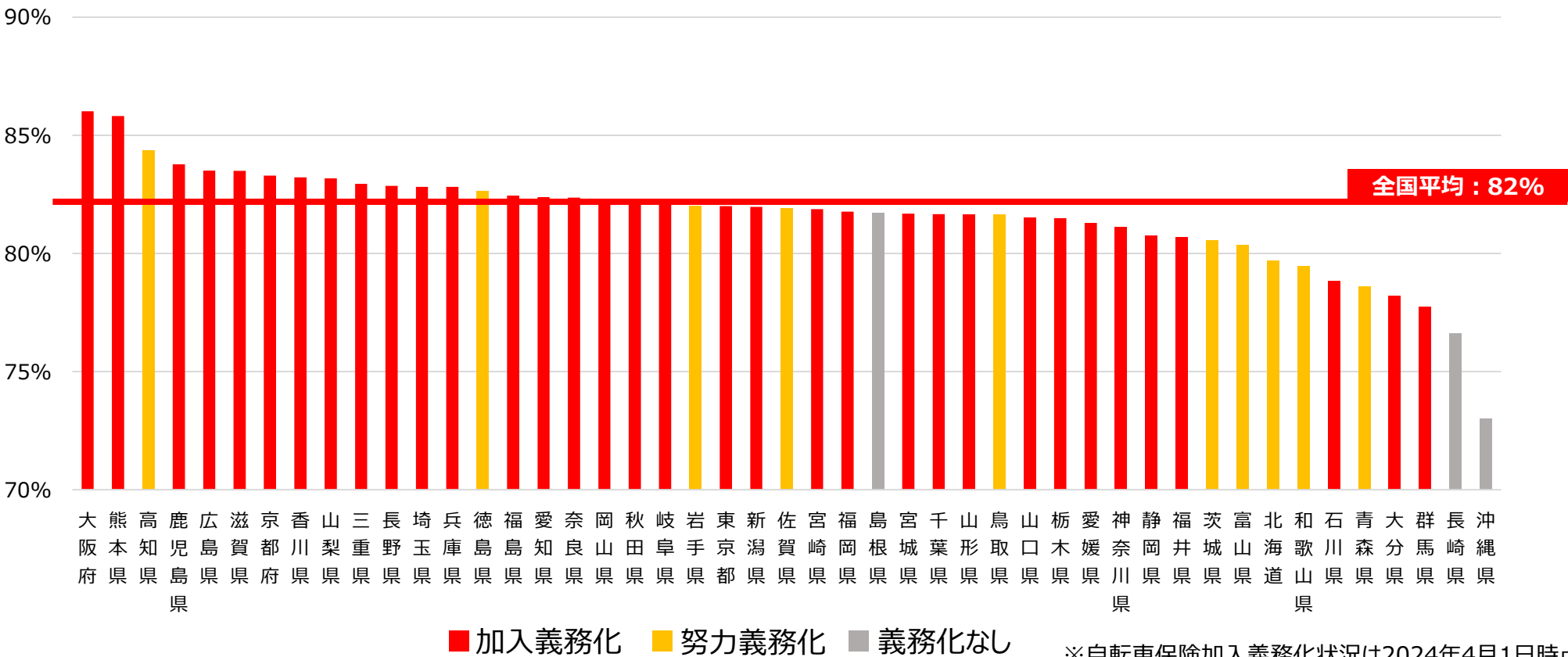
- 努力義務化、義務化なしの自治体は自転車保険加入率が全国の中でも低位にある傾向
- 大阪府を除き、46都道府県は国の定める加入率の目標（2025年までに75%）を下回っている状況

全日本交通安全協会 コメント

自転車と歩行者の事故でも高額な損害賠償責任が生ずるおそれがあります。過去には9千万円を超える高額な自転車の加害事故賠償額例もあります。万が一に備え、住民への損害賠償責任保険の加入促進にご協力をお願いいたします。

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

(※Q4.「詳しく知っている」「大体知っている」と回答した方)



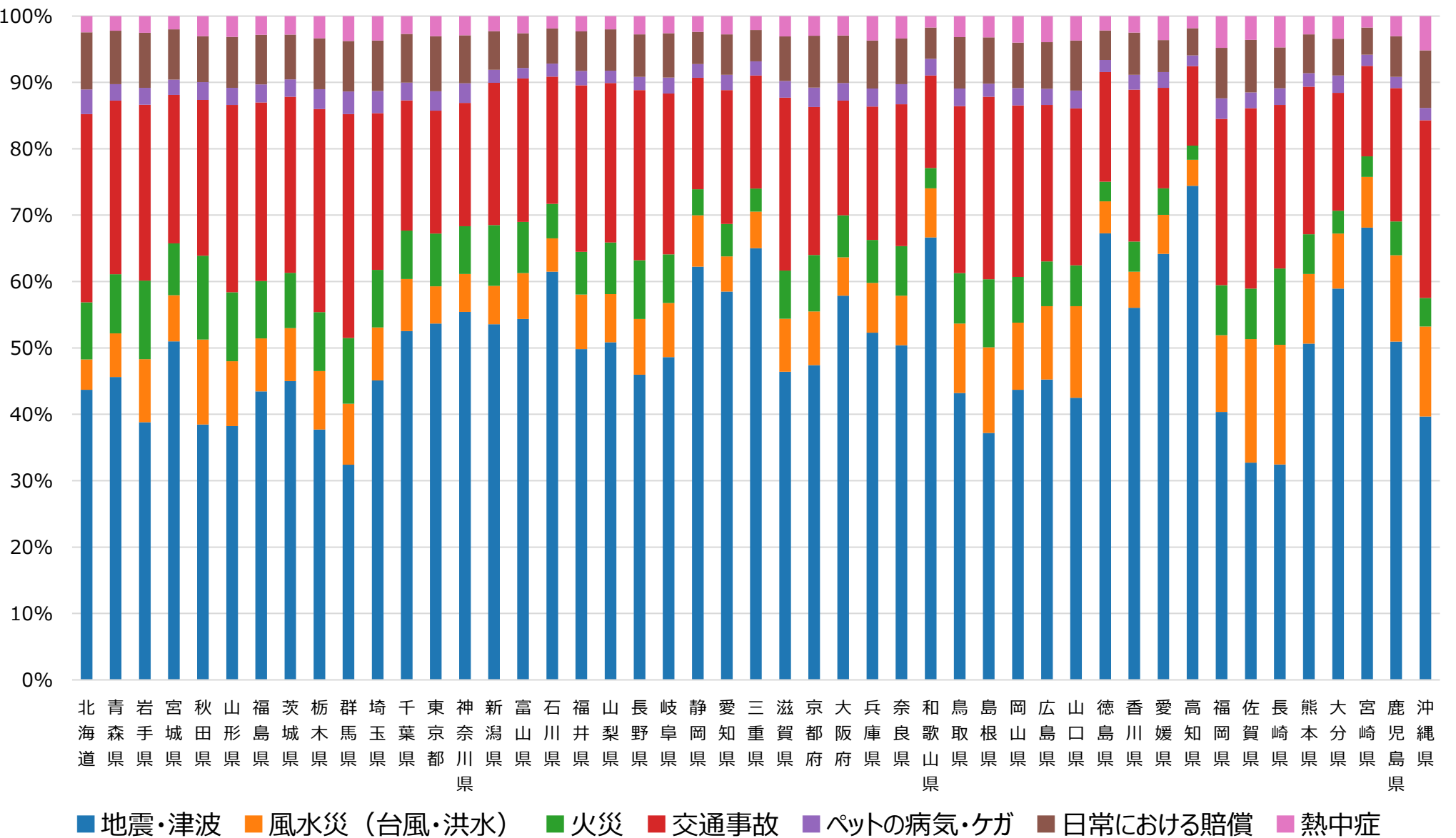
※自転車保険加入義務化状況は2024年4月1日時点

● 自転車保険加入努力義務化、義務化なしの自治体は、認知度が比較的低位にある傾向

全日本交通安全協会 コメント

令和6年11月の改正道路交通法施行により、「ながらスマホ」・「酒気帯び運転やその幫助」について新たに罰則が整備されました。さらに、令和8年4月1日から自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が16歳以上の運転者に適用されます。歩道での歩行者優先をはじめとする交通法規の遵守や、安全な自転車利用の促進に向けた取り組みをお願いいたします。

都道府県別 暮らしに関わるリスクのうち最も心配なリスク



【データ集】都道府県別 自転車保険加入状況（※Q3.「自転車を利用しない」と回答した方を除く）

都道府県別「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況

	自転車保険加入状況						
	加入	割合	未加入	割合	不明	割合	計
北海道	18,844 名	56.2%	12,670 名	37.8%	2,019 名	6.0%	33,533 名
青森県	3,761 名	53.5%	2,707 名	38.5%	558 名	7.9%	7,026 名
岩手県	2,599 名	53.8%	1,897 名	39.3%	336 名	7.0%	4,832 名
宮城県	8,465 名	67.1%	3,363 名	26.7%	787 名	6.2%	12,615 名
秋田県	3,785 名	64.0%	1,775 名	30.0%	352 名	6.0%	5,912 名
山形県	5,506 名	64.3%	2,474 名	28.9%	577 名	6.7%	8,557 名
福島県	8,693 名	62.5%	4,326 名	31.1%	900 名	6.5%	13,919 名
茨城県	10,531 名	60.1%	5,809 名	33.1%	1,185 名	6.8%	17,525 名
栃木県	10,615 名	64.1%	4,837 名	29.2%	1,109 名	6.7%	16,561 名
群馬県	7,301 名	65.1%	3,063 名	27.3%	859 名	7.7%	11,223 名
埼玉県	34,247 名	73.8%	8,623 名	18.6%	3,552 名	7.7%	46,422 名
千葉県	22,541 名	66.4%	8,999 名	26.5%	2,426 名	7.1%	33,966 名
東京都	50,505 名	69.4%	16,217 名	22.3%	6,089 名	8.4%	72,811 名
神奈川県	31,433 名	67.1%	11,888 名	25.4%	3,554 名	7.6%	46,875 名
新潟県	12,441 名	65.8%	5,201 名	27.5%	1,266 名	6.7%	18,908 名
富山県	2,720 名	49.6%	2,356 名	43.0%	409 名	7.5%	5,485 名
石川県	6,253 名	59.8%	3,481 名	33.3%	723 名	6.9%	10,457 名
福井県	4,167 名	63.5%	1,904 名	29.0%	496 名	7.6%	6,567 名
山梨県	2,721 名	62.9%	1,382 名	31.9%	223 名	5.2%	4,326 名
長野県	7,343 名	64.4%	3,400 名	29.8%	651 名	5.7%	11,394 名
岐阜県	9,401 名	64.4%	4,082 名	28.0%	1,108 名	7.6%	14,591 名
静岡県	18,926 名	65.7%	7,839 名	27.2%	2,062 名	7.2%	28,827 名
愛知県	34,633 名	68.8%	11,739 名	23.3%	3,950 名	7.8%	50,322 名
三重県	9,790 名	63.2%	4,592 名	29.7%	1,104 名	7.1%	15,486 名
滋賀県	8,894 名	69.6%	2,841 名	22.2%	1,047 名	8.2%	12,782 名
京都府	14,595 名	73.5%	3,717 名	18.7%	1,543 名	7.8%	19,855 名
大阪府	62,009 名	75.0%	13,516 名	16.4%	7,099 名	8.6%	82,624 名
兵庫県	35,419 名	69.2%	11,442 名	22.3%	4,354 名	8.5%	51,215 名
奈良県	8,952 名	65.7%	3,507 名	25.7%	1,165 名	8.6%	13,624 名
和歌山県	3,840 名	59.9%	1,961 名	30.6%	614 名	9.6%	6,415 名
鳥取県	2,601 名	56.8%	1,644 名	35.9%	338 名	7.4%	4,583 名
島根県	2,225 名	51.4%	1,834 名	42.3%	273 名	6.3%	4,332 名
岡山県	11,262 名	65.9%	4,435 名	26.0%	1,390 名	8.1%	17,087 名
広島県	11,591 名	63.7%	5,287 名	29.0%	1,323 名	7.3%	18,201 名
山口県	4,832 名	60.9%	2,568 名	32.4%	531 名	6.7%	7,931 名
徳島県	4,313 名	58.7%	2,417 名	32.9%	621 名	8.4%	7,351 名
香川県	4,945 名	65.2%	2,043 名	26.9%	595 名	7.8%	7,583 名
愛媛県	7,080 名	68.5%	2,365 名	22.9%	894 名	8.6%	10,339 名
高知県	4,689 名	59.5%	2,525 名	32.0%	669 名	8.5%	7,883 名
福岡県	38,802 名	64.9%	16,125 名	27.0%	4,897 名	8.2%	59,824 名
佐賀県	5,263 名	58.5%	3,034 名	33.7%	703 名	7.8%	9,000 名
長崎県	4,566 名	51.1%	3,778 名	42.3%	585 名	6.6%	8,929 名
熊本県	8,097 名	67.7%	3,115 名	26.0%	756 名	6.3%	11,968 名
大分県	6,296 名	65.3%	2,525 名	26.2%	827 名	8.6%	9,648 名
宮崎県	5,993 名	63.7%	2,710 名	28.8%	711 名	7.6%	9,414 名
鹿児島県	6,968 名	59.8%	4,052 名	34.8%	639 名	5.5%	11,659 名
沖縄県	4,680 名	58.1%	2,866 名	35.6%	506 名	6.3%	8,052 名

	「ながらスマホ」・「酒気帯び運転」の厳罰化の認知状況				
	知っている	割合	知らない	割合	計
北海道	35,228 名	79.7%	8,972 名	20.3%	44,200 名
青森県	7,521 名	78.6%	2,046 名	21.4%	9,567 名
岩手県	5,230 名	82.0%	1,146 名	18.0%	6,376 名
宮城県	13,292 名	81.7%	2,981 名	18.3%	16,273 名
秋田県	6,153 名	82.2%	1,330 名	17.8%	7,483 名
山形県	8,764 名	81.6%	1,971 名	18.4%	10,735 名
福島県	15,021 名	82.4%	3,198 名	17.6%	18,219 名
茨城県	17,962 名	80.5%	4,340 名	19.5%	22,302 名
栃木県	17,021 名	81.5%	3,864 名	18.5%	20,885 名
群馬県	11,003 名	77.7%	3,150 名	22.3%	14,153 名
埼玉県	44,717 名	82.8%	9,278 名	17.2%	53,995 名
千葉県	34,420 名	81.7%	7,731 名	18.3%	42,151 名
東京都	70,741 名	82.0%	15,530 名	18.0%	86,271 名
神奈川県	48,773 名	81.1%	11,346 名	18.9%	60,119 名
新潟県	19,465 名	82.0%	4,280 名	18.0%	23,745 名
富山県	5,810 名	80.3%	1,422 名	19.7%	7,232 名
石川県	10,700 名	78.8%	2,872 名	21.2%	13,572 名
福井県	6,368 名	80.7%	1,525 名	19.3%	7,893 名
山梨県	4,669 名	83.2%	944 名	16.8%	5,613 名
長野県	12,032 名	82.9%	2,489 名	17.1%	14,521 名
岐阜県	15,182 名	82.1%	3,316 名	17.9%	18,498 名
静岡県	30,217 名	80.7%	7,207 名	19.3%	37,424 名
愛知県	51,316 名	82.4%	10,970 名	17.6%	62,286 名
三重県	15,943 名	82.9%	3,278 名	17.1%	19,221 名
滋賀県	12,715 名	83.5%	2,514 名	16.5%	15,229 名
京都府	19,889 名	83.3%	3,988 名	16.7%	23,877 名
大阪府	79,716 名	86.0%	12,961 名	14.0%	92,677 名
兵庫県	52,009 名	82.8%	10,794 名	17.2%	62,803 名
奈良県	14,030 名	82.4%	3,005 名	17.6%	17,035 名
和歌山県	6,327 名	79.5%	1,636 名	20.5%	7,963 名
鳥取県	4,694 名	81.6%	1,056 名	18.4%	5,750 名
島根県	4,665 名	81.7%	1,045 名	18.3%	5,710 名
岡山県	17,043 名	82.2%	3,681 名	17.8%	20,724 名
広島県	19,368 名	83.5%	3,827 名	16.5%	23,195 名
山口県	8,456 名	81.5%	1,918 名	18.5%	10,374 名
徳島県	7,432 名	82.7%	1,560 名	17.3%	8,992 名
香川県	7,634 名	83.2%	1,539 名	16.8%	9,173 名
愛媛県	10,271 名	81.3%	2,364 名	18.7%	12,635 名
高知県	8,094 名	84.3%	1,503 名	15.7%	9,597 名
福岡県	67,907 名	81.8%	15,140 名	18.2%	83,047 名
佐賀県	9,488 名	81.9%	2,095 名	18.1%	11,583 名
長崎県	11,138 名	76.6%	3,400 名	23.4%	14,538 名
熊本県	13,589 名	85.8%	2,246 名	14.2%	15,835 名
大分県	9,781 名	78.2%	2,727 名	21.8%	12,508 名
宮崎県	9,861 名	81.9%	2,183 名	18.1%	12,044 名
鹿児島県	13,106 名	83.8%	2,540 名	16.2%	15,646 名
沖縄県	8,522 名	73.0%	3,151 名	27.0%	11,673 名